

CA ARCserve® Backup for Windows

実装ガイド

r15



本書及び関連するソフトウェア ヘルプ プログラム(以下「本書」と総称)は、ユーザへの情報提供のみを目的とし、CA はその内容を予告なく変更、撤回することがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、複製、開示、修正、複製することはできません。本書は、CA または CA Inc. が権利を有する秘密情報であり、かつ財産的価値のある情報です。ユーザは本書を開示したり、CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に使用することはできません。

上記にかかわらず、本書に記載されているソフトウェア製品に関連して社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、該当するソフトウェアのライセンスを受けたユーザは、合理的な範囲内の部数の本書の複製を作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を各複製に添付することを条件とします。

本書のコピーを作成する上記の権利は、ソフトウェアの該当するライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは CA に本書の全部または一部を複製したコピーをすべて CA に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本書の使用に起因し、逸失利益、投資の喪失、業務の中断、営業権の損失、データの損失を含むがそれに限らない、直接または間接のいかなる損害が発生しても、CA はユーザまたは第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、該当するライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2010 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての商標、商号、サービスマークおよびロゴは、それぞれ各社に帰属します。

CA 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA の製品は以下のとおりです。

- BrightStor® Enterprise Backup
- CA Antivirus
- CA ARCserve® Assured Recovery™
- CA ARCserve® Backup Agent for Advantage™ Ingres®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on NetWare
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for NetWare
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Microsoft Windows Essential Business Server
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Virtual Machines
- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module

- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Serverless Backup Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA ARCserve® Backup Patch Manager
- CA ARCserve® Backup UNIX/Linux Data Mover
- CA ARCserve® D2D
- CA ARCserve® High Availability
- CA ARCserve® Replication
- CA VM:Tape for z/VM
- CA 1® Tape Management
- Common Services™
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

マニュアルの変更点

本マニュアルでは、前回のリリース以降に、以下の点を更新しています。

- デフォルト CA ARCserve Backup データベースとしての Microsoft SQL Server 2008 Express Edition に関する変更を反映するために「実装ガイド」全体が更新されました。
- 「[Global Dashboard に関する考慮事項](#) (77 ページ)」が追加されました。ご使用の環境に Global Dashboard を展開する場合の考慮事項について説明されています。
- 「[インストール処理のオペレーティング システムに対する影響](#) (41 ページ)」が更新され、CA ARCserve Backup によってインストールされるアプリケーションの最新のリストが反映されました。
- 「[未署名の CA ARCserve Backup ファイル](#) (48 ページ)」が更新され、オペレーティング システムでの CA ARCserve Backup の影響が反映されました。
- 「[サポート対象のアップグレード](#) (79 ページ)」が更新され、CA ARCserve Backup の本リリースでサポートされるアップグレードの記載が反映されました。
- 「[後方互換性](#) (80 ページ)」が更新され、CA ARCserve Backup の本リリースにおける以前のリリースの CA ARCserve Backup コンポーネントのサポートが反映されました。
- 「[以前のリリースに対するマネージャ コンソール サポート](#) (81 ページ)」が更新され、CA ARCserve Backup の本リリースのマネージャ コンソールを CA ARCserve Backup の以前のリリースでどのように使用できるかについて記載されました。
- 「[CA ARCserve Backup ファイル システム エージェントのリリース レベル](#) (84 ページ)」が更新され、CA ARCserve Backup の本リリースに同梱された最新の CA ARCserve Backup ファイル システム エージェントのリリース番号が反映されました。
- 「[CA ARCserve Backup ホーム画面](#) (209 ページ)」が更新され、新しい CA ARCserve Backup コンポーネントに関する情報が含まれました。
- 「[通信を最適化するためのファイアウォールの設定](#) (223 ページ)」が更新され、Windows Server 2008 R2 のサポートが含まれました。
- 「[Global Dashboard の環境設定](#) (230 ページ)」が追加されました。このトピックおよびそこに含まれるトピックでは、セントラル サイトおよびブランチ サイトを設定する方法について説明しています。
- 「[CA ARCserve Backup のアンインストール](#) (275 ページ)」が追加されました。この章では、Windows コントロール パネルから CA ARCserve Backup、エージェント、およびオプションをアンインストールする方法、コマンド ラインを使用して CA ARCserve Backup をアンインストールする方法、Agent Deployment セットアップ ファイルをアンインストールする方法について説明します。

目次

第 1 章: CA ARCserve Backup の概要	13
概要.....	13
本書の目的.....	14
第 2 章: ストレージ環境の計画	15
基本タスク	15
企業のストレージ要件	16
予算に関する考慮事項.....	16
ネットワークおよびコンピュータのインフラストラクチャ要件	17
データ転送の要件.....	17
バックアップ スケジュールの要件	18
データのバックアップ時間に関する考慮事項	18
ハードウェアのデータ転送速度	18
ネットワーク帯域幅に関する考慮事項.....	20
データ転送速度の要件とリソースの計算.....	21
データ パスに関する考慮事項.....	22
代替データ パスに関する考慮事項.....	23
ストレージ処理の並列実行(マルチ ストリーミング)	26
ストレージ容量に対する要件	26
オンライン復旧データのストレージ要件.....	26
バックアップ データのストレージ要件	27
Global Dashboard データ保存要件.....	27
ストレージの容量とリソース.....	28
テスト計画および予測	30
致命的イベント.....	30
リスクの見積もり.....	30
オフサイト リポジトリに関する考慮事項	31
惨事復旧アーカイブに関する考慮事項.....	32
惨事復旧のテスト.....	32
計算例.....	33
100Base-T イーサネット LAN 上のサブネット設定のないクライアントとサーバの転送速度	33
2 つの 100Base-T イーサネット サブネット上のクライアントとサーバの転送速度	34
ギガビット イーサネット ネットワーク上のクライアントとサーバの転送速度.....	34
クライアントを持たないサーバの転送速度	35

SAN Option を使用するサーバでの転送速度	36
1 回のフル バックアップと 1 回の増分バックアップで 2 セットの復旧データを保持する場合のストレージ容量	37
第 3 章: CA ARCserve Backup インストールの計画	39
サポートしているプラットフォーム	39
サポート デバイス	39
テープ ライブラリのインストール	40
Storage Area Network (SAN) のインストール	40
インストール処理のオペレーティング システムに対する影響	41
未署名のバイナリ ファイル	48
無効なファイル バージョン情報が含まれるバイナリ ファイル	54
完全にアンインストールされないバイナリ ファイル	55
埋め込みマニフェストを含まないバイナリ ファイル	57
CA ARCserve Backup MSI インストーラ パッケージ ID	58
Windows MSI インストーラ パッケージ カスタム列	59
CA ARCserve Backup のインストールに必要なディスク空き容量	61
インストール方法	62
CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ	64
CA ARCserve Backup サーバのオプション	68
caroot ユーザ アカウント	68
データベース要件	69
Microsoft SQL Server 2008 Express Edition に関する考慮事項	69
Microsoft SQL Server データベースに関する考慮事項	71
Agent for ARCserve Database	74
インストールの進行状況ログ	76
Global Dashboard に関する考慮事項	77
アップグレードに関する考慮事項	78
サポート対象のアップグレード	79
後方互換性	80
以前のリリースに対するマネージャ コンソール サポート	81
Global Dashboard のアップグレード	82
古いリリースからのデータ マイグレーション	82
製品ライセンスの要件	83
ALP キー証明書	84
CA ARCserve Backup ファイル システム エージェントのリリース レベル	84
第 4 章: CA ARCserve Backup のインストールおよびアップグレード	85
前提条件作業の実施方法	85

CA ARCserve Backup のインストール	91
以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード	100
サイレント インストール レスポンス ファイルの作成	108
CA ARCserve Backup Agent Deployment	115
自動アップグレードを使用したリモート ホストへのエージェントの展開	118
カスタム展開を使用したリモート ホストへのエージェントの展開	122
仮想マシンの展開を使用した VM へのエージェントの展開	125
現在のリリースへの CA ARCserve Backup エージェントのサイレント アップグレード	128
Unicenter Software Delivery を使用して CA ARCserve Backup をインストールする方法	131
CA ARCserve Backup を Unicenter Software Delivery サーバで登録する	131
コンポーネントと前提条件	132
Unicenter Software Delivery を使用して CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする	136
インストール後の作業	137

第 5 章: クラスタ対応環境での CA ARCserve Backup のインストールとアップグレード 139

クラスタ対応インストールの概要	139
展開に関する考慮事項	139
CA ARCserve Backup HA 展開の計画	140
MSCS での CA ARCserve Backup サーバの展開	142
MSCS ハードウェア要件	143
MSCS ソフトウェア要件	143
MSCS クラスタ リソースの準備	143
CA ARCserve Backup の MSCS クラスタ対応環境へのインストール	145
MSCS クラスタ環境での CA ARCserve Backup r11.5 から r15 へのアップグレード	156
MSCS クラスタ環境で CA ARCserve Backup を r12/12.5 から直接 r15 へアップグレードする方法	163
CA ARCserve Backup の MSCS クラスタからのアンインストール	167
CA ARCserve Backup クラスタ リソースの削除	168
CA ARCserve Backup サーバの NEC クラスタへの展開	169
NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster ハードウェア要件	169
NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster ソフトウェア要件	170
NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster リソースの準備	170
CA ARCserve Backup の NEC クラスタ対応環境へのインストール	171
NEC CLUSTERPRO 環境での CA ARCserve Backup の r11.5 から r15 へのアップグレード	186
NEC クラスタ環境における r12/12.5 から r15 への CA ARCserve Backup のアップグレード	199
CA ARCserve Backup の NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster からのアンインストール	203
クラスタ対応インストールおよびアップグレードの確認方法	204

第 6 章: CA ARCserve Backup と他の製品との統合	205
CA Antivirus の統合	205
CA ARCserve Replication の統合	205
CA ARCserve Backup Patch Manager との統合	206
第 7 章: CA ARCserve Backup の設定	207
マネージャまたはマネージャ コンソールを開く	207
CA ARCserve Backup ホーム画面	209
最初に表示されるホーム画面とユーザ チュートリアル	214
サービスの状態アイコン	215
CA ARCserve Backup へのログイン	215
CA ARCserve Backup マネージャの環境設定の指定	217
コード ページ	219
CA ARCserve Backup での複数のコード ページのサポート	219
バックアップ マネージャ ウィンドウでのコード ページの指定	220
リストア マネージャ ウィンドウでのコードページの指定	221
CA ARCserve Backup システム アカウント	221
CA ARCserve Backup による認証の管理方法	222
ジョブ セキュリティのシステム アカウントの使用	222
通信を最適化するためのファイアウォールの設定	223
リモート サブネット上にあるデータベース エージェントと ARCserve サーバとの通信の有効化	225
CA ARCserve Backup データベース保護ジョブの開始	226
CA ARCserve Backup SQL Server データベースの微調整	227
必要な SQL 接続の数を計算する方法	228
データベースの整合性チェック	228
リモート データベース設定での ODBC 通信の指定	228
デバイス ウィザードを使用したデバイスの設定	229
Enterprise Module コンポーネントの設定	230
Global Dashboard の環境設定	230
セントラル サイトの環境設定	232
ブランチ サイトの環境設定	235
ファイル システム デバイスの作成	239
CA ARCserve Backup データベース エージェント用スキップ パラメータとインクルード パラメータの定義方法	242
通信を最適化するためのファイアウォールの設定	243
ポート環境設定ファイルに関するガイドライン	244
ポート設定ファイルの変更	245
CA ARCserve Backup コンポーネントで使用するポート	246
ファイアウォールを通じたテスト通信	274

第 8 章: CA ARCserve Backup のアンインストール	275
CA ARCserve Backup のアンインストール	275
コマンド ラインを使用した CA ARCserve Backup コンポーネントのアンインストール	278
Agent Deployment セットアップ ファイルのアンインストール	281
付録 A: インストールのトラブルシューティング	283
セットアップがリモート Microsoft SQL Server データベースと通信できない	283
このリリースをインストールした後 CA ARCserve Backup にログインできない	285
CA ARCserve Backup サービスの初期化に失敗する	286
メンバ サーバのアップグレードで、テープ エンジンが起動しない	287
このリリースにアップグレードした後 CA ARCserve Backup にログインできない	288
CA ARCserve Backup でどのデバイスがサポートされているかを判断できない	289
クラスタ HA リソースが作成されない	290
付録 B: 推奨事項を使用した CA ARCserve Backup のインストールおよびアップグレード	291
CA ARCserve Backup のインストールに関する推奨事項	291
CA ARCserve Backup のインストールの前提条件タスクの完了方法	292
単一サーバ環境への CA ARCserve Backup のインストール	293
プライマリ サーバとメンバ サーバのインストール	297
メンバ サーバおよびデバイスとのプライマリ サーバのインストール	305
SAN におけるメンバサーバおよび共有デバイスとのプライマリ サーバのインストール	312
SAN への複数のプライマリ サーバとメンバ サーバのインストール	320
クラスタ対応環境への CA ARCserve Backup のインストール	329
以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレードに関する推奨事項	335
CA ARCserve Backup のアップグレードの前提条件タスクの完了方法	336
スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバのアップグレード	338
ドメイン内の複数のスタンドアロン サーバのアップグレード	344
リモート データベースを共有する複数のスタンドアロン サーバのアップグレード	352
ローカルまたはリモートのデータベースを使用する SAN 内のサーバのアップグレード	360
SAN および非 SAN の環境における複数のサーバの本リリースへのアップグレード	369
セントラル データベースを使用する複数のサーバのアップグレード	378
クラスタ対応環境における複数サーバのアップグレード	386
一般的な推奨事項	395
マネージャ コンソールをインストールする場所	396
ライセンスのインストールと管理の方法	396
CA ARCserve Backup サーバ ベース オプションのインストール方法	401

付録 C: 使用条件	403
RSA Data Security, Inc. の使用条件	403
索引	405

第 1 章: CA ARCserve Backup の概要

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[概要](#) (13 ページ)

[本書の目的](#) (14 ページ)

概要

CA ARCserve Backup は、多種多様な環境のビジネス ニーズに対応する高性能のデータ保護ソリューションです。本製品は、柔軟なバックアップとリストア、容易な管理、幅広いデバイス互換性、そして信頼性を提供します。また、個々のストレージ要件に応じてデータ保護戦略をカスタマイズできるため、データ ストレージの機能を最大限に活用できます。さらに、柔軟なユーザ インターフェースにより詳細な設定が可能で、あらゆるユーザがその技術的知識のレベルにかかわらず、さまざまなエージェント機能や各種オプションを展開して保守できます。

本リリースの CA ARCserve Backup for Windows は、CA ARCserve Backup ファミリの次世代製品です。旧リリースの機能をベースに、バックアップおよびリストア作業で最大のパフォーマンスを得られる新機能も備えています。CA ARCserve Backup は分散環境での包括的なデータ保護機能を持ち、ウイルスフリーのバックアップおよびリストア操作を実現します。多種多様なオプションとエージェントにより、企業全体でのデータ保護機能が強化され、さまざまな拡張機能 (オンライン ホット バックアップや、アプリケーションおよびデータ ファイルのリストア、拡張デバイスおよびメディアの管理、惨事復旧など) が使用可能になります。

本書の目的

この「実装ガイド」では、以下について説明しています。

- ストレージ環境の計画
- CA ARCserve Backup インストールの計画
- インストールの前提条件作業の実施
- CA ARCserve Backup のインストール
- 以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード
- CA ARCserve Backup のアンインストール
- 代替インストール方法のセットアップ
- インストール後の作業の実施
- その他の CA 製品との統合
- CA ARCserve Backup をインストールして以前のリリースから CA ARCserve Backup をアップグレードするための推奨事項の使用

第 2 章：ストレージ環境の計画

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[基本タスク](#) (15 ページ)

[企業のストレージ要件](#) (16 ページ)

[データ転送の要件](#) (17 ページ)

[ストレージ容量に対する要件](#) (26 ページ)

[致命的イベント](#) (30 ページ)

[計算例](#) (33 ページ)

基本タスク

データの保護とバックアップ ストレージの管理は、本質的にはテクノロジーの問題ではなく、ポリシーの問題です。テクノロジーによりポリシーを実装することはできますが、テクノロジーからポリシーを決めることはできません。

CA ARCserve Backup ソフトウェアを効果的に使用するには、まず、企業のデータ ストレージに関する要件を分析する必要があります。そのために、以下のことを行います。

- 企業のデータ リソースがどのように使用されているかを理解します。
- 企業のデータ リソースのセキュリティと可用性が企業の利益に与える影響を理解します。
- ハードウェアの追加購入や CA ARCserve Backup の構成を行う前に、包括的でハイレベルなストレージ計画を立案します。

ストレージに対するニーズが明確になったら、この章で説明する内容に従って、以下を考慮した包括的な実装計画を立てることができます。

- ユーザが削除したファイルとディレクトリ、およびデータベース関連データの迅速な回復。
- ネットワーク内リソースの一元的バックアップ管理
- 一般業務への影響を最小限に抑えたバックアップ処理
- 必要に応じた適切なメディアとデバイスの数
- 致命的なデータ破壊からの完全回復

企業のストレージ要件

オフサイト ロケーション領域、ストレージ ハードウェア、およびストレージ メディアに対するニーズを判断するには、立案したストレージ計画を具体的な動作要件に置き換えて考える必要があります。以下の点について判断する必要があります。

- メディア、ハードウェア、およびネットワークの改善に費やす経費
- 必ず保護する必要があるデータの量
- ほかの業務に支障を来さずにバックアップできる時間帯
- バックアップ実行中にネットワークが処理できるトラフィックの量
- データ破壊後、ファイルまたはファイル システムが回復するまでに許容できる時間

以降では、これらの問題について詳細に説明します。

予算に関する考慮事項

大きなプロジェクトの計画では、すでにわかっていることは初期段階に強調しておく効果的である場合があります。本章で取り上げる各要素には、すべて費用が関係します。転送速度を上げる必要がある場合は、より高速で帯域幅の広いネットワークとより高速なバックアップ デバイスが必要になります。この両方には追加の経費がかかります。

データの転送速度またはセキュリティの要件を満たすには、バックアップ デバイスを追加する必要がある場合もあります。バックアップ デバイスは非常に高額です。特に、新型の高速バックアップ デバイスは驚くほど高額です。

以下のように、企業が費やすことのできる経費を決めておく必要があります。

- バックアップ/復旧計画に費やすことができる金額
- データの喪失と、そのデータの回復作業に要する時間を、金額に換算した経費

次に、以下の事項を検討します。

- これらの経費が制限を超えないように、何をしておくべきかを決定する。
- 性能と経済性のどちらを優先するのかを決定する。
- この最初の決定事項に基づいて、以下に説明するさまざまな面から解決策を検討する。

ネットワークおよびコンピュータのインフラストラクチャ要件

バックアップ/復旧計画で使用するハードウェア、ネットワーク、およびサイト構成については、熟知しておく必要があります。以下の項目を確認します。

- バックアップ対象のサーバとワークステーションの数と種類
- メディア ライブラリまたはデバイスが取り付けられているサーバ (CA ARCserve Backup サーバ) の確認
- 各ライブラリとサーバを接続する SCSI またはファイバ ケーブルの種類とその転送速度
- 各サーバのライブラリの種類
- 各ライブラリで使用されているデバイスの種類とその転送速度
- データ圧縮を行う場合は、そのデータ圧縮率
- ネットワーク、サブネット、ルータなどの設定、種類とその性能

データ転送の要件

処理にかかる時間は、バックアップ/復旧システム全体のデータ転送速度によって決まります。バックアップ時間、バックアップ データ、および復旧速度に対する要件は、既存のインフラストラクチャと予算の制限とのバランスの中で考える必要があります。

バックアップするデータの量とバックアップが可能な時間帯がわかれば、その割り当てられた時間帯でデータをすべてバックアップするために必要な最低限のデータ転送速度を概算できます。この転送速度は、後ほどこの章で決定を行う際の最初のポイントになります。

転送速度の最小値を概算するには、データ量をバックアップ時間で割ります。

バックアップするデータ量 ÷ バックアップ時間 = 必要な転送速度

例：データ転送の計算

1 テラバイトのデータを毎晩 5 時間、1 セッションでバックアップする場合には、200 GB/ 時間の転送速度が必要です。

バックアップ スケジュールの要件

扱うデータの量が多いほど、必要となる時間、ハードウェア、メディア、およびネットワーク帯域幅が増大します。

以下の点について判断する必要があります。

- ユーザ データだけをバックアップすればいいのかどうか。
- システムの環境設定およびインストールされているアプリケーションも含めるかどうか。
- バックアップの必要があるデータの総量を概算し、今までの経験から予想できるデータの増加分を含める。

データのバックアップ時間に関する考慮事項

バックアップするデータ量と同様に、インフラストラクチャと管理の要件は、バックアップを実行できる時間帯にも依存します。 以下について検討します。

- 夜間または週末などの業務時間外にバックアップを実行できるか。
- ネットワークを 24 時間使用している場合、一般の業務とバックアップを並行して行う必要があるか。

1 日および 1 週間の中でバックアップに使用できる時間帯を割り出します。 長期間休業する期間があれば、この期間もバックアップに適しています。

ハードウェアのデータ転送速度

目標とするデータ転送速度がバックアップ デバイスによって限定されることは、ほとんどありません。ほとんどのデバイスはきわめて高速です。ただし、計画段階でデバイスの転送速度を計算しておくことは必要です。少なくとも、使用可能な時間内でストレージメディアにデータを書き込むのに十分な数のデバイスまたは十分な速度を備えたデバイスを用意する必要があります。高速デバイスを少数使用することもあれば、低速デバイスを多数使用することで、合計のスループットを同じにできる場合もあります。以下の情報を使って、使用するハードウェアの全体のデータ転送速度を計算します。

SCSI またはファイバ インターフェースに関する考慮事項

デバイスの転送速度が最大になるのは、そのデバイスがデータ ソースに直接接続されたときです。現在のバックアップ デバイスは、標準の SCSI またはファイバ チャネル インターフェースを使用して接続します。一般的なインターフェースの種類を以下の表に示します。

バージョン	バス幅	およその最大データ転送速度
Wide Ultra SCSI	16 ビット	40 MB/秒=144 GB/時間
Ultra2 SCSI	8 ビット	40 MB/秒=144 GB/時間
Wide Ultra2 SCSI	16 ビット	80 MB/秒=288 GB/時間
Ultra 160 SCSI	16 ビット	160 MB/秒=576 GB/時間
Ultra 320 SCSI	16 ビット	320 MB/秒=1152 GB/時間
ファイバ チャネル	1 GB	100 MB/秒=360 GB/時間
ファイバ チャネル	2 GB	200 MB/秒=720 GB/時間

この表からわかるように、SCSI インターフェースとファイバ チャネル インターフェースの多くが、200 GB/時間の要件を満たしています。たとえば、Wide Ultra2 SCSI を使用する場合は、1 時間未満で 200 GB/時間に達します。これより低速な SCSI コントローラを使用する場合でも、複数の SCSI コントローラを使用すると、合わせて 200 GB/時間のデータ転送速度を実現できます。

つまり、SCSI バスまたはファイバ チャネル インターフェースが目標とするデータ転送速度を制限することは、ほとんどないということです。また、この例で目標としている 40GB/時間の転送速度には、これらすべての SCSI 規格で容易に対応できます。実際、ほとんどの規格で、200 GB のジョブを 2 時間以内に処理できます。Ultra 160 SCSI であれば、処理には約 30 分かかりません。

テープ ドライブに関する考慮事項

デバイスには、さまざまな種類があります。以下の表では、その中でも一般的なものをいくつか紹介しています。

デバイスの種類	2:1 (圧縮データ) の場合のおよその転送 最大容量 (圧縮データ) 速度
DDS-4	6.0 MB/秒=21.0 GB/時間 40 GB

デバイスの種類	2:1 (圧縮データ) の場合のおよその転送速度	最大容量 (圧縮データ)
AIT-2	12.0 MB/秒=43.2 GB/時間	100 GB
AIT-3	31.2 MB/秒=112.3 GB/時間	260 GB
DLT 7000	10.0 MB/秒=36.0 GB/時間	70 GB
DLT 8000	12.0 MB/秒=43.2 GB/時間	80 GB
Super DLT	24.0 MB/秒=86.4 GB/時間	220 GB
Mammoth-2	24.0 MB/秒=86.4 GB/時間	160 GB
Ultrium (LTO)	30.0 MB/秒=108.0 GB/時間	200 GB
IBM 9890	20.0 MB/秒=72.0 GB/時間	40 GB
IBM 3590E	15.0 MB/秒=54.0 GB/時間	60 GB

1 つのデバイスで、目標の転送速度である 200 GB/時間に到達できない場合でも、メディア デバイスを複数使用することにより、合計で目標のデータ転送速度を達成できます。たとえば、Ultrium テープ ドライブを使用する場合には、200 GB/時間を実現するために 2 つのドライブが必要であり、DLT 8000 の場合には 5 つ必要になります。

ネットワーク帯域幅に関する考慮事項

次に、ネットワークについて考えます。使用可能なネットワーク帯域幅は、バックアップ期間内に実際に転送できるデータ量を決定する最も大きな要因になります。以下の表に、さまざまなタイプのネットワークの性能比較を示します。この表からもわかるように、ネットワークの性能は大規模なバックアップ処理の大きな妨げになり得ます。

ネットワーク タイプ	理論的な転送速度	実際のスループット	実際の最大転送速度*
10Base-T イーサネット	10 mbps =1.25 MB/秒	40 ～ 50%	500 KB/秒=1.8 GB/時間

ネットワーク タイプ	理論的な転送速度	実際のスループット	実際の最大転送速度*
100Base-T イーサネット	100 mbps=12.5 MB/秒	80%	10 MB/秒=36 GB/時間
1 ギガビット イーサネット	1000 mbps=125 MB/秒	70%	87.5 MB/秒=315 GB/時間

注：バックアップ時に他の処理が並行して実行されている場合は、バックアップ処理で上記の「実際の最大転送速度」で示されている値を達成できないことがあります。

データ転送速度の要件とリソースの計算

これまでに行った計算で、求めるデータ転送速度が既存のインフラストラクチャで実現可能であることがわかった場合は、そこで計画を終了できます。しかし実際はこれまでに説明した要件と、使用可能な時間とリソースの矛盾が明らかになります。

バックアップ ソースからバックアップ メディアへのパスの中で最も帯域幅の狭い低速なボトルネックを経て、一定時間内に送信することのできるデータ量を **minbandwidth** とし、バックアップに使用できる時間を **backupwindow** とすると、バックアップ処理には以下の式が成り立ちます。

$\text{datatransferred(データ転送量)} = \text{backupwindow} \times \text{minbandwidth}$

たとえば、バックアップ時間は5時間で、高速のストレージ デバイスと 100Base-T イーサネット LAN を使用するとします。この場合、イーサネット LAN がボトルネックになり、以下の式が成り立ちます。

$\text{datatransferred(データ転送量)} = 5 \text{ 時間} \times 36 \text{ GB/時間} = 180 \text{ GB}$

したがって、1 テラバイトのデータをバックアップするには、少なくとも以下のいずれかを実行する必要があります。

- データのバックアップに使用できる時間を増やします。
- 使用可能なデータ パスのボトルネック部分のネットワーク帯域幅を広げます。
- 1 テラバイトを小さな独立した複数の処理に分けてバックアップすることにより、**datatransferred(データ転送量)** のサイズを削減します。

上記の作業を実現するための選択肢は、以下のとおりです。

データ パスに関する考慮事項

使用できる時間内に転送する必要があるデータの量を減らせない場合は、使用可能な帯域幅を拡大することが 1 つの解決策です。帯域幅を拡大するのは、データ ホストを CA ARCserve Backup サーバにリンクするネットワークでも、サーバとバックアップメディアを接続するハードウェアでもかまいません。

ネットワークの強化

企業のバックアップ環境において、通常、遅延の最も大きな原因となるのがネットワークです。より高速な環境にアップグレードできる場合には、その投資の価値があるでしょう。

例：ネットワークの強化の計算

たとえば、100Base-T イーサネット LAN で、これまでと同じように 200 GB/時間を目標の転送速度にする場合、許容時間内 (5 時間) でバックアップを完了することはできません。この場合、許容される時間の約 6 倍の時間がかかることになります。ギガビット イーサネット LAN であれば、すべてのデータをバックアップしても時間に余裕があり、その他の一般業務にもメリットが生まれます。

SAN

SAN (Storage Area Network) では、高速なファイバ接続でデータを転送できるので、バックアップのパフォーマンスが大幅に向上します。高帯域幅ファイバ接続と低 CPU 使用率から得られる性能上の利点に加え、バックアップ データ転送の負荷を企業のネットワークから専用ストレージ ネットワークに移すことにより、SAN はネットワーク全体のパフォーマンスを向上させます。

SAN の導入と維持には多額の経費がかかりますが、その利益はバックアップだけではありません。SAN の導入を検討する場合には、必要な要件を慎重に分析することが必要です。CA ARCserve Backup での SAN の活用については、「Storage Area Network (SAN) Option ユーザ ガイド」を参照してください。

SCSI バスおよびデバイスの拡張

デバイスのスループットが低いにもかかわらず、ネットワーク帯域幅に余裕がある場合は、より高速のデバイスを使用するか、デバイスを追加する必要があります。低速なドライブを使用している場合、より高速なデバイスまたは SCSI バスにアップグレードすると効果的な場合があります。ただし多くの場合、デバイスや、必要に応じてライブラリを追加する方が現実的です。デバイスまたはライブラリを追加することにより、複数のデバイスを同時に使用して、処理を並列で実行できます。

代替データ パスに関する考慮事項

ネットワークのアップグレードやバックアップ時間の拡大ができない場合でも、通常、1回のバックアップで処理する必要のあるデータのサイズを削減することはできます。以下の作業のいずれかを行うことでこれを実現します。

- ネットワークをセグメント化します。
- データをセグメント化して、個別のバックアップで一連のセグメントをバックアップします。
- バックアップ対象のデータを制限して、前回のバックアップ以降変更が行われたデータのみをバックアップします。

ネットワークのセグメント化

多くの場合、CA ARCserve Backup サーバを複数のサブネットに配置することにより、既存のネットワーク帯域幅をより効率的に利用できます。

- サブネットが存在しない場合、すべてのバックアップ データが単一のネットワークを経由して CA ARCserve Backup サーバに到達します。つまり、すべてのデータがネットワーク上の各ノードに順番に送られます。
- サブネットを作成すると、同じ転送速度のネットワークを複数作成することになり、それぞれが担当部分のバックアップ データを処理します。その際、データは並列で転送されます。

たとえば、1 テラバイトのデータをネットワーク全体で一括して処理するのではなく、2つのサブネットで 500 GB ずつバックアップすると、バックアップにかかる時間は半分で済みます。各サブネットが 500 GB を 36 GB/時間で転送すると、所要時間は合計 14 時間ですが、サブネット化していなければ 28 時間かかります。この例で使用できる 5 時間というバックアップ時間でも、360 GB を転送できます。この値も充分ではありませんが、ネットワークをサブネット化していない場合の 180 GB よりはるかに高い数値です。

データのセグメント化

企業が扱う全データは、必ずしも 1 つにまとめて処理しなければならないわけではありません。多くの場合、バックアップの前にデータを論理的に関連付けられたグループにセグメント化しておくのが効率的です。データをセグメント化しておくことで、1 回のストレージ処理に要する時間が短縮され、短いバックアップ期間を有効利用できるため、低速のネットワーク上でより優れたバックアップを実行できます。セグメント化しても、データはすべてバックアップできます。これは、1 回のバックアップ処理に要する時間を短縮して、バックアップを数日に分けて実行するということになります。

たとえば、1 テラバイトを月曜日から土曜日までかけて、毎晩 20%ずつバックアップするという方法もあります。この方法では、100Base-T イーサネット LAN で 1 日のバックアップ期間を 5 時間以内に抑え、1 週間で 1 テラバイトすべてバックアップできます。また、この方法には、バックアップ単位をコンパクトにするほど検索範囲が絞り込まれ、データの検索とリストアが高速かつ容易になるという利点もあります。

この方法の短所は、毎日すべてのデータをバックアップできないという点です。多くの企業では、すべてのデータを毎日バックアップする必要があるので、この方法はあまり企業に適しているとは言えません。

バックアップのためのデータのセグメント化には、以下の方法があります。

- 部署別(会計、エンジニアリング、人事、営業など)
- 地域別(カルフォルニア開発研究所、セントルイス配送センター、ニューヨーク支社、マイアミ支社、東京支社、パリ配送センターなど)
- ネットワーク別(NA005、NA002、NA003、JP001、EU001 など)

データをセグメント化する場合は、転送速度の向上によって短縮された時間が、長い検索やネットワーク トラフィックの増大によって相殺されることのないように、データを合理的にグループ化する必要があります。

バックアップの対象範囲

データをセグメント化すると、バックアップ対象範囲が限定され、高いデータ転送速度の要件を若干低くすることができます。一般に、毎日変更されるデータは、それほど多いわけではありません。変更部分の保存のみでよい場合には、フル バックアップは不要です。

例: バックアップの対象範囲

毎日全データをバックアップしていても、1 日に変更されるデータが全体の 10% のみである場合、貴重なバックアップ時間の 90% を、すでにバックアップしてあるデータの保存に費やしていることになります。メディアの消費とバックアップ デバイスの消耗も考慮すると、フル バックアップは必要以上に経費のかかる計画になります。

これを、1 週間に 1 回、データの半分以上が変更されてからすべてのデータをバックアップするという方法に変更すると、より合理的になります。この処理は、週末に実行することにより、より長いバックアップ期間を確保できます。毎日実行する処理では、変更箇所のみをバックアップします。このようにすると、バックアップを夜間に短時間で実行でき、メディアの経済性も上がります。

CA ARCserve Backup では、オプションとして以下のバックアップ タイプを選択して、この問題に対処できます。

- フル バックアップ - データ変更とは無関係に、すべてのデータをバックアップします。
- 差分バックアップ - 最後に実行されたフル バックアップ ジョブ以降に変更されたファイルのみをバックアップします。
- 増分バックアップ - 前回のフル バックアップまたは増分バックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

上記の、フル バックアップと部分バックアップをバランスよく組み合わせると非常に効果的です。データの各単位、各バージョンを 1 回ずつバックアップできると理想的です。そして、メディアと時間を浪費する不要な重複は最小限に抑えます。バックアップ方式を決めるときには、以下の点に注意します。

- フル バックアップでは、すべてのデータが一度にバックアップされます。フル バックアップでは、バックアップ時点のデータの完全で一貫性のある 1 つのバックアップ セッションが生成されます。またバックアップされたデータは、すべて単一の管理しやすいメディアに保存されます。しかし、フル バックアップだけに頼ったバックアップ計画は、通常は非効率的なものになります。これは、新しいデータがデータ セット全体に占める割合が一般的には少ないためです。フル バックアップでは、前回の処理で適切にバックアップされている多くのファイルも重複して保存されます。

ただし、短期間にデータの大部分が変更されるような、特殊な形式で運用する場合、フル バックアップだけを行うバックアップ計画が最適な選択肢になります。このような場合は、データの大部分が常に更新された状態になるので、フル バックアップだけを実行するバックアップ計画の方が、差分/増分処理と組み合わせた場合よりも、実際に不必要な複製が生成されにくいと言えます。

- 増分バックアップと差分バックアップでは、ネットワークの輻輳とメディアの浪費を避けることができます。この方法は、既存のハードウェアと帯域幅に制限がある場合に便利な方法であり、バックアップの時間帯をユーザの業務時間に支障がないよう調整することもできます。増分バックアップと差分バックアップは、フル バックアップよりも処理が高速です。フル バックアップと次のフル バックアップの間に増分バックアップや差分バックアップを実行すると、前回のフル バックアップ以降に変更されたすべてのファイルがバックアップされるため、より最新のファイルがバックアップされることになります。この冗長性により、完全な復旧に必要なすべてのデータが最高 2 つのデータ セット(フル バックアップと最後の増分バックアップ)に保存されていることになり、リストア速度が速向上します。

増分バックアップと差分バックアップは、データ セット全体の量に比べて、変更されるデータの量が少ない場合にのみ経済的な方法です。このような場合は、小容量のリムーバブル メディアに、変更されたデータを頻繁に保存できます。

ストレージ処理の並列実行(マルチ ストリーミング)

デバイスの転送速度により操作が制限され、必要なネットワーク帯域幅が利用可能な場合は、利用可能なすべてのデバイスを一度に使用するよう操作を設定できます。マルチ ストリーミングでデータを分散することにより、バックアップ処理にかかる時間を大幅に短縮できます。ただし、より多くのネットワーク帯域幅を消費します。利用可能なすべてのデバイスを使用してバックアップ データのすべてまたは大半を一度にリストアするため、致命的な破壊からの回復が迅速に行われます。CA ARCserve Backup では、利用可能なテープ デバイスに基づいてマルチ ストリームを自動的に生成する機能があります。

ストレージ容量に対する要件

ここまでは、バックアップ/リストア処理の実行速度に影響を与える要因について詳しく説明してきました。ここでは、必要となるデータ ストレージの容量について考えます。

オンライン復旧データのストレージ要件

ライブラリ内にオンラインで保存しておく復旧データの容量を算出する必要があります。アーカイブまたは障害の回復を目的とするデータは、オフラインで格納しておくことができます。これらは、早急には必要にならないと考えられるデータです。しかし、一般的に、最近のバックアップ データは、ライブラリ内で常に使用可能な状態にしておき、損失の可能性の高いファイルの最新かつ完全なコピーを簡単に探し出してすぐに復元できるようにする必要があります。

オンラインで保存しておく必要のある復旧データの容量を算出する方法

1. 平均フル バックアップのサイズを概算します。
2. 平均増分バックアップのサイズを概算して、加算します。
3. 企業で即座に使用できる状態にしておく必要のあるバックアップ セットの数(最新のデータ セットだけなら「1」、1 世代前のデータ セットも必要なら「2」とするなど)を掛けます。これで、オンラインにしておく必要のある復旧データの量が算出されます。

復旧データ量=(平均フル バックアップのサイズ + 平均増分バックアップのサイズ) x バックアップの数

バックアップ データのストレージ要件

スケジュール バックアップ用のオンライン ストレージ スペースを確保しておく必要があります。

必要なスペースの量を計算する方法

1. 平均フル バックアップのサイズを概算します。
2. 通常のフル バックアップのサイクルにおける平均的なデータ セット増加分を加算します。
3. 平均増分バックアップのサイズを概算して、加算します。
4. 通常の増分バックアップのサイクルにおける平均的なデータ セット増加分を加算します。

Global Dashboard データ保存要件

Global Dashboard 環境では、登録済みの各ブランチ プライマリ サーバから収集された Dashboard データ(CA ARCserve Backup データおよび SRM 関連データ)が、設定されたセントラル プライマリ サーバに同期されます。そこでは、セントラル CA ARCserve Backup データベース(ASDB)にデータが保存されます。そのため、セントラル プライマリ サーバを選択する際に考慮すべき主な点は、データベースのサイズです。選択したセントラル プライマリ サーバに、登録されているすべてのブランチ プライマリ サーバから受け取る Dashboard データを保存できる十分な容量があることを確認してください。

注: ブランチ プライマリ サーバについては、CA ARCserve Backup プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバ用の最小要件以外に必要とされる追加のハードウェアやソフトウェアはありません。

Global Dashboard 環境内のセントラル ASDB に必要な総容量を概算する際は、以下の点を考慮します。

- 各ブランチ サイトからセントラル ASDB へのデータ アップロードは毎日実行されるため、セントラル ASDB は、100 ノードにつき 1 日あたりおよそ 4MB (各ノードに 4 ボリュームと想定)の容量が増加すると推定されます(または、100 セッションにつき 1 日あたり 1MB)。
- セッションの数は、ノードの数に 1 ノードあたりのボリュームの平均数を掛けることにより計算されます。データベース保存期間の日数は、ブランチ CA ARCserve Backup セットアップによって決定されます。

- セントラル サイトに必要なおよそのディスク空き容量は、推定される 1 日あたりの ASDB 増加量(100 のセッションにつき 1MB)にデータベース保存期間の日数を掛けることにより計算できます。

例:

10 のブランチ サイトの各サイトに 10 のノードがあり、各ノードに 4 ボリュームある場合、セントラル ASDB は毎日 4MB ずつ増加します。データベース レコードが 180 日間保存されるとすると、セントラル ASDB は 720MB 必要になります。

- 10 ブランチ サイト x 10 ノード x 4 ボリューム = 400 セッション
- 400 セッション = 1 日あたり 4MB のデータベース容量増加(100 セッションにつき 1MB)
- 1 日あたり増加量 4MB x データベース保存日数 180 日 = セントラル ASDB に必要なデータベース総容量 720MB

注: ブランチ ASDB で実行されたデータベースの廃棄処理はすべて、次にデータ同期を実行したときにセントラル ASDB に反映されます。

ストレージの容量とリソース

容量に対する要件を満たすことができるかどうかは、以下の条件で決まります。

- ライブラリのタイプ
- 各タイプのライブラリの数
- 各ライブラリで使用するメディアのタイプ

使用できるライブラリのタイプと数を確認後、以下の式で各ライブラリの容量を算出できます。

$\text{totalcapacity(総容量)} = \text{numberslotsavailable(使用可能なスロット数)} \times \text{mediaelementcapacity(メディアの容量)}$

この式で、 $\text{numberslotsavailable(使用可能なスロット数)}$ は、ライブラリに格納されているスロットの数であり、 $\text{mediaelementcapacity(メディアの容量)}$ は、インストールされているドライブで使用されるメディアの容量です。

メディアの容量

メディアの容量は、ドライブ タイプ、メディア タイプ、および使用するデータ圧縮率によって異なります。実際のデータ容量を算出するには、あらかじめメディアの容量から以下の値を減算しておきます。

オーバーヘッド分として-10%

これには、CA ARCserve Backup メディア ヘッドとさまざまなエンジン固有のオーバーヘッド情報が含まれます。多数の小さなファイルをバックアップした場合などには、オーバーヘッドがこの値より大きくなる場合があります。

例：メディアの容量

たとえば、オーバーヘッド分を減算して、100 GB のデータをバックアップできるデバイス 10 台で、1 テラバイトをバックアップしようとする、バックアップのたびにメディアの使用率が 100%である必要があります。このようなことは実際には不可能なので、11 台のデバイスが必要になります。一方、オーバーヘッド分を差し引いて 200 GB のデータをバックアップするカートリッジを 6 つ使用すると、200 GB (20%) の余裕を持って 1 テラバイトをバックアップできます。

この余裕を確保することは重要です。オーバーヘッドを見込んだメディア使用率に容量に余裕がないと、バックアップ処理中にメディアを使いきり、バックアップが不完全になる可能性があります。

容量の計算に影響する要因

デバイスには、使用時間や使用回数などで示される寿命があります。必要なメディア数を算出する場合には、メディアの寿命も考慮してください。メディアの製造元の推奨期間を確認してください。

メディアに厳密な選択条件があったり、オフサイトに大規模なストレージがある場合には、上記で計算した最低限必要なメディア容量をさらに大きく見積もる必要がある場合があります。

一般的に、バックアップ対象データの合計サイズは、時間の経過と共に増加します。データ量が増加するペースは企業によって異なりますが、総量はほぼ必ず増加していきます。ここまでに算出した値は、データがほぼ一定しているという仮定の上での値です。したがって、バックアップが必要なデータの量(この例では 1 テラバイト)を見積もる場合には、常にデータの増加分を考慮する必要があります。そして、増大するニーズに対応できるだけの予備のストレージが常に用意されているよう、定期的なチェックを行います。

テスト計画および予測

目標値を確認し、必要な計算をすべて終え、企業にとって有効なバックアップ計画を立てたら、その計画をテストする必要があります。小規模な環境を使ったパイロット テストを実行します。

CA ARCserve Backup ログを参照すると、概算値が適切であったかどうかを確認できます。バックアップ ログを使用して、以下の操作を行うことができます。

- 計画に従って生成されたフル バックアップのサイズを確認すると、バックアップデータの量が正しく算出されていたかどうかを確認できます。
- 増分バックアップのサイズを確認することにより、データの平均変更率の計算が正しいかどうかを確認できます。
- バックアップする必要のあるデータがすべてバックアップされたかどうかを確認できます。
- データとネットワークのセグメント化が期待どおりに機能したかどうかを確認できます。

致命的イベント

ここまでは、主に機器の故障やユーザの誤操作による日常的なデータ損失などの脅威を取り上げ、すべてのバックアップ/リストアに共通するプロセスについて説明しました。ここでは、致命的な惨事からの復旧を計画する場合の考慮事項について説明します。

ここでいう致命的な障害とは、火災や洪水などの自然災害および人災です。致命的な障害が発生した場合には、ローカルに保存されたバックアップ メディアやハードウェアを含め、複数のホスト、データ センタ、またはネットワーク全体が喪失します。緊急事態に対処するには、バックアップ メディアを保管するための安全なオフサイトの保管場所を用意する必要があります。また、このオフサイトのデータを常に最新の状態に維持しておくことも必要です。

リスクの見積もり

まず、データの重要度、データ保護に要する経費、リスクの規模、およびすべてのサイトに適用する企業ポリシーを考慮して、実際に備えるべき惨事の種類を決定します。

以下の内容を検討します。

- 地域全体または都市部に影響を与える大規模な惨事が発生する可能性はどの程度か。これは、地震、大洪水、戦争などの惨事を指しています。
- 建物の火災、局地的な洪水や暴動など、小規模な惨事が発生する可能性はどの程度か。
- 大規模な惨事で失われるデータの量はどの程度か。小規模な惨事の場合では場合ではどの程度か。
- それぞれのケースが企業に与える損失の程度はどの程度か。
- 各リスクを回避するために、企業はどれだけの経費をかけることができるか。

オフサイト リポジトリに関する考慮事項

ストレージ管理で、オフサイト リポジトリまたはボールドを選択する際には、以下に挙げる要件とのトレードオフを考慮する必要があります。

ボールドのセキュリティに関する考慮事項

オフサイトは、対処すべき致命的な惨事からオフサイト データを保護するために、主要な施設から地理的に離れている必要があります。

例：ボールドのセキュリティに関する考慮事項

- 対処すべき最大の惨事が地震である場合、オフサイトは主要サイトから地理的に離れた耐震の建物内か、別の市や別の地域の建物内に設置する必要があります。
- 火災や局地的な洪水に備える場合は、通りの向かいの建物の上層階にオフサイトを確保すれば充分です。

ボールドのアクセスに関する考慮事項

プライマリ サイトからデータをオフサイトに隔離する方法をとると、オフサイトのデータを常に最新に保つことが難しくなり、費用も高額になります。オフサイトのデータを使用するには、そのデータが適切に最新の状態に維持されていること、つまり適度にアクセスしやすい状態であることが必要になります。地理的に離れた場所にあるオフサイトにデータを格納しておく、深刻な惨事からもデータを保護できますが、毎日そこまでメディアを運ぶことは現実的ではありません。

ボールドの費用に関する考慮事項

一般的に、オフサイトは安全性を高めるほど多額の経費がかかります。同様に、安全性の高い施設ほど高額になります。また、こうしたオフサイトとの間でメディアをやりとりするには、時間と経費もかかります。オフサイトに多くのメディアを保管すると、主要サイトにも多くのメディアが必要になります。

惨事復旧アーカイブに関する考慮事項

通常、致命的な惨事が発生した場合は、バックアップ メディアと同時にインフラストラクチャも損害を受けるため、データの回復を行う前に、システムの完全な再構築も必要になります。このため、オフサイトには以下のものも用意しておく必要があります。

- CA ARCserve Backup サーバ用のブート可能なオペレーティング システムを含むメディアおよびデバイス
- CA ARCserve Backup がサポートしている現在のファイル システム、データベース、およびメール サーバの完全なバックアップ

また、CA ARCserve Backup 配布メディア、およびハードウェア構成パラメータが記載されているテキスト ファイルなども必要です。

惨事復旧のテスト

惨事の発生時に確実にデータを使用できるようにするには、オフサイトに保管しているデータを定期的にテストしておく必要があります。日常的に使用されるバックアップデータは、ユーザが削除したファイルをリストアできない場合にテストされます。この場合、通常は問題箇所をすぐに特定できるため、要する経費もわずかで済みます。しかし、惨事はその性質上ごくまれにしか発生せず、その復旧には莫大な経費を要します。データ センタで火災が発生した後でバックアップ データが使用できないことが判明するという事態は、許されません。したがって、使用頻度の低いバックアップであっても、時折テストしておく必要があります。

新しいソフトウェアまたはハードウェアをインストールしたとき、または既存の手順を変更したときには、必ず以下のテストを行います。

- オフサイトのストレージおよび惨事復旧用として、実際にメディアにバックアップを行います。
- 指定されたデータがすべて正しくバックアップされていることを確認します。
- テストのバックアップ メディアを使用して、惨事後の復旧をシミュレートします。

機会があるたびに、バックアップとリストアの簡単なシミュレーションを実行してください。日常的にテストを実行することにより、復旧プロセスの訓練と評価を継続して行うことができます。

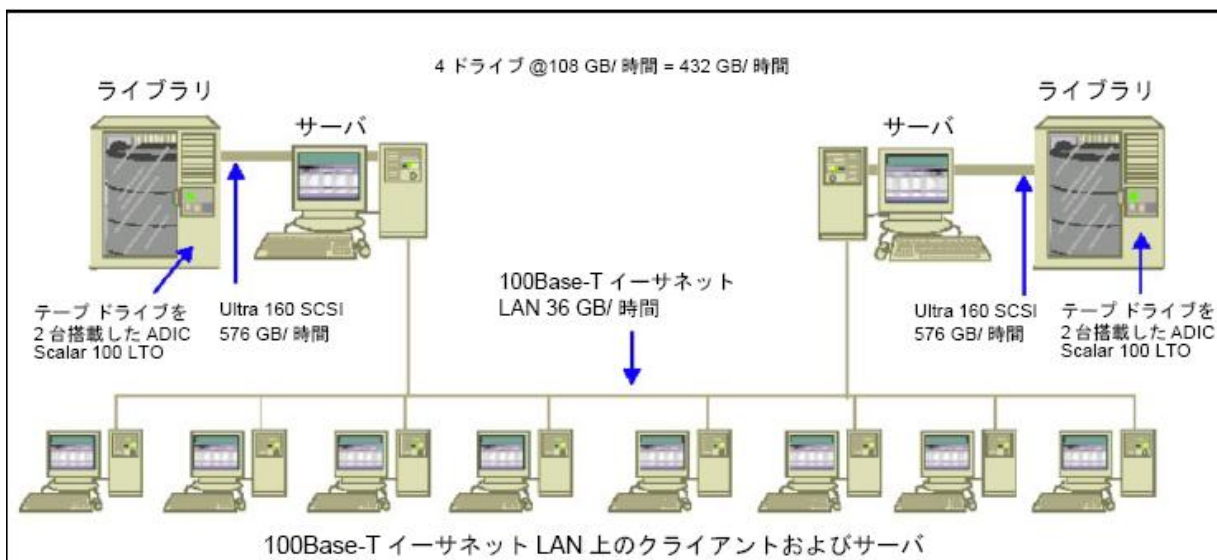
計算例

ここでは、バックアップ/復旧計画で処理する必要のある代表的な状況をいくつか紹介します。

注: 以下の説明では、バックアップ サーバに高速な CPU と十分なメモリが搭載され、クライアントとサーバ双方のハード ディスクの処理速度も十分に高速であることを前提としています。

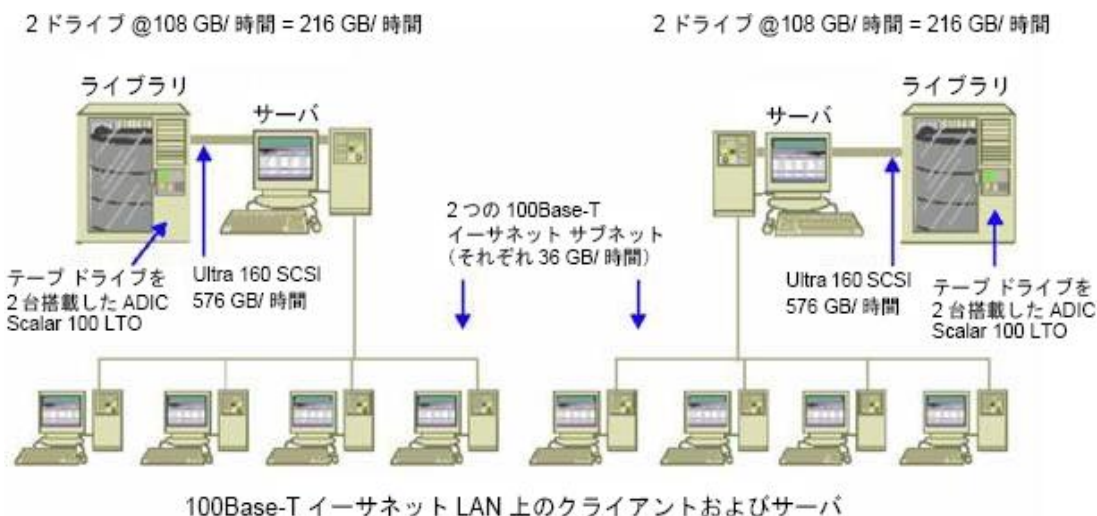
100Base-T イーサネット LAN 上のサブネット設定のないクライアントとサーバの転送速度

この構成では、使用可能なサーバとライブラリの数にかかわらず、ネットワーク上のデータ転送速度は最高で 36 GB/時間です。1 テラバイトのデータをバックアップする場合は、28 時間のバックアップ処理が必要です。



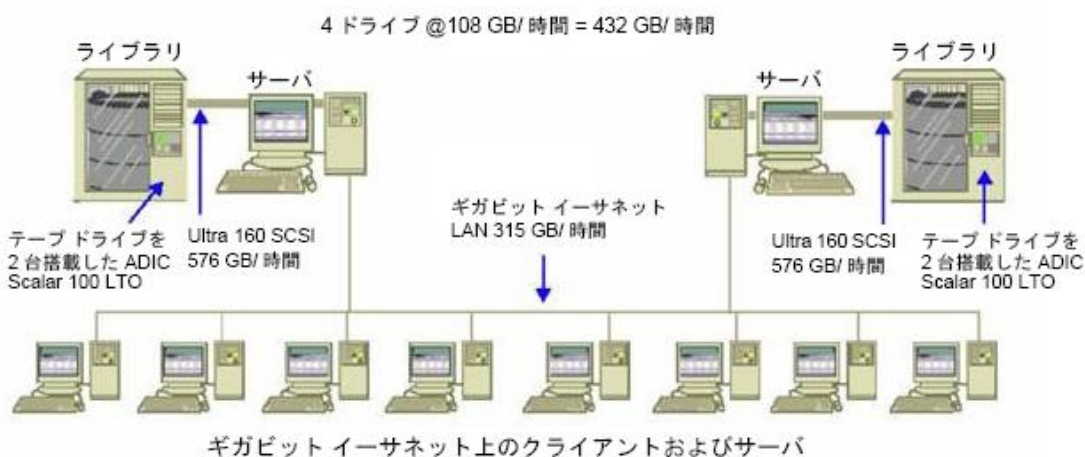
2つの 100Base-T イーサネット サブネット上のクライアントとサーバの転送速度

この構成では、100Base-T の場合の 36 GB/時間の 2 倍のデータを転送できます。1 テラバイトのデータをバックアップする場合、各サブネットでは処理するデータ量は 500 GB になり、バックアップ処理には 14 時間かかります。各ライブラリのメディア ドライブの転送速度を 36 GB/時間に維持しておくことはできないため、パフォーマンスが多少低くなります。



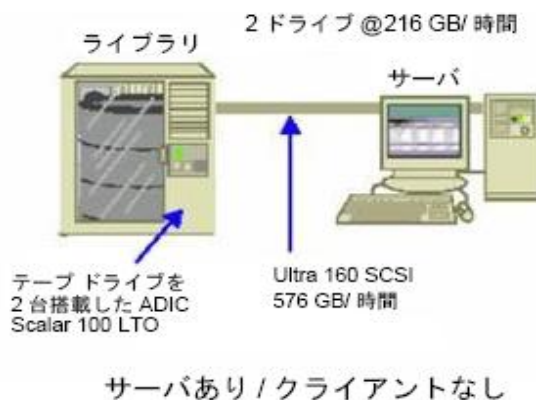
ギガビット イーサネット ネットワーク上のクライアントとサーバの転送速度

この構成では、データの転送速度は 315 GB/時間です。1 テラバイトのデータをバックアップするには、3 時間かかります。



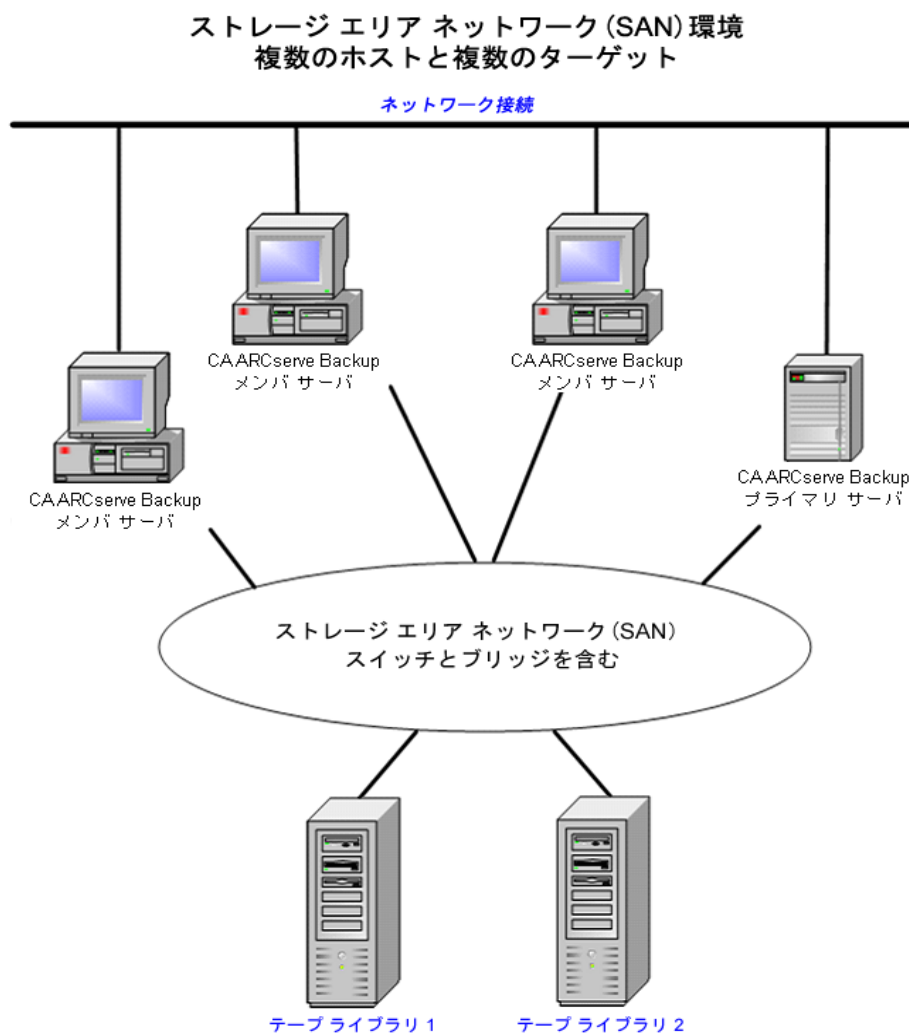
クライアントを持たないサーバの転送速度

この場合、ディスク システムもサーバもボトルネックでないと仮定すると、216 GB/時間のドライブがボトルネックの要因になります。したがって、1 テラバイトのデータをバックアップするには、5 時間かかります。



SAN Option を使用するサーバでの転送速度

この構成では、SAN 上の各サーバのローカル バックアップの転送速度は 432 GB/時間になります。



1 回のフル バックアップと 1 回の増分バックアップで 2 セットの復旧データを保持する場合のストレージ容量

以下の条件を仮定します。

- 1 週間に 1 回、1 TB のユーザ データをフル バックアップします。
- 増分バックアップを毎日実行します。
- 毎日のデータ変更率は約 10%とします。
- 前回と前々回のバックアップ サイクルのデータを高速回復用にオンラインで使用できるようにします。
- 20 スロット構成の 1 つのライブラリに圧縮率 2:1 の LTO テープ ドライブを使用します。
- どのメディアも使用率に問題はありません。

まず、現在のバックアップ処理の出力を保存するために必要な容量を計算します。LTO メディアの容量は、圧縮率 2:1 で 200 GB です。オーバーヘッド分 10%を差し引くと、実際の容量は約 180 GB です。したがって、1 TB のフル バックアップでは以下の式が成り立ちます。

$$1 \text{ TB} \div 180 \text{ GB/メディア} = 6 \text{ メディア}$$

上の式を利用すると、マージンについて以下の式が成り立ちます。

$$(6 \times 180 - 1000)/1000 = 8\%$$

6 本のテープ (1 TB) で 8%のマージンを確保できるので、テープを追加する必要はありません。この例では、フル バックアップ用に 6 本の LTO テープが必要になります。予測した変更率を基にすると、増分バックアップの容量は以下のようになります。

$$1 \text{ TB} \times 10\%(\text{変更率})/\text{増分} \times 5(\text{増分の回数}) = 500 \text{ GB}(\text{変更分})$$

したがって、少なくとも以下の式で求められるメディアが必要になります。

$$500 \text{ GB} \div 180 \text{ GB/メディア} = 3 \text{ メディア}$$

3 本のテープ (500 GB) で 9% のマージンを確保できるので、テープを追加する必要はありません。テープ 3 本で、1 セット分の増分バックアップを保存できます。

次に、オンライン復旧データに必要なストレージ スペースを計算します。ライブラリに 2 世代前までのバックアップ セットを保存しておく必要があるので、前々回の復旧データ用と前回の復旧データ用に、それぞれ 9 本ずつのテープが必要です。したがって、復旧データを保存するには、18 本のテープが必要になります。

つまり、必要なストレージの合計は、以下のようになります。

テープ 9 本(現在のバックアップ用)+テープ 18 本(復旧データ用)=テープ 27 本

次に、クリーニング スロット分を差し引いて、ライブラリの容量を計算します。

20 スロット/ライブラリ- 1(クリーニング スロット)= 19(使用可能なスロット)

したがって、スロットが $27 - 19 = 8$ 足りないということになり、以下のいずれかの処理が必要になります。

- ライブラリを増やす。
- 保存データを圧縮する。
- オンラインで保存する復旧データを 1 セットだけにする。

第 3 章: CA ARCserve Backup インストールの計画

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[サポートしているプラットフォーム](#) (39 ページ)

[サポート デバイス](#) (39 ページ)

[インストール処理のオペレーティング システムに対する影響](#) (41 ページ)

[CA ARCserve Backup のインストールに必要なディスク空き容量](#) (61 ページ)

[インストール方法](#) (62 ページ)

[CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ](#) (64 ページ)

[caroot ユーザ アカウント](#) (68 ページ)

[データベース要件](#) (69 ページ)

[Global Dashboard に関する考慮事項](#) (77 ページ)

[アップグレードに関する考慮事項](#) (78 ページ)

[製品ライセンスの要件](#) (83 ページ)

[CA ARCserve Backup ファイル システム エージェントのリリース レベル](#) (84 ページ)

サポートしているプラットフォーム

CA ARCserve Backup for Windows Server コンポーネントにより、以下のプラットフォームで実行しているエージェントを保護することができます。

- Windows
- UNIX
- Linux
- Netware
- Mac OS X
- Mainframe Linux

サポートしているオペレーティング システムの最新のリストについては、[readme](#) ファイルをお読みになるか、CA Web サイト(ca.com)にアクセスしてください。

サポート デバイス

使用するハードウェア デバイスと CA ARCserve Backup との互換性を確認するには、弊社 Web サイト(ca.com)で最新の認定デバイス リストを参照してください。

テープ ライブラリのインストール

CA ARCserve Backup ベース製品には、単一ドライブ テープおよびオプティカル ライブラリのサポートが含まれています。複数のドライブでテープまたはオプティカル ライブラリを使用している場合は、**Tape Library Option** を個別にインストールする必要があります。また、複数ドライブのライブラリが接続された各々の ARCserve プライマリ サーバまたは ARCserve スタンドアロン サーバで、ライセンスを登録する必要があります。

テープ エンジンを初めて起動したときに、CA ARCserve Backup は自動的に単一/複数ドライブ テープおよびオプティカル ライブラリを環境設定します。

Tape RAID 操作をご使用の環境で実行するには、**Tape Library Option** のライセンスを登録する必要があります。ライセンスを登録した後は、**Tape RAID** デバイスがローカル接続されたプライマリ サーバまたはメンバ サーバで**[デバイス環境設定]**を実行して、**Tape RAID** デバイスを環境設定することができます。詳細については、「**Tape Library Option ユーザ ガイド**」を参照してください。

Storage Area Network(SAN)のインストール

CA ARCserve Backup ベース製品には、Storage Area Network (SAN) 操作のサポートが含まれています。

使用している SAN にプライマリ サーバ、およびライブラリを共有する 1 つ以上のメンバ サーバが含まれている場合、別にインストールされている **Storage Area Network (SAN) Option** が必要です。プライマリ サーバにオプションをインストールして、そのオプションのライセンスを登録する必要があります。

インストール処理のオペレーティング システムに対する影響

CA ARCserve Backup インストール処理は、Microsoft Installer Package (MSI) というインストール エンジンを使用して、さまざまな Windows オペレーティング システム コンポーネントを更新します。MSI に含まれるコンポーネントにより、CA ARCserve Backup はカスタム アクションを実行し、CA ARCserve Backup のインストール、更新およびアンインストールが可能になります。以下の表では、カスタム アクションと影響を受けるコンポーネントについて説明します。

注：CA ARCserve Backup のインストールおよびアンインストールを行うとき、すべての CA ARCserve Backup MSI パッケージは、この表にリストされたコンポーネントを呼び出します。

コンポーネント	詳細
CallAllowInstall	インストール処理で現在の CA ARCserve Backup インストールに関する状態を確認できます。
CallPreInstall	インストール処理で MSI プロパティの読み取りと書き込みが可能になります。たとえば、MSI から CA ARCserve Backup インストール パスを読み取ります。
CallPostInstall	インストール処理でインストールに関するさまざまなタスクを実行できます。たとえば、CA ARCserve Backup を Windows レジストリに登録します。
CallAllowUninstall	アンインストール処理で現在の CA ARCserve Backup インストールに関する状態を確認できます。
CallPreUninstall	アンインストール処理でアンインストールに関するさまざまなタスクを実行できます。たとえば、Windows レジストリから CA ARCserve Backup の登録を削除します。

更新されるディレクトリ

インストール処理では、デフォルトで以下のディレクトリに、CA ARCserve Backup ファイルのインストールと更新が行われます。

CA ARCserve Backup ベース製品

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup (x86 オペレーティング システム)
- C:\Program Files (x86)\CA\ARCserve Backup (x64 オペレーティング システム)
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\ARCserve Backup
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\ScanEngine
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CA_LIC

Client Agent for Windows

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\ARCserve Backup
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\ScanEngine
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

IA64 システム用 Client Agent for Windows

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\ARCserve Backup
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\ScanEngine

x64 ベースのシステム用 Client Agent for Windows

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\ARCserve Backup
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\ScanEngine

Agent for Virtual Machines

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\ARCserve Backup

x64 ベースのシステム用 Agent for Virtual Machines

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\ARCserve Backup

Agent for Open Files for Windows

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Open Files\
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

IA64 システム用 Agent for Open Files for Windows

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Open Files\
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI

x64 ベースのシステム用 Agent for Open Files for Windows

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Open Files\
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI

Agent Deployment セットアップ ファイル

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup\

Agent for Microsoft SQL Server

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server\
- C:\Program Files \CA\SharedComponents\ARCserve Backup
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

IA64 システム用 Agent for Microsoft SQL Server

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server\
- C:\Program Files \CA\SharedComponents\ARCserve Backup
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

x64 ベースのシステム用 Agent for Microsoft SQL Server

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server\
- C:\Program Files \CA\SharedComponents\ARCserve Backup
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

Agent for Microsoft SharePoint Server

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

x64 ベースのシステム用 Agent for Microsoft SharePoint Server

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

Agent for Microsoft Exchange Server

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

x64 ベースのシステム用 Agent for Microsoft Exchange Server

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

Agent for Oracle

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Oracle
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

x64 ベースのシステム用 Agent for Oracle

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Oracle
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

IA64 システム用 Agent for Oracle

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Oracle
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

Agent for Lotus Domino

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Lotus Domino
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

Agent for Sybase

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Agent for Sybase
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CA_LIC

Agent for Informix

- C:\Program Files\CA\C:\Program Files\CA\CA ARCserve Backup Agent for Informix
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CA_LIC

診断ユーティリティ

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Diagnostic¥
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI

Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R3 for Oracle¥
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CA_LIC

x64 ベースのシステム用 Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R3 for Oracle¥
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CA_LIC

IA64 システム用 Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle

- C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R3 for Oracle¥
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files\CA\SharedComponents\CAPKI
- C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CA_LIC

CA ARCserve Backup は、CA ARCserve Backup ベース製品と同じディレクトリ フォルダに以下の CA ARCserve Backup 製品をインストールします。

- Enterprise Module
- Disaster Recovery Option
- NDMP NAS Option
- Microsoft Windows EBS Option

CA ARCserve Backup はデフォルトのインストール ディレクトリにインストールするか、代替のディレクトリにインストールできます。 インストール処理では、さまざまなシステム ファイルが以下のディレクトリにコピーされます。

C:\%windows%\system

CA ARCserve Backup は、以下のディレクトリに設定ファイルをコピーします。

C:\%Documents and Settings%\<ユーザ名>

注: CA ARCserve Backup 未署名ファイルのリストを確認するには、[「未署名の CA ARCserve Backup ファイル」](#) (48 ページ)を参照してください。

更新される Windows レジストリ キー

インストール処理では以下の Windows レジストリ キーが更新されます。

- デフォルトのレジストリ キー

HKLM\%SOFTWARE%\Computer Associates

- インストール処理では、システムの現在の設定に基づき、新しいレジストリ キーが作成され、その他のさまざまなレジストリ キーが変更されます。

インストールされるアプリケーション

インストール処理ではコンピュータに以下のアプリケーションがインストールされます。

- CA ライセンス
- CA CAPKI 暗号化
- Microsoft Visual C++ 2005 SP1 Redistributable
- Microsoft Windows Installer 3.1 Redistributable (v2)
- スキャン エンジン 8.1 (eTrust Antivirus)

注: IA64 オペレーティング システム上にはアンチウイルス保護はインストールされません。

- CA ARCserve Backup サーバをインストールする場合、インストール処理では以下のアプリケーションもインストールされます。
 - Microsoft .NET Framework 3.5 SP1
 - JRE (Java Runtime Environment) 1.6.0
 - Microsoft XML 4.0 SP2
- Microsoft SQL Express Edition を CA ARCserve Backup データベースとしてインストールする場合、以下のアプリケーションもインストールされます。
 - Microsoft SQL Server 2008 Express Edition SP1
 - Microsoft Windows Installer 4.5 Redistributable
- CA ARCserve Backup Agent for Oracle (x86/x64/IA64)または Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle (x86/x64/IA64)をインストールする場合、以下のアプリケーションもインストールされます。
 - Microsoft XML 4.0 SP2
 - Microsoft XML 6.0
 - JRE (Java Runtime Environment) 1.6.0

Data Mover サーバ

UNIX または Linux サーバに CA ARCserve Backup UNIX/Linux Data Mover がインストールされている場合、CA ARCserve Backup は Data Mover サーバに以下のコンポーネントをインストールします。

- オペレーティング システムが Sun、HPUX または Linux である場合、CA ARCserve Backup は、Data Mover サーバの以下のディレクトリに JRE (Java Runtime Environment) 1.6.0 をインストールします。

```
/opt/CA/SharedComponents/jre
```

- オペレーティング システムが AIX である場合、CA ARCserve Backup は、Data Mover サーバの以下のディレクトリに IBM JRE (IBM Java Runtime Environment) 1.6.0 および Sun JRE 1.6.0 をインストールします。

```
/opt/CA/SharedComponents/jre
```

```
/opt/CA/SharedComponents/jre.sun
```

未署名のバイナリ ファイル

CA ARCserve Backup は、サード パーティおよび CA ARCserve Backup によって開発された未署名のバイナリ ファイルをインストールします。以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
C:\Program Files (x86)\CA\ARCserve Backup\CATALOG.DB	CA ARCserve Backup 注：このファイル用のバイナリは動的に作成されます。インストール場所は、実装によって異なります。
BaofNtNw.msi	CA ARCserve Backup
BrightStorSAK.msi	CA ARCserve Backup
CADiag.msi	CA ARCserve Backup
CADS.msi	CA ARCserve Backup
DBAExch.msi	CA ARCserve Backup
DBAExch12.msi	CA ARCserve Backup
DBASQL.msi	CA ARCserve Backup
NTAgent.msi	CA ARCserve Backup
ofant.sys	CA ARCserve Backup
OPTIO.msi	CA ARCserve Backup
OPTSBO.msi	CA ARCserve Backup

バイナリ名	ソース
RMANAgent.msi	CA ARCserve Backup
SetupCommon.msi	CA ARCserve Backup
SP2K7Agent.msi	CA ARCserve Backup
UniAgent.msi	CA ARCserve Backup
VMAgent.msi	CA ARCserve Backup
CALicense.msi	CA ライセンス
xalan-c_1_10.dll	Apache Software Foundation
xalan_messages_1_10.dll	Apache Software Foundation
xerces-c_2_7.dll	Apache Software Foundation
xsec_1_2_0.dll	Apache Software Foundation
roboex32.dll	Blue Sky Software Corporation
CFX2032.DLL	ChartFX
GX1142R.dll	Classworks
ccme_base.dll	EMC (RSA)
ccme_ecc.dll	EMC (RSA)
ccme_eccaccel.dll	EMC (RSA)
cryptocme2.dll	EMC (RSA)
libetpki_openssl_crypto.dll	EMC (RSA)
Data1.cab	Flexera Software (旧 Aceso Software) InstallShield によって生成されます。
icudt34.dll	IBM
icuin34.dll	IBM
icuio34.dll	IBM
icule34.dll	IBM
iculx34.dll	IBM
icutest.dll	IBM
icutu34.dll	IBM
icuuc34.dll	IBM
unzip.exe	Info-ZIP
awt.dll	Java Runtime Environment

バイナリ名	ソース
axbridge.dll	Java Runtime Environment
cmm.dll	Java Runtime Environment
dcpr.dll	Java Runtime Environment
deploy.dll	Java Runtime Environment
dt_shmem.dll	Java Runtime Environment
dt_socket.dll	Java Runtime Environment
eula.dll	Java Runtime Environment
fontmanager.dll	Java Runtime Environment
hpi.dll	Java Runtime Environment
hprof.dll	Java Runtime Environment
instrument.dll	Java Runtime Environment
ioser12.dll	Java Runtime Environment
j2pcsc.dll	Java Runtime Environment
j2pkcs11.dll	Java Runtime Environment
jaas_nt.dll	Java Runtime Environment
java.dll	Java Runtime Environment
java.exe	Java Runtime Environment
java_crw_demo.dll	Java Runtime Environment
javac.exe	Java Runtime Environment
javacpl.cpl	Java Runtime Environment
javacpl.exe	Java Runtime Environment
Java-rmi.exe	Java Runtime Environment
javaw.exe	Java Runtime Environment
javaws.exe	Java Runtime Environment
jawt.dll	Java Runtime Environment
JdbcOdbc.dll	Java Runtime Environment
jdwp.dll	Java Runtime Environment
jli.dll	Java Runtime Environment
jpeg.dll	Java Runtime Environment
jpicom.dll	Java Runtime Environment

バイナリ名	ソース
jpiexp.dll	Java Runtime Environment
jpinscp.dll	Java Runtime Environment
jpioji.dll	Java Runtime Environment
jpishare.dll	Java Runtime Environment
jsound.dll	Java Runtime Environment
jsoundds.dll	Java Runtime Environment
jusched.exe	Java Runtime Environment
jvm.dll	Java Runtime Environment
keytool.exe	Java Runtime Environment
kinit.exe	Java Runtime Environment
klist.exe	Java Runtime Environment
ktab.exe	Java Runtime Environment
management.dll	Java Runtime Environment
net.dll	Java Runtime Environment
nio.dll	Java Runtime Environment
npjava11.dll	Java Runtime Environment
npjava12.dll	Java Runtime Environment
npjava13.dll	Java Runtime Environment
npjava14.dll	Java Runtime Environment
npjava32.dll	Java Runtime Environment
npoji610.dll	Java Runtime Environment
npt.dll	Java Runtime Environment
orbd.exe	Java Runtime Environment
pack200.exe	Java Runtime Environment
policytool.exe	Java Runtime Environment
regutils.dll	Java Runtime Environment
rmi.dll	Java Runtime Environment
rmid.exe	Java Runtime Environment
rmiregistry.exe	Java Runtime Environment
servertool.exe	Java Runtime Environment

バイナリ名	ソース
splashscreen.dll	Java Runtime Environment
sunmscapi.dll	Java Runtime Environment
tnameserv.exe	Java Runtime Environment
unpack.dll	Java Runtime Environment
unpack200.exe	Java Runtime Environment
verify.dll	Java Runtime Environment
w2k_lsa_auth.dll	Java Runtime Environment
wsdetect.dll	Java Runtime Environment
zip.dll	Java Runtime Environment
ansiatl.dll	Microsoft
ATL80.dll	Microsoft
cdcdrom.sys	Microsoft
cdrom.sys	Microsoft
COMPRESS.EXE	Microsoft
dbghelp.dll	Microsoft
mfc80.dll	Microsoft
mfc80CHS.dll	Microsoft
mfc80CHT.dll	Microsoft
mfc80DEU.dll	Microsoft
mfc80ENU.dll	Microsoft
mfc80ESP.dll	Microsoft
mfc80FRA.dll	Microsoft
mfc80ITA.dll	Microsoft
mfc80JPN.dll	Microsoft
mfc80KOR.dll	Microsoft
mfc80u.dll	Microsoft
mfc80m.dll	Microsoft
mfc80u.dll	Microsoft
msdia80.dll	Microsoft
msi.dll	Microsoft

バイナリ名	ソース
msstkprp.dll	Microsoft
msvcm80.dll	Microsoft
msvcp60.dll	Microsoft
msvcp80.dll	Microsoft
msvcr71.dll	Microsoft
msvcr80.dll	Microsoft
Msvcr40.dll	Microsoft
msxml4.dll	Microsoft
msxml4r.dll	Microsoft
rsfx.msi	Microsoft
sql_common_core.msp	Microsoft
sql_engine_core_inst.msp	Microsoft
sql_engine_core_inst_loc.msp	Microsoft
sql_engine_core_shared.msp	Microsoft
sql_engine_core_shared_loc.msp	Microsoft
sqlbrowser.msp	Microsoft
sqlncli.msi	Microsoft
sqlsqm.msp	Microsoft
sqlsupport.msi	Microsoft
sqlwriter.msp	Microsoft
tpcdrom.sys	Microsoft
vcomp.dll	Microsoft
vcredist_IA64.exe	Microsoft
vcredist_x64.exe	Microsoft
vcredist_x86.exe	Microsoft
C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\100\Setup Bootstrap\Log\	Microsoft 注：このファイル用のバイナリは動的に作成されます。インストール場所は、実装によって異なります。
libeay32.dll	OpenSSL
Vim25Service2005.XmlSerializers.dll	VMware
VimService2005.XmlSerializers.dll	VMware

バイナリ名	ソース
zlib1.dll	Zlib 圧縮ライブラリ

無効なファイル バージョン情報が含まれるバイナリ ファイル

CA ARCserve Backup は、サード パーティ、他の CA 製品、CA ARCserve Backup によって開発された無効なバージョン情報を含むバイナリ ファイルをインストールします。以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
ASMBO.dll	CA ARCserve Backup
CAVMPROP.dll	CA ARCserve Backup
dmoption.dll	CA ARCserve Backup
InstAlrt.dll	CA ARCserve Backup
rdsetup.dll	CA ARCserve Backup
setupprd.exe	CA ARCserve Backup
inocboot.exe	CA AVEngine
Cazipxp.exe	CA ライセンス
UpdateData.exe	CA ライセンス
xalan_messages_1_10.dll	Apache Software Foundation
ccme_base.dll	EMC (RSA)
ccme_ecc.dll	EMC (RSA)
ccme_eccaccel.dll	EMC (RSA)
cryptocme2.dll	EMC (RSA)
libetpki_openssl_crypto.dll	EMC (RSA)
icutest.dll	IBM
icutu34.dll	IBM
unzip.exe	Info-ZIP
a0fkyeum.dll	Microsoft
MSClusterLib.dll	Microsoft
sqlwvss_xp.dll	Microsoft
WindowsServer2003-KB942288-v4-x64.exe	Microsoft

バイナリ名	ソース
WindowsServer2003-KB942288-v4-x86.exe	Microsoft
WindowsXP-KB942288-v3-x86.exe	Microsoft
libeay32.dll	OpenSSL
casmgmtsvc.exe	タヌキソフトウェア
wrapper.dll	タヌキソフトウェア
Vim25Service2005.XmlSerializers.dll	VMware
VimService2005.XmlSerializers.dll	VMware
zlib1.dll	Zlib 圧縮ライブラリ

完全にアンインストールされないバイナリ ファイル

CA ARCserve Backup は、サードパーティ、他の CA 製品、CA ARCserve Backup によって開発された、完全にはアンインストールされないバイナリ ファイルをインストールします。以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CAPKI\Windows\x86\32\uninstaller.exe	CA ARCserve Backup
C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CA_LIC\lic98.dat	CA ライセンス
C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CA_LIC\lic98.log	CA ライセンス
C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\CA_LIC\lic98-port	CA ライセンス
C:\Windows\Downloaded Installations\{3D52BE33-2E8C-4A39-BECF-878DD4 D58252}\CALicense.msi	CA ライセンス
C:\\$Mft	Microsoft
C:\inetpub\temp\appPools\APC47F.tmp	Microsoft
C:\msdia80.dll	Microsoft
C:\Program Files (x86)\Common Files\microsoft shared\	Microsoft
C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\	Microsoft

バイナリ名	ソース
C:\Program Files (x86)\Microsoft Visual Studio 9.0\	Microsoft
C:\Program Files (x86)\Microsoft.NET\	Microsoft
C:\Program Files\Microsoft Logo\Software Certification Toolkit\Data\	Microsoft
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\	Microsoft
C:\Users\Administrator\	Microsoft
C:\Windows\AppCompat\Programs\RecentFileCache.bcf	Microsoft
C:\Windows\assembly\NativeImages_v2.0.50727_32\	Microsoft
C:\Windows\bootstat.dat	Microsoft
C:\Windows\debug\PASSWD.LOG	Microsoft
C:\Windows\Downloaded Installations\{3D52BE33-2E8C-4A39-BECF-878DD4D58252}\1041.MST	Microsoft
C:\Windows\inf\	Microsoft
C:\Windows\Microsoft.NET\	Microsoft
C:\Windows\ODBC.INI	Microsoft
C:\Windows\PFR0.log	Microsoft
C:\Windows\rescache\rc0002\ResCache.hit	Microsoft
C:\Windows\ServiceProfiles\NetworkService\AppData\	Microsoft
C:\Windows\SoftwareDistribution\DataStore\	Microsoft
C:\Windows\System32\	Microsoft
C:\Windows\SysWOW64\	Microsoft
C:\Windows\Tasks\	Microsoft
C:\Windows\WindowsUpdate.log	Microsoft
C:\Windows\winsxs\	Microsoft

埋め込みマニフェストを含まないバイナリ ファイル

CA ARCserve Backup は、サードパーティ、他の CA 製品、CA ARCserve Backup によって開発された埋め込みマニフェストおよびテキスト マニフェストを含まないバイナリ ファイルをインストールします。以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
ASDBCom.exe	CA ARCserve Backup
ca_vcbpopulatedb.exe	CA ARCserve Backup
VCBUL.exe	CA ARCserve Backup
inocboot.exe	CA AVEngine
BaseLicInst.exe	CA ライセンス
UpdateData.exe	CA ライセンス
unzip.exe	Info-ZIP
java.exe	Java Runtime Environment
javac.exe	Java Runtime Environment
javacpl.exe	Java Runtime Environment
Java-rmi.exe	Java Runtime Environment
javaw.exe	Java Runtime Environment
javaws.exe	Java Runtime Environment
keytool.exe	Java Runtime Environment
kinit.exe	Java Runtime Environment
klist.exe	Java Runtime Environment
ktab.exe	Java Runtime Environment
orbd.exe	Java Runtime Environment
pack200.exe	Java Runtime Environment
policytool.exe	Java Runtime Environment
rmid.exe	Java Runtime Environment
rmiregistry.exe	Java Runtime Environment
servertool.exe	Java Runtime Environment
tnameserv.exe	Java Runtime Environment
unpack200.exe	Java Runtime Environment

バイナリ名	ソース
COMPRESS.EXE	Microsoft
DTSWizard.ni.exe	Microsoft
SQLEXPR.EXE	Microsoft
SQLPS.ni.exe	Microsoft
vcredist_IA64.exe	Microsoft
vcredist_x64.exe	Microsoft
vcredist_x86.exe	Microsoft
WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe	Microsoft
WindowsServer2003-KB942288-v4-x64.exe	Microsoft
WindowsServer2003-KB942288-v4-x86.exe	Microsoft
WindowsXP-KB942288-v3-x86.exe	Microsoft
casmgmtsvc.exe	タヌキソフトウェア

CA ARCserve Backup は、他の CA 製品および CA ARCserve Backup によって開発された、テキスト マニフェストを含み埋め込みマニフェストは含まないバイナリ ファイルをインストールします。以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
setuprd.exe	CA ARCserve Backup
Cazipxp.exe	CA ライセンス

CA ARCserve Backup MSI インストーラ パッケージ ID

Windows MSI インストーラ パッケージには[プロパティ]テーブルおよび[アップグレード]テーブルが含まれます。CA ARCserve Backup MSI インストーラには[アップグレード]テーブルを含まないものがあります。以下が、影響を受ける CA ARCserve Backup インストーラ パッケージです。

- ARCserve.msi
- BaofNtNw.msi
- BrightStorSAK.msi
- CADiag.msi
- DBAExch.msi

- DBAExch12.msi
- DBAIFX.msi
- DBANotes.msi
- DBASQL.msi
- DBASYB.msi
- EBSAgent.msi
- msxml.msi
- NASAgent.msi
- NTAgent.msi
- OPTDRO.msi
- OPTEO.msi
- OPTIO.msi
- OPTSBO.msi
- PM.msi
- RMANAgent.msi
- SAPAgent.msi
- SP2K7Agent.msi

Windows MSI インストーラ パッケージ カスタム列

Windows の MSI インストーラでは、アプリケーションによる MSI 標準テーブルへのカスタム列の追加が可能です。ただし、CA ARCserve Backup インストーラ パッケージには「Assembly_」という名前のカスタム列が含まれており、これは MSI 標準テーブルに含まれていません。

これは CA ARCserve Backup r15 が InstallShield 2008 を使用して開発されており、InstallShield 2008 では MSI 標準テーブルへの「Assembly_」テーブルの追加がサポートされていないために発生します。

以下が、影響を受ける CA ARCserve Backup インストーラ パッケージです。

- AgentDeploy.msi
- ARCserve.msi
- BaofNtNw.msi
- BrightStorSAK.msi
- CADiag.msi

- CADS.msi
- CentralDashboard.msi
- DBAExch.msi
- DBAExch12.msi
- DBAIFX.msi
- DBANotes.msi
- DBASQL.msi
- DBASYB.msi
- EBSAgent.msi
- NASAgent.msi
- NTAgent.msi
- OPTDRO.msi
- OPTEO.msi
- OPTIO.msi
- OPTSBO.msi
- PM.msi
- RMANAgent.msi
- SAPAgent.msi
- SetupCommon.msi
- SP2K7Agent.msi
- UniAgent.msi
- VMAgent.msi

CA ARCserve Backup のインストールに必要なディスク空き容量

CA ARCserve Backup for Windows は、Windows x64 および x86 のオペレーティング システムにインストールできます。必要とされるディスク空き容量は、バックアップ サーバにインストールされる Windows のバージョン、およびインストールする CA ARCserve Backup サーバの種類によって異なります。

以下の情報は、CA ARCserve Backup for Windows ベース製品、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows、および CA ARCserve Backup 診断ユーティリティをインストールするために必要なディスク空き容量を示しています。

Windows x64 システム

- プライマリ サーバおよびスタンドアロン サーバ -- 1 ~ 2.13GB
- メンバ サーバ -- .71GB (727MB) ~ 1.97 GB

Windows x86 システム

- プライマリ サーバおよびスタンドアロン サーバ -- .77GB (788MB) ~ 1.34 GB
- メンバ サーバ -- .67GB (690MB) ~ .91GB (932MB)

注: バックアップ サーバ上に Agent Deployment セットアップ ファイルをインストールする場合は、上記の容量に 1.4GB を追加する必要があります。

インストール方法

以下の方法で、CA ARCserve Backup をインストールできます。

- **インストール ウィザード**-- インストール ウィザードは、CA ARCserve Backup をローカル システムとリモート システムにインストールするための対話式アプリケーションです。

インストール ウィザードでは、次のインストール オプションを指定します。

インストール タイプまたはアップグレード タイプ

CA ARCserve Backup をローカル システム、リモート システム、クラスタ環境にインストールしたり、自動インストールの実行に使用するレスポンス ファイルを作成できます。

リモート インストールを実行する場合は、インストール ウィザードで CA ARCserve Backup を複数のリモート システムに同時にインストールできます。リモート インストールでは、ターゲットのリモート システムを異なる CA ARCserve Backup サーバ タイプ、異なる CA ARCserve Backup エージェントとオプション、またはその両方で構成することができます。

注：古いリリースから ARCserve プライマリ サーバにアップグレードしている場合は、[ローカル インストール/アップグレード]オプションを選択する必要があります。CA ARCserve Backup は、リモート システムでの古いリリースから ARCserve プライマリ サーバへのアップグレードはサポートしていません。

ARCserve サーバ タイプ

インストールする ARCserve サーバのタイプを指定できます。詳細については、[「CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ」](#) (64 ページ)を参照してください。

CA ARCserve Backup 製品

ターゲット システムにインストールする CA ARCserve Backup エージェント、オプション、および他のコンポーネントを指定できます。

ARCserve データベース

CA ARCserve Backup データベースに使用するアプリケーションを指定および設定できます。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition または Microsoft SQL Server をインストールできます。

Microsoft SQL Server 2008 Express は、CA ARCserve Backup に付属している無料のデータベース アプリケーションです。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、CA ARCserve Backup サーバにインストールする必要があります。詳細については、「[Microsoft SQL Server 2008 Express Edition に関する考慮事項](#) (69 ページ)」を参照してください。

Microsoft SQL Server は、拡張性の高いデータベース アプリケーションで、CA ARCserve Backup サーバまたはご使用の環境内の他のシステムにインストールできます。詳細については、「[Microsoft SQL Server データベースに関する考慮事項](#) (71 ページ)」を参照してください。

- **サイレント インストール**--サイレント インストールではユーザによる操作が必要なく、レスポンス ファイルを使用することで処理を簡略化します。

重要: CA ARCserve Backup は、レスポンス ファイルを使用した以前のリリースから ARCserve プライマリ サーバへのアップグレードはサポートしていません。

- **Unicenter Software Delivery**--Unicenter Software Delivery は、一元化された場所からソフトウェアの配布、インストール、検証、更新、およびアンインストールを実行できる柔軟なツールです。

サイレント インストールおよび Unicenter Software Delivery インストールの詳細については、「[サイレント インストール レスポンス ファイルの作成](#) (108 ページ)」と「[Unicenter Software Delivery を使用した CA ARCserve Backup のインストール](#) (131 ページ)」を参照してください。

CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ

CA ARCserve Backup は、次のインストールのタイプをサポートしています。

高速

バックアップ環境を保護するために必要な CA ARCserve Backup 製品およびコンポーネントをインストールすることによって、インストール プロセスを簡略化できます。高速インストールでは、一部のセットアップ ページがスキップされます。ARCserve データベースの設定を省略して、Microsoft SQL Express を ARCserve のデータベースとしてインストール (Microsoft のデフォルト設定) できます。高速インストールは、ローカルの新規インストールにのみ適用されます。ローカル マシンにすでに以前のリリースの CA ARCserve Backup 製品がインストールされている場合、[高速] オプションは利用できません。

注: 高速インストールは非クラスタ マシンのみをサポートします。

高速インストールでは、以下の製品とコンポーネントがデフォルトでインストールされますが、インストール ウィザードで不要なコンポーネントを選択解除できます。

製品/コンポーネント	デフォルトのインストール場所 (x86)	デフォルトのインストール場所 (x64)
スタンドアロン サーバ	c:\program files\CA\ARCserve Backup	c:\program files (x86)\CA\ARCserve Backup
マネージャ (コンソール)	c:\program files\CA\ARCserve Backup	c:\program files (x86)\CA\ARCserve Backup
Tape Library Option	c:\program files\CA\ARCserve Backup	c:\program files (x86)\CA\ARCserve Backup
Enterprise Module	c:\program files\CA\ARCserve Backup	c:\program files (x86)\CA\ARCserve Backup
Global Dashboard	c:\program files\CA\ARCserve Backup\GlobalDashboard	c:\program files (x86)\CA\ARCserve Backup\GlobalDashboard
Disaster Recovery Option	c:\program files\CA\ARCserve Backup	c:\program files (x86)\CA\ARCserve Backup
Client Agent for Windows	c:\program files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows	c:\program files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows
Agent for Open Files for Windows (BAOF サーバおよび BAOF コンソールを含む)	c:\program files\CA\ARCserve Backup Agent for Open Files	c:\program files (x86)\CA\ARCserve Backup Agent for Open Files
Agent Deployment セットアップ ファイル	c:\program files\CA\ARCserve Backup\Packages\AgentDeploy	c:\program files (x86)\CA\ARCserve Backup\Packages\AgentDeploy
セットアップ プログラム	c:\program files\CA\ARCserve Backup	c:\program files\CA\ARCserve Backup

製品/コンポーネント	デフォルトのインストール場所 (x86)	デフォルトのインストール場所 (x64)
によって環境で検出されるアプリケーションエージェント(たとえば、Agent for Microsoft Exchange Server や Agent for Microsoft SQL Server など)	Agent for Microsoft Exchange c:\program files\CA\ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server	Agent for Microsoft Exchange c:\program files\CA\ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server
診断ユーティリティ	c:\program files\CA\ARCserve Backup Diagnostic	c:\program files (x86)\CA\ARCserve Backup Diagnostic

カスタム

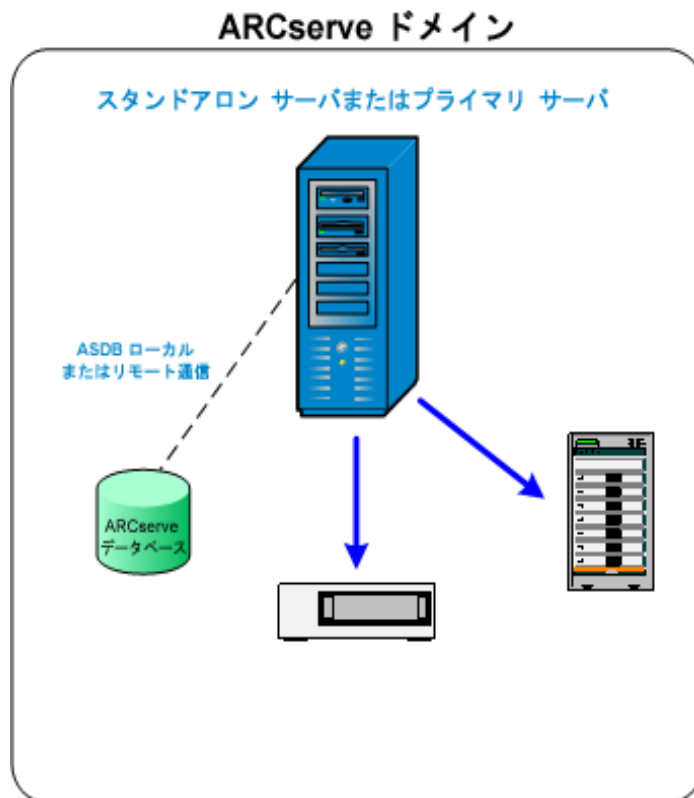
インストールする個々のコンポーネント、エージェント、およびオプションを指定できます。

ARCserve マネージャ コンソール

グラフィカル ユーザ インターフェース(GUI)で構成され、ご使用の環境の ARCserve スタンドアロン サーバ、プライマリ サーバ、およびメンバ サーバで実行する処理を管理できます。

ARCserve スタンドアロン サーバ

サーバに対してローカルで実行されるジョブの実行、管理、および監視を行うことが可能な単一サーバで構成されます。



ARCserve プライマリ サーバ

CA ARCserve Backup ドメイン内の単一のセントラル サーバで構成され、メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップ ジョブおよびリストア ジョブをサブミット、管理、およびモニタできます。

プライマリ サーバを使用すると、メンバ サーバに関連したデバイスおよびライセンスの管理、レポートの作成、Alert 通知、そしてドメイン内の全サーバのアクティビティ ログ データの表示ができます。

テープ ライブラリなどのストレージ デバイスを、プライマリ サーバに接続することができます。プライマリ サーバまたはリモート システム上に CA ARCserve Backup データベースを展開できます。

一元管理機能を有効するには、**Central Management Option** をインストールしてライセンスを登録する必要があります。

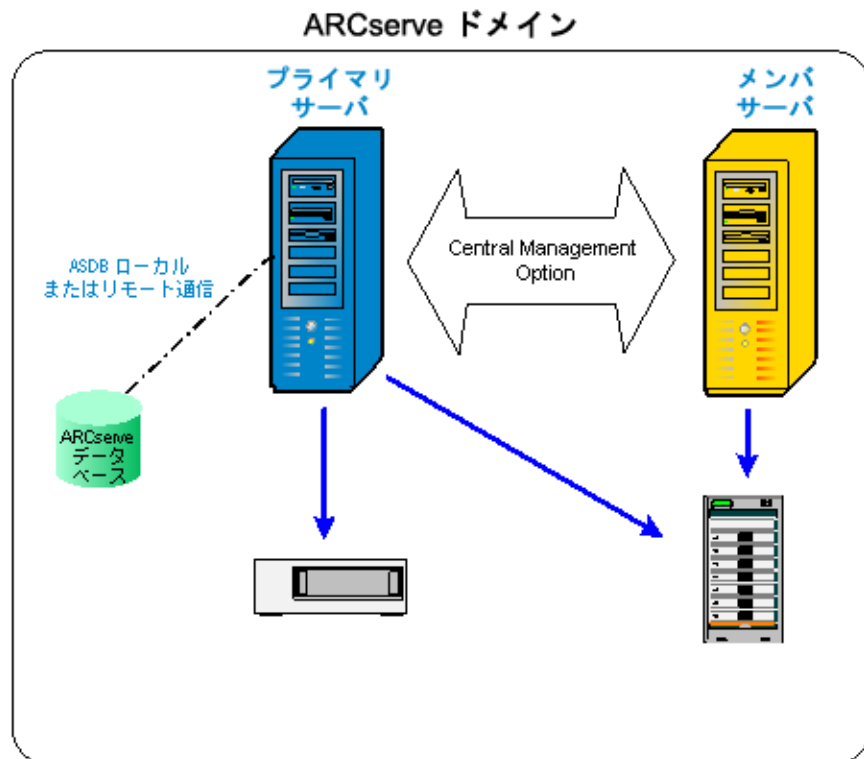
注： プライマリ サーバを使用した日常業務の管理の詳細については、「一元管理」を参照してください。

ARCserve メンバ サーバ

CA ARCserve Backup ドメイン内のサーバで構成され、プライマリ サーバからジョブおよびデバイスに関する指示を受け取ります。メンバ サーバは、進行中のジョブ、ジョブ履歴、およびアクティビティ ログ データに関する情報をプライマリ サーバへ送信し、その情報は CA ARCserve Backup データベースに保存されます。

テープ ライブラリなどのストレージ デバイスを、メンバ サーバに接続することができます。

一元管理機能を有効にするには、サーバをメンバ サーバに指定して、プライマリ サーバが管理するドメインに追加する必要があります。



注：メンバ サーバを使用した日常活動の管理の詳細については、「一元管理」を参照してください。

その他

このオプションにより、CA ARCserve Backup サーバ、エージェント、およびオプションのインストールをカスタマイズできます。

CA ARCserve Backup サーバのオプション

以下の表はインストール可能な CA ARCserve Backup オプションを CA ARCserve Backup サーバの種類ごとに示したものです。

オプション	スタンドアロン サーバ	プライマリ サーバ	メンバ サーバ
Central Management Option		使用可能	
Tape Library Option	使用可能	使用可能	
Storage Area Network (SAN) Option		使用可能	
Enterprise Module	使用可能	使用可能	使用可能
Disaster Recovery Option	使用可能	使用可能	使用可能
Global Dashboard	使用可能	使用可能	使用可能
NDMP NAS Option	使用可能	使用可能	

注：CA ARCserve Backup のインストール後に CA ARCserve Backup サーバベースのオプションをインストールまたはアンインストールするには、サーバ管理マネージャを使用してタスクを完了します。詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

caroot ユーザ アカウント

CA ARCserve Backup では、管理目的で独自の認証方式を使用しています。CA ARCserve Backup をインストールする際、「caroot」というデフォルトのユーザ名が作成されます。ユーザは、caroot を使用して CA ARCserve Backup マネージャ コンソールにログインできます。

デフォルトの caroot ユーザ アカウントには、CA ARCserve Backup のすべての機能に対する root 権限が割り当てられています。caroot ユーザ プロファイルのパスワードはソフトウェアの設定時に設定できますが、ソフトウェアの設定後にユーザ プロファイル マネージャを使用して設定することもできます。また、ユーザ プロファイル マネージャを使用して追加のユーザ プロファイルを作成することもできます。

caroot パスワードは、任意の英数字と特殊文字を組み合わせで指定できますが、15 バイトを超えないようにしてください。合計 15 バイトのパスワードは、およそ 7 ～ 15 文字に相当します。

注：CA ARCserve Backup のユーザ名は、CA ARCserve Backup の機能へのアクセスのみを制御します。このユーザ名をオペレーティング システムのログイン名およびパスワードと混同しないようにしてください。

データベース要件

ストレージ環境を管理するために、CA ARCserve Backup では以下のいずれかのデータベース アプリケーションが必要になります。

- [Microsoft SQL Server 2008 Express Edition](#) (69 ページ)
- [Microsoft SQL Server](#) (71 ページ)

このリリースの CA ARCserve Backup にアップグレードしている場合は、データを古い ARCserve データベースから Microsoft SQL Server Express Edition または Microsoft SQL Server にマイグレートできます。

注: アップグレードが可能な ARCserve 製品の一覧については、[「サポート対象のアップグレード」](#) (79 ページ) を参照してください。

Microsoft SQL Server 2008 Express Edition に関する考慮事項

Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、Microsoft SQL Server の簡易バージョン(無料)であり、CA ARCserve Backup に付属しています。CA ARCserve Backup データベースで Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用することを検討している場合は、以下の情報を確認してください。

- ARCserve システム アカウントが Microsoft SQL Server 2008 Express Edition データベースに対する管理者権限を持つことを確認してください。
- Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート操作をサポートしていません。ARCserve データベースを、CA ARCserve Backup サーバにローカル インストールする必要があります。
- Microsoft は、ドメイン コントローラとして機能している Windows Server 2003 および Windows Server 2008 のシステム上で、ローカル システム アカウント、ローカル サービス アカウント、またはネットワーク サービス アカウントを使用して Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を実行することを推奨していません。ドメイン コントローラとして機能しているシステムに CA ARCserve Backup をインストールすると、CA ARCserve Backup データベース(ARCSERVE_DB)はローカル システム アカウント、その他のすべてのサービスはネットワーク サービス アカウントを使用して通信を行うように設定されます。ドメイン コントローラとして機能する Windows Server 2003 および Windows Server 2008 システムで CA ARCserve Backup データベースが通信できるようにするために、CA ARCserve Backup をインストールした後で、Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のアカウントを Windows ドメイン ユーザのアカウントに変更する必要があります。

注: Windows ドメインユーザ アカウントに Microsoft SQL Server 2008 Express Edition アカウントを変更する方法の詳細については、Microsoft SQL Server ドキュメントを参照してください。

- Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、IA-64 (Intel Itanium) オペレーティング システムではサポートされていません。
- Microsoft SQL Server 2008 Express Edition が正常に機能するためには、.NET Framework 3.5 SP1 がシステムにインストールされている必要があります。
Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 は CA ARCserve Backup に付属しており、CA ARCserve Backup インストール メディアに格納されています。
- Microsoft SQL Server 2008 Express Edition が CA ARCserve Backup 環境のニーズを満たしていないと考えられる場合は、[サーバ環境設定ウィザード]を使用して CA ARCserve Backup データベースを Microsoft SQL Server に変換してから、既存のデータを変換が完了した後の新しいデータベースにマイグレートできます。CA ARCserve Backup をインストールまたはアップグレードした後で、データベースをいつでも変換できます。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition から Microsoft SQL Server へのアップグレードの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

- CA ARCserve Backup は、Microsoft SQL Server データベースから Microsoft SQL Server 2008 Express データベースへのデータのマイグレートをサポートしていません。そのため、現在 Microsoft SQL Server を実行している環境では、CA ARCserve Backup データベース用に Microsoft SQL Server を使用する必要があります。
- Global Dashboard については、CA ARCserve Backup データベースを、Microsoft SQL Server Express がインストールしてあるセントラル プライマリ サーバ用に 設定することはできません Microsoft SQL Server 2005 以降がセントラル プライマリ サーバにインストールされる必要があります。
- 環境内で実行されている Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のバージョンに適用される最新のアップデート、セキュリティ パッチ、サービス パックをダウンロードおよびインストールできます。CA テクニカル サポートの Web サイト上の互換性マトリクスは、現在の実装に適用可能なアップデートを確認するのに役立ちます。

重要: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のサービス パックを CA ARCserve Backup の実装に適用する場合は常に、CA テクニカル サポートの Web サイト上の互換性マトリクスを確認する必要があります。互換性のあるサービス パックを確認した後、Microsoft の推奨に基づいてアップデートおよびセキュリティ パッチを適用するようにしてください。

- 以下のようなアップグレード シナリオを考慮してください。
 - Microsoft SQL Server 2005 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup データベースをホストしているとして、CA ARCserve Backup データベース インスタンスの名前は ARCSERVE_DB (デフォルト)です。このシナリオには、前のリリースの CA ARCserve Backup はターゲット システムにインストールされていないけれども、Microsoft SQL Server 2005 Express Edition がターゲット システムにインストールされており、他のアプリケーション向けに ARCSERVE_DB という名のインスタンスが使用されているような状況も含まれます。
 - Microsoft SQL Server 2005 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup データベースをホストしているとして、CA ARCserve Backup データベース インスタンスの名前は ARCSERVE_DB ではありません。

このリリースにアップグレードする際、セットアップがデフォルトの CA ARCserve Backup データベース インスタンスを検索します。セットアップが ARCSERVE_DB という名のインスタンスを検出した場合、セットアップはインスタンスを Microsoft SQL Server 2008 Express Edition にアップグレードし、CA ARCserve Backup は前のリリースからのインスタンスとデータの使用を続行します。ただし、セットアップが ARCSERVE_DB という名のインスタンスを検出できない場合、セットアップは ARCSERVE_DB と呼ばれる新しいインスタンスを作成します。セットアップが新しいデータベース インスタンスを作成すると、前の CA ARCserve Backup リリースからの情報は新しいインスタンスでは保持されません。

Microsoft SQL Server データベースに関する考慮事項

CA ARCserve Backup データベースに Microsoft SQL Server を使用することを検討している場合は、以下の情報を確認してください。

- 本リリースへのアップグレードを予定していて、現在 CA ARCserve Backup データベースとして Microsoft SQL Server を実行している場合は、引き続き Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースとして使用する必要があります。
- CA ARCserve Backup では、Microsoft SQL 7.0 を CA ARCserve Backup データベースとしてサポートしていません。
- デフォルトでは、CA ARCserve Backup は単純復旧モデルを使用して CA ARCserve Backup データベース (ASDB)を作成します。このモデルを、正しい操作のために維持する必要があります。
- Microsoft SQL Server は、ローカルおよびリモートの通信をサポートします。この機能により、CA ARCserve Backup データベースを CA ARCserve Backup サーバにローカルまたはリモートで実行するように設定できます。

注：詳細については、「リモート データベースの考慮事項」を参照してください。

- デフォルトでは、CA ARCserve Backup はバックアップ ファイルとディレクトリに関する情報をカタログ データベースに保存します。そのため、カタログ データベースは CA ARCserve Backup データベースよりも速いペースでサイズが大きくなります。この動作と組織のニーズを考慮しながら、カタログ データベースの拡張に備えて十分な空きディスク領域を確保するように計画してください。

- Global Dashboard については、セントラル プライマリ サーバ CA ARCserve Backup データベース(ASDB)に Microsoft SQL Server 2005 以降がインストールされている必要があります(Microsoft SQL Server 2008 Express Edition および Microsoft SQL Server 2000 はデータベースとしてサポートしていません)。

注: ブランチ プライマリ サーバについては、CA ARCserve Backup プライマリ サーバ用の最小要件以外に必要とされる追加のハードウェアやソフトウェアはありません。

- Microsoft SQL Server をサポートする CA ARCserve Backup を正常にインストールするには、デバイスを作成する権限を持つ sa アカウントのような管理アカウントが必要になります。

Microsoft SQL Server をサポートする CA ARCserve Backup をインストールする際に、CA ARCserve Backup データベース(SQL)システム アカウントの入力が求められた場合は、sa アカウントを使用する必要があります。

- SQL Enterprise Manager で、データベースのセキュリティ モードを SQL セキュリティに設定します。これは SQL セキュリティを認証モードとして使用し、バックアップするシステムが Windows ドメインの内側または外側に存在する場合に適用されます。
- セットアップ中に Microsoft SQL Server 2000、Microsoft SQL Server 2005、または Microsoft SQL Server 2008 を CA ARCserve Backup データベースとして指定すると、Windows 認証または SQL Server 認証を使用して Microsoft SQL データベースと通信することができます。
- Microsoft SQL Server のアカウントが変更された場合は、サーバ環境設定ウィザードを使用して対応する変更を行う必要があります。
- CA ARCserve Backup データベース エンジンには、Microsoft SQL Server データベースのステータスを定期的にポーリングします。Microsoft SQL Server が正常に応答しない場合、データベース エンジンはその Microsoft SQL Server が使用不能でありシャットダウンされていると判断します(データベース エンジンのアイコンが赤色で表示されます)。この問題を回避するには、以下のレジストリ キーの値をより大きな値に変更して、CA ARCserve Backup データベース エンジンの待機時間を延長します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve  
Backup\Base\Database\MSSQL\SQLLoginTimeout
```


- CA ARCserve Backup は、NEC CLUSTERPRO 環境においては、Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup サーバにローカル インストールすることはできません。NEC CLUSTERPRO 環境では、CA ARCserve Backup データベース インスタンスをリモート システムにインストールする必要があります。
- ODBC ドライバを設定できる場合、[ODBC データ ソース アドミニストレータ]ダイアログ ボックスの[システム DSN]タブにあるシステム データ ソース「ASNT」で、クライアント設定により TCP/IP 通信を使用できるようにする必要があります。

リモート データベースの考慮事項

リモート データベースを使用すると、ローカル マシン上のデータベースと同じような感覚で、単一のデータベースをシンプルかつ透過的な方法で共有することができます。この設定を使用した場合、情報はすべてリモート データベースに保存されるので、ローカル マシンにはデータベースが必要ありません。この設定は、以下のような状況に最適です。

- データベースに使用できる十分な空きディスク領域が、ローカルにない場合。
- 組織としての要件がなく、データベースを 1 箇所に集約して管理を容易にする場合。
- CA ARCserve Backup サーバではないマシンを、Microsoft SQL Server 専用マシンとして使用する場合。
- クラスタ対応環境で SQL Server インスタンスを保護するためには、すべてのクラスタ ノードに Agent for Microsoft SQL Server を手動でインストールする必要があります。

注：Microsoft SQL Server データベースのバックアップとリストアの詳細については、「Agent for Microsoft SQL Server ユーザ ガイド」を参照してください。

- サーバ環境設定ウィザードを使用して、リモート ARCserve データベースと ARCserve プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバの間の ODBC 通信を設定します。このウィザードを使用すると、特に、使用中の環境に複数の CA ARCserve Backup サーバがある場合、サーバ間で効率の良い通信を設定できます。
- ARCserve データベース インスタンスをホストしているシステムと CA ARCserve Backup が通信できるようにするには、SQL Server データベース インスタンスと ARCserve サーバ間の TCP/IP 通信を有効にする必要があります。

注：詳細については、「[Microsoft SQL Server データベースで TCP/IP 通信を有効にする方法](#) (74 ページ)」を参照してください。

重要：Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート データベース通信をサポートしていません。

注：デバイスの設定およびデータベース保護ジョブの変更の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

Microsoft SQL Server データベースで TCP/IP 通信を有効にする方法

Microsoft SQL Server 2000、Microsoft SQL Server 2005、または Microsoft SQL Server 2008 を使用して ARCserve データベース インスタンスをホストしていて、CA ARCserve Backup データベースがリモート システムにある場合、インストール ウィザードがリモート システム上のデータベースと通信できない場合があります。

インストール ウィザードがリモート ホストと通信できるようにするには、CA ARCserve Backup をインストールする前に、CA ARCserve Backup サーバと CA ARCserve Backup データベースをホストするサーバの間の TCP/IP 通信を有効にする必要があります。

- **Microsoft SQL Server 2000** -- Microsoft SQL Server 2000 システム上の TCP/IP 通信を有効にするには、SQL Server Network ユーティリティを実行し、TCP/IP が[プロトコルの有効化]に表示されるようにします。TCP/IP が[プロトコルの有効化]リストに表示されない場合は、TCP/IP をリストに追加し、[OK]をクリックします。TCP/IP 通信を適用するには、すべての Microsoft SQL Server のサービスを再起動します。
- **Microsoft SQL Server 2005 および Microsoft SQL Server 2008** -- Microsoft SQL Server 2005 および Microsoft SQL Server 2008 システムの TCP/IP 通信を有効にするには、SQL Server Configuration Manager を実行して SQL Server インスタンスの TCP/IP 通信を有効にします。TCP/IP 通信を適用するには、すべての Microsoft SQL Server のサービスを再起動します。

注: Microsoft SQL Server 2008 では、SQL Server Native Client 10.0 ドライバを使用する必要があります。

Agent for ARCserve Database

CA ARCserve Backup Agent for ARCserve Database は、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server の一種です。このエージェントは、CA ARCserve Backup をインストールするときに自動的にインストールされるか、または CA ARCserve Backup データベースの場所が変更された後、またはクラスタの複数のノードにインストールする場合には、特別なユーティリティを使用して手動でインストールされます。

SQLAgentRmtInst.exe という名前のこのユーティリティは、CA ARCserve Backup のインストール時に、CA ARCserve Backup ホーム ディレクトリの Packages サブフォルダ内にある「ASDBSQLAgent」というフォルダに格納されます。CA ARCserve Backup サーバでないコンピュータにこのエージェントをインストールする場合は、エージェントをインストールするシステムに ASDBSQLAgent フォルダをコピーして、そのマシンでこのユーティリティを実行します。

Agent for ARCserve Database では、CA ARCserve Backup データベース自体をバックアップし、リストアできます。また、CA ARCserve Backup データベースを含む Microsoft SQL Server インスタンスから、システム データベースや惨事復旧エレメントをバックアップし、リストアできます。Agent for Microsoft SQL Server と共に Agent for ARCserve Database をインストールすると、Agent for Microsoft SQL Server で CA ARCserve Backup データベースの存在を認識できるようになります。さらに、CA ARCserve Backup と連携して、CA ARCserve Backup データベースに適用できる特別な復旧方式が提供されます。

CA ARCserve Backup を前のリリースからアップグレードする場合、Agent for ARCserve Database をアップグレードする必要があります。これは、CA ARCserve Backup データベースの現在のバージョンが、エージェントの現在のバージョンによって保護されることを保証するためです。そのため、以下に示されるようなコンポーネント ダイアログボックスでは、製品選択ツリーで Agent for Microsoft SQL Server の横のチェックボックスをオフにすることはできません。



Agent for ARCserve Database は Agent for Microsoft SQL Server の一種なので、システムにインストールされているプログラムのリストでは、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server として表示されます。Agent for ARCserve Database と Agent for Microsoft SQL Server の両方が存在する場合、1 つのエントリのみが表示されます。いずれか 1 つをアンインストールする必要がある場合は、どちらを削除するか選択するメッセージが表示されます。

以下のいずれかの状況では、Agent for ARCserve Database をインストールするスタンドアロンのユーティリティを使用できます。

- CA ARCserve Backup データベースを移動した場合
- 誤ってエージェントを削除してしまったために、再インストールする場合
- クラスタの追加ノードにエージェントをインストールする場合
- CA ARCserve Backup インストーラで直接リモート コンピュータにエージェントをインストールできない場合

インストールの進行状況ログ

CA ARCserve Backup および必要なエージェントとオプションをすべてインストールした後で、CA ARCserve Backup はインストールの進行状況ログを作成します。インタラクティブ、サイレント、自動インストールに失敗した場合は、このログを参考にできます。インストールの進行状況ログは、インストール時に問題が発生した場合に、弊社カスタマサポートまで連絡いただく際に役立ちます。

- **インタラクティブ インストール** -- CA ARCserve Backup のベース製品、エージェント、またはオプションのインストールに失敗した場合は、[インストール サマリ]ダイアログ ボックスからインストールの進行状況ログにアクセスします。インストールの進行状況ログを表示するには、[インストール サマリ]ダイアログ ボックスのアプリケーションの横のエラー アイコンをダブルクリックします。
- **サイレントおよび自動インストール** -- インストールの進行状況ログには、以下のディレクトリからアクセスできます。

<system drive>:\%WINDOWS%\Temp\CA_*.tmp

それぞれのインストール セッションに対して、CA ARCserve Backup が固有の CA_*.tmp ディレクトリ(*はランダムな番号)を作成します。このディレクトリ内に、MACHINENAME という名前のディレクトリと ProdWiz.log という名前のテキストファイルが表示されます。MACHINENAME は、CA ARCserve Backup をインストールしたコンピュータのマシン名です。

- ProdWiz.log - マスタ セットアップ ログ。
- MACHINENAME ディレクトリ - CA ARCserve Backup 、エージェント、オプションのインストール時に作成されたログ ファイルを含むディレクトリです。

たとえば、ARCSERVE.log は CA ARCserve Backup のベース製品のインストール時に作成されたログ ファイルです。Tape Library Option をインストールした場合は、<マシン名> ディレクトリ内の OPTTLO.LOG という名前のインストールの進行状況ログにアクセスできます。

Global Dashboard に関する考慮事項

CA ARCserve Backup ベース製品には、Global Dashboard 操作のサポートが含まれます。

Global Dashboard の環境設定は、CA ARCserve Backup のインストール中またはインストール後に実行できます。ただし、Global Dashboard を設定する前に、以下を考慮してください。

- Global Dashboard 環境内のどのサーバをセントラル プライマリ サーバとして設定するか。

セントラル プライマリ サーバは、1 つの Global Dashboard 環境内に 1 台のみ設定できます。

- セントラル プライマリ サーバを選択する際に考慮すべき主な点は、データベースのサイズです。選択したセントラル プライマリ サーバに、登録されているすべてのブランチ プライマリ サーバから受け取る Dashboard データを保存できる十分な容量があることを確認してください。
- セントラル プライマリ サーバを選択する際には、サーバのパフォーマンスも考慮する必要があります。セントラル プライマリ サーバと、関連付けられているすべてのブランチ プライマリ サーバとの間のデータ インターフェースが、速度、効率、信頼性において十分であることを確認してください。
- セントラル プライマリ サーバを選択する際は、データベースのタイプも考慮する必要があります。

Global Dashboard では、セントラル プライマリ サーバは Microsoft SQL Server 2005/2008 のみをサポートしています。Microsoft SQL Server 2005/2008 Express および Microsoft SQL Server 2000 はサポートしていません。

- Global Dashboard 環境内のどのサーバをブランチ プライマリ サーバとして設定するか。

ブランチ プライマリ サーバは、各サーバロケーションにおいて、CA ARCserve Backup ドメイン内の(ドメイン メンバ サーバではなく)プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバである必要があります。

- 環境設定の処理中、CA ARCserve Backup データベース エンジン は数分間 シャットダウンします。CA ARCserve Backup ジョブがスケジュールされておらず、ほかとの競合のない都合の良い時間にインストールを計画してください。
- Global Dashboard ドメインで、ブランチ プライマリ サーバをメンバ サーバに降格するか、または、セントラル プライマリ サーバとして設定するプライマリ サーバを変更する場合に、古いプライマリ サーバの情報を収集し、継続的に使用したい場合があります。Global Dashboard を使用すると、古いプライマリ サーバからこの情報をエクスポート(および保存)して、新しいプライマリ サーバにインポートできます。

ライセンスの要件

- Global Dashboard 機能を有効にするには、登録済みのブランチ プライマリ サーバをすべてカバーする複数ライセンスと共に、セントラル プライマリ サーバで有効な CA ARCserve Backup Global Dashboard ライセンスを持っている必要があります。(ブランチ プライマリ サーバでは Global Dashboard ライセンスをインストールする必要はありません)。
- 登録済みの各ブランチ プライマリ サーバは、Global Dashboard ライセンスを 1 カウントずつ占有します。登録済みのブランチ数がライセンスの最大限度を超えた場合、そのセントラル プライマリ サーバにはブランチ サイトを新規登録できません。
- 以下の各シナリオに対して、ライセンス ステータスの確認が実施されます。
 - ブランチ サイトを登録する場合
 - ブランチ サイトを再登録する場合
 - フル データ同期を実行する場合
 - 増分同期を実行する場合
- ライセンス ステータスの確認が失敗した場合、追加のライセンスを取得するか、再度既存のライセンスを割り当ててセントラル プライマリ サーバへのデータ同期を有効にする必要があります。(各ブランチ サイトのライセンス ステータスはセントラル マネージャ ダイアログ ボックス上に表示されます)。
- 注: セントラル マネージャからブランチ サーバを削除すると、そのブランチが占有していたライセンス カウントがリリースされ、別のブランチ サーバへのそのライセンス カウントを再度割り当てることができます。

アップグレードに関する考慮事項

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup のアップグレード前の確認事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[サポート対象のアップグレード \(79 ページ\)](#)

[後方互換性 \(80 ページ\)](#)

[以前のリリースに対するマネージャ コンソール サポート \(81 ページ\)](#)

[Global Dashboard のアップグレード \(82 ページ\)](#)

[古いリリースからのデータ 마이그레이션 \(82 ページ\)](#)

サポート対象のアップグレード

以下のいずれかのバージョンの CA ARCserve Backup または BrightStor ARCserve Backup を現在使用している場合は、以下の製品からこのリリースにアップグレードできます。

- CA ARCserve Backup r12.5 for Windows-- General Availability (GA) リリースと最新のサービス パックがすべて含まれます。
- CA ARCserve Backup r12 for Windows-- GA リリースと最新サービス パックがすべて含まれます。
- BrightStor ARCserve Backup r11.5 for Windows-- GA リリースと最新サービス パックがすべて含まれます。
- BrightStor ARCserve Backup r11.1 for Windows-- GA リリースと最新サービス パックがすべて含まれます。

注：CA ARCserve Backup は、クラスタ対応環境での BrightStor ARCserve Backup r11.1 for Windows の本リリースへのアップグレードはサポートしていません。このリリースにアップグレードするには、BrightStor ARCserve Backup r11.1 for Windows をアンインストールした後、このリリースをクラスタ対応環境にインストールする必要があります。

重要： BrightStor ARCserve Backup v9 および BrightStor Enterprise Backup v10.5 からアップグレードする場合、前のリリースをアンインストールしてから CA ARCserve Backup のこのリリースをインストールする必要があります。ただし、以前のリリースのデータベース情報を保持する場合は、最初に BrightStor ARCserve Backup v9 または BrightStor Enterprise Backup v10.5 を CA ARCserve Backup r12.5 GA ビルド (SP なし) にアップグレードし、次に、CA ARCserve Backup r12.5 から本リリースにアップグレードする必要があります。CA ARCserve Backup r12.5 のインストール メディアの入手方法については、CA サポートまでお問い合わせください。BrightStor ARCserve Backup または BrightStor Enterprise Backup の r9 以前のすべてのリリースについては、アンインストール後に本リリースをインストールする必要があります。

後方互換性

このリリースの CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントでは、以下の後方互換性がサポートされます。

- **エージェント** -- CA ARCserve Backup r15 サーバ コンポーネントを使用して、以下のリリースのエージェントを管理できます。
 - CA ARCserve Backup r12.5 -- General Availability (GA) リリースと最新サービス パックが含まれます。
 - CA ARCserve Backup r12 -- General Availability (GA) リリースと最新サービス パックが含まれます。
 - BrightStor ARCserve Backup r11.5 -- GA リリースと最新のサービス パックが含まれます。

以下の点に注意してください。

- エージェント コンポーネントをバックアップする場合は、CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントのバージョンが、バックアップするエージェントのリリース以降である必要があります。このリリースの CA ARCserve Backup のエージェントは、以前のリリースの CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントでは使用できません。
- パフォーマンスを最適化するには、お使いのバックアップ環境にインストールされているすべての CA ARCserve Backup エージェントおよびオプションを本リリースにアップグレードする必要があります。
- 1 つのコンピュータにインストールされたすべての CA ARCserve Backup 製品は同じリリースである必要があります。

例：CA ARCserve Backup サーバ コンポーネント、Agent for Microsoft SQL Server および Agent for Virtual Machines が 1 つのコンピュータにインストールされています。CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントをこのリリースにアップグレードする場合は、Agent for Microsoft SQL Server および Agent for Virtual Machines も同じリリースにアップグレードする必要があります。

- **マネージャ コンソール** -- 以下のリリースを実行している CA ARCserve Backup サーバを表示および管理するには、旧バージョンのマネージャ インターフェースを残しておく必要があります。
 - CA ARCserve Backup r12.5
 - CA ARCserve Backup r12
 - BrightStor ARCserve Backup r11.5
 - BrightStor ARCserve Backup r11.1

注：詳細については、[「以前のリリースに対するマネージャ コンソール サポート」](#) (81 ページ)を参照してください。

- **CA ARCserve Backup ドメイン** -- ドメイン内のすべての CA ARCserve Backup サーバは、同一バージョンの CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントを実行する必要があります。バージョンの異なる CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントを持つ CA ARCserve Backup サーバは、同じ CA ARCserve Backup ドメインに存在することはできません。
- **ジョブ スクリプト** -- BrightStor ARCserve Backup および BrightStor Enterprise Backup の以前のバージョンで作成したバックアップ テープのデータをリストアし、ジョブ スクリプトをロードすることもできます。

以前のリリースに対するマネージャ コンソール サポート

ご使用の環境で CA ARCserve Backup の以前のリリースを実行しているその他の CA ARCserve Backup サーバ (BrightStor ARCserve Backup r11.5 および BrightStor ARCserve Backup r11.1 など) を管理するには、現在のマネージャ コンソールを残しておく必要があります。

以前のリリースからアップグレードすると、インストール ウィザードに次のマネージャ コンソールのインストール オプションが表示されます。

注: [マネージャ コンソール オプション] ダイアログ ボックスは、CA ARCserve Backup r12、CA ARCserve Backup r12 SP1、CA ARCserve Backup r12.5 からこのリリースにアップグレードする場合は表示されません。

- **現在のマネージャ コンソールを削除** -- ご使用の環境にあるすべての CA ARCserve Backup サーバをこのリリースにアップグレードする必要があります。
このオプションを選択すると、セットアップでマネージャ コンソールが以下のディレクトリにインストールされます。

<ARCserve_HOME>%CA%\ARCserve Backup\ARCserveMgr.exe
- **現在のマネージャ コンソールを保持** -- 現在のマネージャ コンソールを保持することができるため、以前のリリースを実行している CA ARCserve Backup サーバを管理することができます。例:

- BrightStor ARCserve Backup r11.5
- BrightStor ARCserve Backup r11.1

両方のバージョンのマネージャ コンソールをサポートするファイルに対応するため、セットアップでは新しい CA ARCserve Backup インストール ディレクトリ用に別のパスを指定するように求められます。また、以下のディレクトリはシステムからアンインストールされません。

<ARCserve_HOME>%CA%\ARCserve Backup\ARCserveMgr.exe

重要: CA ARCserve Backup では、レスポンス ファイルを使用したリモート アップグレードおよびサイレント アップグレードを実行しているときは、旧リリースのマネージャ コンソールを維持することはできません。

Global Dashboard のアップグレード

Global Dashboard を以前のリリースからアップグレードする場合、1 つのセントラル プライマリ サーバと少なくとも 1 つの登録済みブランチ プライマリ サーバがある構成では、ブランチ プライマリ サーバをアップグレードする前に、セントラル プライマリ サーバをアップグレードするのが最も良い方法です。

古いリリースからのデータ マイグレーション

CA ARCserve Backup を旧リリースからアップグレードするときに、現在の設定の大部分を維持したまま、旧 CA ARCserve Backup データベースに保存されている情報を新しい CA ARCserve Backup データベースにマイグレートすることができます。

アップグレードが完了すると、CA ARCserve Backup は以下の種類のデータを新しい CA ARCserve Backup データベースにマイグレートします。

認証

アップグレード処理によって、ユーザ名やパスワードなど、すべての CA ARCserve Backup システム アカウント データが古いデータベースからマイグレートされます。

注：メンバ サーバのアップグレードの場合、メンバ サーバが属するドメインにすでにユーザ アカウントやパスワードが存在する場合、CA ARCserve Backup はこれらをマイグレートしません。

ジョブ

アップグレード処理により、ローテーション ジョブ、GFS ローテーション、カスタム ジョブなどのすべてのジョブ スクリプトが、古いデータベースから新しいデータベースへマイグレートされます。

注：アップグレード処理は、古いインストールからデータベース廃棄ジョブ設定をマイグレートしません。データベース廃棄ジョブ設定を指定する場合の詳細は、「管理者ガイド」を参照してください。

コア データベース データ

アップグレード処理により、すべてのコア データが古いデータベースから新しいデータベースにマイグレートされます。コア データは、ジョブ、メディア、セッション、デバイス、メディア プール、ファイル パス名、ファイル名などに関する情報で構成されます。

ログ データ

アップグレード処理により、古いデータベースのアクティビティ ログ データが新しいデータベースにマイグレートされます。

セッション データ

アップグレード処理により、セッション データが、古いデータベースから新しいデータベースにマイグレートされます。

注：セッション データのマイグレート処理には時間がかかる場合があります。ただし、ファイル レベルおよびセッション レベルのリストアを、アップグレードおよびマイグレーション処理が完了した後にすぐ行うことができます。

カタログ データ

アップグレード処理により、カタログ データベース データが、古いデータベースから新しいデータベースにマイグレートされます。

注：カタログ データのマイグレート処理には時間がかかる場合があります。進捗状況ダイアログ ボックスは表示されません。

製品ライセンスの要件

CA ARCserve Backup のコンポーネント、オプション、およびエージェントに対して、認可された継続的なアクセスを行うためには、製品ライセンスを登録する必要があります。ライセンスを登録しない場合、CA ARCserve Backup は使用開始から 31 日間経過後に動作しなくなります。

ライセンス情報の入力方法は、CA ARCserve Backup の購入形態に応じて異なります。該当する入力方法は、ライセンス情報の記載箇所で確認できます。ライセンス情報は、以下のいずれかの箇所に記載されています。

- 製品インストール メディア ケースの内側
- CA ライセンス プログラムから提供されたライセンス証明書
- ALP キー証明書

ライセンス情報の入力方法は、製品ライセンス情報の記載箇所に応じて異なります。ライセンス情報が製品 DVD ケース、または CA ライセンス プログラムから提供された証明書に記載されている場合は、同じ入力方法を使用します。ライセンス情報が ALP キー証明書に記載されている場合は、別の方法を使用します。以下のセクションで、それぞれの方法について説明します。

ALP キー証明書

ALP キー証明書を受け取った場合、ライセンス情報は弊社のソフトウェアが稼動している各マシンの **ca.olf** ファイルに含まれる証明書の実行キーです。処理が簡略化されるように、最新の **ca.olf** ファイルは弊社の Web サイトにアクセスしてライセンス ファイルをダウンロードすることで取得できます。ダウンロードしない場合は、**ca.olf** ファイルを手動で編集する必要があります。詳細については、ALP キー証明書を参照してください。

CA ARCserve Backup のクライアント エージェントを使用するには、リモート サーバの保護に使用するバックアップ サーバ上の **ca.olf** ファイルに、エージェントのライセンスを入力する必要があります。バックアップ サーバによって、クライアント エージェントのライセンス情報がチェックされます。

CA ARCserve Backup ファイル システム エージェントのリリース レベル

ファイル システム エージェントは、さまざまなオペレーティング システムを実行するコンピュータに常駐するファイルを保護できるようにします。

以下の表は、このリリースの CA ARCserve Backup にパッケージされているファイル システム エージェントと各エージェントのリリース レベルを示します。

ファイル システム エージェント	リリース レベル
CA ARCserve Backup Client Agent for UNIX	r15
CA ARCserve Backup Client Agent for Linux	r15
CA ARCserve Backup Client Agent for Mainframe Linux OS/390	r15
CA ARCserve Backup Client Agent for Windows	r15
CA ARCserve Backup Client Agent for NetWare	r11.1 SP3
CA ARCserve Backup Client Agent for Mac OS X (Windows でのみサポート)	r15
CA ARCserve Backup Client Agent for OpenVMS (Windows でのみサポート)	r11.5 SP3
CA ARCserve Backup Agent for Oracle (UNIX)	r15
CA ARCserve Backup Agent for Oracle (Linux)	r15
CA ARCserve Backup Enterprise Option for AS400	r11.5 SP3

第 4 章: CA ARCserve Backup のインストールおよびアップグレード

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[前提条件作業の実施方法](#) (85 ページ)

[CA ARCserve Backup のインストール](#) (91 ページ)

[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード](#) (100 ページ)

[サイレント インストール レスポンス ファイルの作成](#) (108 ページ)

[CA ARCserve Backup Agent Deployment](#) (115 ページ)

[現在のリリースへの CA ARCserve Backup エージェントのサイレント アップグレード](#) (128 ページ)

[Unicenter Software Delivery を使用して CA ARCserve Backup をインストールする方法](#) (131 ページ)

[インストール後の作業](#) (137 ページ)

前提条件作業の実施方法

CA ARCserve Backup をインストールまたはアップグレードする前に、以下の作業を完了する必要があります。

インストールおよびシステム要件

CA ARCserve Backup Readme ファイルを確認します。Readme ファイルには、オペレーティング システムの要件、ハードウェア/ソフトウェアの前提条件、最新の変更事項、および CA ARCserve Backup に関する既知の問題が記載されています。Readme ファイルは、HTML 形式で提供されており、インストール メディアのルート ディレクトリに格納されています。

インストール サーバ

CA ARCserve Backup をインストールしているサーバの一覧を作成して、以下について確認します。

- CA ARCserve Backup ドメインの名前
- CA ARCserve Backup をインストールしているサーバの名前

注：CA ARCserve Backup サーバ名と CA ARCserve Backup ドメイン名は、15 バイト以内である必要があります。合計 15 バイトの名前は、約 7 ～ 15 文字に相当します。

- インストールしている CA ARCserve Backup サーバのタイプを決定します。

注：詳細については、[「CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ」](#) (64 ページ)を参照してください。

- CA ARCserve Backup、エージェント、およびオプションをリモート システムにインストールする場合は、ターゲット システムのホスト名を指定する必要があります。リモート インストールまたはアップグレードを実行している場合、CA ARCserve Backup は IP アドレスの指定をサポートしません。

CA ARCserve Backup データベース

CA ARCserve Backup インストールに使用するデータベース アプリケーションを決定します。詳細については、[「データベースの要件」](#) (69 ページ)を参照してください。

管理者権限

CA ARCserve Backup をインストールするサーバ上で、ソフトウェアのインストールに必要な管理者権限(または管理者に相当する権限)を有していることを確認します。

アップグレード

現在の BrightStor ARCserve Backup インストールをこのリリースにアップグレードする場合は、アップグレード、後方互換性、およびデータ 마이그레이ションに関する情報を[「アップグレードに関する考慮事項」](#) (78 ページ)で確認してください。

プライマリ サーバのインストール

プライマリ サーバをインストールするには、CA ARCserve Backup Central Management Option をインストールしてライセンスを設定する必要があります。

注：1 つのプライマリ サーバおよび 1 つ以上のメンバ サーバで構成された CA ARCserve Backup ドメインをインストールするには、メンバ サーバをインストールする前にプライマリ サーバをインストールする必要があります。プライマリ サーバのインストール時にドメインを作成し、インストール完了後に、メンバ サーバをドメインに追加します。

メンバ サーバのインストール

メンバ サーバをプライマリ サーバのドメインに追加するには、CA ARCserve Backup の認証情報を入力する必要があります (たとえば、プライマリ サーバのインストール時に入力した cartoot および CA ARCserve Backup パスワード)。メンバ サーバを CA ARCserve Backup ドメインに追加できるようにする処理では、Windows 認証が使用できます。

Global Dashboard のインストール

Global Dashboard をインストールする前に、以下の前提条件を確認してください。

ライセンスの要件

- Global Dashboard 機能を有効にするには、登録済みのブランチ プライマリ サーバをすべてカバーする複数ライセンスと共に、セントラル プライマリ サーバで有効な CA ARCserve BackupGlobal Dashboard ライセンスを持っている必要があります。（ブランチ プライマリ サーバでは Global Dashboard ライセンスをインストールする必要はありません）。

セントラル プライマリ サーバ

- CA ARCserve Backup（プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバ）がインストールされている。

注：Global Dashboard をメンバ サーバにインストールすることは可能です。ただし、メンバ サーバはセントラル プライマリ サーバとして機能できません。

- CA ARCserve Backup データベースに Microsoft SQL Server 2005 以降がインストールされている（Microsoft SQL Express および Microsoft SQL Server 2000 はデータベースとしてサポートしていません）。
- Windows IA64 プラットフォームにはインストールできない。
- Global Dashboard 環境用に十分な CA ARCserve Backup データベース容量がある。セントラル プライマリ サーバ用のデータベース推定容量の詳細については、「[Global Dashboard データ保存要件](#) (27 ページ)」を参照してください。

ブランチ プライマリ サーバ

- CA ARCserve Backup（プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバ）がインストールされている。
- CA ARCserve Backup データベースに Microsoft SQL Server 2000 以降または SQL Server Express 2008 以降がインストールされている。

Global Dashboard コンソール

- CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンドアロン サーバ、またはマネージャ コンソール コンポーネントがインストールされている。

以下の点に注意してください。

- Global Dashboard コンソールをメンバ サーバにインストールすることは可能です。ただし、メンバ サーバはブランチ プライマリ サーバとして機能できません。
- Windows 2000 および Windows IA64 プラットフォームにはインストールできません。

ポート環境設定

プライマリ サーバおよびメンバ サーバが安全な環境で通信できるようにするには、CA ARCserve Backup のインストール中にすべての通信ポートを開いたままにできるようにする必要があります。詳細については、「[プライマリ サーバとメンバ サーバの通信ポート](#) (251 ページ)」を参照してください。

クラスタのインストール

CA ARCserve Backup のインストールでは、インストール ウィザードによって以下のクラスタ アプリケーションが検出されます。

- Microsoft Cluster Server (MSCS)
- NEC Cluster Server (CLUSTERPRO/ExpressCluster)

インストール ウィザードを起動する前に、これらのクラスタ アプリケーションがインストールされていること、適切に設定され実行中であることを確認してください。

注： CA ARCserve Backup はクラスタ環境でのリモート インストールをサポートしていません。

リモート インストール

Windows XP システムの簡易ファイルの共有を無効にし、CA ARCserve Backup、エージェント、およびオプションをリモート システムに正常にインストールできるようにします。以下の手順を使用して、リモート システムの簡易ファイルの共有を無効にします。

1. リモートの Windows XP システムにログインします。

Windows デスクトップで、[マイ コンピュータ]をダブルクリックします。

[マイ コンピュータ]が表示されます。

2. [ツール]メニューで、[フォルダ オプション]をクリックします。

[フォルダ オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。

3. [表示]タブをクリックします。

[簡易ファイルの共有を使用する(推奨)]を検索します。

[簡易ファイルの共有を使用する(推奨)]の隣にあるチェック ボックスをオフにして[OK]をクリックします。

簡易ファイルの共有は無効になりました。

ストレージ デバイス

ストレージ デバイスを、CA ARCserve Backup プライマリ サーバとメンバ サーバとして指定するシステム、および SAN に接続します。CA ARCserve Backup は、テープ エンジンが最初に起動されたとき、CA ARCserve Backup サーバおよび SAN に直接接続されているライブラリを検出して設定します。CA ARCserve Backup が、サポート ライブラリを検出および設定できるようにするのに、ウィザードや他の外部アプリケーションを実行する必要はありません。他のすべてのタイプのデバイス (NAS デバイス、IBM 3494 ライブラリ、Sun StorageTek ACSLS ライブラリ、ARCserve Tape RAID ライブラリ、ARCserve 仮想ライブラリ など) では、CA ARCserve Backup をインストールした後で、[デバイス環境設定]または[Enterprise Module 環境設定]を使用してこれらのデバイスを手動で設定する必要があります。

注： 詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

ファイバまたは SCSI デバイスを使用している場合は、CA ARCserve Backup サーバに Windows と CA ARCserve Backup の両方がサポートする SCSI/ファイバ コントローラまたはアダプタが接続されていることを確認してください。CA ARCserve Backup はインストールされたほとんどの SCSI コントローラをサポートできます。

注： ハードウェアが対応デバイスであり CA ARCserve Backup がシステムと通信できることを確認するために、最新の認定デバイス リストを ca.com から入手してください。

Storage Area Network (SAN) のインストール

SAN 複数サーバ環境では、共有ライブラリに接続されているサーバをプライマリサーバとして機能するように指定した後で、CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントおよび CA ARCserve Backup Central Management Option をドメインプライマリ サーバでインストールしてライセンス登録する必要があります。その後で、共有ライブラリに接続されている他のすべてのサーバがメンバ サーバとして機能するように指定する必要があります。メンバ サーバは、プライマリ サーバと同じ CA ARCserve Backup ドメインに存在する必要があります。終了すると、プライマリ サーバは SAN インフラストラクチャを自動的に検出するため、手動の設定は必要ありません。

注： 古いリリースからアップグレードしている場合は、CA ARCserve Backup プライマリ サーバを SAN プライマリとして機能しているシステムにインストールし、CA ARCserve Backup メンバ サーバを SAN メンバ サーバとして機能しているシステムにインストールする必要があります。

Antivirus

CA Antivirus を実行しているシステムに CA ARCserve Backup データベースバックアップ エージェントをインストールしている場合は、以下のドライバ更新を CA ARCserve Backup サーバとクライアント マシンの両方に適用する必要があります。

<https://support.ca.com/irj/portal/anonymous/phpdocs?filePath=0/156/ildrvupdate.html>

DNS 通信

ドメイン ネーム システム (DNS) 通信が設定されていることを確認して、環境内の CA ARCserve Backup マネージャ コンソールとリモート システム間の通信を最適化してください。たとえば、DNS が逆引きを効率的に実行できるように設定する必要があります。DNS 通信設定に関する詳細は、Microsoft のサポート オンライン Web サイトを参照してください。

クロスプラットフォーム エージェント

クロスプラットフォーム エージェントをインストールまたはアップグレードするには、CA ARCserve Backup インストール メディアをインストール ウィザードの実行中も使用できるようにする必要があります。

CA ARCserve Backup のインストール

インストール ウィザードを使用して、CA ARCserve Backup をローカル システムまたはリモート システムにインストールできます。

CA ARCserve Backup をインストールする方法

1. CA ARCserve Backup インストール メディアをコンピュータのオプティカル ドライブに挿入します。

注：CA ARCserve Backup インストール ブラウザが表示されない場合は、Setup.exe をインストール メディアのルート ディレクトリから実行してください。

[製品のインストール]ブラウザの右側のコラムで、[CA ARCserve Backup for Windows のインストール]をクリックします。

[前提条件コンポーネント]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [インストール] をクリックして、前提条件コンポーネントをインストールします。

以下の動作に注意してください。

- [前提条件コンポーネント]ダイアログ ボックスは、ターゲット コンピュータにインストールされている CA ARCserve Backup 前提条件コンポーネントが検出されなかった場合にのみ表示されます。
- セットアップによって Microsoft SQL Server 2008 Express Edition がインストールされる場合、コンピュータを再起動し上記の手順を繰り返す必要があります。

注： クラスタ対応環境内のアクティブ ノードに CA ARCserve Backup をインストールする場合は、アクティブ ノードが再起動する間に、アクティブ ノードからパッシブ ノードにクラスタ リソースが移動されます。アクティブ ノードが再起動したら、元のアクティブ ノードにクラスタ リソースを移動する必要があります。

3. [使用許諾契約]ダイアログ ボックスで、使用許諾契約の条件に同意して[次へ]をクリックします。
4. 表示されるプロンプトに従って、ダイアログ ボックスに必要なすべての情報を記入します。

次のリストは、CA ARCserve Backup のインストールに関するダイアログ ボックス固有の情報について説明しています。

インストール/アップグレードの種類の選択ダイアログ ボックス

リモート インストール オプションを選択すると、CA ARCserve Backup を複数のシステムにインストールできます。

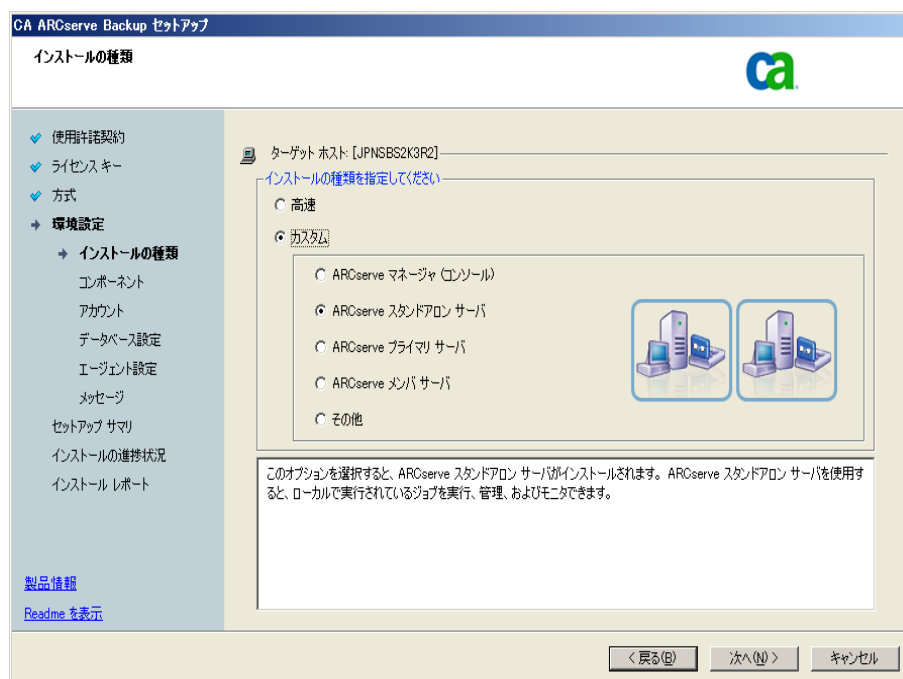
リモート インストールでは、ターゲットのリモート システムを異なる ARCserve サーバ タイプ、異なる CA ARCserve Backup エージェントとオプション、またはその両方で構成することができます。

注： クラスタ マシンのセットアップ プログラムは CA ARCserve Backup ベース製品または CA ARCserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートしていません。CA ARCserve Backup エージェント(たとえば Agent for Microsoft SQL Server または Agent for Microsoft Exchange Server)に関するこのリモート インストールの制限は、仮想ホストを使用している場合のみ当てはまります。クラスタの物理ホストを使用した CA ARCserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートされています。

[インストールの種類]ダイアログ ボックス

インストールの種類として[高速]または[カスタム]を選択することによって、インストールする CA ARCserve Backup コンポーネントの種類を指定できます。

注： 以前のリリースからアップグレードする場合、インストール ウィザードでは、現在の ARCserve 設定を検出し、新しいインストールに適切なインストール/アップグレードの種類を選択します。詳細については、「[CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ](#) (64 ページ)」および「[CA ARCserve Backup サーバのオプション](#) (68 ページ)」を参照してください。



[コンポーネント]ダイアログ ボックス

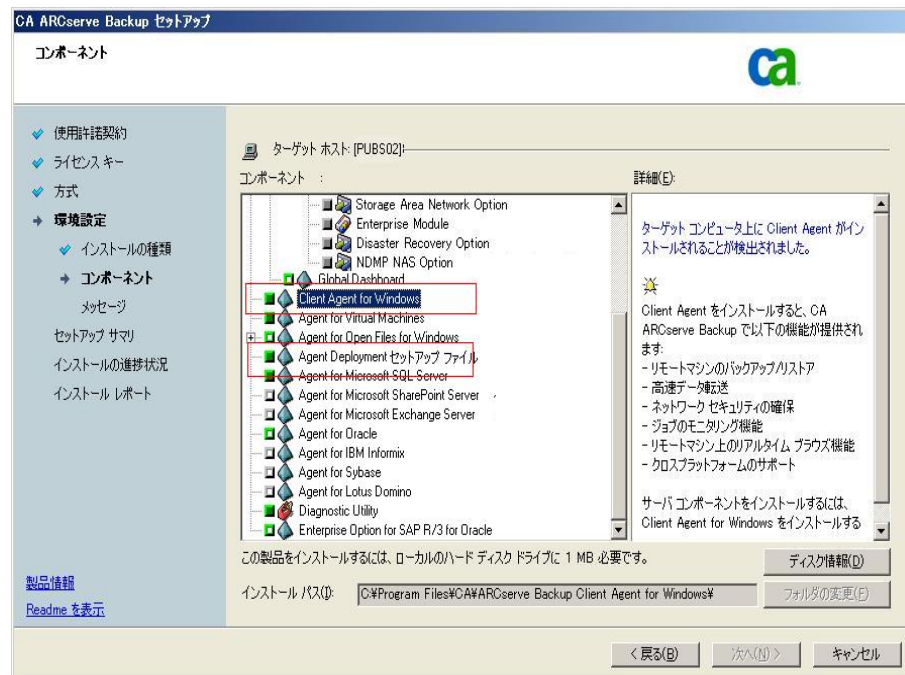
ターゲット システムにインストールする CA ARCserve Backup コンポーネントを指定できます。

以下の点に注意してください。

- プライマリ サーバをインストールするには、プライマリ サーバに CA ARCserve Backup Central Management Option をインストールする必要があります。
- メンバ サーバをインストールするには、インストール ウィザードがネットワーク内の CA ARCserve Backup ドメイン名とプライマリ サーバ名を検出する必要があります。したがって、メンバ サーバ インストールを実行する前に、少なくとも 1 つのプライマリ サーバ インストールを完了しておく必要があります。

- **CA ARCserve Backup** オブジェクトまたはサーバ オブジェクトを[製品の選択]ダイアログ ボックスでクリックすると、インストール ウィザードでは、[インストール/アップグレードの種類]ダイアログ ボックスで指定したインストールの種類に関係なく、デフォルトのスタンドアロン サーバ インストールコンポーネントが指定されます。正しいコンポーネントをインストールするには、サーバ オブジェクトを展開し、インストールする **CA ARCserve Backup** サーバのタイプのオブジェクトを展開して、インストールするコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。
- **Agent Deployment** は、CA ARCserve Backup をインストールした後で、CA ARCserve Backup エージェントを複数のリモート システムにインストールしてアップグレードできるウィザード形式のアプリケーションです。この機能をサポートするには、セットアップ プログラムで **Setup** ソース ファイルを CA ARCserve Backup サーバに コピーする必要があります。インストール メディアのコンテンツを CA ARCserve Backup サーバにコピーするには、[コンポーネント]ダイアログ ボックスで **Agent Deployment** を選択する必要があります。Agent Deployment を選択すると、CA ARCserve Backup のインストールまたはアップグレードに要する時間がかかります。
- リモート インストールまたはサイレント インストールを実行する場合、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows を CA ARCserve Backup ベース製品と同じディレクトリにインストールしないでください。
- **Global Dashboard** はプライマリ サーバ、スタンドアロン サーバおよびメンバ サーバにインストールできます。ただし、メンバ サーバをセントラルプライマリ サーバおよびブランチ プライマリ サーバとして機能するように設定することはできません。セントラル プライマリ サーバおよびブランチプライマリ サーバの詳細については、「Dashboard ユーザ ガイド」を参照してください。

以下の図では、Client Agent for Windows のデフォルトのインストール パスが表示されていて、Agent Deployment が指定されています。



[アカウント]ダイアログ ボックス

CA ARCserve Backup アカウントを設定できます。

セットアップ中に、クラスタ対応アプリケーションが環境内で実行されていることが検出された場合、CA ARCserve Backup をクラスタ対応環境にインストールするには、[クラスタ環境インストール]オプションを選択して CA ARCserve Backup をインストールする共有ディスクのパスを指定します。

注：CA ARCserve Backup サーバ名と CA ARCserve Backup ドメイン名は、15 バイト以内である必要があります。合計 15 バイトの名前は、約 7 ～ 15 文字に相当します。

CA ARCserve Backup セットアップ

アカウント

ターゲット ホスト [JPNSBS2K3R2]

Windows 管理者アカウントを指定します

① Microsoft Windows ドメイン(D): SMALLBUSINESS1

Microsoft Windows ユーザー名(U): administrator

パスワード(P): *****

CA ARCserve Backup ドメインアカウントを指定します

① CA ARCserve Backup ドメイン(A): JPNSBS2K3R2

CA ARCserve Backup サーバ: JPNSBS2K3R2

ユーザー名: caroot

パスワード(W): *****

パスワードの確認(C): *****

☐ パスワードを保存する(S)

製品情報
Readme を表示

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[データベースの設定]ダイアログ ボックス

CA ARCserve Backup データベースを設定できます。

このダイアログ ボックスで、データベース アプリケーション (ARCserve のデフォルトのデータベースまたは Microsoft SQL Server) を指定するか、必須フィールドの入力を完了した後、[次へ] をクリックします。

注：Unicode ベースの東アジア言語文字 (JIS2004 など) を含むデータを保護する必要がある場合は、CA ARCserve Backup のデータ検索および並べ替えを可能にするために SQL 照合順序を有効にする必要があります。これを行うには、[東アジア言語の照合順序] をクリックしてドロップダウン リストから言語を選択します。

CA ARCserve Backup セットアップ

データベース設定

ターゲット ホスト: [G11N839AT64-01]

データベースの種類を選択してください: [ARCserve Default Database]

CA ARCserve Backup データベース設定
 ARCserve デフォルト データベースが存在することが検出されました。セットアップでは、この ARCserve デフォルト データベースが使用されます。
☐ 既存の ARCserve データベースを上書きします。
 ⚠ ARCserve デフォルト データベース認識は [Windows 認識] のみです。

データ ファイルの場所: []

SQL 言語照合順序設定
☒ デフォルトの照合順序
☒ 東アジア言語の照合順序: [Japanese]

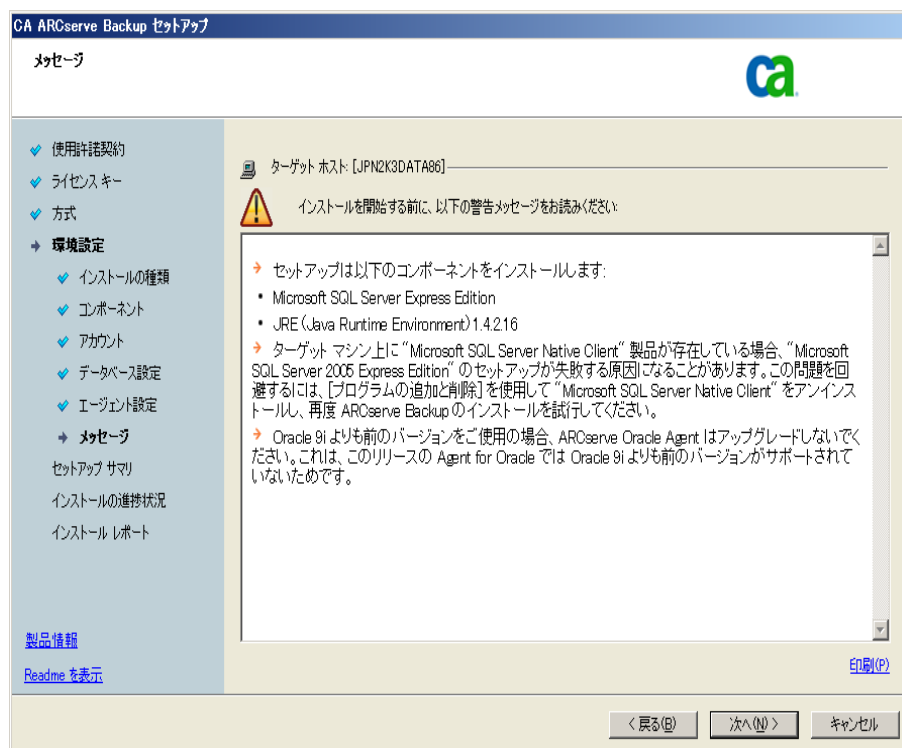
カタログ ファイルのインストール パス: [C:\Program Files (x86)\CA\ARCserve Backup\CATALOG.DB#]

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[メッセージ]ダイアログ ボックス

[メッセージ]ダイアログ ボックスでメッセージを確認し、この時点で問題の解決を試みる必要があります。

以下は、[重要な警告メッセージ]ダイアログ ボックスを示しています。



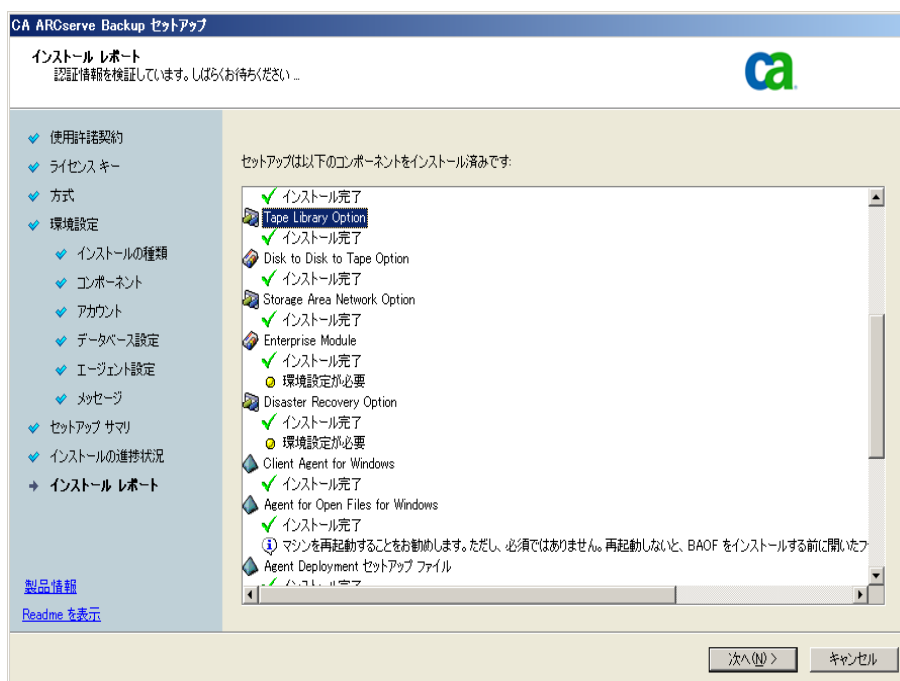
[セットアップ サマリ]ダイアログ ボックス

インストールするコンポーネントを変更するには、変更するインストール オプションが表示されているダイアログ ボックスに戻るまで[戻る]ボタンをクリックしてください。

[インストール レポート]ダイアログ ボックス

選択したコンポーネントで設定が必要な場合は、インストールの最後に設定ダイアログ ボックスが表示されます。すぐにコンポーネントを設定することも、後から[デバイス環境設定]または[Enterprise Module 環境設定]を使用して設定することもできます。たとえば、単一ドライブのオートローダを使用している場合は、セットアップで[インストール サマリ]ダイアログ ボックスでメッセージをダブルクリックすることで、該当する[デバイス環境設定]を起動するように指定することができます。

以下に、[インストール レポート]ダイアログ ボックスを示します。Agent for Microsoft SQL Server で環境設定が必要とされています。



注：CA ARCserve Backup のインストール時に、サーバの再起動が必要になる場合があります。これは、すべてのファイル、サービス、およびレジストリの設定がオペレーティング システム レベルで更新されたかどうかによって決まります。

[インストール サマリ]ダイアログ ボックス

選択したコンポーネントで設定が必要な場合は、インストールの最後に設定ダイアログ ボックスが表示されます。すぐにコンポーネントを設定することも、後から[デバイス環境設定]または[Enterprise Module 環境設定]を使用して設定することもできます。たとえば、単一ドライブのオートローダを使用している場合は、セットアップで[インストール サマリ]ダイアログ ボックスでメッセージをダブルクリックすることで、該当する[デバイス環境設定]を起動するように指定することができます。

[ライセンスの確認]ダイアログ ボックス

ライセンス キーを入力するには、インストールしているコンポーネント、エージェント、およびオプションへ移動し、[ライセンス キーを使用する]オプションを選択してそのコンポーネントのライセンス キーを入力します。

[続行]をクリックして[ライセンスの確認]ダイアログ ボックスを閉じます。

5. [インストール サマリ]ダイアログ ボックスで[完了]をクリックしてインストールを完了します。

以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード

インストール方法をアップグレードして、以前のリリースをアンインストールせずに機能またはコンポーネントを新しいリリースやビルド番号に再インストールする方法 アップグレード処理では、現在の設定のほとんどを維持して、古い ARCserve データベースに保存されている情報を新しい ARCserve データベースにマイグレートします。

以下のいずれかのバージョンの CA ARCserve Backup または BrightStor ARCserve Backup を現在使用している場合は、以下の製品からこのリリースにアップグレードできます。

- CA ARCserve Backup r12.5 for Windows-- General Availability (GA)リリースと最新のサービス パックがすべて含まれます。
- CA ARCserve Backup r12 for Windows-- GA リリースと最新サービス パックがすべて含まれます。

- BrightStor ARCserve Backup r11.5 for Windows-- GA リリースと最新サービスパックがすべて含まれます。
- BrightStor ARCserve Backup r11.1 for Windows-- GA リリースと最新サービスパックがすべて含まれます。

注：CA ARCserve Backup は、クラスター対応環境での BrightStor ARCserve Backup r11.1 for Windows の本リリースへのアップグレードはサポートしていません。このリリースにアップグレードするには、BrightStor ARCserve Backup r11.1 for Windows をアンインストールした後、このリリースをクラスター対応環境にインストールする必要があります。

重要：BrightStor ARCserve Backup v9 および BrightStor Enterprise Backup v10.5 からアップグレードする場合、前のリリースをアンインストールしてから CA ARCserve Backup のこのリリースをインストールする必要があります。ただし、以前のリリースのデータベース情報を保持する場合は、最初に BrightStor ARCserve Backup v9 または BrightStor Enterprise Backup v10.5 を CA ARCserve Backup r12.5 GA ビルド (SP なし) にアップグレードし、次に、CA ARCserve Backup r12.5 から本リリースにアップグレードする必要があります。CA ARCserve Backup r12.5 のインストール メディアの入手方法については、CA サポートまでお問い合わせください。BrightStor ARCserve Backup または BrightStor Enterprise Backup の r9 以前のすべてのリリースについては、アンインストール後に本リリースをインストールする必要があります。

このリリースへのアップグレードに関する詳細は、[「アップグレードに関する考慮事項」](#) (78 ページ) を参照してください。

CA ARCserve Backup の古いリリースからのアップグレードする方法

1. CA ARCserve Backup インストール メディアをコンピュータのオプティカル ドライブに挿入します。

注：CA ARCserve Backup インストール ブラウザが表示されない場合は、Setup.exe をインストール メディアのルート ディレクトリから実行してください。

[製品のインストール] ブラウザの右側のコラムで、[CA ARCserve Backup for Windows のインストール] をクリックします。

[前提条件コンポーネント] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [次へ] をクリックして前提条件コンポーネントをインストールします。

注：[前提条件コンポーネント] ダイアログ ボックスは、セットアップがターゲット コンピュータにインストールされている CA ARCserve Backup 前提条件コンポーネントを検出しなかった場合にのみ表示されます。

3. [使用許諾契約] ダイアログ ボックスで、使用許諾契約の条件に同意して [ユーザ情報] ダイアログ ボックスのフィールドに入力します。

4. 続くダイアログ ボックスのプロンプトに従い、必要な情報をすべて提供します。

次のリストは、CA ARCserve Backup の古いリリースからのアップグレードに関するダイアログ ボックス固有の情報について説明しています。

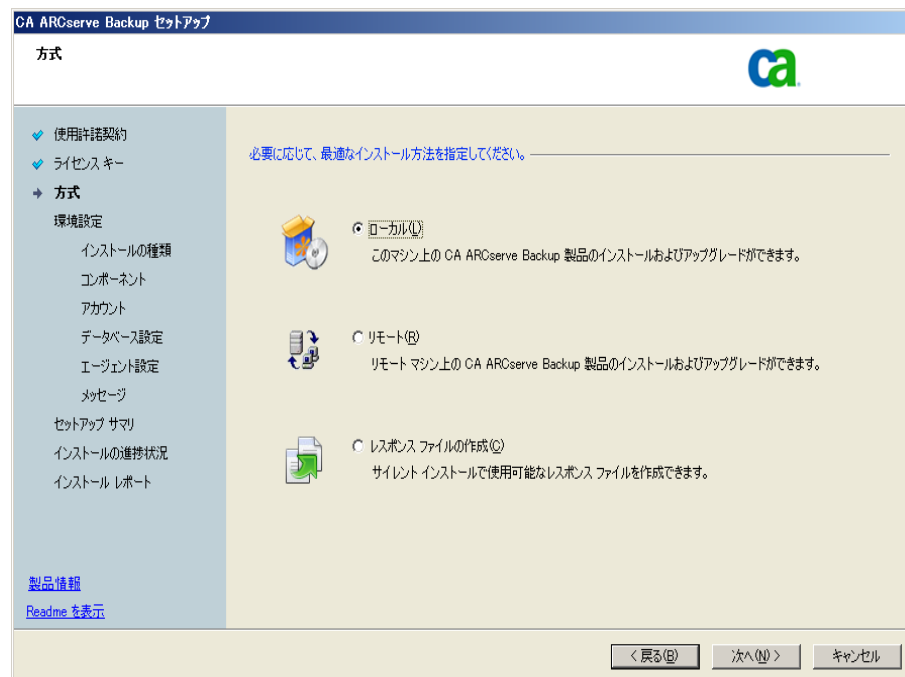
[方式]ダイアログ ボックス

古いリリースから ARCserve プライマリ サーバにアップグレードしている場合は、[ローカル インストール/アップグレード]オプションを選択する必要があります。CA ARCserve Backup は、次のタイプのアップグレードをサポートしていません。

- リモート システムでの古いリリースから ARCserve プライマリ サーバへのアップグレード。
- レスpons ファイルを使用しているシステムでの古いリリースから ARCserve プライマリ サーバへのサイレント アップグレード。
- リモート システムでの古いリリースからのアップグレードと古いマネージャの維持。
- レスpons ファイルを使用した古いリリースからのサイレント アップグレードと古いマネージャの維持。

注：詳細については、「[以前のリリースに対するマネージャ コンソール サポート](#)」(81 ページ)を参照してください。

他のすべてのタイプのアップグレードの場合は、実行するタスクに対応するオプションを選択してください。



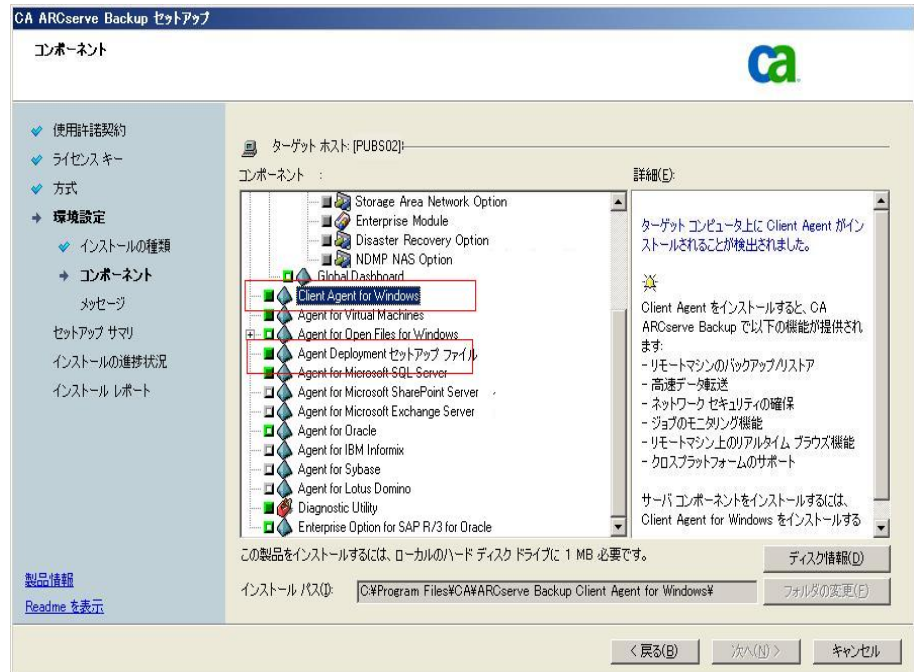
[コンポーネント]ダイアログ ボックス

ターゲット システムにインストールする CA ARCserve Backup コンポーネントを指定できます。

以下の点に注意してください。

- プライマリ サーバをインストールするには、プライマリ サーバに CA ARCserve Backup Central Management Option をインストールする必要があります。
- メンバ サーバをインストールするには、インストール ウィザードがネットワーク内の CA ARCserve Backup ドメイン名とプライマリ サーバ名を検出できる必要があります。したがって、メンバ サーバ インストールを実行する前に、少なくとも 1 つのプライマリ サーバ インストールを完了しておく必要があります。
- CA ARCserve Backup オブジェクトまたはサーバ オブジェクトを[製品の選択]ダイアログ ボックスでクリックすると、インストール ウィザードでは、[インストール/アップグレードの種類]ダイアログ ボックスで指定したインストールの種類に関係なく、デフォルトのスタンドアロン サーバ インストールコンポーネントが指定されます。正しいコンポーネントをインストールするには、サーバ オブジェクトを展開し、インストールする CA ARCserve Backup サーバのタイプのオブジェクトを展開して、インストールするコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。
- Agent Deployment は、CA ARCserve Backup をインストールした後で、CA ARCserve Backup エージェントを複数のリモート システムにインストールしてアップグレードできるウィザード形式のアプリケーションです。この機能をサポートするには、セットアップ プログラムで Setup ソース ファイルを CA ARCserve Backup サーバに コピーする必要があります。インストール メディアのコンテンツを CA ARCserve Backup サーバにコピーするには、[コンポーネント]ダイアログ ボックスで Agent Deployment を選択する必要があります。Agent Deployment を選択すると、CA ARCserve Backup のインストールまたはアップグレードに要する時間がかなり長くなります。
- リモート インストールまたはサイレント インストールを実行する場合、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows を CA ARCserve Backup ベース製品と同じディレクトリにインストールしないでください。
- Global Dashboard はプライマリ サーバ、スタンドアロン サーバおよびメンバ サーバにインストールできます。ただし、メンバ サーバをセントラル プライマリ サーバおよびブランチ プライマリ サーバとして機能するように設定することはできません。セントラル プライマリ サーバおよびブランチ プライマリ サーバの詳細については、「Dashboard ユーザ ガイド」を参照してください。

以下の図では、Client Agent for Windows のデフォルトのインストール パスが表示されていて、Agent Deployment が指定されています。



[マネージャ コンソール オプション]ダイアログ ボックス

[現在の ARCserve マネージャ コンソールを維持]オプションを選択するのは、古いリリースの BrightStor ARCserve Backup を実行している ARCserve サーバが環境内に存在する場合のみにしてください。このオプションを選択すると、セットアップ中に CA ARCserve Backup をコンピュータの別の場所にインストールするよう求められます。

以前のマネージャ サポート ファイルが保存されているのと同じディレクトリに新しいマネージャ コンソールのサポート ファイルをインストールするように指定した場合、インストール ウィザードは、マネージャ コンソールのサポート ファイルを別の場所にインストールするように要求します。

注: CA ARCserve Backup では、レスポンス ファイルを使用したリモート アップグレードおよびサイレント アップグレードを実行しているときは、古いリリースのマネージャ コンソールを使用することはできません。

[アカウント]ダイアログ ボックス

セットアップ中にクラスタ対応アプリケーションが環境内で実行されていることが検出された状態で、CA ARCserve Backup をクラスタ対応環境にインストールする場合は、[クラスタ環境インストール]オプションをチェックして CA ARCserve Backup をインストールするパスを指定します。

注：CA ARCserve Backup サーバ名と CA ARCserve Backup ドメイン名は、15 バイト以内である必要があります。合計 15 バイトの名前は、約 7 ～ 15 文字に相当します。

CA ARCserve Backup セットアップ

アカウント

使用許諾契約
ライセンスキー
方式
環境設定
インストールの種類
コンポーネント
アカウント
データベース設定
エージェント設定
メッセージ
セットアップ サマリ
インストールの進捗状況
インストール レポート

製品情報
Readme を表示

ターゲット ホスト[JPNBS2K3R2]

Windows 管理者アカウントを指定します

Microsoft Windows ドメイン(D): SMALLBUSINESS1

Microsoft Windows ユーザー名(U): administrator

パスワード(P): *****

CA ARCserve Backup ドメイン アカウントを指定します

CA ARCserve Backup ドメイン(D): JPNBS2K3R2

CA ARCserve Backup サーバ: JPNBS2K3R2

ユーザー名: caroot

パスワード(P): *****

パスワードの確認(C): *****

☐ パスワードを保存する(S)

戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[データベースの設定]ダイアログ ボックス

CA ARCserve Backup データベースを設定できます。

データベース アプリケーション (Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition) を指定したら、このダイアログ ボックスの必須フィールドに入力します。

注: Unicode ベースの東アジア言語文字 (JIS2004 など) を含むデータを保護する必要がある場合は、CA ARCserve Backup のデータ検索および並べ替えを可能にするために SQL 照合順序を有効にする必要があります。これを行うには、[東アジア言語の照合順序] をクリックしてドロップダウン リストから言語を選択します。

CA ARCserve Backup セットアップ

データベース設定

使用許諾契約
ライセンスキー
方式
→ 環境設定
 インストールの種類
 コンポーネント
 アカウント
 → データベース設定
 エージェント設定
 メッセージ
セットアップ サマリ
インストールの進捗状況
インストール レポート

製品情報
Readme を表示

ターゲット ホスト [G11N839AT64-01]
データベースの種類を選択してください: ARCserve Default Database

CA ARCserve Backup データベース設定
ARCserve デフォルト データベースが存在することが検出されました。セットアップでは、この ARCserve デフォルト データベースが使用されます。
☐ 既存の ARCserve データベースを上書きします。
⚠ ARCserve デフォルト データベース認証は [Windows 認証] のみです。

データ ファイルの場所: []

SQL 言語照合順序設定
☐ デフォルトの照合順序
☒ 東アジア言語の照合順序: Japanese

カタログ ファイルのインストール パス: C:\Program Files (x86)\CA\ARCserve Backup\CATALOG.DB

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[メッセージ]ダイアログ ボックス

[重要な警告メッセージ]ダイアログ ボックスでメッセージを確認した後は、この時点で問題の解決を試みる必要があります。

[セットアップ サマリ]ダイアログ ボックス

インストールするコンポーネントを変更するには、変更するインストール オプションが表示されているダイアログ ボックスに戻るまで[戻る]ボタンをクリックしてください。

[インストール サマリ]ダイアログ ボックス

選択したコンポーネントで設定が必要な場合は、インストールの最後に設定ダイアログ ボックスが表示されます。すぐにコンポーネントを設定することも、後から[デバイス環境設定]または[Enterprise Module 環境設定]を使用して設定することもできます。たとえば、単一ドライブのオートローダを使用している場合は、セットアップで[インストール サマリ]ダイアログ ボックスでメッセージをダブルクリックすることで、該当する[デバイス環境設定]を起動するように指定することができます。

[ライセンスの確認]ダイアログ ボックス

ライセンス キーを入力するには、インストールしているコンポーネント、エージェント、およびオプションへ移動し、[ライセンス キーを使用する]オプションを選択してそのコンポーネントのライセンス キーを入力します。

[続行]をクリックして[ライセンスの確認]ダイアログ ボックスを閉じます。

[インストール サマリ]ダイアログ ボックスで[完了]をクリックし、[CA ARCserve Backup サーバ マイグレーション]ダイアログ ボックスを開きます。

[CA ARCserve Backup サーバ データ マイグレーション]ダイアログ ボックス

マイグレートするデータを指定します。データ マイグレーションの詳細については、[「古いリリースからのデータ マイグレーション」](#) (82 ページ)を参照してください。

重要: CA ARCserve Backup for Windows r12、CA ARCserve Backup for Windows r12 SP1、および CA ARCserve Backup for Windows r12.5 からこのリリースにアップグレードする場合、[CA ARCserve Backup サーバ データ マイグレーション] ダイアログ ボックスは表示されません。

5. アップグレードを完了するには、[CA ARCserve Backup サーバ データ マイグレーション]ダイアログ ボックスで[OK]をクリックします。

以下の制限および考慮事項に注意してください。

- 前回のバックアップがこのリリースにアップグレードする前に実行された場合、CA ARCserve Backup では CA ARCserve Backup データベースの回復はサポートされません。アップグレードが完了した後、できるだけ早く CA ARCserve Backup をバックアップしてください。
- アップグレードが完了した後は、サーバの再起動が必要になる場合があります。これは、すべてのファイル、サービス、およびレジストリの設定がオペレーティング システム レベルで更新されたかどうかによって決まります。
- クラスタ対応環境ですべての CA ARCserve Backup サービスが適切に開始されるようにするには、CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開く前に CA ARCserve Backup サーバで cstop スクリプトと cstart スクリプトを実行する必要があります。このタスクは、CA ARCserve Backup r12 (GA リリースおよび最新のサービス パックを含む)からこのリリースにアップグレードする場合に実行する必要があります。

サイレント インストール レスポンス ファイルの作成

CA ARCserve Backup コンポーネントの多くは、インストールの実行中にユーザが設定情報(インストール ディレクトリ、ユーザ名、パスワードなど)を入力する必要があります。サイレント インストール(ユーザの介入を必要としない方式のインストール)では、それらの設定情報が、事前に生成しておいたレスポンス ファイルから読み込まれます。デフォルトのレスポンス ファイル名は `setup.icf` ですが、この名前は必要に応じて変更できます。

注: CA ARCserve Backup は、CA ARCserve Backup プライマリ サーバ インストール用のサイレント インストール レスポンス ファイルの作成をサポートしていません。CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバおよび CA ARCserve Backup メンバ サーバ インストール用のサイレント インストール レスポンス ファイルを作成できます。

サイレント インストール レスポンス ファイルを作成する方法

1. CA ARCserve Backup インストール メディアをコンピュータのオプティカル ドライブに挿入します。

¥Install ディレクトリを参照します。

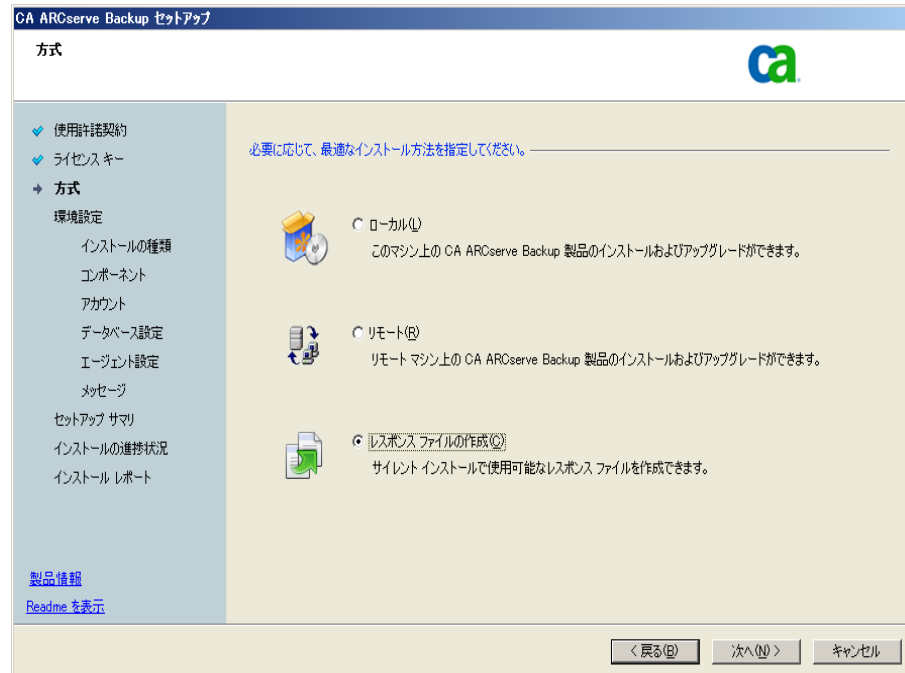
MasterSetup.exe をダブルクリックして MasterSetup を起動し、[CA ARCserve Backup へようこそ]ダイアログ ボックスで[次へ]をクリックします。

2. [使用許諾契約]ダイアログ ボックスで、使用許諾契約の条件に同意して[ユーザ情報]ダイアログ ボックスのフィールドに入力します。
3. 続くダイアログ ボックスのプロンプトに従い、必要な情報をすべて提供します。

次のリストでは、レスポンス ファイル作成に関するダイアログ ボックス固有の情報を説明しています。

[方式]ダイアログ ボックス

レスpons ファイルを作成するには、[レスpons ファイルの作成]を選択する必要があります。



[コンポーネント]ダイアログ ボックス

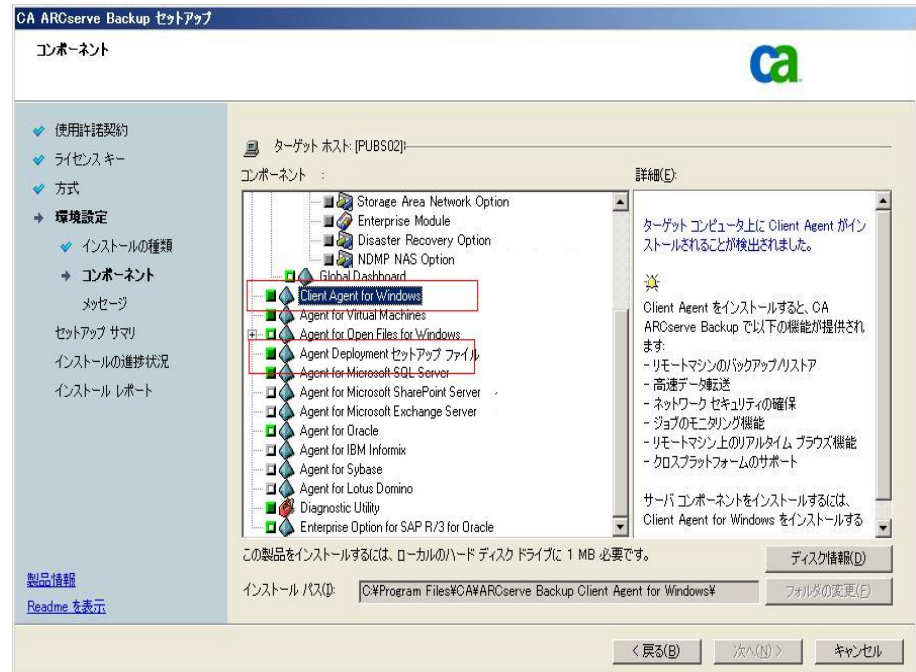
ターゲット システムにインストールする CA ARCserve Backup コンポーネントを指定できます。

以下の点に注意してください。

- プライマリ サーバをインストールするには、プライマリ サーバに CA ARCserve Backup Central Management Option をインストールする必要があります。
- メンバ サーバをインストールするには、インストール ウィザードがネットワーク内の CA ARCserve Backup ドメイン名とプライマリ サーバ名を検出する必要があります。したがって、メンバ サーバ インストールを実行する前に、少なくとも 1 つのプライマリ サーバ インストールを完了しておく必要があります。

- **CA ARCserve Backup** オブジェクトまたはサーバ オブジェクトを[製品の選択]ダイアログ ボックスでクリックすると、インストール ウィザードでは、[インストール/アップグレードの種類]ダイアログ ボックスで指定したインストールの種類に関係なく、デフォルトのスタンドアロン サーバ インストール コンポーネントが指定されます。正しいコンポーネントをインストールするには、サーバ オブジェクトを展開し、インストールする **CA ARCserve Backup** サーバのタイプのオブジェクトを展開して、インストールするコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。
- **Agent Deployment** は、**CA ARCserve Backup** をインストールした後で、**CA ARCserve Backup** エージェントを複数のリモート システムにインストールしてアップグレードできるウィザード形式のアプリケーションです。この機能をサポートするには、セットアップ プログラムで **Setup** ソース ファイルを **CA ARCserve Backup** サーバに コピーする必要があります。インストール メディアのコンテンツを **CA ARCserve Backup** サーバにコピーするには、[コンポーネント]ダイアログ ボックスで **Agent Deployment** を選択する必要があります。 **Agent Deployment** を選択すると、**CA ARCserve Backup** のインストールまたはアップグレードに要する時間がかかります。
- リモート インストールまたはサイレント インストールを実行する場合、**CA ARCserve Backup Client Agent for Windows** を **CA ARCserve Backup** ベース製品と同じディレクトリにインストールしないでください。
- **Global Dashboard** はプライマリ サーバ、スタンドアロン サーバおよびメンバ サーバにインストールできます。ただし、メンバ サーバをセントラル プライマリ サーバおよびブランチ プライマリ サーバとして機能するように設定することはできません。セントラル プライマリ サーバおよびブランチ プライマリ サーバの詳細については、「**Dashboard ユーザ ガイド**」を参照してください。

以下の図では、Client Agent for Windows のデフォルトのインストール パスが表示されていて、Agent Deployment が指定されています。



[アカウント]ダイアログ ボックス

CA ARCserve Backup ドメイン名とサーバ名は、15 文字以内である必要があります。合計 15 バイトの名前は、約 7 ～ 15 文字に相当します。

CA ARCserve Backup セットアップ

アカウント

ターゲット ホスト [JPNSBS2K3R2]

Windows 管理者アカウントを指定します

① Microsoft Windows ドメイン(D): SMALLBUSINESS1

Microsoft Windows ユーザー名(U): administrator

パスワード(P): *****

CA ARCserve Backup ドメイン アカウントを指定します

① CA ARCserve Backup ドメイン(A): JPNSBS2K3R2

CA ARCserve Backup サーバ: JPNSBS2K3R2

ユーザー名: caroot

パスワード(W): *****

パスワードの確認(C): *****

☐ パスワードを保存する(S)

製品情報

Readme を表示

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

注: 古いインストールのドメイン名を維持しない場合、CA ARCserve Backup は古い caroot パスワードを空のパスワードに変更します。空のパスワードは、インストールが完了した後で変更できます。

caroot パスワードは、任意の英数字と特殊文字を組み合わせで指定できますが、15 バイトを超えないようにしてください。合計 15 バイトのパスワードは、およそ 7 ～ 15 文字に相当します。

[データベースの設定]ダイアログ ボックス

Unicode ベースの東アジア言語文字 (JIS2004 など) を含むデータを保護する必要がある場合は、データ検索および並べ替えを可能にするために SQL 照合順序を有効にする必要があります。このためには、[SQL Server Express インスタンス]ダイアログ ボックスで[言語サポート オプション]をクリックし、画面の指示に従って設定を完了します (CA ARCserve Backup データベースを Microsoft SQL Server でホストしている場合は、[データベースのインストールパスを選択してください]ダイアログ ボックスで[言語サポート オプション]をクリックします)。

[セットアップ サマリ]ダイアログ ボックス

インストールするコンポーネントを変更するには、変更するインストール オプションが表示されているダイアログ ボックスに戻るまで[戻る]ボタンをクリックしてください。

[ライセンスの確認]ダイアログ ボックス

ライセンス キーを入力するには、インストールしているコンポーネント、エージェント、およびオプションへ移動し、[ライセンス キーを使用する]オプションを選択してそのコンポーネントのライセンス キーを入力します。

4. レスpons ファイルの生成が完了したら、MasterSetup.exe でそのファイルを使用して、選択した CA ARCserve Backup コンポーネントのサイレント インストールを実行できます。

デフォルトでは、CA ARCserve Backup は以下のディレクトリにレスpons ファイルを保存します。

C:\My Documents\Setup.icf

[セットアップ サマリ]ダイアログ ボックスで、省略記号ボタンをクリックすることによって別の場所を指定できます。

5. レスpons ファイルのセットアップが完了したら、[完了]をクリックします。

必須パラメータの詳細を表示するには、Windows のコマンド ラインを開いて次のコマンドを実行します。

```
mastersetup /?
```

例: レスpons ファイルの実行

以下の例では、レスpons ファイルを実行する構文について説明します。レスpons ファイルは setup.icf のラベルが付けられ、c:\temp に配置されます。

```
mastersetup.exe /I:"c:\temp\setup.icf"
```

setup.icf ファイルを編集して InstallScanEng の設定を 1 から 0 に変更し、スキャンエンジンをインストールしないようにできます。

注: インストールの完了後にターゲット システムを再起動する必要がある場合があります。マシンを再起動する必要があるかどうかについては、ProdWiz.log の再起動メッセージを確認してください。

レスpons ファイルを使用して CA ARCserve Backup をインストールする方法の詳細については、「[現在のリリースへの CA ARCserve Backup エージェントのサイレントアップグレード](#) (128 ページ)」を参照してください。

CA ARCserve Backup Agent Deployment

CA ARCserve Backup Agent Deployment は、複数のリモート ホストに CA ARCserve Backup エージェントの集合を同時にインストールおよびアップグレードするためのウィザード形式のアプリケーションです。Agent Deployment は、バックアップ環境で確実に CA ARCserve Backup エージェントの選択グループの最新バージョンを実行できるようにするために設計されました。

Agent Deployment を使用するには、CA ARCserve Backup サーバにインストールできるインストール ファイルが必要です。これにより、Agent Deployment の実行時に CA ARCserve Backup インストール メディアを用意する必要がなくなります。ただし、Agent Deployment には約 1.3 GB のハードディスク容量が必要で、CA ARCserve Backup のインストールの所要時間が大幅に増えます。インストール メディアを用意する必要がないようにするには、CA ARCserve Backup のインストール時に Agent Deployment のセットアップ ファイルを明示的に選択する必要があります。

以下の一覧で、エージェントをリモート ホストに展開する方式を説明します。

- **自動アップグレード** -- CA ARCserve Backup サーバと以前に通信したリモート ホストのエージェントをアップグレードできます。Agent Deployment によって、CA ARCserve Backup サーバに登録されたリモート ホスト上で実行中のエージェントが自動検出され、本リリースにアップグレードされます。この方式によって、CA ARCserve Backup 環境で実行されているすべてのエージェントが CA ARCserve Backup サーバと同じリリースになります。

注：自動アップグレードを使用すると、リモート エージェントのホスト名を手動で指定できなくなります。

この方式を使用すると、以下のエージェントおよびコンポーネントを展開できます。

- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server
- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server
- CA ARCserve Backup Agent for Open Files
- CA ARCserve Backup Agent for Oracle
- CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines
- CA ARCserve Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve Backup 診断ユーティリティ

注：自動アップグレードを使用したリモート ホストへのエージェントの展開方法の詳細については、「[自動アップグレードを使用したリモート ホストへのエージェントの展開](#) (118 ページ)」を参照してください。

- **カスタム展開** -- 任意のリモート ホストでエージェントをインストールおよびアップグレードできます。この種類のホストには、エージェントの以前バージョンがインストールされている場合もされていない場合もあります。

この方式を使用すると、以下のエージェントおよびコンポーネントを展開できます。

- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server
- CA ARCserve Backup Agent for Open Files
- CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines
- CA ARCserve Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve Backup 診断ユーティリティ

注：カスタム展開を使用したリモート ホストへのエージェントの展開方法の詳細については、「[カスタム展開を使用したリモート ホストへのエージェントの展開](#) (122 ページ)」を参照してください。

- **仮想マシンの展開** -- 任意の VM でエージェントをインストールおよびアップグレードできます。ターゲット VM には、エージェントの以前バージョンがインストールされている場合もされていない場合もあります。

この方式を使用すると、以下のエージェントおよびコンポーネントを展開できます。

- CA ARCserve Backup Agent for Open Files
- CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines
- CA ARCserve Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve Backup 診断ユーティリティ

注：カスタム インストールを使用したリモート ホストへのエージェントの展開方法の詳細については、「[仮想マシンの展開 を使用した VM へのエージェントの展開](#) (125 ページ)」を参照してください。

Agent Deployment を使用する前に以下の注意事項を確認してください。

- Agent Deployment によって、以下の CA ARCserve Backup 製品を展開できます。
 - CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server
 - CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server
 - CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server
 - CA ARCserve Backup Agent for Open Files
 - CA ARCserve Backup Agent for Oracle
 - CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines
 - CA ARCserve Backup Client Agent for Windows
 - CA ARCserve Backup 診断ユーティリティ

注：Agent Deployment は、上に記載されていないエージェントをリモート ホスト上で検出すると停止します。

- Agent for Microsoft Exchange Server を Exchange クライアント アクセス サーバおよび Hub 転送サーバにインストールする場合は、Agent Deployment を使用しないでください。
- Agent Deployment では、ターゲット システムのホスト名を指定する必要があります。CA ARCserve Backup では、リモート システムにエージェントを展開するときに IP アドレスを指定できません。
- Agent Deployment は、デフォルトのインストール パスにエージェントをインストールします。たとえば、Agent Deployment は、Client Agent for Windows を以下のパスにインストールまたはアップグレードします (x86 システム)。

C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for windows

- リモート ホストにエージェントを展開するには、管理者アカウントまたは管理者権限のあるアカウントでコンピュータにログインする必要があります。
- 管理用共有リソース (たとえば、C\$, Admin\$ など) が、エージェントを配信するサーバからアクセス可能であることを確認してください。
- リモート ホスト上の[ファイルとプリンタ]サービスに対するファイアウォール例外ルールが有効になっていることを確認してください。デフォルトでは、Windows Server 2008 ファイアウォール ポリシーによって[ファイルとプリンタ]サービスの通信がブロックされるため、Windows Server 2008 システムでこのタスクを実行する必要があります。
- Windows ファイアウォールによって[ファイルとプリンタの共有]通信がブロックされないようにするには、ドメイン レベルのグループ ポリシーを使用して、バックアップ環境内のすべてのサーバの[ファイルとプリンタの共有]通信に対する例外を有効にしてください。

- リモート ホストにエージェントを正常にインストールできるようにするには、Windows XP システムで簡易ファイルの共有を無効にする必要があります。以下の手順に従って、リモートホスト上で簡易ファイルの共有を無効にします。
 1. リモートの Windows XP ホスト システムにログインします。
デスクトップの[マイ コンピュータ]をダブルクリックします。
[マイ コンピュータ]が表示されます。
 2. [ツール]メニューの[フォルダ オプション]をクリックします。
[フォルダ オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。
 3. [表示]タブをクリックします。
[簡易ファイルの共有を使用する](推奨)を検索します。
[簡易ファイルの共有を使用する](推奨)の隣にあるチェック ボックスをオフにして[OK]をクリックします。
簡易ファイルの共有は無効になりました。

自動アップグレードを使用したリモート ホストへのエージェントの展開

CA ARCserve Backup Agent Deployment を使用すると、リモート ホストに CA ARCserve Backup エージェントをインストールしたり、リモートホスト上の CA ARCserve Backup エージェントをアップグレードしたりすることができます。自動アップグレードでは、本リリースにアップグレードする必要があるエージェントを持つホストが検出され、そのホストにエージェントを展開できます。この方式を利用して、CA ARCserve Backup 環境で実行されているすべてのエージェントが CA ARCserve Backup サーバと同じリリース番号を持つようにすることができます。

自動アップグレード方式では、エージェントを本リリースにアップグレードするために、ターゲット ホストにインストールされている以前のリリースのエージェントを検出する必要があります。ターゲット システムにインストールされている以前のリリースのエージェントが自動アップグレード方式によって検出されない場合には、カスタム展開方式を使用してターゲット システムにエージェントをインストールする必要があります。

自動アップグレードを使用してリモート ホストに CA ARCserve Backup エージェントを展開する方法

1. CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
[クイック スタート]-[管理]-[Agent Deployment]の順に選択します。
CA ARCserve Backup Agent Deployment が起動し、[ログオン サーバ]ダイアログ ボックスが開きます。

2. [ログオン サーバ]ダイアログ ボックスで必要なフィールドに入力して、[次へ]をクリックします。

[方式]ダイアログ ボックスが開きます。

3. [方式]ダイアログ ボックスから、[自動アップグレード]をクリックし、[次へ]をクリックします。

[コンポーネント]ダイアログ ボックスが開き、Agent Deployment によって検出された、以前のリリースの CA ARCserve Backup エージェントを実行しているホストのリストが表示されます。

4. [次へ]をクリックします。

[ホスト情報]ダイアログ ボックスが開き、[ホストおよび認証情報]リストに、検出されたホストのホスト名、ユーザ名、およびパスワードが表示されます。

5. 以下を実行して、ホストのユーザ名とパスワードを指定します。
 - a. [ユーザ]フィールドにユーザ名を指定し(<ドメイン>\<ユーザ名>)、[パスワード]フィールドにパスワードを指定します。
 - b. ターゲット ホストの横にあるチェックボックスがオンになっていることを確認します。すべてのホストを指定するには、列見出しのチェック ボックスをオンにします。

[illegible]

- c. [認証情報の適用]をクリックします。
- ユーザ名とパスワードがリストのすべてのリモート ホストに適用されます。
- 注:** [ホストおよび認証情報]リストからホストを削除するには、削除するホストの横にあるチェックボックスをオンにし、[削除]をクリックします。
- [次へ]をクリックして続行します。
- Agent Deployment** は、指定したすべてのホストに対して、指定されたホスト名、ユーザ名、およびパスワードを検証します。 **Agent Deployment** が認証エラーを検出しなかった場合は、[ステータス]フィールドに[保留]と表示されます。 **Agent Deployment** が認証エラーを検出した場合は、[ステータス]フィールドに[失敗]と表示されます。 [失敗]をクリックすると、エラーの原因が表示されます。 続行するには、すべての失敗メッセージを修正する必要があります。
- [次へ]をクリックします。
- すべてのリモート ホストの[ステータス]フィールドに[検証済み]と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- [セットアップ サマリ]ダイアログ ボックスが表示されます。

7. [セットアップ サマリ]ダイアログ ボックスで、指定したコンポーネントおよびホスト名を確認します。
[次へ]をクリックします。
[インストール ステータス]ダイアログ ボックスが開きます。
8. [インストール ステータス]ダイアログ ボックスで[インストール]をクリックします。
Agent Deployment は、指定されたホストの CA ARCserve Backup エージェントをインストールまたはアップグレードします。
すべてのアップグレードが完了すると、[インストール レポート]ダイアログ ボックスが開きます。
[次へ]をクリックします。
9. [再起動]ダイアログ ボックスで、すぐに再起動するリモート ホストの隣のチェックボックスをオンにします。
すべてのリモート ホストを再起動する場合は、[すべて]チェック ボックスをオンにします。
[再起動]をクリックします。
Agent Deployment は、すべてのリモート ホストを再起動します。
注： 再起動が必要なリモート ホストのリストを作成する場合は、[再起動レポートのエクスポート]をクリックします。
10. すべてのリモート ホストの[ステータス]フィールドに[完了]と表示されたら、[終了]をクリックします。

CA ARCserve Backup エージェントがリモート ホストに展開されます。

詳細情報：

[CA ARCserve Backup Agent Deployment](#) (115 ページ)

[カスタム展開を使用したリモート ホストへのエージェントの展開](#) (122 ページ)

カスタム展開を使用したリモート ホストへのエージェントの展開

CA ARCserve Backup Agent Deployment を使用すると、リモート ホストに CA ARCserve Backup エージェントをインストールしたり、リモートホスト上の CA ARCserve Backup エージェントをアップグレードしたりすることができます。カスタム展開では、リモート ホストでインストールおよびアップグレードするエージェントを指定できます。この方式を利用して、CA ARCserve Backup 環境で実行されているすべてのエージェントが CA ARCserve Backup サーバと同じリリース番号を持つようにすることができます。

カスタム展開を使用してリモート ホストに CA ARCserve Backup エージェントを展開する方法

1. CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
[クイック スタート]-[管理]-[Agent Deployment]の順に選択します。
CA ARCserve Backup Agent Deployment が起動し、[ログオン サーバ] ダイアログ ボックスが開きます。
2. [ログオン サーバ]ダイアログ ボックスで必要なフィールドに入力して、[次へ]をクリックします。
[方式]ダイアログ ボックスが開きます。
3. [方式]ダイアログ ボックスから、[カスタム インストール]をクリックし、[次へ]をクリックします。
[コンポーネント]ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [コンポーネント]ダイアログ ボックスから、すべてのリモート ホストにインストールするエージェントを選択し、[次へ]をクリックします。
[ホスト情報]ダイアログ ボックスが表示されます。

5. 以下のいずれかを実行して、リモート ホストの名前を指定します。

- [インポート]をクリックし、テキスト ファイルからリモート ホストのリストをインポートします。

注：ホスト名は、改行で区切る必要があります。複数のテキスト ファイルをインポートできますが、リモート ホストの総数は 1000 以下にする必要があります。

[ホスト]列にホスト名が表示されたら、次の手順に進みます。

- [ホスト名]フィールドのリモート ホスト名を指定し、[追加]をクリックします。

必要なすべてのホスト名が[ホスト]列に表示されるまで、この手順を繰り返します。

[ホスト]列にホスト名が表示されたら、次の手順に進みます。

注：リモート ホストは、1000 まで指定できます。1000 より多くのリモート ホストにエージェントを展開するには、Agent Deployment を再起動するか、別の CA ARCserve Backup プライマリ サーバから Agent Deployment を実行します。

6. 以下を実行して、リモート ホストのユーザ名とパスワードを指定します。

- a. ホスト名の隣の[ユーザ名]フィールドをクリックし、以下の形式を使用してユーザ名を指定します。

<ドメイン名>¥<ユーザ名>

- b. [パスワード]フィールドをクリックし、対応するパスワードを指定します。

- c. すべてのリモート ホストにユーザ名とパスワードを指定するまで、この手順を繰り返します。

または、すべてのリモート ホストのユーザ名とパスワードが同じであれば、[ユーザ]フィールドにユーザ名を指定し(<ドメイン名>¥<ユーザ名>)、[パスワード]フィールドにパスワードを指定し、すべてのチェック ボックスがオンになっていることを確認して、[認証情報の適用]をクリックするという方法もあります。

ユーザ名とパスワードがリストのすべてのリモート ホストに適用されます。

注：[ホストおよび認証情報]リストからホストを削除するには、削除するホストの横にあるチェックボックスをオンにし、[削除]をクリックします。

[次へ]をクリックして続行します。

Agent Deployment は、指定したすべてのホストに対して、指定されたホスト名、ユーザ名、およびパスワードを検証します。Agent Deployment が認証エラーを検出なかった場合は、[ステータス]フィールドに[保留]と表示されます。Agent Deployment が認証エラーを検出した場合は、[ステータス]フィールドに[失敗]と表示されます。[失敗]をクリックすると、エラーの原因が表示されます。続行するには、すべての失敗メッセージを修正する必要があります。

[次へ]をクリックします。

7. すべてのホストの[ステータス]フィールドに[保留]または[検証済み]と表示されたら、[次へ]をクリックします。
[セットアップ サマリ]ダイアログ ボックスが表示されます。
8. [セットアップ サマリ]ダイアログ ボックスで、指定したコンポーネントおよびホスト名を確認します。
[次へ]をクリックします。
[インストール ステータス]ダイアログ ボックスが開きます。
9. [インストール ステータス]ダイアログ ボックスで[インストール]をクリックします。
Agent Deployment は、指定されたホストの CA ARCserve Backup エージェントをインストールまたはアップグレードします。
すべてのインストールとアップグレードが完了すると、[インストール レポート]ダイアログ ボックスが開きます。
10. 以下のいずれかを行います。
 - 再起動が必要なリモート ホストがある場合は、[次へ]をクリックします。
再起動を必要とするリモート ホストを特定する[再起動]ダイアログ ボックスが開きます。
[再起動]をクリックします。
次の手順に進みます。
 - 再起動が必要なリモート ホストがない場合は、[終了]をクリックしてこのタスクを完了します。
11. [再起動]ダイアログ ボックスで、すぐに再起動するリモート ホストの隣のチェックボックスをオンにします。
すべてのリモート ホストを再起動する場合は、[すべて]チェック ボックスをオンにします。
[再起動]をクリックします。
Agent Deployment は、すべてのリモート ホストを再起動します。
注： 再起動が必要なリモート ホストのリストを作成する場合は、[再起動レポートのエクスポート]をクリックします。
12. すべてのリモート ホストの[ステータス]フィールドに[完了]と表示されたら、[終了]をクリックします。

CA ARCserve Backup エージェントがリモート ホストに展開されます。

詳細情報

[CA ARCserve Backup Agent Deployment](#) (115 ページ)

[自動アップグレードを使用したリモート ホストへのエージェントの展開](#) (118 ページ)

仮想マシンの展開を使用した VM へのエージェントの展開

CA ARCserve Backup Agent Deployment を使用すると、ローカル VM やリモート VM に対して CA ARCserve Backup エージェントのインストールおよびアップグレードを実行できます。仮想マシンの展開方式では、ローカル VM やリモート VM にインストールおよびアップグレードするエージェントを指定できます。この方式を利用して、CA ARCserve Backup 環境内の VM で実行されているすべてのエージェントが CA ARCserve Backup サーバと同じリリース番号を持つようにすることができます。

以下の点に注意してください。

- VM に対してエージェントをインストールしたりアップグレードしたりするには、VM の電源がオンになっている必要があります。
- Agent Deployment によって、ESX/ESXi Server システムおよび Hyper-V ホストシステムにあるすべての VM にエージェントがインストールまたはアップグレードされます。

仮想マシンの展開を使用して VM に CA ARCserve Backup エージェントを展開する方法

1. CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。

[クイック スタート]-[管理]-[Agent Deployment]の順に選択します。

CA ARCserve Backup Agent Deployment が起動し、[ログオン サーバ]ダイアログボックスが開きます。

2. [ログオン サーバ]ダイアログ ボックスで必要なフィールドに入力して、[次へ]をクリックします。

[方式]ダイアログ ボックスが開きます。

3. [方式]ダイアログ ボックスから、[仮想マシンの展開]をクリックし、[次へ]ボタンをクリックします。

[コンポーネント]ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [コンポーネント]ダイアログ ボックスから、すべてのリモート ホストにインストールするエージェントを選択し、[次へ]をクリックします。

[ホスト情報]ダイアログ ボックスが表示されます。

5. 以下のいずれかを実行して、VM に含まれるリモート ホストの名前を指定します。

- [インポート]をクリックし、テキスト ファイルからリモート ホストのリストをインポートします。

注：ホスト名は、改行で区切る必要があります。複数のテキスト ファイルをインポートできますが、リモート ホストの総数は 1000 以下にする必要があります。

[ホスト]列にホスト名が表示されたら、次の手順に進みます。

- [更新]をクリックし、CA ARCserve Backup データベースから既存の VM をインポートします。

[ホスト]列にホスト名が表示されたら、次の手順に進みます。

- [ホスト名]フィールドのリモート ホスト名を指定し、[追加]をクリックします。

注：必要なすべてのホスト名が[ホスト]列に表示されるまで、この手順を繰り返します。

[ホスト]列にホスト名が表示されたら、次の手順に進みます。

注：リモート ホストは、1000 まで指定できます。1000 より多くのリモート ホストにエージェントを展開するには、Agent Deployment を再起動するか、別の CA ARCserve Backup プライマリ サーバから Agent Deployment を実行します。

6. 以下を実行して、リモート ホストのユーザ名とパスワードを指定します。
 - a. ホスト名の隣の[ユーザ名]フィールドをクリックし、以下の形式を使用してユーザ名を指定します。
`<ドメイン名>\<ユーザ名>`
 - b. [パスワード]フィールドをクリックし、対応するパスワードを指定します。
 - c. すべてのリモート ホストにユーザ名とパスワードを指定するまで、この手順を繰り返します。

または、すべてのリモート ホストのユーザ名とパスワードが同じであれば、[ユーザ]フィールドにユーザ名を指定し(<ドメイン名>\<ユーザ名>)、[パスワード]フィールドにパスワードを指定し、すべてのチェック ボックスがオンになっていることを確認して、[認証情報の適用]をクリックするという方法もあります。

ユーザ名とパスワードがリストのすべてのリモート ホストに適用されます。

注：[ホストおよび認証情報]リストからホストを削除するには、削除するホストの横にあるチェックボックスをオンにし、[削除]をクリックします。

[次へ]をクリックして続行します。

Agent Deployment は、指定したすべてのホストに対して、指定されたホスト名、ユーザ名、およびパスワードを検証します。**Agent Deployment** が認証エラーを検出なかった場合は、[ステータス]フィールドに[保留]と表示されます。**Agent Deployment** が認証エラーを検出した場合は、[ステータス]フィールドに[失敗]と表示されます。[失敗]をクリックすると、エラーの原因が表示されます。続行するには、すべての失敗メッセージを修正する必要があります。

[次へ]をクリックします。

7. すべてのホストの[ステータス]フィールドに[保留]または[検証済み]と表示されたら、[次へ]をクリックします。
[セットアップ サマリ]ダイアログ ボックスが表示されます。
8. [セットアップ サマリ]ダイアログ ボックスで、指定したコンポーネントおよびホスト名を確認します。

[次へ]をクリックします。

[インストール ステータス]ダイアログ ボックスが開きます。

9. [インストール ステータス]ダイアログ ボックスで[インストール]をクリックします。
Agent Deployment は、指定されたホストの CA ARCserve Backup エージェントをインストールまたはアップグレードします。
すべてのインストールとアップグレードが完了すると、[インストール レポート]ダイアログ ボックスが開きます。
10. 以下のいずれかを行います。
 - 再起動が必要なリモート ホストがある場合は、[次へ]をクリックします。
再起動を必要とするリモート ホストを特定する[再起動]ダイアログ ボックスが開きます。
[再起動]をクリックします。
次の手順に進みます。
 - 再起動が必要なリモート ホストがない場合は、[終了]をクリックしてこのタスクを完了します。
11. [再起動]ダイアログ ボックスで、すぐに再起動するリモート ホストの隣のチェックボックスをオンにします。
すべてのリモート ホストを再起動する場合は、[すべて]チェック ボックスをオンにします。
[再起動]をクリックします。
Agent Deployment は、すべてのリモート ホストを再起動します。
注: 再起動が必要なリモート ホストのリストを作成する場合は、[再起動レポートのエクスポート]をクリックします。
12. すべてのリモート ホストの[ステータス]フィールドに[完了]と表示されたら、[終了]をクリックします。
CA ARCserve Backup エージェントが VM に展開されます。

現在のリリースへの CA ARCserve Backup エージェントのサイレント アップグレード

システムにインストールされている別の ARCserve リリースから現在のリリースにエージェントをアップグレードする状況で必要となることがあります。 エージェントとエージェントのリリース番号を識別する処理、およびそのアップグレードを実行する処理には時間がかかる場合があります。

Windows のコマンドラインから MasterSetup をサイレントに実行すると、このタスクを簡単に行うことができます。これによって、システムにインストールされているすべての CA ARCserve Backup エージェントが現在のリリースにアップグレードされます。

このタスクはいくつかの方法で完了できます。

- インストール メディアから **MasterSetup** を直接実行する。ターゲット(リモート)システム上のすべてのエージェントをアップグレードする構文を指定する。
- インストール メディアがネットワークにマウントされている場合はオプティカル ドライブを共有する。ターゲット(リモート)システムからコマンドを実行して、ローカル システム上のすべてのエージェントをアップグレードする構文を指定する。
- ネットワーク共有を作成し、インストール メディアの内容全体を共有ディレクトリにコピーする。ターゲット(リモート)システムからコマンドを実行して、ローカル システム上のすべてのエージェントをアップグレードする構文を指定する。

コマンド ラインから **MasterSetup** を実行した場合、CA ARCserve Backup ベース製品と CA ARCserve Backup オプションをアップグレードすることはできません。

MasterSetup はインストール メディアの次のディレクトリにインストールされます。

```
<drive>%Install%mastersetup.exe
```

CA ARCserve Backup エージェントを現在のリリースにアップグレードする方法

1. 「[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード](#) (100 ページ)」に説明されている手順を完了します。
2. 「[サイレント インストール レスポンス ファイルの作成](#)」(108 ページ)に説明されている手順を使用してレスポンス ファイルを作成します。
3. アップグレード処理が完了し、レスポンス ファイルを作成した後、Windows のコマンド ラインを開き、**MasterSetup** にアクセスできるディレクトリに移動します。

次の構文を使用して **MasterSetup** を実行します。

```
MasterSetup [/?] [/D] [/H:<ホスト名>] [/U:<ユーザ名>] [/P:<パスワード>] [/I:<Icf パス>] [/AU] [/O]
```

注: 角カッコ [] は、カッコ内の引数がオプションであることを示しています。山型カッコ <> は、カッコ内の引数が必須であることを示しています。

/?

このコマンドの使用法を示します。

/D

インストールのステータスを示します。

/H

ターゲット システムのホスト名を指定します。

/U

ターゲット システムのユーザ名を指定します。

/P

ターゲット システム上のユーザ名に対するパスワードを指定します。

/I

レスポンス ファイルの場所を指定します。

/AU

サイレント アップグレードを実行することを指定します。

注： この引数では、ローカル システムにインストールされているすべてのエージェントをアップグレードできます。

/O

出力ファイルの場所を指定します。この引数を使用するには、/AU 引数を指定する必要があります。

実行が完了すると、指定されたシステムにインストールされているすべてのエージェントがこのリリースにアップグレードされます。

注： MasterSetup が CA ARCserve Backup ベース製品がターゲット システムにインストールされていることを検出すると、アップグレード処理は失敗します。

例: MasterSetup 構文

次の例は、computer001 にインストールされたすべてのエージェントをこのリリースにアップグレードするために必要な構文を説明したものです。ユーザはプライマリ サーバにログインしていて、ユーザ名は administrator、パスワードは test-001 です。

```
mastersetup /h:computer001 /u:administrator /p:test-001 /au
```

次の例は、ローカル システムにインストールされているすべてのエージェントをアップグレードするために必要な構文を説明したものです。ユーザは管理者権限を持つユーザ アカウントでターゲット システムにログインする必要があります。

```
mastersetup /au
```

Unicenter Software Delivery を使用して CA ARCserve Backup をインストールする方法

マスタ セットアップは、CA ARCserve Backup のメイン インストール プログラムです。CA ARCserve Backup コンポーネントのインストールには、マスタ セットアップを使用する代わりに、サイレント インストールを実行したり、Unicenter Software Delivery を使用することができます。以下のセクションでは、これらの代替方法によるインストールについて説明します。

重要: Unicenter Software Delivery を使用して、CA ARCserve Backup サーバ コンポーネント(プライマリ サーバ、メンバ サーバ、および Data Mover サーバ)をインストールすることはできません。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA ARCserve Backup を Unicenter Software Delivery サーバで登録する](#) (131 ページ)

[コンポーネントと前提条件](#) (132 ページ)

[Unicenter Software Delivery を使用して CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする](#) (136 ページ)

CA ARCserve Backup を Unicenter Software Delivery サーバで登録する

Unicenter Software Delivery は、一元化された場所からソフトウェアの配布、インストール、検証、更新、およびアンインストールを実行できる柔軟なツールです。Unicenter Software Delivery を導入済みの場合は、このツールを使用して CA ARCserve Backup を配布およびインストールできます。Unicenter Software Delivery の設定および使用法の詳細については、Unicenter Software Delivery のマニュアルを参照してください。

Unicenter Software Delivery を使用して CA ARCserve Backup を配布およびインストールするには、あらかじめ製品を Unicenter Software Delivery サーバ上に登録しておく必要があります。以下の手順では、CA ARCserve Backup を Unicenter Software Delivery サーバ上で登録する方法を説明します。

CA ARCserve Backup を Unicenter Software Delivery サーバで登録する方法

1. CA ARCserve Backup インストール メディアをオプティカル ドライブに挿入して、SD Packages フォルダを参照します。
2. SDRRegister.exe をダブルクリックします。
[登録する製品を選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 登録するパッケージを個々に選択します。
[使用許諾契約]ダイアログ ボックスが表示されます。

注：登録を続行するには、選択した各製品の使用許諾契約に同意する必要があります。

4. 登録する製品を選択したら、[次へ]をクリックして続行します。

Unicenter Software Delivery の[ユーザの詳細]ダイアログ ボックスが表示されます。

5. 必須情報を以下のフィールドで指定します。

- USD サーバ
- ユーザ ID
- ドメイン
- パスワード

注：上のフィールドを空のままにすると、Unicenter は選択した製品を、現在のシステム アカウント認証情報を使用して登録を試みます。

6. [次へ]をクリックします。

選択したすべてのパッケージが登録されて、Unicenter Software Delivery Explorer に追加されます。

コンポーネントと前提条件

以下の表では、Unicenter Software Delivery で登録可能な CA ARCserve Backup コンポーネントのコンポーネントとその前提条件をリストします。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

コンポーネント	前提条件
Windows Client Agent	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ

コンポーネント	前提条件
Client Agent for 64bit Windows Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ CA ETPKI for Windows 64 ビット ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ

CA ARCserve Backup エージェント

コンポーネント	前提条件
CA ARCserve Backup Agent for Open Files	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Open Files 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ CA ETPKI for Windows 64 ビット ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ CA ETPKI for Windows 64 ビット ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Informix	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package

コンポーネント	前提条件
	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Oracle	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Oracle 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ CA ETPKI for Windows 64 ビット ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup for Microsoft SQL Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup for Microsoft SQL Server 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ CA ETPKI for Windows 64 ビット ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Sybase	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス

コンポーネント	前提条件
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ CA ETPKI for Windows 64 ビット ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ

CA ARCserve Backup オプション

コンポーネント	前提条件
CA ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R/3	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R/3 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ CA ETPKI for Windows 64 ビット ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ
CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA ETPKI for Windows ■ CA ETPKI for Windows 64 ビット

コンポーネント	前提条件
	<ul style="list-style-type: none"> ■ Microsoft Installer および Microsoft Visual C++ Redistributable Package ■ CA ライセンス ■ CA ARCserve インストーラ アシスタント ユーティリティ

インストールしたコンポーネントには、各種のプロシージャが定義されています。ほとんどのコンポーネントに以下のものが含まれています。

- ローカル インストール: コンポーネントをインストールします
- ローカル アンインストール: コンポーネントをアンインストールします

重要: 上記のコンポーネントの多くには前提条件があり、インストール前にそれらの条件を満たしておく必要があります。コンポーネントを適切にインストールおよび実行できるように、インストール先のマシンを正しく設定しておいてください。正しい設定については、それぞれのエージェントおよびオプションのマニュアルを参照してください。

Unicenter Software Delivery を使用して CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする

CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールするには、Unicenter Software Delivery ジョブの作成時に、あらかじめ生成しておいたレスポンス ファイルを指定する必要があります。

注: レスポンス ファイル作成の詳細については、[「サイレント インストール レスポンス ファイルの作成」](#)(108 ページ)を参照してください。

Unicenter Software Delivery を使用して CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする方法

1. Unicenter Software Delivery Explorer で、使用するインストール手順を右クリックします。

インストール先のコンピュータまたはコンピュータのグループにドラッグして、表示されるメニューから[ジョブのスケジュール]オプションを選択します。

[ジョブの設定]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [ジョブ オプション]タブの[ユーザ パラメータ]フィールドに、以下の構文と引数でレスポンス ファイルを指定します。

ICFPATH={レスポンス ファイルへのフル パス}

例:

ICFPATH=¥¥sdo-server¥sdlib¥¥responsefiles¥setup.icf.

sdo-server

Unicenter Software Delivery サーバを指定します。

setup.icf

MasterSetup.exe を使用して作成されたレスポンス ファイルの名前を指定します。

ジョブによって、ターゲット コンピュータ上のインストール プログラムが実行されると、Unicenter Software Delivery サーバに保存したレスポンス ファイルから設定情報が読み込まれます。

注: CA ETPKI for Windows のインストールに失敗した場合は、このジョブをダブルクリックしてリターン コードを表示します。リターン コードが 1 か 2 の場合は、ターゲット システムを再起動して、この手順を繰り返してください。

インストール後の作業

CA ARCserve Backup をインストールまたはアップグレードした後、必ず以下の作業を完了してください。

- 環境設定が必要なエージェントまたはオプションをインストールした場合、適切なエージェントまたはオプションのマニュアルを参照してください。CA ARCserve Backup のマニュアルは、インストール メディアまたは CA ARCserve Backup マネージャ コンソールのヘルプ メニューからアクセスできます。
- すべてのジョブがスケジュール通りに起動するようにするため、プライマリ サーバとそのメンバ サーバ間のシステム時間を同一時刻にしてください。

注: Windows タイム サービスを使用して、ドメイン内のすべての CA ARCserve Backup サーバ上の時間を同期してください。

- CA ARCserve Backup データベース保護ジョブをセットアップします。詳細については、[「CA ARCserve Backup データベース保護ジョブの開始」](#)(226 ページ)、または「管理者ガイド」を参照してください。

第 5 章：クラスタ対応環境での CA ARCserve Backup のインストールとアップグレード

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[クラスタ対応インストールの概要](#) (139 ページ)

[展開に関する考慮事項](#) (139 ページ)

[CA ARCserve Backup HA 展開の計画](#) (140 ページ)

[MSCS での CA ARCserve Backup サーバの展開](#) (142 ページ)

[CA ARCserve Backup サーバの NEC クラスタへの展開](#) (169 ページ)

[クラスタ対応インストールおよびアップグレードの確認方法](#) (204 ページ)

クラスタ対応インストールの概要

ジョブ フェールオーバー機能のあるクラスタ環境への CA ARCserve Backup のインストールは、以下のクラスタ プラットフォームで可能です。

- x86/x64/IA64 Windows Server の Microsoft Cluster Server (MSCS)
- NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster for Windows 8.0、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster X 1.0 for Windows、および CLUSTERPRO/ExpressCluster X 2.0 for Windows.

展開に関する考慮事項

クラスタ環境への CA ARCserve Backup の展開を開始する前に、次の事項を考慮する必要があります。

- **サポートされているオペレーティング システム** -- CA ARCserve Backup は、Windows Server 2008 システム上のクラスタ対応インストールをサポートしません。サポートされているオペレーティング システムの詳細については、CA ARCserve Backup Readme ファイルを参照してください。
- **必要なクラスタ リソース** -- 他のクラスタ対応アプリケーションと同様に、CA ARCserve Backup HA サーバは、自身を共有ディスクや仮想名/IP アドレスなどのクラスタ リソースとバインドする必要があります。クラスタ リソースをグループ化することにより、CA ARCserve Backup を既存のグループにインストールしてそのグループにすでに確立されている既存のクラスタ リソースにバインドしたり、CA ARCserve Backup 展開用の専用グループを作成することができます。

- **特殊なインストール/環境設定** -- CA ARCserve Backup をすべてのクラスタ ノードに展開するには、すべてのノードに同じ CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールし、それらに同じ設定を適用する必要があります。CA ARCserve Backup のシステム アカウントは、各クラスタ ノードにインストールされているすべての CA ARCserve Backup サーバで統一する必要があります。

注：クラスタ マシンのセットアップ プログラムは CA ARCserve Backup ベース製品または CA ARCserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートしていません。CA ARCserve Backup エージェント(たとえば Agent for Microsoft SQL Server または Agent for Microsoft Exchange Server)に関するこのリモート インストールの制限は、仮想ホストを使用している場合のみ当てはまります。クラスタの物理ホストを使用した CA ARCserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートされています。

- **フェールオーバーをトリガする仕組み** -- CA ARCserve Backup には、独自のクラスタリソースのダイナミック リンク ライブラリ機能(DLL)およびスクリプトが用意されていて、クラスタ サービス機能を拡張して、CA ARCserve Backup の障害を監視、検出します。仮想サーバのネットワーク名や IP アドレスにより、CA ARCserve Backup が単一のシステムとして認識され、クラスタ管理ツールの機能を活用できます。
- **アップグレード** -- すべての CA ARCserve Backup サービスが適切に開始されるようにするには、アップグレード処理が完了した後、CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開く前に、cstop および cstart のスクリプトを実行する必要があります。BrightStor ARCserve Backup r11.5 (GA リリースおよび最新のサービスパックを含む)、CA ARCserve Backup r12 (GA リリースおよび最新のサービスパックを含む)、および CA ARCserve Backup r12.5 (GA リリースおよび最新のサービスパックを含む)から本リリースにアップグレードする場合、このタスクを実行する必要があります。

cstop および cstart のバッチ ファイルは、CA ARCserve Backup サーバの CA ARCserve Backup インストール ディレクトリに格納されています。

注：cstop および cstart の使用の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

CA ARCserve Backup HA 展開の計画

High Availability (HA)はフォールトトレラント システムと結びついていることが多く、コンポーネントの障害や計画された停止時においてもシステムが稼働を継続できます。フォールトトレラントなシステムでコンポーネントの障害が 1 つ発生しても、ユーザーに意識させることなく代替コンポーネントがそのタスクを引き継ぐため、システムが中断することはありません。CA ARCserve Backup における一元管理機能を維持するには、24 時間 365 日のデータ保護を提供する高可用性はますます重要になっています。特に、CA ARCserve Backup ドメインの一元管理センターとして主要な役割を果たすプライマリ サーバにとって重要といえます。

CA ARCserve Backup サーバのクラスタ対応インストールを実行する前に、以下を考慮する必要があります。

クラスタ対応として展開される CA ARCserve Backup サーバの決定

一元管理環境では、通常、クラスタ保護により HA 機能を実現するには CA ARCserve Backup プライマリ サーバが適した候補として考えられます。しかし、クラスタのメンバ サーバもサポートされます。

注：クラスタ マシンのセットアップ プログラムは CA ARCserve Backup ベース製品または CA ARCserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートしていません。CA ARCserve Backup エージェント(たとえば Agent for Microsoft SQL Server または Agent for Microsoft Exchange Server)に関するこのリモート インストールの制限は、仮想ホストを使用している場合のみ当てはまります。クラスタの物理ホストを使用した CA ARCserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートされています。

CA ARCserve Backup HA サーバとして展開されるクラスタ ノードの決定

クラスタ システムには、いくつかのクラスタ ノードが含まれる場合があります。クラスタ環境では、アクティブなノードとして設定された 1 つのノードと、パッシブ ノードとして設定された 1 つ以上のノードが必要です。通常は「アクティブ × 1 + パッシブ × 1」ソリューションが使用されますが、「アクティブ × 1 + パッシブ × 複数」ソリューションを使用することも可能です。

CA ARCserve Backup のインストール先

実運用環境では、1 つのクラスタ システムを複数のクラスタ対応アプリケーションが共有する場合もあります。各々のクラスタ対応アプリケーションには、独自の仮想名と IP アドレス、および専用の共有ディスクが必要です。CA ARCserve Backup の展開には、以下の 3 つの選択肢があります。

- CA ARCserve Backup を、専用グループにインストールする

仮想名/IP アドレスおよび共有ディスクのコンテナとして専用グループを作成し、CA ARCserve Backup をこの新しいグループに展開することが推奨されます。この方法の利点は、フェールオーバーのリスクをグループ内にとどめ、他のアプリケーションには及ばないようにできることです。たとえば、CA ARCserve Backup サーバのフェールオーバーが SQL Server に影響を及ぼすことはありません。

- CA ARCserve Backup を、他のアプリケーションが作成した既存グループにインストールする

他のクラスタ対応アプリケーション(SQL Server Cluster など)はそれぞれ独自のグループを作成して、アプリケーションが指定したリソースを管理します。CA ARCserve Backup をこれらと同じグループの共有ディスクにインストールし、既存のアプリケーションとグループを共有することができます。

使用する CA ARCserve Backup データベース タイプの決定

CA ARCserve Backup プライマリ サーバは、バックエンド データベースとして、ローカル Microsoft SQL Server 2008 Express Edition、およびローカルまたはリモートの Microsoft SQL Server の使用をサポートしています。ただし、クラスタ対応プライマリサーバがサポートしているのは、以下のシナリオのみです。

- Microsoft SQL Server 2008 Express Edition (SQLE)

SQL Server クラスタを購入せず、限られた SQL Server 2008 Express の機能で十分であるならば、それが一番よい選択肢です。

注: MSCS クラスタ環境では、ARCserve データベース (ASDB) が SQLE である場合、CA ARCserve Backup データベース サマリ(データベース マネージャ上)はインストール パスの物理名を仮想名の代わりに表示します。

- ローカル Microsoft SQL Server クラスタ

既存の SQL Server クラスタが実稼動環境に存在する場合は、そのクラスタを CA ARCserve Backup のデータベースとして使用できます。

注: CA ARCserve Backup では、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster 環境において、CA ARCserve Backup データベースに Microsoft SQL Server をローカルでインストールすることはできません。

- リモート Microsoft SQL Server

リモート SQL Server を CA ARCserve Backup データベースとして選択することもでき、これにより 24 時間 365 日の安定したサービスが提供されます。

MSCS での CA ARCserve Backup サーバの展開

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[MSCS ハードウェア要件](#) (143 ページ)

[MSCS ソフトウェア要件](#) (143 ページ)

[MSCS クラスタ リソースの準備](#) (143 ページ)

[CA ARCserve Backup の MSCS クラスタ対応環境へのインストール](#) (145 ページ)

[MSCS クラスタ環境での CA ARCserve Backup r11.5 から r15 へのアップグレード](#) (156 ページ)

[MSCS クラスタ環境で CA ARCserve Backup を r12/12.5 から直接 r15 へアップグレードする方法](#) (163 ページ)

[CA ARCserve Backup の MSCS クラスタからのアンインストール](#) (167 ページ)

[CA ARCserve Backup クラスタ リソースの削除](#) (168 ページ)

MSCS ハードウェア要件

CA ARCserve Backup を MSCS クラスタに展開するためには、システムが以下のハードウェア要件を満たしている必要があります。

- すべてのクラスタ ノードは、同一機種のハードウェア (SCSI アダプタ、ファイバ チャネル アダプタ、RAID アダプタ、ネットワーク アダプタ、ハード ディスクなど) で構成されている必要があります。
- ディスク デバイスとテープ デバイスには、それぞれ異なる SCSI アダプタ/ファイバ チャネル アダプタを使用してください。

注: 環境設定を容易にし、互換性の問題を回避するためにも、すべてのノードで同一のハードウェアを使用することをお勧めします。

MSCS ソフトウェア要件

CA ARCserve Backup を MSCS クラスタに展開するためには、システムが以下のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

- CA ARCserve Backup は、以下のオペレーティング システム上でクラスタ対応環境設定をサポートします。
 - Windows Server 2003 x86
 - Windows Server 2003 x64

注: Windows Server 2008 と Windows Server 2008 r2 オペレーティング システムは、クラスタ対応の実装をサポートしません。

- HA プラットフォームが MSCS クラスタ用に環境設定されている

MSCS クラスタ リソースの準備

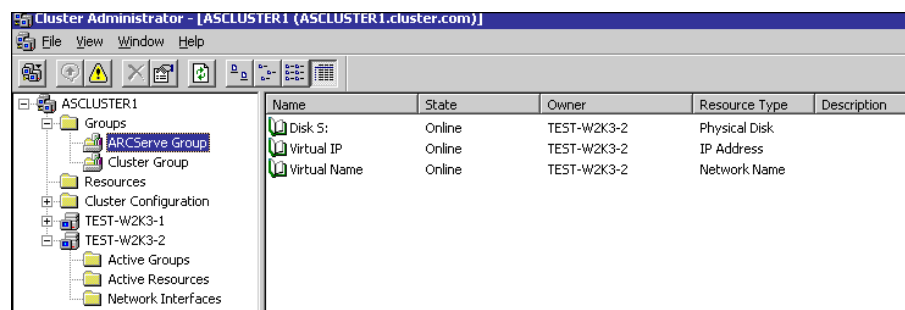
CA ARCserve Backup を専用のグループにインストールする場合は、仮想 IP アドレス、仮想名、共有ディスクなどの必須のリソースを新しい専用グループへ作成する必要があります。

注: クラスタ アドミニストレータは Microsoft が提供するユーティリティであり、MSCS がインストール済みのサーバにインストールされています。クラスタ アドミニストレータでは、クラスタに関連したほとんどの環境設定および管理タスクを実行できます。

以下の画面の例では、3 つの関連リソースを持つ「ARCserve Group」という名前のグループが CA ARCserve Backup インストールについて作成されます。

- 共有ディスク S:
- 仮想 IP アドレス
- 仮想名

後で、共有ディスク S にあるパスへの CA ARCserve Backup のインストールを選択できます。



同じグループを既存のアプリケーションと共有する場合は、新しいリソースを作成する必要はありません。同じ画面の例で、CA ARCserve Backup を「クラスタ グループ」にインストールし、クォーラム ディスク、管理仮想 IP アドレス、および仮想名とバインドできます。

注： クラスタ グループは、MSCS のセットアップ中、クラスタが作成される際に作られたデフォルトのリソース グループ名です。クラスタ グループはクォーラム ディスク リソース、仮想 IP アドレスおよび仮想名で構成され、クラスタを管理するために使用されます。クォーラム リソースが入っているディスクはクォーラム ディスクと呼ばれ、デフォルト クラスタ グループのメンバである必要があります。

CA ARCserve Backup の MSCS クラスタ対応環境へのインストール

インストール ウィザードを使用して、MSCS クラスタ対応環境に CA ARCserve Backup をインストールできます。

MSCS クラスタ対応環境に CA ARCserve Backup をインストールする方法

1. CA ARCserve Backup インストール メディアをコンピュータのオプティカル ドライブに挿入します。

注： CA ARCserve Backup インストール ブラウザが表示されない場合は、Setup.exe をインストール メディアのルート ディレクトリから実行してください。

[製品のインストール]ブラウザの右側のコラムで、[CA ARCserve Backup for Windows のインストール]をクリックします。

[前提条件コンポーネント]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [インストール] をクリックして、前提条件コンポーネントをインストールします。

以下の動作に注意してください。

- [前提条件コンポーネント]ダイアログ ボックスは、ターゲット コンピュータにインストールされている CA ARCserve Backup 前提条件コンポーネントが検出されなかった場合にのみ表示されます。
- セットアップによって Microsoft SQL Server 2008 Express Edition がインストールされる場合、コンピュータを再起動し上記の手順を繰り返す必要があります。

注： クラスタ対応環境内のアクティブ ノードに CA ARCserve Backup をインストールする場合は、アクティブ ノードが再起動する間に、アクティブ ノードからパッシブ ノードにクラスタ リソースが移動されます。アクティブ ノードが再起動したら、元のアクティブ ノードにクラスタ リソースを移動する必要があります。

3. [使用許諾契約]ダイアログ ボックスで、使用許諾契約の条件に同意して[次へ]をクリックします。
4. 表示されるプロンプトに従って、ダイアログ ボックスに必要なすべての情報を記入します。

次のリストは、CA ARCserve Backup のインストールに関するダイアログ ボックス固有の情報について説明しています。

インストール/アップグレードの種類の選択ダイアログ ボックス

リモート インストール オプションを選択すると、CA ARCserve Backup を複数のシステムにインストールできます。

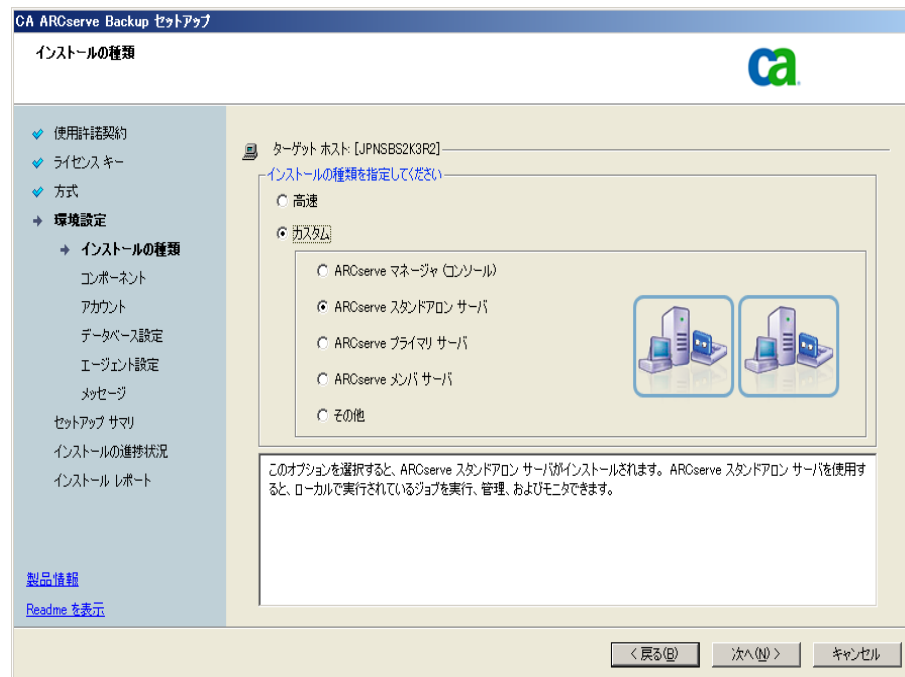
リモート インストールでは、ターゲットのリモート システムを異なる ARCserve サーバ タイプ、異なる CA ARCserve Backup エージェントとオプション、またはその両方で構成することができます。

注： クラスタ マシンのセットアップ プログラムは CA ARCserve Backup ベース製品または CA ARCserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートしていません。CA ARCserve Backup エージェント(たとえば Agent for Microsoft SQL Server または Agent for Microsoft Exchange Server)に関するこのリモート インストールの制限は、仮想ホストを使用している場合のみ当てはまります。クラスタの物理ホストを使用した CA ARCserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートされています。

[インストールの種類]ダイアログ ボックス

インストールの種類として[高速]または[カスタム]を選択することによって、インストールする CA ARCserve Backup コンポーネントの種類を指定できます。

注： 以前のリリースからアップグレードする場合、インストール ウィザードでは、現在の ARCserve 設定を検出し、新しいインストールに適切なインストール/アップグレードの種類を選択します。詳細については、「[CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ](#) (64 ページ)」および「[CA ARCserve Backup サーバのオプション](#) (68 ページ)」を参照してください。



[コンポーネント]ダイアログ ボックス

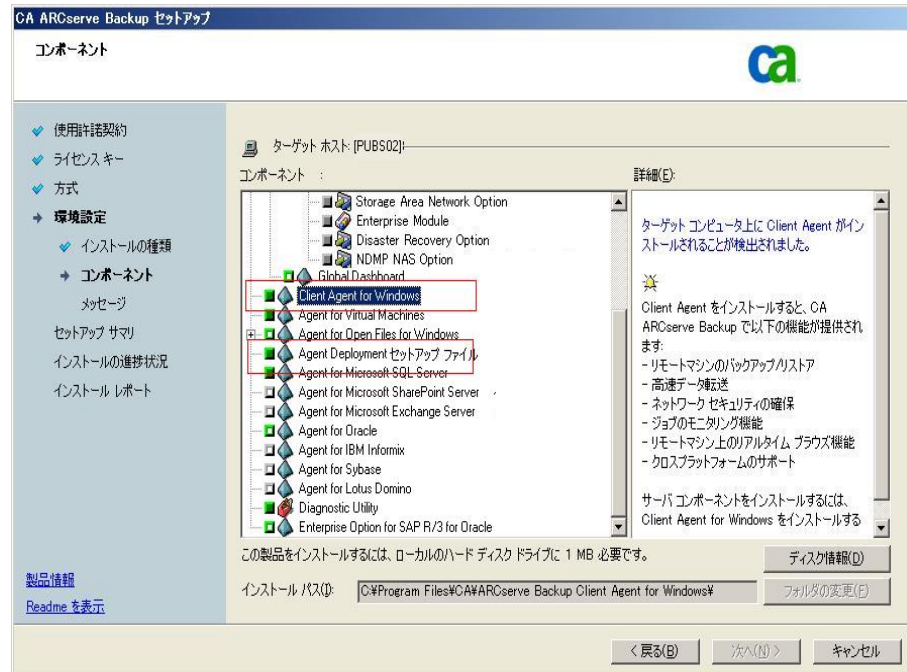
ターゲット システムにインストールする CA ARCserve Backup コンポーネントを指定できます。

以下の点に注意してください。

- プライマリ サーバをインストールするには、プライマリ サーバに CA ARCserve Backup Central Management Option をインストールする必要があります。
- メンバ サーバをインストールするには、インストール ウィザードがネットワーク内の CA ARCserve Backup ドメイン名とプライマリ サーバ名を検出する必要があります。したがって、メンバ サーバ インストールを実行する前に、少なくとも 1 つのプライマリ サーバ インストールを完了しておく必要があります。

- **CA ARCserve Backup** オブジェクトまたはサーバ オブジェクトを[製品の選択]ダイアログ ボックスでクリックすると、インストール ウィザードでは、[インストール/アップグレードの種類]ダイアログ ボックスで指定したインストールの種類に関係なく、デフォルトのスタンドアロン サーバ インストールコンポーネントが指定されます。正しいコンポーネントをインストールするには、サーバ オブジェクトを展開し、インストールする **CA ARCserve Backup** サーバのタイプのオブジェクトを展開して、インストールするコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。
- **Agent Deployment** は、CA ARCserve Backup をインストールした後で、CA ARCserve Backup エージェントを複数のリモート システムにインストールしてアップグレードできるウィザード形式のアプリケーションです。この機能をサポートするには、セットアップ プログラムで **Setup** ソース ファイルを CA ARCserve Backup サーバに コピーする必要があります。インストール メディアのコンテンツを CA ARCserve Backup サーバにコピーするには、[コンポーネント]ダイアログ ボックスで **Agent Deployment** を選択する必要があります。Agent Deployment を選択すると、CA ARCserve Backup のインストールまたはアップグレードに要する時間がかかります。
- リモート インストールまたはサイレント インストールを実行する場合、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows を CA ARCserve Backup ベース製品と同じディレクトリにインストールしないでください。
- **Global Dashboard** はプライマリ サーバ、スタンドアロン サーバおよびメンバ サーバにインストールできます。ただし、メンバ サーバをセントラルプライマリ サーバおよびブランチ プライマリ サーバとして機能するように設定することはできません。セントラル プライマリ サーバおよびブランチプライマリ サーバの詳細については、「Dashboard ユーザ ガイド」を参照してください。

以下の図では、Client Agent for Windows のデフォルトのインストール パスが表示されていて、Agent Deployment が指定されています。



[アカウント]ダイアログ ボックス

CA ARCserve Backup アカウントを設定できます。

セットアップ中に、クラスタ対応アプリケーションが環境内で実行されていることが検出された場合、CA ARCserve Backup をクラスタ対応環境にインストールするには、[クラスタ環境インストール]オプションを選択して CA ARCserve Backup をインストールする共有ディスクのパスを指定します。

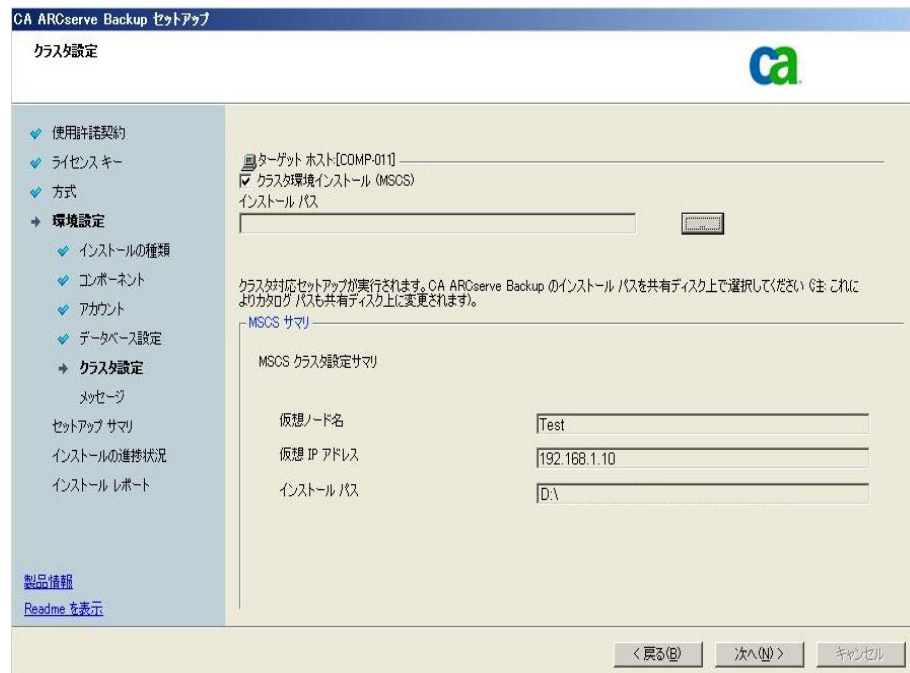
注：CA ARCserve Backup サーバ名と CA ARCserve Backup ドメイン名は、15 バイト以内である必要があります。合計 15 バイトの名前は、約 7 ～ 15 文字に相当します。



The image shows the 'CA ARCserve Backup セットアップ' (Setup) window, specifically the 'アカウント' (Account) tab. The left sidebar contains a list of setup steps: '使用許諾契約' (License Agreement), 'ライセンス キー' (License Key), '方式' (Edition), '環境設定' (Environment Settings), 'インストールの種類' (Installation Type), 'コンポーネント' (Components), 'アカウント' (Account), 'データベース設定' (Database Settings), 'エージェント設定' (Agent Settings), 'メッセージ' (Messages), 'セットアップ サマリ' (Setup Summary), 'インストールの進捗状況' (Installation Progress), and 'インストール レポート' (Installation Report). The 'アカウント' tab is selected. The main area is titled 'アカウント' and features the CA logo. It contains two sections for account configuration. The first section, 'Windows 管理者アカウントを指定します' (Specify Windows administrator account), includes fields for 'Microsoft Windows ドメイン(U):' (set to 'SMALLBUSINESS1'), 'Microsoft Windows ユーザー名(U):' (set to 'administrator'), and 'パスワード(P):' (masked with asterisks). The second section, 'CA ARCserve Backup ドメイン アカウントを指定します' (Specify CA ARCserve Backup domain account), includes fields for 'CA ARCserve Backup ドメイン(A):' (set to 'JPNSBS2K3R2'), 'CA ARCserve Backup サーバ' (set to 'JPNSBS2K3R2'), 'ユーザー名' (set to 'caroot'), 'パスワード(W):' (masked), and 'パスワードの確認(C):' (masked). There is a checkbox for 'パスワードを保存する(B)' (Save password) which is unchecked. At the bottom right, there are buttons for '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

[クラスタ設定]ダイアログ ボックス

[クラスタ設定]ダイアログ ボックスは、クラスタ対応環境に CA ARCserve Backup をインストールすることをセットアップが検出した場合にのみ表示されます。続行するには、このダイアログ ボックスのすべてのフィールドに記入する必要があります。



クラスタのインストールについては、以下がデータベース インストール時の注意事項になります。

- CA ARCserve Backup は、NEC CLUSTERPRO 環境においては、Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup サーバにローカル インストールすることはできません。従って、ARCserve データベース インスタンスをリモート システムにインストールする必要があります。
- ARCserve データベース インスタンスと CA ARCserve Backup のインストールが同じクラスタに配置されていない場合、SQL Server の種類に「リモート」を選択する必要があります。

[データベースの設定]ダイアログ ボックス

CA ARCserve Backup データベースを設定できます。

このダイアログ ボックスで、データベース アプリケーション (ARCserve のデフォルトのデータベースまたは Microsoft SQL Server) を指定するか、必須フィールドの入力を完了した後、[次へ] をクリックします。

注：Unicode ベースの東アジア言語文字 (JIS2004 など) を含むデータを保護する必要がある場合は、CA ARCserve Backup のデータ検索および並べ替えを可能にするために SQL 照合順序を有効にする必要があります。これを行うには、[東アジア言語の照合順序] をクリックしてドロップダウン リストから言語を選択します。

The screenshot shows the 'CA ARCserve Backup セットアップ' (CA ARCserve Backup Setup) window with the 'データベース設定' (Database Configuration) tab selected. The left sidebar contains a navigation menu with options like '使用許諾契約' (License Agreement), 'ライセンスキー' (License Key), '方式' (Edition), '環境設定' (Environment Settings), 'インストールの種類' (Installation Type), 'コンポーネント' (Components), 'アカウント' (Accounts), 'データベース設定' (Database Configuration), 'メッセージ' (Messages), 'セットアップ サマリ' (Setup Summary), 'インストールの進捗状況' (Installation Progress), and 'インストール レポート' (Installation Report). The main area is divided into sections for database selection, installation paths, data file paths, and SQL collation settings.

データベース設定

ターゲット ホスト[JPN-TEMPLATE]
データベースの種類を選択してください: **ARCserve デフォルトデータベース**

ARCserve デフォルト データベースのインストール パスを指定します

☒ デフォルト インストール パス: C:\Program Files\Microsoft SQL Server
☐ カスタム パスを選択する: []

ARCserve デフォルト データベースのデータ ファイル パス

☒ デフォルト インストール パス: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10.ARCSEVER\DB\MSSQL\DATA
☐ カスタム パスを選択する: []

SQL 言語照合順序設定

☐ デフォルトの照合順序
☒ 東アジア言語の照合順序: **Japanese**

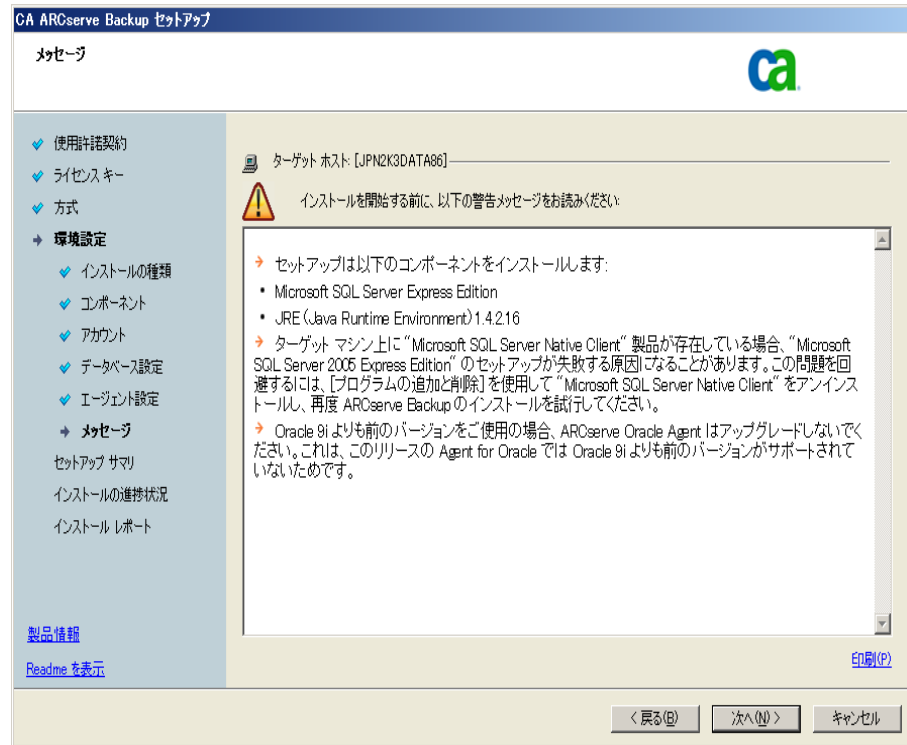
カタログ ファイルのインストール パス: C:\Program Files\CA\ARCserve Backup\CATALOG.DB#

Buttons: < 戻る(B) | 次へ(N) > | キャンセル

[メッセージ]ダイアログ ボックス

[メッセージ]ダイアログ ボックスでメッセージを確認し、この時点で問題の解決を試みる必要があります。

以下は、[重要な警告メッセージ]ダイアログ ボックスを示しています。



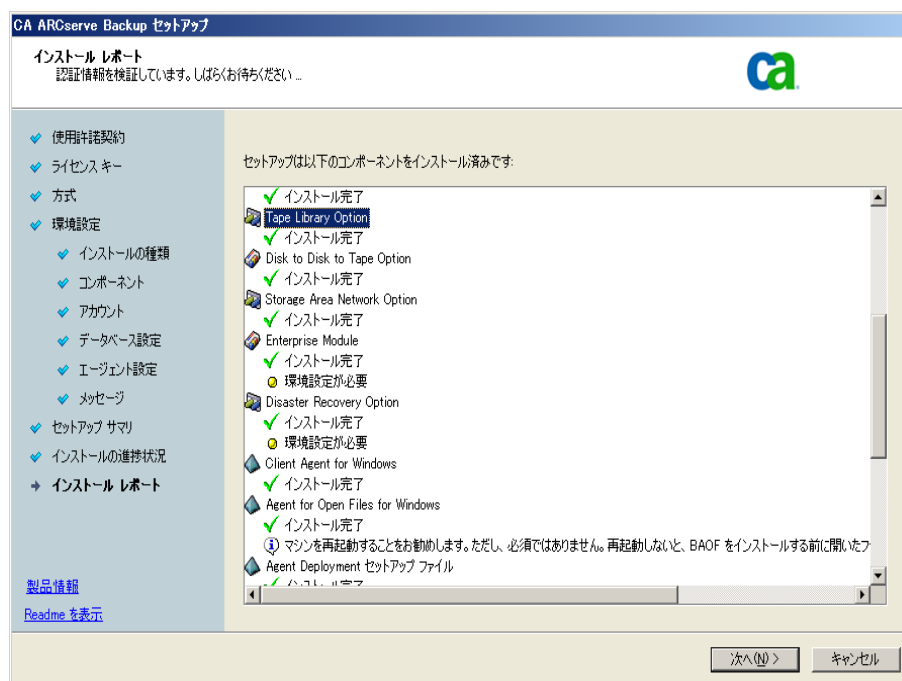
[セットアップ サマリ]ダイアログ ボックス

インストールするコンポーネントを変更するには、変更するインストール オプションが表示されているダイアログ ボックスに戻るまで[戻る]ボタンをクリックしてください。

[インストール レポート]ダイアログ ボックス

選択したコンポーネントで設定が必要な場合は、インストールの最後に設定ダイアログ ボックスが表示されます。すぐにコンポーネントを設定することも、後から[デバイス環境設定]または[Enterprise Module 環境設定]を使用して設定することもできます。たとえば、単一ドライブのオートローダを使用している場合は、セットアップで[インストール サマリ]ダイアログ ボックスでメッセージをダブルクリックすることで、該当する[デバイス環境設定]を起動するように指定することができます。

以下に、[インストール レポート]ダイアログ ボックスを示します。Agent for Microsoft SQL Server で環境設定が必要とされています。



注：CA ARCserve Backup のインストール時に、サーバの再起動が必要になる場合があります。これは、すべてのファイル、サービス、およびレジストリの設定がオペレーティング システム レベルで更新されたかどうかによって決まります。

[インストール サマリ]ダイアログ ボックス

選択したコンポーネントで設定が必要な場合は、インストールの最後に設定ダイアログ ボックスが表示されます。すぐにコンポーネントを設定することも、後から[デバイス環境設定]または[Enterprise Module 環境設定]を使用して設定することもできます。たとえば、単一ドライブのオートローダを使用している場合は、セットアップで[インストール サマリ]ダイアログ ボックスでメッセージをダブルクリックすることで、該当する[デバイス環境設定]を起動するように指定することができます。

[ライセンスの確認]ダイアログ ボックス

ライセンス キーを入力するには、インストールしているコンポーネント、エージェント、およびオプションへ移動し、[ライセンス キーを使用する]オプションを選択してそのコンポーネントのライセンス キーを入力します。

[続行]をクリックして[ライセンスの確認]ダイアログ ボックスを閉じます。

5. [インストール サマリ]ダイアログ ボックスで[完了]をクリックしてインストールを完了します。

6. パッシブ ノードに CA ARCserve Backup をインストールします。

注: 手順 1 ～ 5 を繰り返してパッシブ ノードに CA ARCserve Backup をインストールします。

7. アクティブ ノードおよびパッシブ ノード上でクラスタ リソースを設定します。

以下の点に注意してください。

- CA ARCserve Backup が展開される各クラスタ ノードにおいて、現在のノードがクラスタ内でアクティブなノードとして設定され、共有ディスクにアクセスできることを確認する必要があります。現在のノードがパッシブとして設定されている場合は、クラスタ アドミニストレータの[グループの移動]オプションを使用してアクティブに変更できます。

クラスタ アドミニストレータは Microsoft が提供するユーティリティであり、MSCS がインストール済みのサーバにインストールされています。クラスタ アドミニストレータでは、クラスタに関連したほとんどの環境設定および管理タスクを実行できます。

- クラスタ対応のインストールが正常に終了すると、セットアップ後のポップアップ画面が表示され、HA リソースを作成するオプションが示されます。HA リソースを作成するオプションがデフォルトで指定されています。このタスクは、CA ARCserve Backup のインストールがクラスタ内の最後のノードで終了した後に実行する必要があります。

MSCS クラスタ環境での CA ARCserve Backup r11.5 から r15 へのアップグレード

このセクションでは、以前のソフトウェア バージョンを現行リリースにアップグレードする際に実行する必要がある手順について説明します。アップグレード手順は、アップグレードするソフトウェアのバージョンによって異なります。

- MSCS クラスタ対応環境で、最新のサービス パックを含む BrightStor ARCserve Backup r11.5 をアップグレードする場合は、以下の手順で直接 CA ARCserve Backup r15 にアップグレードします。
- MSCS クラスタ対応環境で、最新のサービス パックを含む CA ARCserve Backup r12 または CA ARCserve Backup r12.5 をアップグレードする場合は、[「MSCS クラスタ対応環境での CA ARCserve Backup r12/r12.5 から r15 へのアップグレード\(163 ページ\)」](#)の手順に従います。

始める前に、必ず[「以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード\(100 ページ\)」](#)に記載されている情報をお読みください。

MSCS クラスタ環境で CA ARCserve Backup を r11.5 から r15 へアップグレードするときは、以下の手順に従ってクラスタ化されたバックアップ データを保護する必要があります。まだ CA ARCserve Backup r11.5 をクラスタ環境で使用していない場合は、この手順を実行する必要はありません。この手順では、MSCS クラスタ環境での以下の CA ARCserve Backup r11.5 アップグレード シナリオをサポートしています。

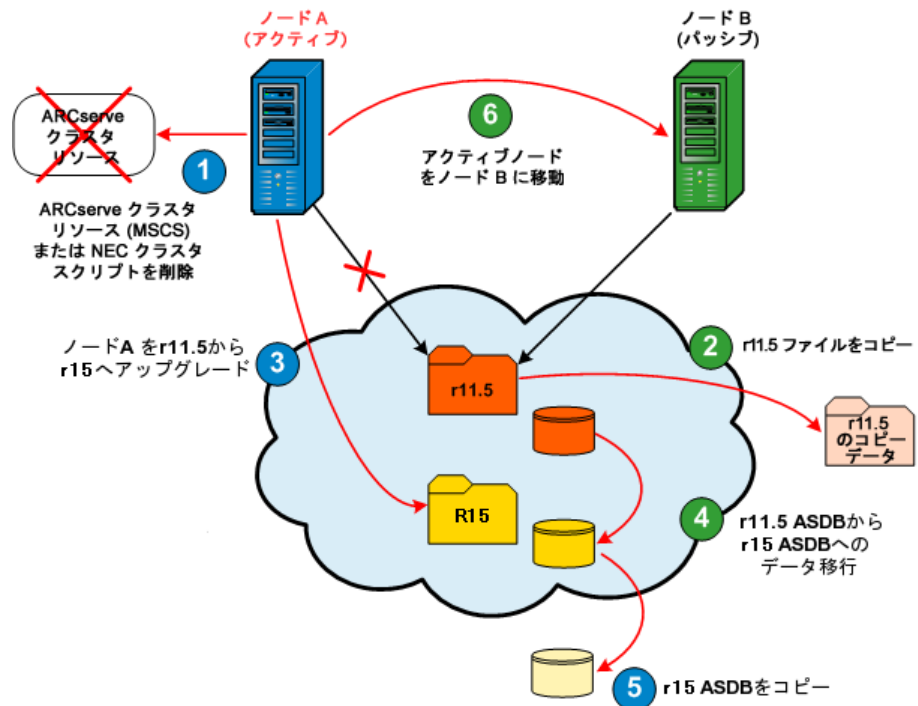
- プライマリ サーバの RAIMA から SQL Express へのアップグレード
- プライマリ サーバの RAIMA から SQL Server へのアップグレード
- プライマリ サーバの SQL Server から SQL Server へのアップグレード
- メンバ サーバの RAIMA から r15 へのアップグレード
- メンバ サーバの SQL Server から r15 へのアップグレード

このアップグレード手順では 2 ノード クラスタ環境を想定しており、ノード A は初期アクティブ ノードを、ノード B は初期パッシブ ノードを表しています。

MSCS クラスタ環境で CA ARCserve Backup r11.5 から r15 へアップグレードする方法

ノード A:

以下の図は、このアップグレード手順でノード A に対して実行する初期タスクの概要を示しています。



1. r11.5 の ARCserve クラスタ リソースを、以下の手順で削除します。
 - a. クラスタ アドミニストレータにアクセスします。
[クラスタ アドミニストレータ]ダイアログ ボックスが表示されます。
注: クラスタ アドミニストレータは Microsoft のユーティリティで、[スタート]メニューの管理ツール グループからアクセスします。
 - b. ARCserve サーバが展開されている ARCserve グループを選択し、対応する ARCserve クラスタ リソースを見つけます。各 ARCserve クラスタ リソースを右クリックし、ポップアップ メニューから[削除]を選択します。
r11.5 の ARCserve クラスタ リソースが削除されます。
2. CA ARCserve Backup r11.5 のインストール ディレクトリ ファイルを一時的な場所にコピーします。
CA ARCserve Backup r11.5 ファイルのバックアップ コピーは、元のファイルとは別の場所に置かれます。

3. CA ARCserve Backup r15 アップグレード インストールをノード A に対して実行します。「[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード](#) (100 ページ)」を参照してください。

重要: アップグレード インストール中に、r15 のインストール パスの場所を指定するように求められます。r11.5 が現在ある場所と同じ場所を指定しないでください。アップグレード時の問題や、情報(キューに保存されたジョブ スクリプト)の損失を回避するため、CA ARCserve Backup r15 インストールには別の場所を選択してください。

結果:

- ノード A の CA ARCserve Backup は r11.5 から r15 にアップグレードされます。このときは新しい ARCserve クラスタ リソースをセットアップしないでください。
- アップグレードが完了すると、[サーバ データ マイグレーション]ダイアログ ボックスが表示されます。[サーバ データ マイグレーション]ダイアログ ボックスでは、古い ARCserve データベースに保管されている情報を新しい ARCserve データベースにマイグレートできます。データ マイグレーション処理をこの時点では開始しないでください。

注: プライマリ サーバをアップグレードする場合は、データをマイグレートする前に CA ARCserve Backup データベース エンジンを手動で起動する必要があります。

4. プライマリ サーバのアップグレードに限っては、以下の手順も必要です。
 - a. Windows の[コンピュータの管理]コンソールを開きます。
 - b. [サービスとアプリケーション]を展開し、[サービス] をクリックします。
 - c. CA ARCserve データベース エンジンを右クリックし、ポップアップ メニューの[開始]をクリックします。
 - d. CA ARCserve ドメイン サーバを右クリックし、ポップアップ メニューの[開始]をクリックします。
 - e. CA ARCserve メッセージ エンジンを右クリックし、ポップアップ メニューの[開始]をクリックします。
 - f. Windows の[コンピュータの管理]コンソールを閉じます。

注: CA ARCserve Backup サービスが開始すると、状態が[開始]になります。

5. CA ARCserve Backup サーバ上の CA ARCserve Backup インストール ディレクトリを開きます。

CA ARCserve Backup インストール ディレクトリで、servermigration.exe をダブルクリックします。

[サーバ データ マイグレーション]ダイアログ ボックスが表示されます。

6. [サーバ データ マイグレーション]ダイアログ ボックスで、[開始]をクリックします。
指定した CA ARCserve Backup データが r11.5 から r15 にマイグレートされます。

7. SQL Express のアップグレードの場合のみ。Windows サービス マネージャを使用して、SQLE インスタンス(mssql\$arcserve_db)を右クリックしてポップアップ ウィンドウで[停止]を選択します。

SQLE インスタンスが停止すると、対応するステータスは空白になり「実行」が表示されなくなります。

8. SQL Express プライマリ サーバ アップグレードの場合のみ。SQL ARCserve データベース ディレクトリ(SQLASDB)を一時的な場所にコピーします。

SQLASDB ディレクトリのバックアップ コピーは、元のディレクトリとは別の場所に置かれます。

9. アクティブ ノードをノード A からノード B へ、以下のように移動します。

- a. クラスタ アドミニストレータにアクセスします。

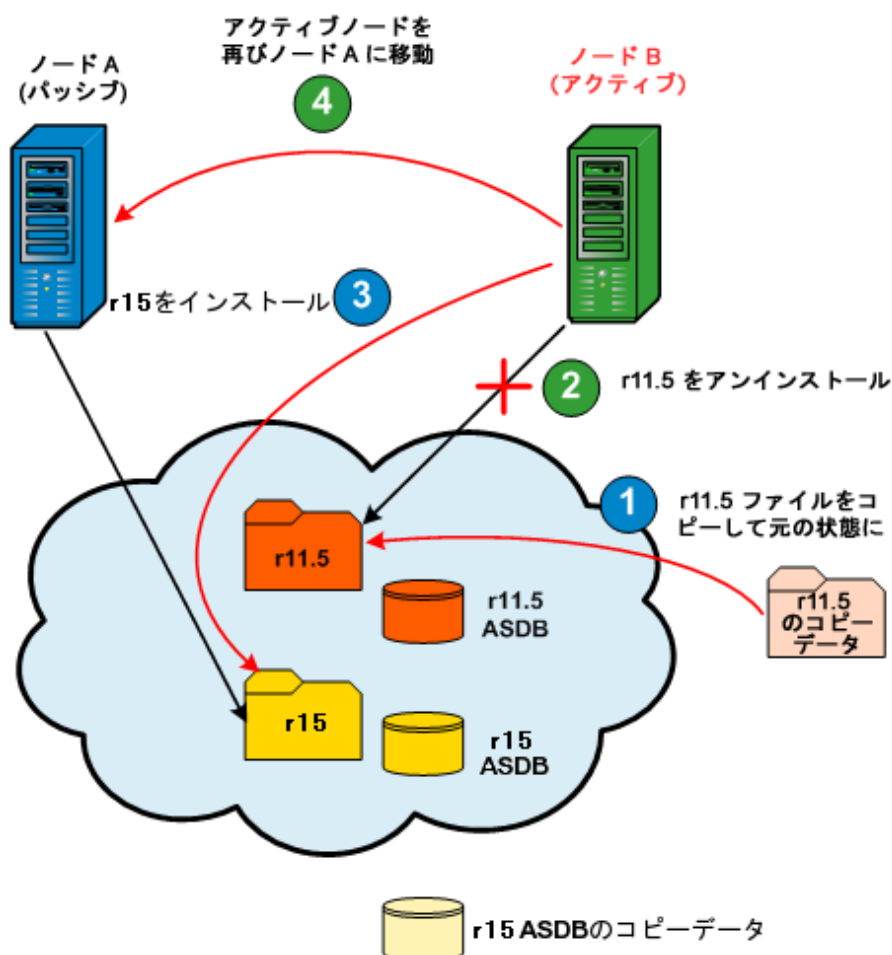
[クラスタ アドミニストレータ]ダイアログ ボックスが開きます。

- b. ノード A で ARCserve グループ を選択します。ポップアップ メニューのグループ名で右クリックして、[グループの移動]を選択します。

- クラスタにノードが 2 つしかない場合は、アクティブ ノードのステータスが自動的に初期アクティブ ノード(ノード A)から他方のノード(ノード B)に移り、ノード B がアクティブ ノードになってノード A がパッシブ ノードになります。
- クラスタ内のノード数が 3 つ以上の場合は、ポップアップ画面が表示されて、アクティブ ステータスをどのノードに移動するかを選択できます。移動先のノードを選択すると、指定したノードがアクティブ ノードになり、それまでに選択されていたノードがパッシブ ノードになります。クラスタ内の各ノードでこの手順を繰り返します。

ノード B:

以下の図は、このアップグレード手順でノード A に対して実行する初期タスクの概要を示しています。



1. CA ARCserve Backup r11.5 インストール ディレクトリ ファイルを一時的な場所から最初の場所にコピーして戻します。

CA ARCserve Backup r11.5 ファイルが最初の場所に戻っています。

2. CA ARCserve Backup r11.5 をノード B からアンインストールします。

CA ARCserve Backup r11.5 がアンインストールされます。

重要: ノード B での CA ARCserve Backup r15 の新規インストール時は、「データベースの上書き」オプションを選択しないでください。これは、r15 アップグレード中にノード A にマイグレートされた ARCserve データベースが上書きされないようにするためです。

3. ノード B で CA ARCserve Backup r15 の新規インストールを、ノード A で選択したのと同じ設定 (ドメイン名、サーバ タイプ、インストール パス、インストールしたオプションなど) で実行します。たとえば、CA ARCserve Backup r15 をノード A でプライマリ サーバとしてインストールした場合は、r15 をノード B でもプライマリサーバとしてインストールする必要があります。「CA ARCserve Backup のインストール」を参照してください。

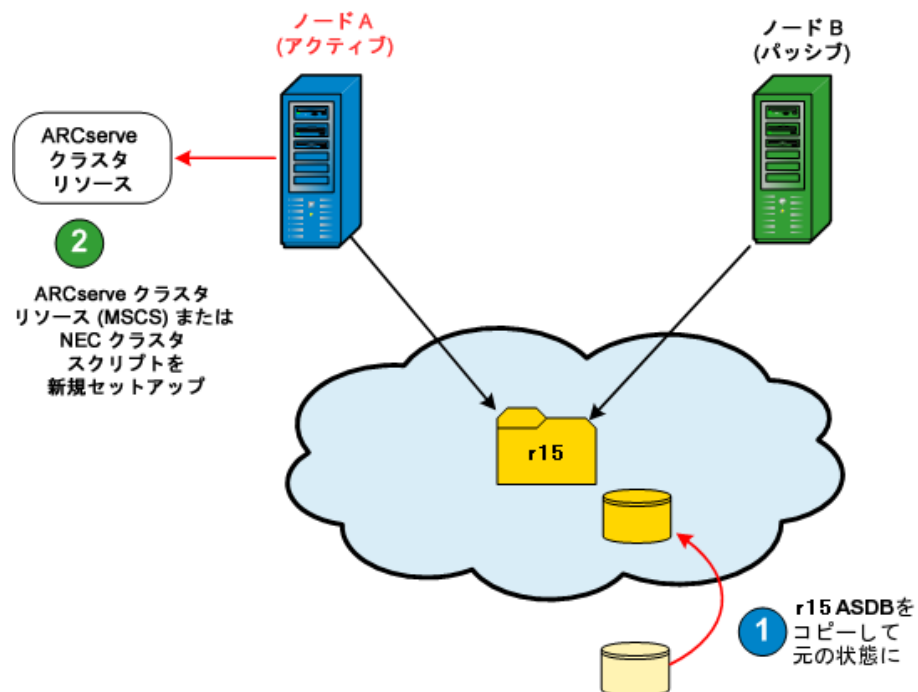
CA ARCserve Backup r15 がノード B にインストールされます。このときは新しい ARCserve クラスタ リソースをセットアップしないでください。

4. アクティブ ノードをノード B から最初のノード A へ、先ほど説明したように移動します。

ノード B が現在はパッシブ ノードで、ノード A がアクティブ ノードです。

ノード A:

以下の図は、このアップグレード手順でノード A に対して実行する初期タスクの概要を示しています。



1. SQL Express プライマリ サーバ アップグレードの場合のみ。SQL ARCserve データベース ディレクトリ(SQLASDB)を一時的な場所から最初の場所へコピーして戻します。

SQLASDB ディレクトリのバックアップしたコピーが、CA ARCserve Backup r15 のインストール中に作成された SQLASDB ディレクトリを置き換えます。

2. コマンドライン コンソールから、"babha -postsetup"ユーティリティを実行して新しい ARCserve クラスタ リソースをセットアップします。babha -postsetup ユーティリティは、%bab_home% ディレクトリにあります。

新しい ARCserve クラスタ リソース (ARCserve HA、ARCserve ASDB、ARCserve レジストリ、および ARCserve 共有) が作成されます。

すべての CA ARCserve Backup サービスが CA ARCserve Backup サーバで適切に開始されるようにするには、CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開く前に、CA ARCserve Backup サーバで cstop スクリプトと cstart スクリプトを実行する必要があります。cstop および cstart のバッチ ファイルは、CA ARCserve Backup サーバの CA ARCserve Backup インストール ディレクトリに格納されています。cstop スクリプトと cstart スクリプトの使用法の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

注：CA ARCserve Backup データベースの前回のバックアップの実行が本リリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報：

[クラスタ対応インストールおよびアップグレードの確認方法 \(204 ページ\)](#)

MSCS クラスタ環境で CA ARCserve Backup を r12/12.5 から直接 r15 へアップグレードする方法

このセクションでは、以前のソフトウェア バージョンを現行リリースにアップグレードする際に実行する必要がある手順について説明します。必ず、適切な手順に従っていることを確認してください。

- MSCS クラスタ対応環境で、最新のサービス パックを含む BrightStor ARCserve Backup r11.5 をアップグレードする場合は、「[MSCS クラスタ環境での CA ARCserve Backup の r11.5 から r15 へのアップグレード](#) (156 ページ)」にある手順に従って直接 CA ARCserve Backup r15 にアップグレードします。
- MSCS クラスタ対応環境で、最新のサービス パックを含む CA ARCserve Backup r12 または r12.5 からアップグレードするには、以下の手順に従います。

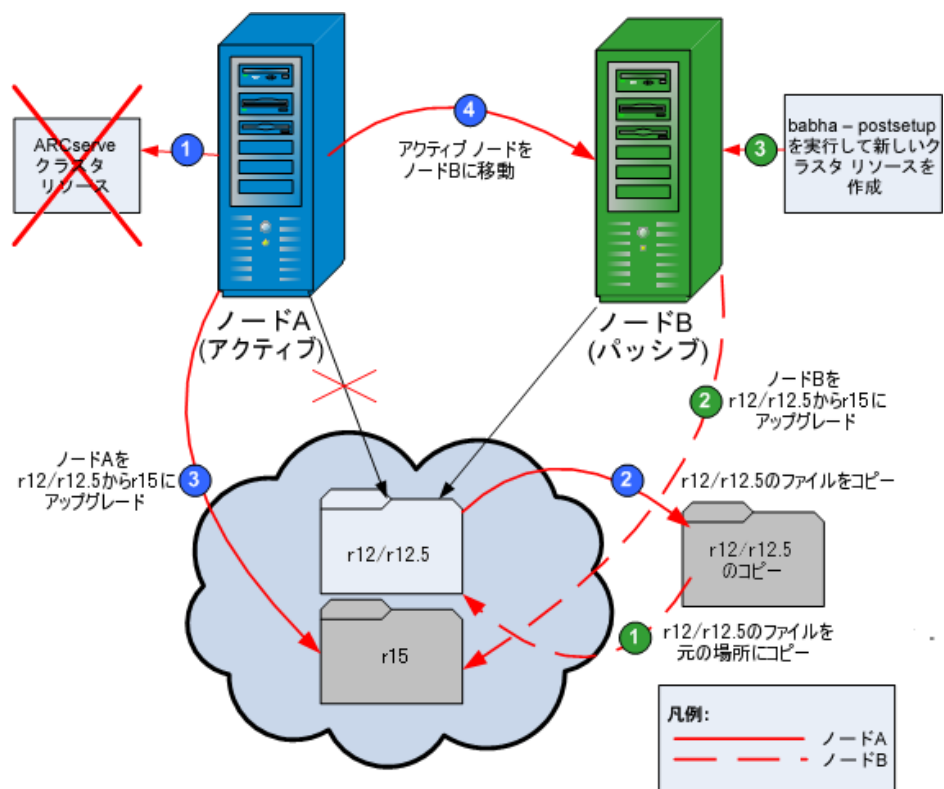
始める前に、必ず「[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード](#) (100 ページ)」に記載されている情報をお読みください。

MSCS クラスタ環境で CA ARCserve Backup を r15 へアップグレードするときは、以下の手順に従ってクラスタ化されたバックアップ データを保護する必要があります。まだ CA ARCserve Backup r12 または r12.5 をクラスタ環境で使用していない場合、この手順を実行する必要はありません。この手順では、MSCS クラスタ環境で以下の CA ARCserve Backup r12/r12.5 アップグレードを実行するシナリオをサポートしています。

- プライマリ サーバの SQL Server から SQL Server へのアップグレード
- プライマリ サーバの SQL Server Express から SQL Server Express へのアップグレード
- メンバ サーバの r15 へのアップグレード

このアップグレード手順では 2 ノード クラスタ環境を想定しており、ノード A は初期アクティブ ノードを、ノード B は初期パッシブ ノードを表しています。

以下の図は、アップグレード手順を示します。



MSCS クラスタ環境で CA ARCserve Backup を r12 または r12.5 から r15 にアップグレードする方法

重要: 以下の手順を開始する前に、アクティブ ノードおよびパッシブ ノード上の CA ARCserve Backup レジストリを必ず同期してください。クラスタ アドミニストレータの中で[グループの移動]オプションを使用してレジストリを同期できます。

ノード A:

1. r12/r12.5 の ARCserve クラスタ リソースを、以下の手順で削除します。
 - a. クラスタ アドミニストレータにアクセスします。
[クラスタ アドミニストレータ]ダイアログ ボックスが表示されます。
注: クラスタ アドミニストレータは Microsoft のユーティリティで、[スタート]メニューの管理ツール グループからアクセスします。
 - b. ARCserve サーバが展開されている ARCserve グループを選択し、対応する ARCserve クラスタ リソースを見つけます。各 ARCserve クラスタ リソースを右クリックし、ポップアップ メニューから[削除]を選択します。
r12/r12.5 の ARCserve クラスタ リソースが削除されます。
2. CA ARCserve Backup r12/r12.5 のインストール ディレクトリ ファイルを一時的な場所にコピーします。
CA ARCserve Backup r12/r12.5 ファイルのバックアップ コピーは、元のファイルとは別の場所に置かれます。
3. CA ARCserve Backup r15 アップグレード インストールをノード A に対して実行します。「[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード](#) (100 ページ)」を参照してください。
 - CA ARCserve Backup r15 のアップグレードのインストールの場所は、r12/r12.5 が現在インストールされている場所と同じである必要があります。ノード A の CA ARCserve Backup は r12/r12.5 から r15 にアップグレードされます。このときは新しい ARCserve クラスタ リソースをセットアップしないでください。
4. アクティブ ノードをノード A からノード B へ、以下のように移動します。
 - a. クラスタ アドミニストレータにアクセスします。[クラスタ アドミニストレータ]が開きます。
 - b. ノード A の ARCserve グループを選択し、グループ名を右クリックして表示されるショートカット メニューから[グループの移動]を選択します。
 - クラスタにノードが 2 つしかない場合は、アクティブ ノードのステータスが自動的に初期アクティブ ノード(ノード A)から他方のノード(ノード B)に移り、ノード B がアクティブ ノードになってノード A がパッシブ ノードになります。
 - クラスタ内のノード数が 3 つ以上の場合は、ポップアップ画面が表示されて、アクティブ ステータスをどのノードに移動するかを選択できます。移動先のノードを選択すると、指定したノードがアクティブ ノードになり、それまでに選択されていたノードがパッシブ ノードになります。クラスタ内の各ノードでこの手順を繰り返します。

ノード B:

1. CA ARCserve Backup r12/r12.5 インストール ディレクトリ ファイルを一時的な場所から最初の場所にコピーして戻します。

CA ARCserve Backup r12/r12.5 ファイルが最初の場所に戻ります。

2. 以下のいずれかを行います。
 - CA ARCserve Backup データベースをホストするために Microsoft SQL Server のリモート展開を使用するメンバ サーバまたはプライマリ サーバをアップグレードする場合は、次の手順に進みます。
 - 他のすべての場合のアップグレードについては、以下を実行します。
 - a. クラスタ対応環境の共有ディスクの以下のディレクトリにアクセスします。

`ARCserve_Home¥SQLASDB¥data`

上記のディレクトリのファイルをすべて選択します。

選択されたファイルを右クリックして、ポップアップ メニューの[プロパティ]をクリックします。

[プロパティ]ダイアログ ボックスが開きます。

- b. [セキュリティ]タブをクリックします。
 [追加]をクリックし、[ネットワーク サービス]セキュリティ グループを選択します。
 [ネットワーク サービス]セキュリティ グループの権限を「フル コントロール」に設定します。
 [OK]をクリックし、[プロパティ]ダイアログ ボックスで[OK]をクリックします。

3. ノード B で CA ARCserve Backup r15 のアップグレード インストールを、ノード A で選択したのと同じ設定(ドメイン名、サーバ タイプ、インストール パス、インストールしたオプション)で実行します。詳細については、「以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード」を参照してください。
4. コマンドライン コンソールから、`babha -postsetup` ユーティリティを実行して新しい ARCserve クラスタ リソースをセットアップします。 `babha -postsetup` ユーティリティは、`%bab_home%` ディレクトリにあります。

新しい ARCserve クラスタ リソース(ARCserve HA、ARCserve ASDB、ARCserve レジストリ、および ARCserve 共有)が作成されます。

注: CA ARCserve Backup データベースの前回のバックアップの実行が本リリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報:

[クラスタ対応インストールおよびアップグレードの確認方法 \(204 ページ\)](#)

CA ARCserve Backup の MSCS クラスタからのアンインストール

CA ARCserve Backup のクラスタからのアンインストールはアクティブ ノードからのみ可能であり、クラスタ内のすべてのノードについて行う必要があります。

CA ARCserve Backup の MSCS クラスタからのアンインストール方法

1. すべてのクラスタ リソースを削除します。詳細については、「[CA ARCserve Backup クラスタ リソースの削除 \(168 ページ\)](#)」を参照してください。

すべての CA ARCserve Backup クラスタ リソースが削除されます。

2. ARCserveHA リソース タイプを登録解除するには、コマンド ライン ウィンドウにアクセスして次のコマンドを入力します。

```
cluster restype "ARCServeHA" /delete /type
```

注: cluster restype コマンドは Microsoft のコマンドで、Windows システムに組み込まれています。

ARCserve HA リソース タイプが登録解除されます。

3. アクティブ ノードで、ARCserve Backup ディレクトリにアクセスします。すべてのファイルをタイプ別に並べ替えてから、すべての .dll ファイルを別の場所にコピーします (コピーする場所は、後でネットワーク コピーをしなくても済むように、共有ディスクにすることをお勧めします)。

CA ARCserve Backup のダイナミック リンク ライブラリ (.dll) ファイルが別の場所にコピーされます。これにより、CA ARCserve Backup をクラスタ内のそれぞれのノードからアンインストールできるようになります。

4. Windows のコントロール パネルで、[プログラムの追加と削除]ユーティリティにアクセスして CA ARCserve Backup を現在のノードから削除します。

CA ARCserve Backup が現在の (アクティブ) ノードから削除されます。

5. .dll ファイルを ARCserve Backup ディレクトリの元の場所にコピーして戻します。

CA ARCserve Backup の .dll ファイルは元の ARCserve Backup ディレクトリにコピーされます。

6. クラスタ アドミニストレータでグループ名を右クリックし、ポップアップメニューで[グループを移動]を選択してアクティブなノードを変更します。

元のノードの状態は、「パッシブ」に変更され、クラスタ内の次のノードの状態は「アクティブ」に変更されます。

7. クラスタの残りのすべてのノードに対して、ステップ 3 ～ 5 を繰り返します。

CA ARCserve Backup はクラスタ内のすべてのノードから削除されます。

CA ARCserve Backup クラスタ リソースの削除

新しいクラスタ リソースを作成する前に、CA ARCserve Backup が展開されているグループからすべての既存のクラスタ リソースを削除する必要があります。利用可能な MSCS クラスタ リソースは以下のとおりです。

- ARCserve HA
- ARCserve ASDB
- ARCserve レジストリ
- ARCserve 共有

ARCserve クラスタ リソースの削除

1. クラスタ アドミニストレータでグループ名を右クリックし、ポップアップ メニューで[オフラインにする]を選択します。

ARCserve クラスタ リソースの状態は、オンラインからオフラインに変更されます。

2. クラスタ アドミニストレータにアクセスします。

[クラスタ アドミニストレータ]ダイアログ ボックスが表示されます。

注:クラスタ アドミニストレータは Microsoft が提供するユーティリティであり、MSCS がインストール済みのサーバにインストールされています。クラスタ アドミニストレータでは、クラスタに関連したほとんどの環境設定および管理タスクを実行できます。

3. ARCserve サーバが展開されている ARCserve グループを選択し、対応する ARCserve クラスタ リソースを見つけます。各 ARCserve クラスタ リソースを右クリックし、ポップアップ メニューから[削除]を選択します。

選択した ARCserve クラスタ リソースが削除されます。

CA ARCserve Backup サーバの NEC クラスタへの展開

以下のセクションでは、NEC クラスタへの CA ARCserve Backup サーバの展開について説明します。CA ARCserve Backup クラスタのサポートは、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster for Windows 8.0、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster X 1.0 for Windows、および NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster X 2.0 for Windows に対して提供されています。

注：以下のセクションには、最新でない画面、あるいは、各ユーザの環境に展開されている NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster のバージョンとは異なる NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster 画面の画像が含まれる場合があります。詳細については、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster のマニュアルを参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster ハードウェア要件 \(169 ページ\)](#)

[NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster ソフトウェア要件 \(170 ページ\)](#)

[NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster リソースの準備 \(170 ページ\)](#)

[CA ARCserve Backup の NEC クラスタ対応環境へのインストール \(171 ページ\)](#)

[NEC CLUSTERPRO 環境での CA ARCserve Backup の r11.5 から r15 へのアップグレード \(186 ページ\)](#)

[NEC クラスタ環境における r12/12.5 から r15 への CA ARCserve Backup のアップグレード \(199 ページ\)](#)

[CA ARCserve Backup の NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster からのアンインストール \(203 ページ\)](#)

NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster ハードウェア要件

CA ARCserve Backup を NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster に展開するためには、システムが以下のハードウェア要件を満たしている必要があります。

- すべてのクラスタ ノードは、同一機種のハードウェア (SCSI アダプタ、ファイバ チャネル アダプタ、RAID アダプタ、ネットワーク アダプタ、ハード ディスクなど) で構成されている必要があります。
- ディスク デバイスとテープ デバイスには、それぞれ異なる SCSI アダプタ/ファイバ チャネル アダプタを使用してください。

注：環境設定を容易にし、互換性の問題を回避するためにも、すべてのノードで同一のハードウェアを使用することをお勧めします。

NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster ソフトウェア要件

CA ARCserve Backup を NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster に展開するためには、システムが以下のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

- CA ARCserve Backup は、以下のオペレーティング システム上でクラスタ対応環境設定をサポートします。
 - Windows Server 2003 x86
 - Windows Server 2003 x64
 - Windows Server 2008 x86
 - Windows Server 2008 x64

注：NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster は IA-64 (Intel Itanium) オペレーティング システムではサポートされていません。

- HA プラットフォームが、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster for Windows 8.0、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster X 1.0 for Windows、または NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster X 2.0 for Windows 用に設定されている。

NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster リソースの準備

CA ARCserve Backup を専用グループの中にインストールしている場合は、フローティング IP アドレスを持った仮想名、および共有 (またはミラー) ディスクを含む必要なリソースを新しい専用グループの中に作成する必要があります。

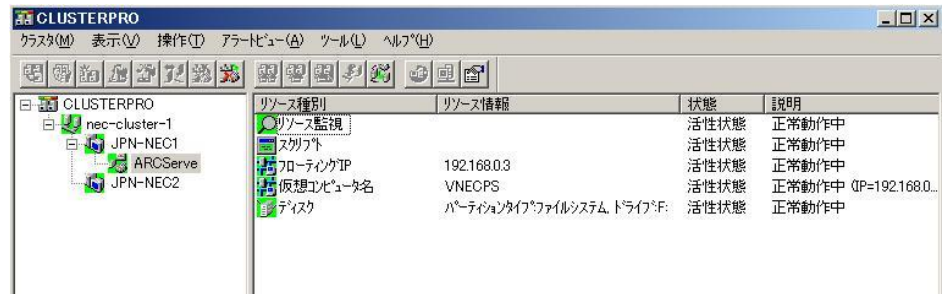
クラスタ マネージャとタスク マネージャは NEC のユーティリティで、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster をインストールしたサーバにインストールされています。

- クラスタ マネージャから、クラスタ グループの停止、開始、移動、削除やクラスタ プロパティおよびグループ リソースの設定など、クラスタに関連したほとんどの環境設定タスクと管理タスクを実行できます。
- タスク マネージャからは、各サービスまたはアプリケーションの停止と起動、および、それらのモニタリングの停止と開始のみが可能です。

以下の画面の例では、4 つの関連リソースを持つ「ARCserve Group」という名前のクラスタが CA ARCserve Backup インストールについて作成されます。

- 共有ディスク
- フローティング IP アドレス
- 仮想名
- スクリプト

後で、共有ディスクにあるパスへの CA ARCserve Backup のインストールを選択できます。



同じグループを既存のアプリケーションと共有する場合は、新しいリソースを作成する必要はありません。

CA ARCserve Backup の NEC クラスタ対応環境へのインストール

インストール ウィザードを使用して、NEC クラスタ対応環境に CA ARCserve Backup をインストールできます。

NEC クラスタ対応環境に CA ARCserve Backup をインストールする方法

1. CA ARCserve Backup インストール メディアをコンピュータのオプティカル ドライブに挿入します。

注：CA ARCserve Backup インストール ブラウザが表示されない場合は、Setup.exe をインストール メディアのルート ディレクトリから実行してください。

[製品のインストール]ブラウザの右側のコラムで、[CA ARCserve Backup for Windows のインストール]をクリックします。

[前提条件コンポーネント]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [インストール] をクリックして、前提条件コンポーネントをインストールします。

以下の動作に注意してください。

- [前提条件コンポーネント]ダイアログ ボックスは、ターゲット コンピュータにインストールされている CA ARCserve Backup 前提条件コンポーネントが検出されなかった場合にのみ表示されます。
- セットアップによって Microsoft SQL Server 2008 Express Edition がインストールされる場合、コンピュータを再起動し上記の手順を繰り返す必要があります。

注：クラスタ対応環境内のアクティブ ノードに CA ARCserve Backup をインストールする場合は、アクティブ ノードが再起動する間に、アクティブ ノードからパッシブ ノードにクラスタ リソースが移動されます。アクティブ ノードが再起動したら、元のアクティブ ノードにクラスタ リソースを移動する必要があります。

3. [使用許諾契約]ダイアログ ボックスで、使用許諾契約の条件に同意して[次へ]をクリックします。
4. 表示されるプロンプトに従って、ダイアログ ボックスに必要なすべての情報を記入します。

次のリストは、CA ARCserve Backup のインストールに関するダイアログ ボックス固有の情報について説明しています。

インストール/アップグレードの種類の選択ダイアログ ボックス

リモート インストール オプションを選択すると、CA ARCserve Backup を複数のシステムにインストールできます。

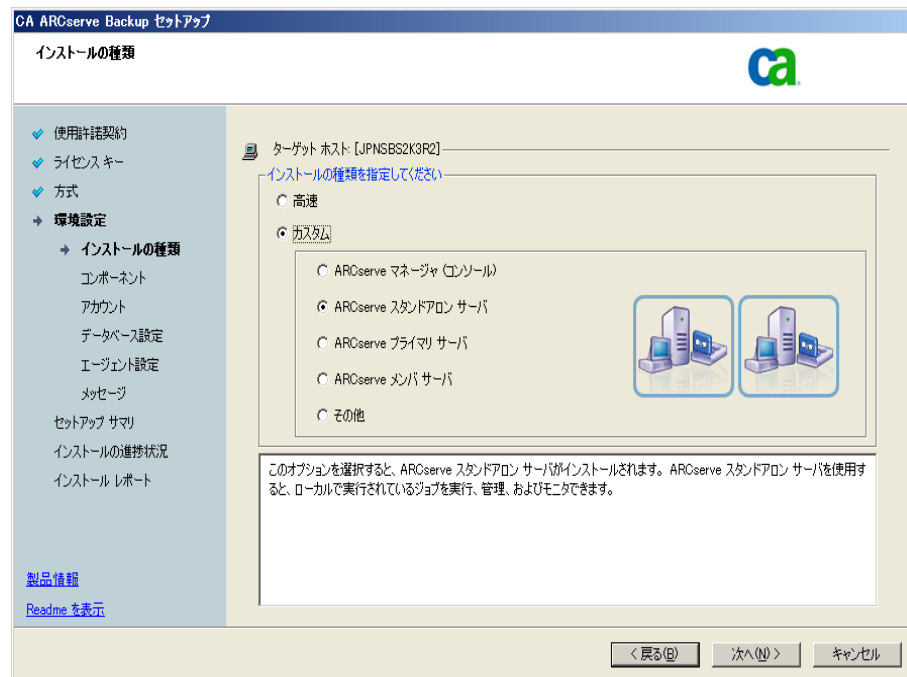
リモート インストールでは、ターゲットのリモート システムを異なる ARCserve サーバ タイプ、異なる CA ARCserve Backup エージェントとオプション、またはその両方で構成することができます。

注：クラスタ マシンのセットアップ プログラムは CA ARCserve Backup ベース製品または CA ARCserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートしていません。CA ARCserve Backup エージェント(たとえば Agent for Microsoft SQL Server または Agent for Microsoft Exchange Server)に関するこのリモート インストールの制限は、仮想ホストを使用している場合のみ当てはまります。クラスタの物理ホストを使用した CA ARCserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートされています。

[インストールの種類]ダイアログ ボックス

インストールの種類として[高速]または[カスタム]を選択することによって、インストールする CA ARCserve Backup コンポーネントの種類を指定できます。

注： 以前のリリースからアップグレードする場合、インストール ウィザードでは、現在の ARCserve 設定を検出し、新しいインストールに適切なインストール/アップグレードの種類を選択します。詳細については、「[CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ](#) (64 ページ)」および「[CA ARCserve Backup サーバのオプション](#) (68 ページ)」を参照してください。



[コンポーネント]ダイアログ ボックス

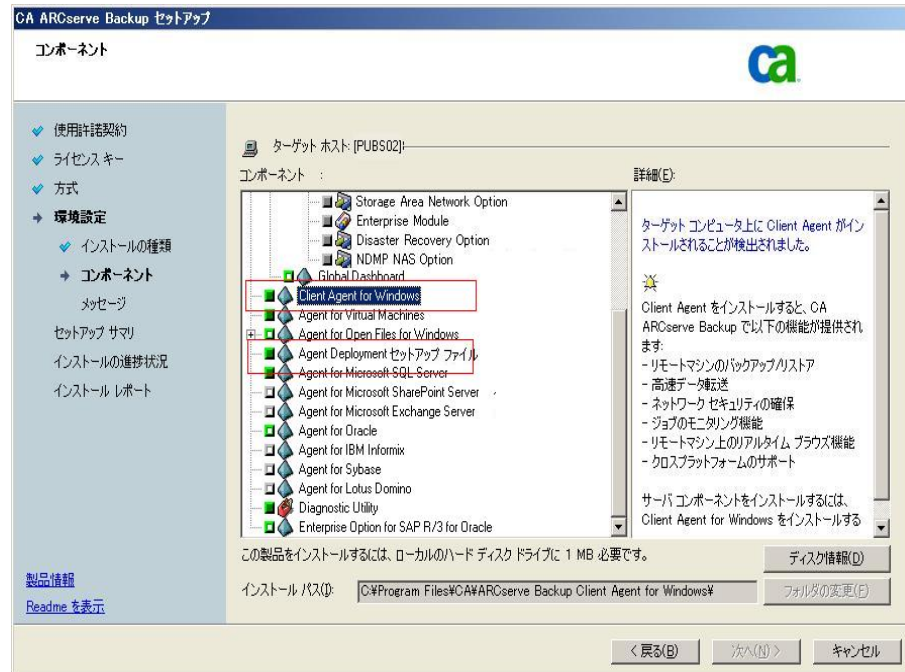
ターゲット システムにインストールする CA ARCserve Backup コンポーネントを指定できます。

以下の点に注意してください。

- プライマリ サーバをインストールするには、プライマリ サーバに CA ARCserve Backup Central Management Option をインストールする必要があります。
- メンバ サーバをインストールするには、インストール ウィザードがネットワーク内の CA ARCserve Backup ドメイン名とプライマリ サーバ名を検出する必要があります。したがって、メンバ サーバ インストールを実行する前に、少なくとも 1 つのプライマリ サーバ インストールを完了しておく必要があります。

- **CA ARCserve Backup** オブジェクトまたはサーバ オブジェクトを[製品の選択]ダイアログ ボックスでクリックすると、インストール ウィザードでは、[インストール/アップグレードの種類]ダイアログ ボックスで指定したインストールの種類に関係なく、デフォルトのスタンドアロン サーバ インストールコンポーネントが指定されます。正しいコンポーネントをインストールするには、サーバ オブジェクトを展開し、インストールする **CA ARCserve Backup** サーバのタイプのオブジェクトを展開して、インストールするコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。
- **Agent Deployment** は、CA ARCserve Backup をインストールした後で、CA ARCserve Backup エージェントを複数のリモート システムにインストールしてアップグレードできるウィザード形式のアプリケーションです。この機能をサポートするには、セットアップ プログラムで **Setup** ソース ファイルを CA ARCserve Backup サーバに コピーする必要があります。インストール メディアのコンテンツを CA ARCserve Backup サーバにコピーするには、[コンポーネント]ダイアログ ボックスで **Agent Deployment** を選択する必要があります。Agent Deployment を選択すると、CA ARCserve Backup のインストールまたはアップグレードに要する時間がかかります。
- リモート インストールまたはサイレント インストールを実行する場合、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows を CA ARCserve Backup ベース製品と同じディレクトリにインストールしないでください。
- **Global Dashboard** はプライマリ サーバ、スタンドアロン サーバおよびメンバ サーバにインストールできます。ただし、メンバ サーバをセントラルプライマリ サーバおよびブランチ プライマリ サーバとして機能するように設定することはできません。セントラル プライマリ サーバおよびブランチプライマリ サーバの詳細については、「Dashboard ユーザ ガイド」を参照してください。

以下の図では、Client Agent for Windows のデフォルトのインストール パスが表示されていて、Agent Deployment が指定されています。



[アカウント]ダイアログ ボックス

CA ARCserve Backup アカウントを設定できます。

セットアップ中に、クラスタ対応アプリケーションが環境内で実行されていることが検出された場合、CA ARCserve Backup をクラスタ対応環境にインストールするには、[クラスタ環境インストール]オプションを選択して CA ARCserve Backup をインストールする共有ディスクのパスを指定します。

注：CA ARCserve Backup サーバ名と CA ARCserve Backup ドメイン名は、15 バイト以内である必要があります。合計 15 バイトの名前は、約 7 ～ 15 文字に相当します。



The image shows the 'CA ARCserve Backup セットアップ' (Setup) window, specifically the 'アカウント' (Account) tab. The left sidebar contains a list of setup steps: '使用許諾契約' (License Agreement), 'ライセンス キー' (License Key), '方式' (Edition), '環境設定' (Environment Settings), 'インストールの種類' (Installation Type), 'コンポーネント' (Components), 'アカウント' (Account), 'データベース設定' (Database Settings), 'エージェント設定' (Agent Settings), 'メッセージ' (Messages), 'セットアップ サマリ' (Setup Summary), 'インストールの進捗状況' (Installation Progress), and 'インストール レポート' (Installation Report). The 'アカウント' tab is selected. The main area is titled 'アカウント' and features the CA logo. It contains two sections for account configuration. The first section, 'Windows 管理者アカウントを指定します' (Specify Windows Administrator Account), includes fields for 'Microsoft Windows ドメイン(D):' (set to 'SMALLBUSINESS1'), 'Microsoft Windows ユーザー名(U):' (set to 'administrator'), and 'パスワード(P):' (masked with asterisks). The second section, 'CA ARCserve Backup ドメイン アカウントを指定します' (Specify CA ARCserve Backup Domain Account), includes fields for 'CA ARCserve Backup ドメイン(A):' (set to 'JPNSBS2K3R2'), 'CA ARCserve Backup サーバ' (set to 'JPNSBS2K3R2'), 'ユーザー名' (set to 'caroot'), 'パスワード(P):' (masked), and 'パスワードの確認(C):' (masked). There is a checkbox for 'パスワードを保存する(S)' (Save password) which is unchecked. At the bottom right, there are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

[クラスタ設定]ダイアログ ボックス

[クラスタ設定]ダイアログ ボックスは、クラスタ対応環境に CA ARCserve Backup をインストールすることをセットアップが検出した場合にのみ表示されます。続行するには、このダイアログ ボックスのすべてのフィールドに記入する必要があります。

CA ARCserve Backup セットアップ

クラスタ設定

使用許諾契約
ライセンス キー
方式
→ 環境設定
 インストールの種類
 コンポーネント
 アカウント
 データベース設定
 → クラスタ設定
 メッセージ
 セットアップ サマリ
 インストールの進捗状況
 インストール レポート

製品情報
Readme を表示

ターゲット ホスト [COMP-011]
☒ クラスタ環境インストール (NEC)
インストール パス

クラスタ対応セットアップが実行されます。CA ARCserve Backup のインストール パスを共有ディスク上で選択してください (主: これによりカタログ パスも共有ディスク上に変更されます)。

NEC クラスタ サマリ

NEC クラスタ設定サマリ	
仮想ノード名	Test
インストール パス	D:\

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[データベースの設定]ダイアログ ボックス

CA ARCserve Backup データベースを設定できます。

このダイアログ ボックスで、データベース アプリケーション (ARCserve のデフォルトのデータベースまたは Microsoft SQL Server) を指定するか、必須フィールドの入力を完了した後、[次へ]をクリックします。

注：Unicode ベースの東アジア言語文字 (JIS2004 など) を含むデータを保護する必要がある場合は、CA ARCserve Backup のデータ検索および並べ替えを可能にするために SQL 照合順序を有効にする必要があります。これを行うには、[東アジア言語の照合順序]をクリックしてドロップダウン リストから言語を選択します。

CA ARCserve Backup セットアップ

データベース設定

使用許諾契約
ライセンスキー
方式
→ 環境設定
 インストールの種類
 コンポーネント
 アカウント
→ データベース設定
 メッセージ
セットアップ サマリ
インストールの進捗状況
インストール レポート

製品情報
Readme を表示

ターゲット ホスト[JPN-TEMPLATE]
データベースの種類を選択してください: ARCserve デフォルトデータベース

ARCserve デフォルトデータベースのインストール パスを指定します

デフォルト インストール パス: C:\Program Files\Microsoft SQL Server
カスタム パスを選択する

ARCserve デフォルトデータベースのデータ ファイル パス

デフォルト インストール パス: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10.ARCSEVER\DB\MSSQL\$DATA
カスタム パスを選択する

SQL 言語照合順序設定

デフォルトの照合順序
東アジア言語の照合順序: Japanese

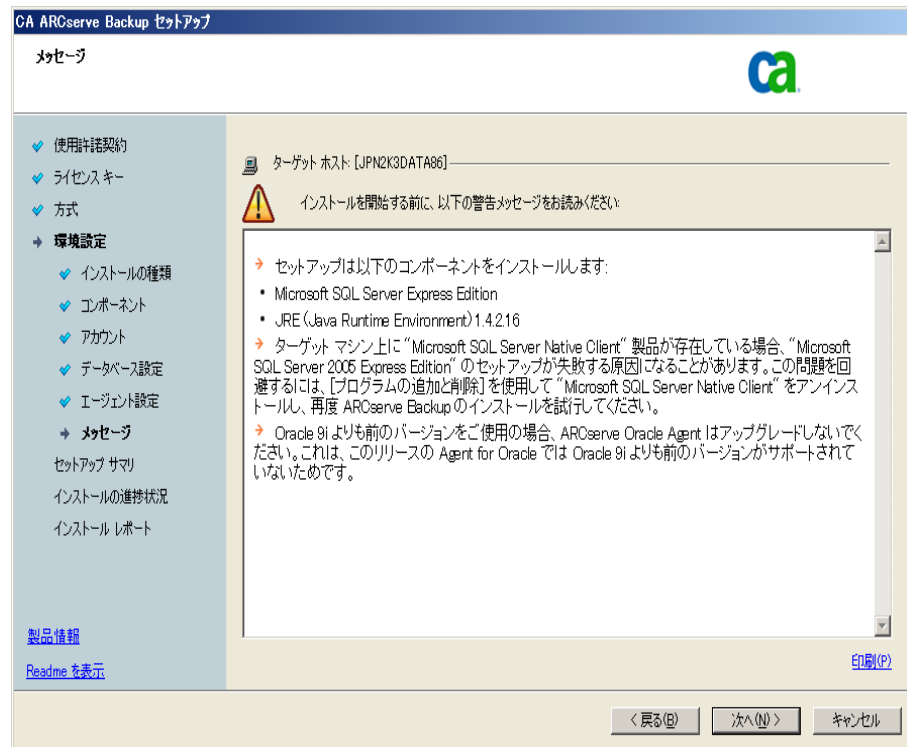
カタログ ファイルのインストール パス: C:\Program Files\CA\ARCserve Backup\CATALOG.DB#

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[メッセージ]ダイアログ ボックス

[メッセージ]ダイアログ ボックスでメッセージを確認し、この時点で問題の解決を試みる必要があります。

以下は、[重要な警告メッセージ]ダイアログ ボックスを示しています。



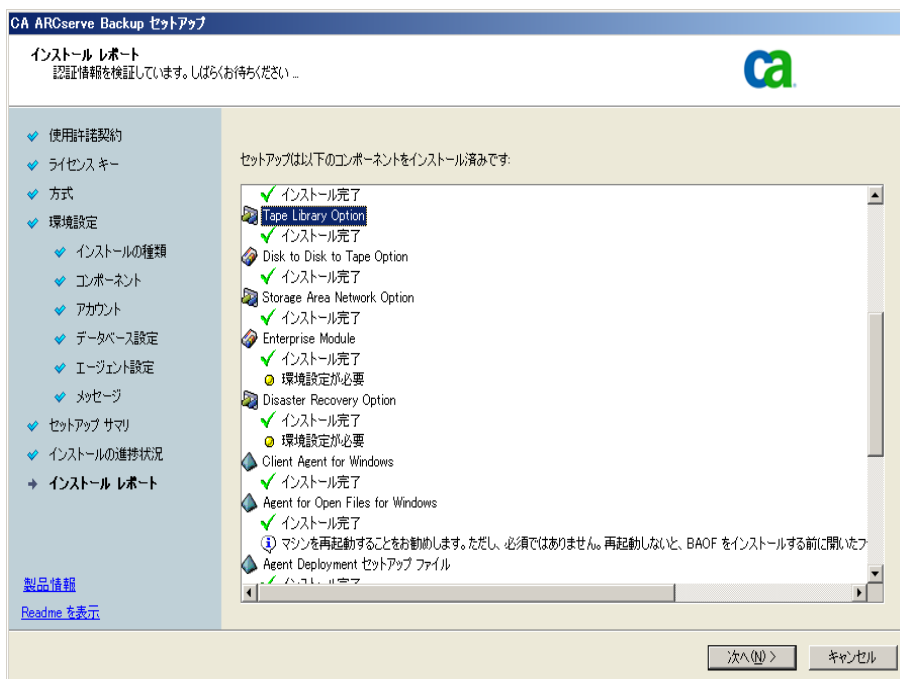
[セットアップ サマリ]ダイアログ ボックス

インストールするコンポーネントを変更するには、変更するインストール オプションが表示されているダイアログ ボックスに戻るまで[戻る]ボタンをクリックしてください。

[インストール レポート]ダイアログ ボックス

選択したコンポーネントで設定が必要な場合は、インストールの最後に設定ダイアログ ボックスが表示されます。すぐにコンポーネントを設定することも、後から[デバイス環境設定]または[Enterprise Module 環境設定]を使用して設定することもできます。たとえば、単一ドライブのオートローダを使用している場合は、セットアップで[インストール サマリ]ダイアログ ボックスでメッセージをダブルクリックすることで、該当する[デバイス環境設定]を起動するように指定することができます。

以下に、[インストール レポート]ダイアログ ボックスを示します。Agent for Microsoft SQL Server で環境設定が必要とされています。



注：CA ARCserve Backup のインストール時に、サーバの再起動が必要になる場合があります。これは、すべてのファイル、サービス、およびレジストリの設定がオペレーティング システム レベルで更新されたかどうかによって決まります。

[インストール サマリ]ダイアログ ボックス

選択したコンポーネントで設定が必要な場合は、インストールの最後に設定ダイアログ ボックスが表示されます。すぐにコンポーネントを設定することも、後から[デバイス環境設定]または[Enterprise Module 環境設定]を使用して設定することもできます。たとえば、単一ドライブのオートローダを使用している場合は、セットアップで[インストール サマリ]ダイアログ ボックスでメッセージをダブルクリックすることで、該当する[デバイス環境設定]を起動するように指定することができます。

[ライセンスの確認]ダイアログ ボックス

ライセンス キーを入力するには、インストールしているコンポーネント、エージェント、およびオプションへ移動し、[ライセンス キーを使用する]オプションを選択してそのコンポーネントのライセンス キーを入力します。

[続行]をクリックして[ライセンスの確認]ダイアログ ボックスを閉じます。

5. [インストール サマリ]ダイアログ ボックスで[完了]をクリックしてインストールを完了します。
6. パッシブ ノードに CA ARCserve Backup をインストールします。

注: 手順 1 ～ 5 を繰り返してパッシブ ノードに CA ARCserve Backup をインストールします。

7. CA ARCserve Backup が展開される各クラスタ ノードにおいて、現在のノードがクラスタ内でアクティブなノードとして設定され、共有ディスクにアクセスできることを確認する必要があります。現在のノードがパッシブに設定されている場合、クラスタマネージャの[グループの移動]オプションを使用してアクティブに変更できます。

クラスタ対応インストールが正常に終了した後で、新しい start.bat スクリプトと stop.bat スクリプトを該当するサーバに作成する必要があります。

- すべてのメンバ サーバと SQL Express 以外のプライマリ サーバの場合は、[「メンバ サーバおよび SQL Express 以外のプライマリ サーバ用の start.bat スクリプト変更」](#)(182 ページ)に記述されている start.bat スクリプトを使用します。
- すべてのメンバ サーバと SQL Express 以外のプライマリ サーバの場合は、[「メンバ サーバおよび SQL Express 以外のプライマリ サーバ用の stop.bat スクリプト変更」](#)(183 ページ)に記述されている stop.bat スクリプトを使用します。
- SQL Express プライマリ サーバのみの場合、[「SQL Express プライマリ サーバ用の start.bat スクリプト変更」](#)(184 ページ)に記述されている start.bat スクリプトを使用します。
- SQL Express プライマリ サーバのみの場合、[「SQL Express プライマリ サーバ用の stop.bat スクリプト変更」](#)(185 ページ)に記述されている stop.bat スクリプトを使用します。

メンバ サーバおよび SQL Express 以外のプライマリ サーバ用の start.bat スクリプト変更

インストール後、「NORMAL」と「FAILOVER」の後の 2 か所にテキストを追加して start.bat スクリプトを変更する必要があります。以下のスクリプト変更は、メンバ サーバおよび SQL Express 以外のプライマリ サーバにのみ適用されます。

以下のスクリプトをコピーして、start.bat ファイルの「NORMAL」および「FAILOVER」の後に貼り付けます。

```
REM Set the following variable 'process' to 1 for normal
REM operation. During upgrade / migration, modify this
REM script to set the value to zero
SET process=1

REM Set this flag to 1 if it's a primary server and using
REM MS SQL Express 2008 database, otherwise set it to 0
SET PRIMARY_SQLE_FLAG=0

IF %process%==0 GOTO end

REM Do normal processing here

net stop CASDiscovery
net stop CASSvcControlSvr

if %PRIMARY_SQLE_FLAG%==0 GOTO CA_SERVICES
net start mssql$arcserve_db

:CA_SERVICES
net start CASDiscovery
net start CASportmappe
armload CASSvcControlSvr /S /R 3 /FOV CASSvcControlSvr
armload CASunivDomainSvr /S /R 3 /FOV CASunivDomainSvr
armload CASDBEngine /S /R 3 /FOV CASDBEngine
armload CASMessageEngine /S /R 3 /FOV CASMessageEngine
armload CASTapeEngine /S /R 3 /FOV CASTapeEngine
armload CASJobEngine /S /R 3 /FOV CASJobEngine
armload CASMgmtSvc /S /R 3 /FOV CASMgmtSvc
net start "CA ARCserve Communication Foundation"
net start CA_ARCserve_RemotingServer
net start CADashboardSync
net start "CA ARCserve Communication Foundation (Global)"

:end
REM Exit out of the batch file
```

メンバ サーバおよび SQL Express 以外のプライマリ サーバ用の stop.bat スクリプト変更

インストール後、「NORMAL」と「FAILOVER」の後の 2 か所にテキストを追加して stop.bat スクリプトを変更する必要があります。以下のスクリプト変更は、メンバ サーバおよび SQL Express 以外のプライマリ サーバにのみ適用されます。

以下のスクリプトをコピーして、stop.bat ファイルの「NORMAL」および「FAILOVER」の後に貼り付けます。

```
REM Set the following variable 'process' to 1 for normal
REM operation. During upgrade / migration, modify this
REM script to set the value to zero
SET process=1

REM Set this flag to 1 if it's a primary server and using
REM MS SQL Express 2008 database, otherwise set it to 0
SET PRIMARY_SQLE_FLAG=0

REM Set the ARCServe home directory here
SET ARCSERVE_HOME=s:\%arcserve_home

IF %process%==0 GOTO end

REM Do normal processing here
armsleep 2
armkill CASjobengine
%ARCSERVE_HOME%\%babha.exe -killjob
armkill CASMgmtSvc
armkill CASTapeEngine
armkill CASDBEngine
armkill CASMessageEngine
armkill CASunivDomainSvr
armkill CASSvcControlSvr
net stop "CA ARCserve Communication Foundation (Global)"
net stop CADashboardSync
net stop CA_ARCServe_RemotingServer
net stop "CA ARCserve Communication Foundation"
net stop CASportmapper

if %PRIMARY_SQLE_FLAG%==0 GOTO end
net stop mssql$arcserve_db

:end
REM Exit out of the batch file
```

SQL Express プライマリ サーバ用の start.bat スクリプト変更

インストール後、「NORMAL」と「FAILOVER」の後の 2 か所にテキストを追加して start.bat スクリプトを変更する必要があります。以下のスクリプト変更は、SQL Express プライマリ サーバにのみ適用されます。

以下のスクリプトをコピーして、start.bat ファイルの「NORMAL」および「FAILOVER」の後に貼り付けます。

```
REM Set the following variable 'process' to 1 for normal
REM operation. During upgrade / migration, modify this
REM script to set the value to zero
SET process=1

REM Set this flag to 1 if it's a primary server and using
REM MS SQL Express 2008 database, otherwise set it to 0
SET PRIMARY_SQLE_FLAG=1

IF %process%==0 GOTO end

REM Do normal processing here

net stop CASDiscovery
net stop CASSvcControlSvr

if %PRIMARY_SQLE_FLAG%==0 GOTO CA_SERVICES
net start mssql$arcserve_db

:CA_SERVICES
net start CASDiscovery
net start CASportmappe
armload CASSvcControlSvr /S /R 3 /FOV CASSvcControlSvr
armload CASunivDomainSvr /S /R 3 /FOV CASunivDomainSvr
armload CASDBEngine /S /R 3 /FOV CASDBEngine
armload CASMessageEngine /S /R 3 /FOV CASMessageEngine
armload CASTapeEngine /S /R 3 /FOV CASTapeEngine
armload CASJobEngine /S /R 3 /FOV CASJobEngine
armload CASMgmtSvc /S /R 3 /FOV CASMgmtSvc
net start "CA ARCserve Communication Foundation"

:end
REM Exit out of the batch file
```


SQL Express プライマリ サーバ用の stop.bat スクリプト変更

インストール後、「NORMAL」と「FAILOVER」の後の 2 か所にテキストを追加して stop.bat スクリプトを変更する必要があります。以下のスクリプト変更は、SQL Express プライマリ サーバにのみ適用されます。

以下のスクリプトをコピーして、stop.bat ファイルの「NORMAL」および「FAILOVER」の後に貼り付けます。

```
REM Set the following variable 'process' to 1 for normal
REM operation. During upgrade / migration, modify this
REM script to set the value to zero
SET process=1

REM Set this flag to 1 if it's a primary server and using
REM MS SQL Express 2008 database, otherwise set it to 0
SET PRIMARY_SQLE_FLAG=1

REM Set the ARCServe home directory here
SET ARCSERVE_HOME=s:\%arcserve_home

IF %process%==0 GOTO end

REM Do normal processing here
armsleep 2
armkill CASjobengine
%ARCSERVE_HOME%\%babha.exe -killjob
armkill CASMgmtSvc
armkill CASTapeEngine
armkill CASDBEngine
armkill CASMessageEngine
armkill CASunivDomainSvr
armkill CASSvcControlSvr
net stop "CA ARCserve Communication Foundation"
net stop CASportmapper

if %PRIMARY_SQLE_FLAG%==0 GOTO end
net stop mssql$arcserve_db

:end
REM Exit out of the batch file
```

NEC CLUSTERPRO 環境での CA ARCserve Backup の r11.5 から r15 へのアップグレード

このセクションでは、以前のソフトウェア バージョンを現行リリースにアップグレードする際に実行する必要がある手順について説明します。必ず、適切なアップグレード手順に従っていることを確認してください。

- NEC CLUSTERPRO クラスタ対応環境で、最新のサービス パックを含む BrightStor ARCserve Backup r11.5 をアップグレードする場合は、以下の手順で直接 r15 にアップグレードします。
- NEC CLUSTERPRO クラスタ対応環境で、最新のサービス パックを含む CA ARCserve Backup r12 を r15 にアップグレードする場合は、「[NEC CLUSTERPRO 環境での CA ARCserve Backup の r12 から r15 へのアップグレード](#) (199 ページ)」の手順に従います。

このセクションでは、NEC CLUSTERPRO クラスタ対応環境で、最新のサービス パックを含む BrightStor ARCserve Backup r11.5 を CA ARCserve Backup r15 にアップグレードするために実行する必要がある手順について説明します。NEC CLUSTERPRO クラスタ対応環境で、CA ARCserve Backup r12 をこのリリースにアップグレードする方法については、「[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード](#) (100 ページ)」に説明されている手順を実行してください。

CA ARCserve Backup を NEC CLUSTERPRO 環境で r11.5 から r15 へアップグレードするときは、以下の手順に従ってクラスタ化されたバックアップ データを安全に保護する必要があります。まだ CA ARCserve Backup r11.5 をクラスタ環境で使用していない場合は、この手順を実行する必要はありません。この手順では、NEC CLUSTERPRO クラスタ環境での以下の CA ARCserve Backup r11.5 アップグレードシナリオをサポートしています。

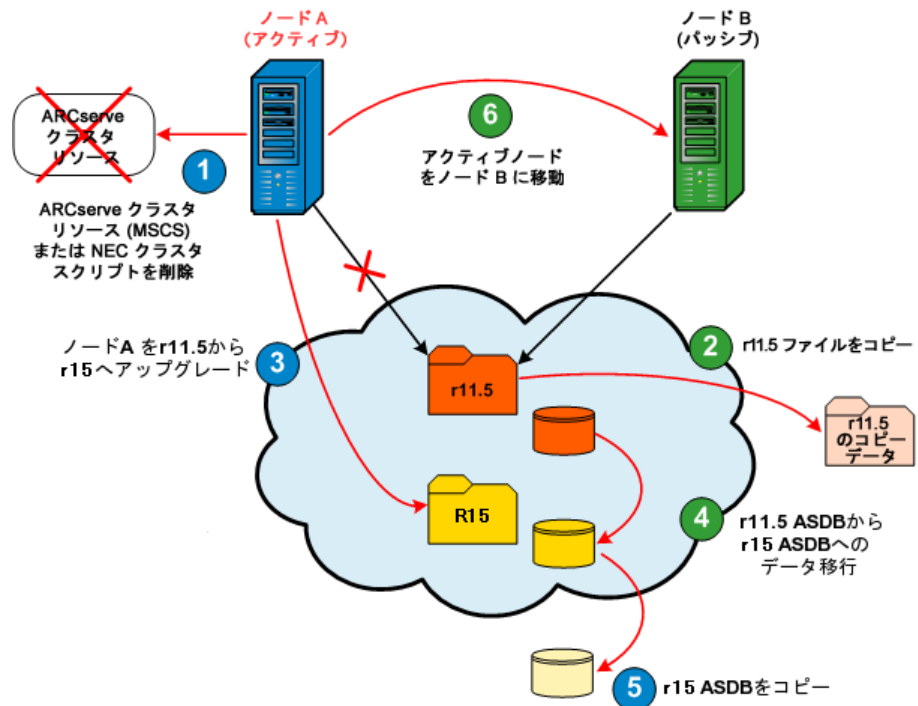
- RAIMA データベースを使用する BrightStor ARCserve Backup r11.5 を、Microsoft SQL Server 2008 Express Edition データベースを使用するプライマリサーバの CA ARCserve Backup r15 にアップグレードする
- リモート Microsoft SQL Server データベースを使用する BrightStor ARCserve Backup r11.5 を、Microsoft SQL Server データベースを使用するプライマリサーバの CA ARCserve Backup r15 にアップグレードする
- RAIMA データベースを使用する BrightStor ARCserve Backup r11.5 を、メンバサーバの CA ARCserve Backup r15 にアップグレードする
- リモート Microsoft SQL Server データベースを使用する BrightStor ARCserve Backup r11.5 を、メンバサーバの CA ARCserve Backup r15 にアップグレードする

このアップグレード手順では 2 ノード クラスタ環境を想定しており、ノード A は初期アクティブ ノードを、ノード B は初期パッシブ ノードを表しています。

NEC CLUSTERPRO 環境で CA ARCserve Backup を r11.5 から r15 へアップグレードする方法

ノード A:

以下の図は、このアップグレード手順でノード A に対して実行する初期タスクの概要を示しています。



1. NEC Cluster Scripts を無効化して Registry Sync を削除します。詳細については、「[NEC クラスタ スクリプトでの CA ARCserve Backup の無効化](#) (193 ページ)」を参照してください。
2. CA ARCserve Backup r11.5 のインストール ディレクトリ ファイルを一時的な場所にコピーします。

CA ARCserve Backup r11.5 ファイルのバックアップ コピーは、元のファイルとは別の場所に置かれます。

3. CA ARCserve Backup r15 アップグレード インストールをノード A に対して実行します。詳細については、[「以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード」](#) (100 ページ)を参照してください。

重要: アップグレード インストール中に、r15 のインストール パスの場所を指定するように求められます。r11.5 が現在ある場所と同じ場所を指定しないでください。アップグレード時の問題や情報(キューに保存されたジョブ スクリプト)の損失を回避するため、r15 インストールには別の場所を選択してください。

- ノード A の CA ARCserve Backup は r11.5 から r15 にアップグレードされます。このときは新しい ARCserve クラスタ リソースをセットアップしないでください。
- アップグレードが完了すると、[サーバ データ 마이그레이션]ダイアログ ボックスが表示されます。[サーバ データ 마이그레이션]ダイアログ ボックスでは、古い ARCserve データベースに保管されている情報を新しい ARCserve データベースにマイグレートできます。データ 마이그레이션処理をこの時点では開始しないでください。

注: プライマリ サーバをアップグレードする場合は、データをマイグレートする前に CA ARCserve Backup データベース エンジンを手動で起動する必要があります。

4. プライマリ サーバのアップグレードに限っては、以下の手順も必要です。
 - a. Windows の[コンピュータの管理]コンソールを開きます。
 - b. [サービスとアプリケーション]を展開し、[サービス] をクリックします。
 - c. CA ARCserve データベース エンジンを右クリックし、コンテキスト メニューの[開始]をクリックします。
 - d. CA ARCserve ドメイン サーバを右クリックし、コンテキスト メニューの[開始]をクリックします。
 - e. CA ARCserve メッセージ エンジンを右クリックし、コンテキスト メニューの[開始]をクリックします。
 - f. Windows の[コンピュータの管理]コンソールを閉じます。

注: CA ARCserve Backup サービスが開始すると、状態が[開始]になります。

5. CA ARCserve Backup サーバ上の CA ARCserve Backup インストール ディレクトリを開きます。

CA ARCserve Backup インストール ディレクトリで、servermigration.exe をダブルクリックします。

[サーバ データ 마이그레이션]ダイアログ ボックスが表示されます。

6. [サーバ データ 마이그레이션]ダイアログ ボックスで、[開始]をクリックします。指定した CA ARCserve Backup データが r11.5 から r15 にマイグレートされます。

7. SQL Express のアップグレードの場合のみ。Windows サービス マネージャを使用して、SQLE インスタンス(mssql\$arcserve_db)を右クリックしてポップアップ ウィンドウで[停止]を選択します。

SQLE インスタンスが停止すると、対応するステータスは空白になり「実行」が表示されなくなります。

8. SQL Express プライマリ サーバ アップグレードの場合のみ。SQL ARCserve データベース ディレクトリ(SQLASDB)を一時的な場所にコピーします。

SQLASDB ディレクトリのバックアップ コピーは、元のディレクトリとは別の場所に置かれます。

9. アクティブ ノードをノード A からノード B へ、以下のように移動します。

- a. クラスタ マネージャにアクセスします。

[クラスタ マネージャ]ダイアログ ボックスが表示されます。

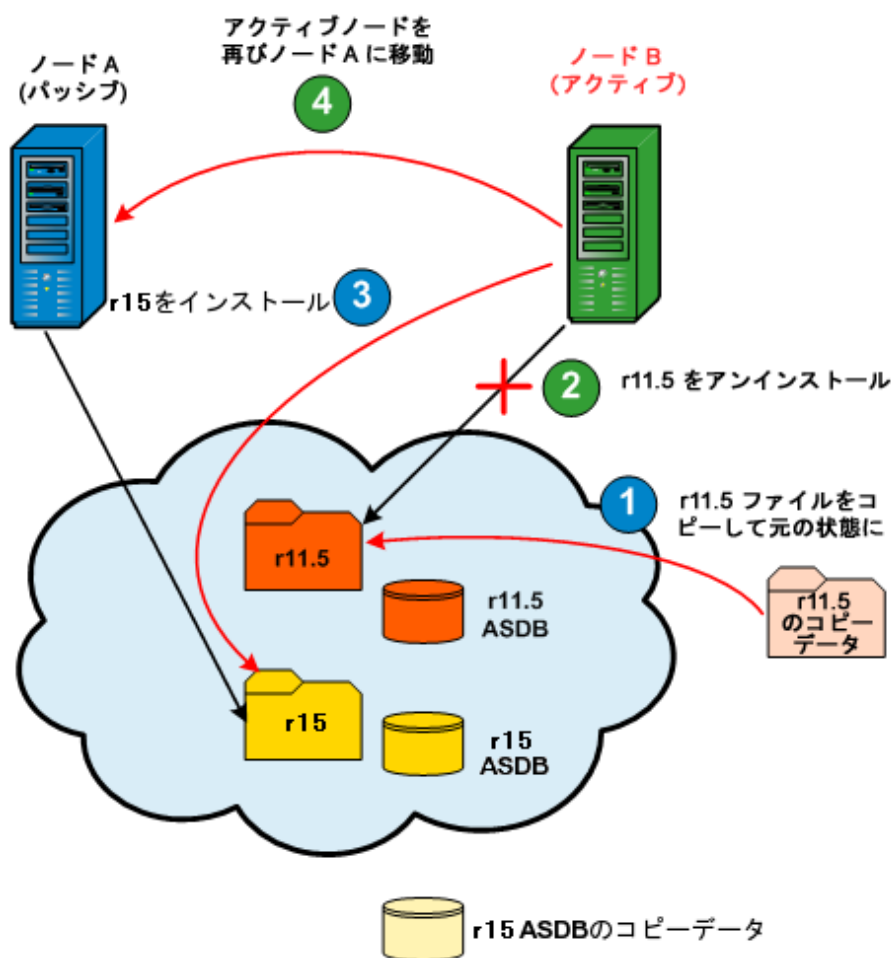
注：クラスタ マネージャは NEC のユーティリティで、NEC CLUSTERPRO をインストールしたサーバにインストールされています。クラスタ マネージャは、[スタート]メニューの NEC ExpressCluster Server グループからアクセスします。クラスタ マネージャから、クラスタに関連したほとんどの環境設定および管理タスクを実行できます。

- b. NEC サーバが展開されている ARCserve グループを選択し、対応する ARCserve クラスタ リソースを見つけます。各 ARCserve クラスタ リソースで右クリックして、ポップアップ メニューの[グループの移動]を選択します。

- クラスタにノードが 2 つしかない場合は、アクティブ ノードのステータスが自動的に初期アクティブ ノード(ノード A)から他方のノード(ノード B)に移り、ノード B がアクティブ ノードになってノード A がパッシブ ノードになります。
- クラスタ内のノード数が 3 つ以上の場合は、ポップアップ画面が表示されて、アクティブ ステータスをどのノードに移動するかを選択できます。移動先のノードを選択すると、指定したノードがアクティブ ノードになり、それまでに選択されていたノードがパッシブ ノードになります。クラスタ内の各ノードでこの手順を繰り返します。

ノード B:

以下の図は、このアップグレード手順でノード A に対して実行する初期タスクの概要を示しています。



1. CA ARCserve Backup r11.5 インストール ディレクトリ ファイルを一時的な場所から最初の場所にコピーして戻します。

CA ARCserve Backup r11.5 ファイルが最初の場所に戻っています。

2. CA ARCserve Backup r11.5 をノード B からアンインストールします。

CA ARCserve Backup r11.5 がアンインストールされます。

重要: ノード B での CA ARCserve Backup r15 の新規インストール時は、「データベースの上書き」オプションを選択しないでください。これは、CA ARCserve Backup r15 アップグレード中にノード A にマイグレートされた ARCserve データベースが上書きされないようにするためです。

3. ノード B で CA ARCserve Backup r15 の新規インストールを、ノード A で選択したのと同じ設定 (ドメイン名、サーバ タイプ、インストール パス、インストールしたオプションなど) で実行します。たとえば、r15 をノード A でプライマリ サーバとしてインストールした場合は、CA ARCserve Backup r15 をノード B でもプライマリ サーバとしてインストールする必要があります。詳細については、「CA ARCserve Backup のインストール」を参照してください。

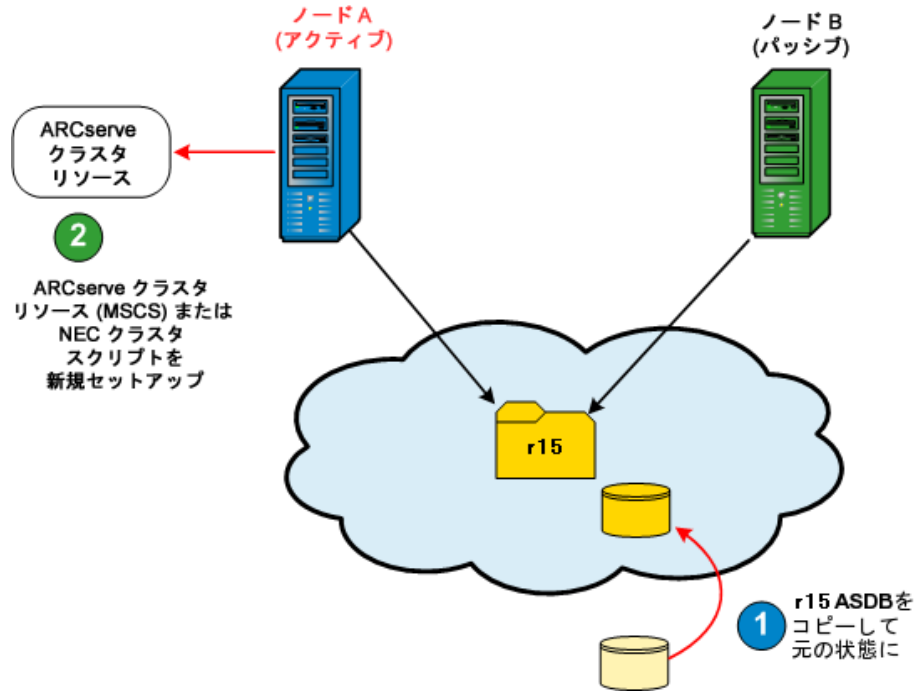
CA ARCserve Backup r15 がノード B にインストールされます。このときは新しい ARCserve クラスタ リソースをセットアップしないでください。

4. アクティブ ノードをノード B から最初のノード A へ、先ほど説明したように移動します。

ノード B が現在はパッシブ ノードで、ノード A がアクティブ ノードです。

ノード A:

以下の図は、このアップグレード手順でノード A に対して実行する初期タスクの概要を示しています。



1. SQL Express プライマリ サーバ アップグレードの場合のみ。SQL ARCserve データベース ディレクトリ (SQLASDB) を一時的な場所から最初の場所へコピーして戻します。

SQLASDB ディレクトリのバックアップしたコピーが、r15 のインストール中に作成された SQLASDB ディレクトリを置き換えます。

2. NEC クラスタ スクリプトおよびレジストリ Sync を再構築します。詳細については、「[NEC クラスタ スクリプトでの CA ARCserve Backup の有効化](#) (196 ページ)」を参照してください。

新規の NEC HA スクリプトが作成され、レジストリが同期化されます。

3. すべての CA ARCserve Backup サービスが CA ARCserve Backup サーバで適切に開始されるようにするには、CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開く前に、CA ARCserve Backup サーバで cstop スクリプトと cstart スクリプトを実行する必要があります。cstop および cstart のパッチ ファイルは、CA ARCserve Backup サーバの CA ARCserve Backup インストール ディレクトリに格納されています。cstop スクリプトと cstart スクリプトの使用法の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

注：CA ARCserve Backup データベースの前のバックアップの実行が本リリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報:

[クラスタ対応インストールおよびアップグレードの確認方法](#) (204 ページ)

NEC クラスタ スクリプトでの CA ARCserve Backup の無効化

クラスタ スクリプトとレジストリ キーは、NEC のセットアップ後プロセスの際に挿入されます。BrightStor ARCserve Backup r11.5 から本リリースへのアップグレード中は、クラスタ スクリプトを無効化してレジストリ キーを削除する必要があります。

注：このセクションで提供されている画像は、NEC ClusterPro/ExpressCluster バージョン 8.0 に対応しています。NEC ClusterPro/ExpressCluster の最新バージョンを実行している場合は、NEC ClusterPro/ExpressCluster のドキュメントを参照してください。

NEC クラスタ スクリプトとレジストリ キーを無効化する方法

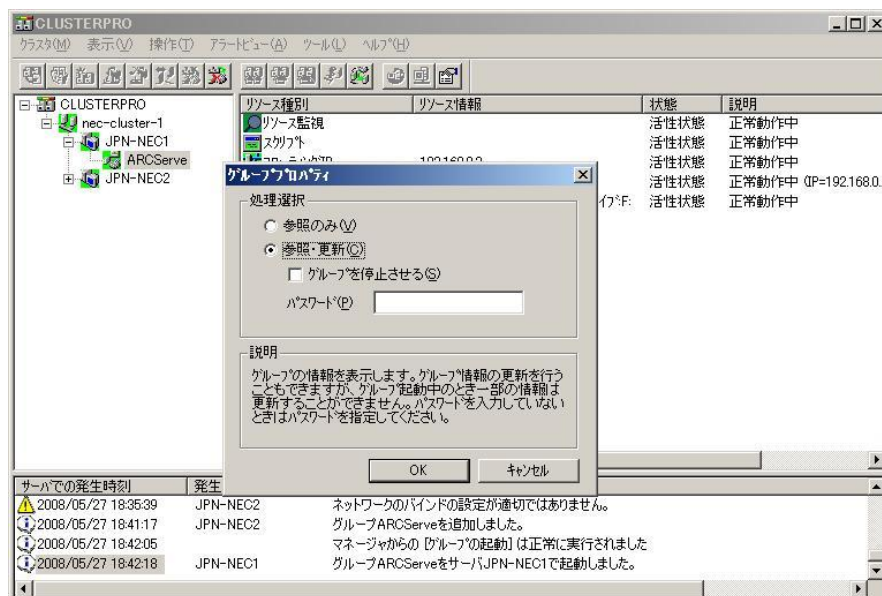
1. クラスタ マネージャにアクセスします。

[クラスタ マネージャ]ウィンドウが表示されます。

注：クラスタ マネージャは NEC のユーティリティで、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster をインストールしたサーバにインストールされています。クラスタ マネージャから、クラスタに関連したほとんどの環境設定および管理タスクを実行できます。

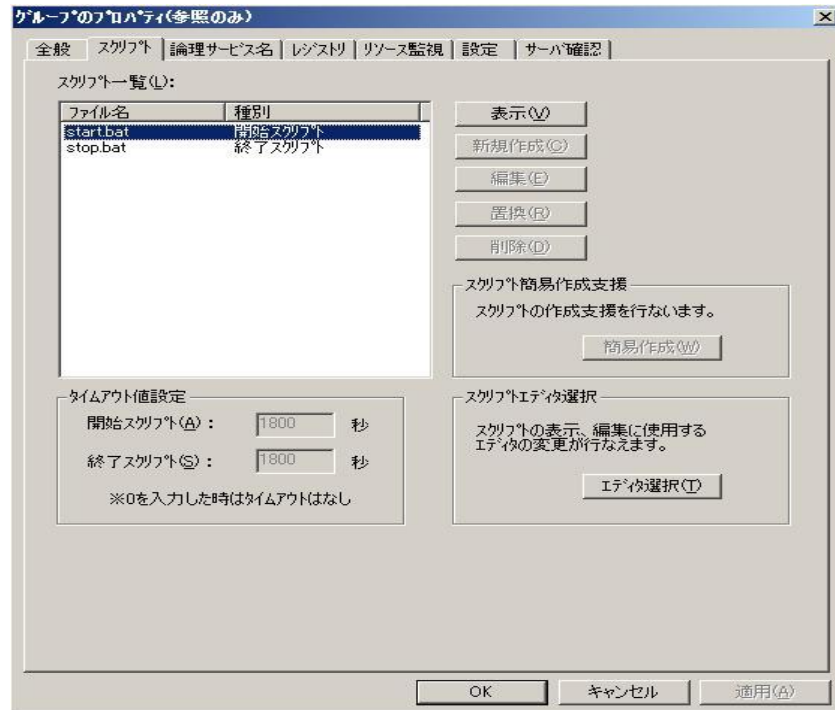
2. NEC サーバが展開されている ARCserve グループを選択し、対応する ARCserve クラスタ リソースを見つけます。各 ARCserve クラスタ リソースで右クリックして、ポップアップ メニューの[プロパティ]を選択します。

[グループ プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。



3. [参照および変更]オプションを選択します。[グループ プロパティ]ダイアログボックスが開いたら、[スクリプト]タブを選択します。

[スクリプト]タブ ダイアログ ボックスが表示されます。



4. [スクリプト]リストで、start.bat を選択して[編集]をクリックします。start.bat スクリプトが表示されたら、REM SET プロセス スクリプトを見つけて(2 か所)値を以下のようにゼロに設定します。

SET process=0

注: start.bat ファイルでは、REM SET プロセス スクリプトは NORMAL の後と FAILOVER の後にあります。

start.bat スクリプトが変更されます。

5. [スクリプト]リストで、stop.bat を選択して[編集]をクリックします。stop.bat スクリプトが表示されたら、REM SET プロセス スクリプトを見つけて(2 か所)値を以下のようにゼロに設定します。

SET process=0

注: stop.bat ファイルでは、REM SET プロセス スクリプトは NORMAL の後と FAILOVER の後にあります。

stop.bat スクリプトが変更されます。

6. [グループ プロパティ]ダイアログ ボックスで、[レジストリ]タブを選択します。
[レジストリ]ダイアログ ボックスが表示されます。



7. レジストリ キー リストで、既存のレジストリ キーを選択して[削除]をクリックします。
レジストリ キーが削除されます。

NEC クラスタ スクリプトでの CA ARCserve Backup の有効化

クラスタ スクリプトとレジストリ キーは、NEC のセットアップ後プロセスの際に挿入されます。BrightStor ARCserve Backup r11.5 から本リリースへのアップグレード中は、クラスタ スクリプトの一部が無効化され、レジストリ キーが削除されます。アップグレードが終了すると、これらのクラスタ スクリプトを有効化してレジストリ キーをリビルドする必要があります。

注：このセクションで提供されている画像は、NEC ClusterPro/ExpressCluster バージョン 8.0 に対応しています。NEC ClusterPro/ExpressCluster の最新バージョンを実行している場合は、NEC ClusterPro/ExpressCluster のドキュメントを参照してください。

NEC クラスタ スクリプトとレジストリ キーを有効にする方法

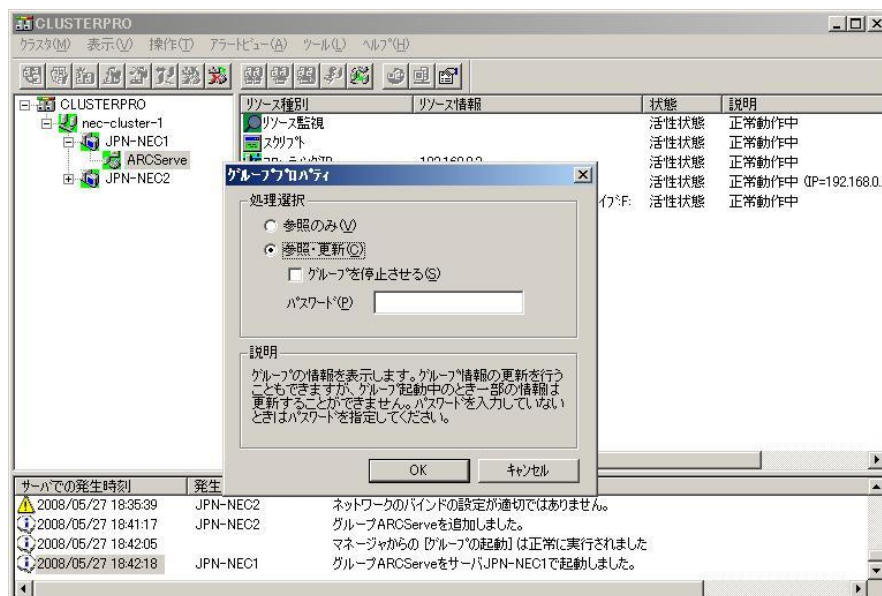
1. クラスタ マネージャにアクセスします。

[クラスタ マネージャ]ダイアログ ボックスが表示されます。

注：クラスタ マネージャは NEC のユーティリティで、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster をインストールしたサーバにインストールされています。クラスタ マネージャから、クラスタに関連したほとんどの環境設定および管理タスクを実行できます。

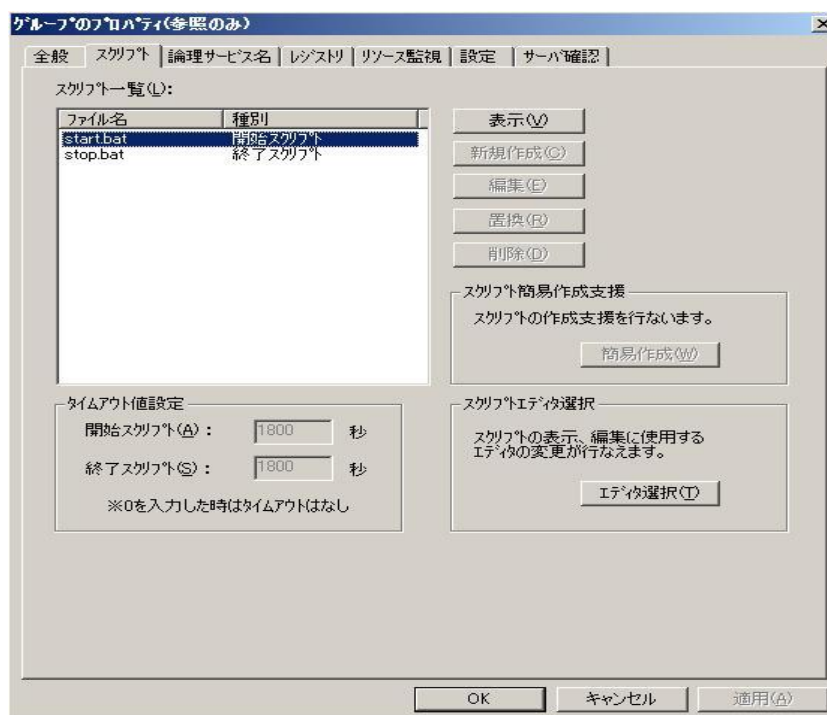
2. NEC サーバが展開されている ARCserve グループを選択し、対応する ARCserve クラスタ リソースを見つけます。各 ARCserve クラスタ リソースで右クリックして、ポップアップ メニューの[プロパティ]を選択します。

[グループ プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。



3. [参照および変更]オプションを選択します。[グループ プロパティ]ダイアログボックスが開いたら、[スクリプト]タブを選択します。

[スクリプト]タブ ダイアログ ボックスが表示されます。



4. [スクリプト]リストで、start.bat を選択して[編集]をクリックします。start.bat スクリプトが表示されたら、REM SET プロセス スクリプトを見つけて(2 か所)値を以下のように 1 に設定します。

SET process=1

注: start.bat ファイルでは、REM SET プロセス スクリプトは NORMAL の後と FAILOVER の後にあります。

start.bat スクリプトが変更されます。

5. [スクリプト]リストで、stop.bat を選択して[編集]をクリックします。stop.bat スクリプトが表示されたら、REM SET プロセス スクリプトを見つけて(2 か所)値を以下のように 1 に設定します。

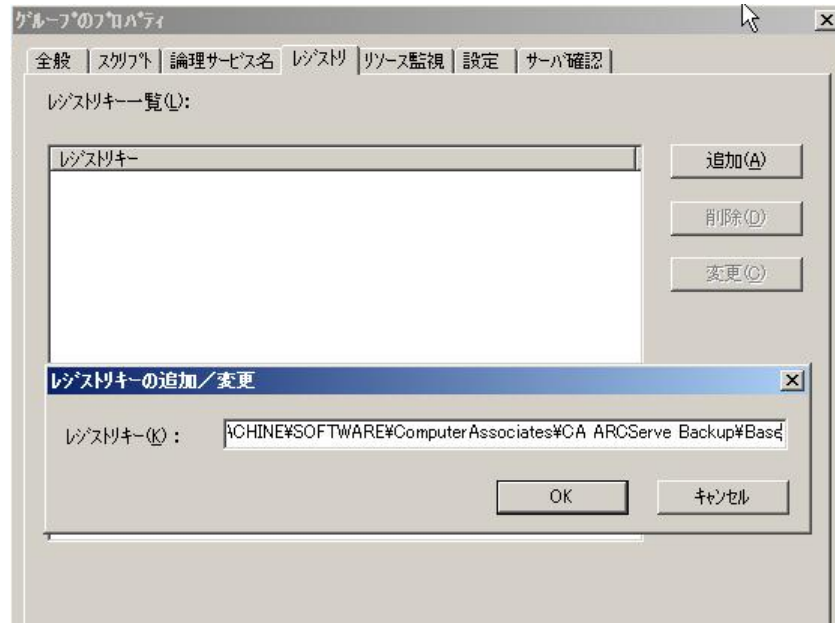
SET process=1

注: stop.bat ファイルでは、REM SET プロセス スクリプトは NORMAL の後と FAILOVER の後にあります。

stop.bat スクリプトが変更されます。

6. [グループ プロパティ]ダイアログ ボックスで、[レジストリ]タブを選択します。[レジストリ]ダイアログ ボックスが開いたら[追加]をクリックします。

[レジストリ キーの追加/変更]ダイアログ ボックスが開きます。



7. レジストリ キーを追加して、[OK]をクリックします。

レジストリ キーが[グループ プロパティ]ダイアログ ボックスのレジストリ キー リストに追加されます。

NEC クラスタ環境における r12/12.5 から r15 への CA ARCserve Backup のアップグレード

このセクションでは、以前のソフトウェア バージョンを現行リリースにアップグレードする際に実行する必要がある手順について説明します。必ず、適切なアップグレード手順に従っていることを確認してください。

- NEC CLUSTERPRO クラスタ対応環境で、最新のサービス パックを含む BrightStor ARCserve Backup r11.5 をアップグレードする場合は、「[NEC CLUSTERPRO 環境での CA ARCserve Backup の r11.5 から r15 へのアップグレード](#) (186 ページ)」にある手順に従って直接 CA ARCserve Backup r15 にアップグレードします。
- NEC CLUSTERPRO 環境で、最新のサービス パックを含む CA ARCserve Backup r12/r12.5 を r15 にアップグレードするには、以下の手順に従います。

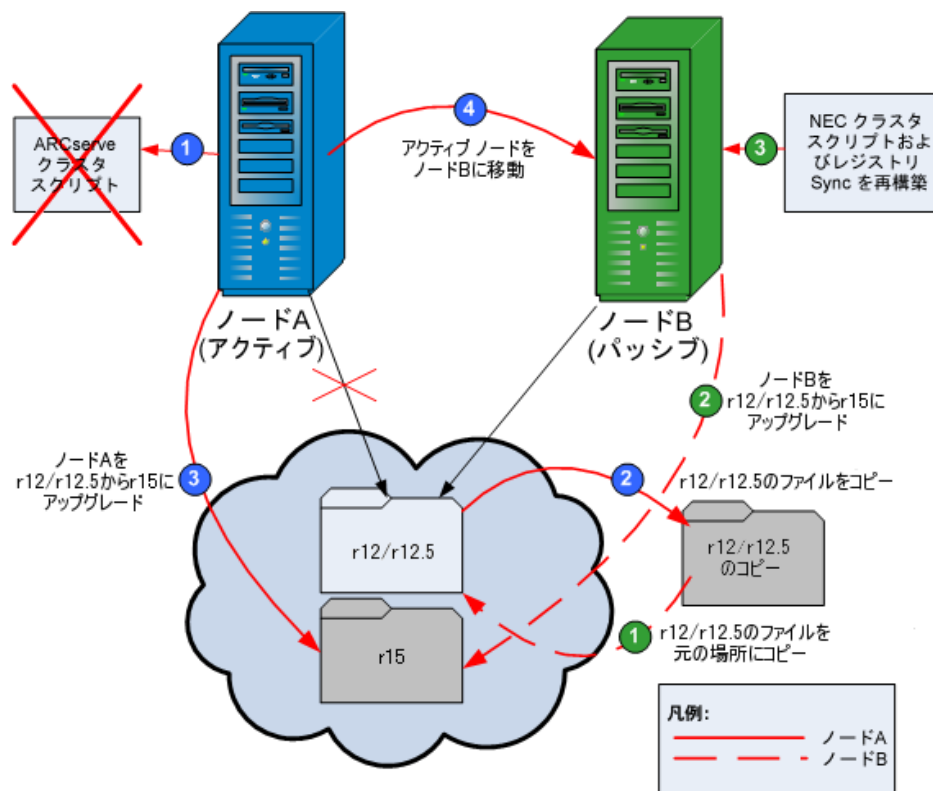
始める前に、必ず「[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード](#) (100 ページ)」に記載されている情報をお読みください。

CA ARCserve Backup を NEC CLUSTERPRO 環境で r12/r12.5 から r15 へアップグレードするときは、以下の手順に従ってクラスタ化されたバックアップ データを安全に保護する必要があります。CA ARCserve Backup r12/r12.5 をまだクラスタ環境で使用していない場合は、この手順を実行する必要はありません。この手順では、NEC CLUSTERPRO クラスタ環境で以下の CA ARCserve Backup r12/r12.5 アップグレードを実行するシナリオをサポートしています。

- プライマリ サーバの SQL Server から SQL Server へのアップグレード
- プライマリ サーバの SQL Server Express から SQL Server Express へのアップグレード
- メンバ サーバの r15 へのアップグレード

このアップグレード手順では 2 ノード クラスタ環境を想定しており、ノード A は初期アクティブ ノードを、ノード B は初期パッシブ ノードを表しています。

以下の図は、アップグレード手順を示します。



NEC CLUSTERPRO 環境で CA ARCserve Backup を r12/r12.5 から r15 へアップグレードする方法

ノード A:

1. NEC Cluster Scripts を無効化して Registry Sync を削除します。詳細については、「[NEC クラスタ スクリプトでの CA ARCserve Backup の無効化](#) (193 ページ)」を参照してください。

2. CA ARCserve Backup r12/r12.5 のインストール ディレクトリ ファイルを一時的な場所にコピーします。

CA ARCserve Backup r12/r12.5 ファイルのバックアップ コピーは、元のファイルとは別の場所に置かれます。

3. CA ARCserve Backup r15 アップグレード インストールをノード A に対して実行します。詳細については、「[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード](#)」(100 ページ)を参照してください。

CA ARCserve Backup r15 のアップグレードのインストール パスの場所は、r12 が現在インストールされている場所と同じであることが必要です。

ノード A の CA ARCserve Backup は r12/r12.5 から r15 にアップグレードされます。このときは新しい ARCserve クラスタ リソースをセットアップしないでください。

4. アクティブ ノードをノード A からノード B へ、以下のように移動します。

- a. クラスタ マネージャにアクセスします。[クラスタ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。

注: クラスタ マネージャは NEC のユーティリティで、NEC CLUSTERPRO をインストールしたサーバにインストールされています。クラスタ マネージャは、[スタート]メニューの NEC ExpressCluster Server グループからアクセスします。クラスタ マネージャから、クラスタに関連したほとんどの環境設定および管理タスクを実行できます。

- b. ARCserve サーバが展開されている NEC グループを選択して、対応する ARCserve クラスタ リソースを見つけてください。各 ARCserve クラスタ リソースを右クリックし、ショートカット メニューの[グループの移動]を選択します。

- クラスタにノードが 2 つしかない場合は、アクティブ ノードのステータスが自動的に初期アクティブ ノード(ノード A)から他方のノード(ノード B)に移り、ノード B がアクティブ ノードになってノード A がパッシブ ノードになります。
- クラスタ内のノード数が 3 つ以上の場合は、ポップアップ画面が表示されて、アクティブ ステータスをどのノードに移動するかを選択できます。移動先のノードを選択すると、指定したノードがアクティブ ノードになり、それまでに選択されていたノードがパッシブ ノードになります。クラスタ内の各ノードでこの手順を繰り返します。

ノード B:

1. CA ARCserve Backup r12/r12.5 インストール ディレクトリ ファイルを一時的な場所から最初の場所にコピーして戻します。

CA ARCserve Backup r12/r12.5 ファイルが最初の場所に戻ります。

2. 以下のいずれかを行います。

- CA ARCserve Backup データベースをホストするために Microsoft SQL Server のリモート展開を使用するメンバ サーバまたはプライマリ サーバをアップグレードする場合は、次の手順に進みます。

- 他のすべての場合のアップグレードについては、以下を実行します。

- a. クラスタ対応環境の共有ディスクの以下のディレクトリにアクセスします。

ARCserve_Home¥SQLASDB¥data

上記のディレクトリのファイルをすべて選択します。

選択されたファイルを右クリックして、ポップアップ メニューの[プロパティ]をクリックします。

[プロパティ]ダイアログ ボックスが開きます。

- b. [セキュリティ]タブをクリックします。

[追加]をクリックし、[ネットワーク サービス]セキュリティ グループを選択します。

[ネットワーク サービス]セキュリティ グループの権限を「フル コントロール」に設定します。

[OK]をクリックし、[プロパティ]ダイアログ ボックスで[OK]をクリックします。

3. ノード B で CA ARCserve Backup r15 のアップグレード インストールを、ノード A で選択したのと同じ設定(ドメイン名、サーバ タイプ、インストール パス、インストールしたオプション)で実行します。詳細については、「以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード」を参照してください。
4. NEC クラスタ スクリプトおよびレジストリ Sync を再構築します。詳細については、「NEC クラスタ スクリプトでの CA ARCserve Backup の有効化」を参照してください。

新規の NEC HA スクリプトが作成され、レジストリが同期化されます。

注: CA ARCserve Backup データベースの前回のバックアップの実行が本リリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報:

[クラスタ対応インストールおよびアップグレードの確認方法 \(204 ページ\)](#)

CA ARCserve Backup の NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster からのアンインストール

CA ARCserve Backup のクラスタからのアンインストールはアクティブ ノードからのみ可能であり、クラスタ内のすべてのノードについて行う必要があります。

CA ARCserve Backup を NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster からアンインストールする方法

1. クラスタ グループを停止します。詳細については、「NEC クラスタ グループの停止」を参照してください。
2. レジストリ sync を削除し、start.bat および stop.bat スクリプトを編集して、インストール中に追加された CA ARCserve Backup スクリプトを無効にします。詳細については、[「NEC クラスタ スクリプトにおける CA ARCserve Backup の無効化」](#) (193 ページ)を参照してください。
3. ARCserve Backup ディレクトリにアクセスします。すべてのファイルをタイプ別に並べ替えてから、すべての .dll ファイルを別の場所にコピーします（コピーする場所は、後でネットワーク コピーをしなくても済むように、共有ディスクにすることをお勧めします）。

重要: バックアップしている .dll ファイルの現在のノードがアクティブ ノードとして設定されていることを確認します。

CA ARCserve Backup のダイナミック リンク ライブラリ (.dll) ファイルが別の場所にコピーされます。これにより、CA ARCserve Backup をクラスタ内のそれぞれのノードからアンインストールできるようになります。

4. Windows のコントロール パネルで、[プログラムの追加と削除]ユーティリティにアクセスして CA ARCserve Backup を現在のノードから削除します。

CA ARCserve Backup が現在の (アクティブ) ノードから削除されます。

5. .dll ファイルを ARCserve Backup ディレクトリの元の場所にコピーして戻します。

CA ARCserve Backup の .dll ファイルは元の ARCserve Backup ディレクトリにコピーされます。

6. クラスタ マネージャでグループ名を右クリックし、ポップアップメニューで[グループを移動]を選択してアクティブなノードを変更します。

元のノードのステータスがオフライン (パッシブ) に変わり、クラスタ内で次のノードのステータスがオンライン (アクティブ) に変わります。

7. クラスタの残りのすべてのノードに対して、手順 4 ~ 7 を繰り返します。

CA ARCserve Backup はクラスタ内のすべてのノードから削除されます。

クラスタ対応インストールおよびアップグレードの確認方法

このセクションでは、MSCS および NEC CLUSTERPRO クラスタ対応環境への CA ARCserve Backup インストールおよびアップグレードの確認方法について説明します。

クラスタ対応インストールおよびアップグレードの確認方法

1. インストールまたはアップグレード処理中にエラーが発生していないことを確認します。
2. CA ARCserve Backup サービスを適切に開始するには、`cstop` スクリプトを実行してすべての CA ARCserve Backup サービスを停止し、その後に `cstart` スクリプトを実行してすべての CA ARCserve Backup サービスを再開してください。
注: `cstop` および `cstart` のバッチ ファイルは、CA ARCserve Backup サーバの CA ARCserve Backup インストール ディレクトリに格納されています。`cstop` スクリプトと `cstart` スクリプトの使用法の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。
3. スタンドアロン サーバ上で CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
注: このときは、クラスタ ノードにログインしないでください。
4. スタンドアロン システムのマネージャ コンソールから、新しくインストールまたはアップグレードしたシステムに仮想名を使用してログインします。
5. 新しいシステムに正常にログインできる場合は、ARCserve クラスタ グループを別のノードに移動します。すべての ARCServe サービスが正常に起動したことを確認します。
6. ARCserve クラスタ グループを移動した後で、マネージャ コンソールに移動できることを確認します。バックアップ マネージャ、リストア マネージャ、ジョブ ステータス マネージャなどを開いてみて確認します。
注: クラスタ グループを移動している間、マネージャ コンソールが応答を断続的に停止することがあります。
7. サーバ管理を開きます。プライマリ サーバがすべてのメンバ サーバを検出することを確認します。
8. デバイス マネージャを表示します。使用しているデバイスを CA ARCserve Backup が検出することを確認します。
9. ジョブ ステータス マネージャを表示します。すべてのデータが古いインストールから新しいプライマリ サーバにマイグレートされたことを確認します。CA ARCserve Backup はジョブに関する情報、ログおよびユーザ情報を古いサーバから新しいプライマリ サーバへマイグレートします。
10. 単純バックアップ ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

第 6 章: CA ARCserve Backup と他の製品との統合

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Antivirus の統合](#) (205 ページ)

[CA ARCserve Replication の統合](#) (205 ページ)

[CA ARCserve Backup Patch Manager との統合](#) (206 ページ)

CA Antivirus の統合

CA Antivirus が CA ARCserve Backup にバンドルされています。そのため、ウィルススキャン オプションを使用して、ジョブの実行中にウィルスを自動的にスキャンできます。

CA Antivirus の環境設定を行って、最新のウィルス シグネチャ ファイルとプログラム モジュールをダウンロードできます。ダウンロードされた更新版は関連するプログラムに展開されます。この処理が完了すると、CA Antivirus により、更新の完了を通知するメッセージがブロードキャストされます。特定の環境下では、ウィルス対策機能の更新を適用するために、コンピュータを再起動する必要があります。

注: CA ARCserve Backup に組み込まれているのは、ウィルスのスキャンおよび修復用のコンポーネントのみです。CA Antivirus の完全版はインストールされません。

詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

CA ARCserve Replication の統合

CA ARCserve Replication および CA ARCserve High Availability は、非同期リアルタイム レプリケーションを使用して惨事復旧機能を提供するデータ保護ソリューションです。このホストベースのソフトウェアは、継続的なデータ レプリケーションを提供し、アプリケーション データへの変更を発生と同時に、ローカルまたは WAN (Wide Area Network, ワイド エリア ネットワーク) にあるスタンバイ レプリカ サーバに転送します。継続的なデータ レプリケーションにより、常に最新のデータをリストアに使用できます。

CA ARCserve Replication および CA ARCserve High Availability は、個別に販売される CA 製品です。

CA ARCserve Backup と CA ARCserve Replication との統合の詳細については、「CA ARCserve Replication 統合ガイド」を参照してください。

CA ARCserve Backup Patch Manager との統合

CA ARCserve Backup Patch Manager は、CA ARCserve Backup for Windows と共に CA ARCserve Backup for Windows インストール メディアにパッケージされています。CA ARCserve Backup for Windows インストール ブラウザを使用して、CA ARCserve Backup Patch Manager をインストール メディアから直接インストールできます。

CA ARCserve Backup Patch Manager の使用方法の詳細については、CA ARCserve Backup Patch Manager で提供されるマニュアルを参照してください。CA ARCserve Backup Patch Manager インストール ブラウザから、「CA ARCserve Backup Patch Manager Readme」および「CA ARCserve Backup ユーザ ガイド」を直接開くことができます。

第 7 章: CA ARCserve Backup の設定

この章では、CA ARCserve Backup ベース製品を設定する方法について説明します。CA ARCserve Backup エージェントおよびオプションの設定方法の詳細は、対応するエージェントまたはオプションのマニュアルを参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [マネージャまたはマネージャ コンソールを開く](#) (207 ページ)
- [CA ARCserve Backup ホーム画面](#) (209 ページ)
- [最初に表示されるホーム画面とユーザ チュートリアル](#) (214 ページ)
- [サービスの状態アイコン](#) (215 ページ)
- [CA ARCserve Backup へのログオン](#) (215 ページ)
- [CA ARCserve Backup マネージャの環境設定の指定](#) (217 ページ)
- [コード ページ](#) (219 ページ)
- [CA ARCserve Backup システム アカウント](#) (221 ページ)
- [通信を最適化するためのファイアウォールの設定](#) (223 ページ)
- [CA ARCserve Backup データベース保護ジョブの開始](#) (226 ページ)
- [CA ARCserve Backup SQL Server データベースの微調整](#) (227 ページ)
- [デバイス ウィザードを使用したデバイスの設定](#) (229 ページ)
- [Enterprise Module コンポーネントの設定](#) (230 ページ)
- [Global Dashboard の環境設定](#) (230 ページ)
- [ファイル システム デバイスの作成](#) (239 ページ)
- [CA ARCserve Backup データベース エージェント用スキップ パラメータとインクルードパラメータの定義方法](#) (242 ページ)
- [通信を最適化するためのファイアウォールの設定](#) (243 ページ)

マネージャまたはマネージャ コンソールを開く

マネージャ コンソールは、ご使用の環境におけるバックアップ管理、およびオペレーションのリストアを可能にするインターフェースです。マネージャ コンソールを使用すると、ローカルとリモートの CA ARCserve Backup サーバとドメインへのログイン、および管理が可能です。

この CA ARCserve Backup のリリースには、再設計されたマネージャ コンソールが用意されています。ご使用の環境で古いリリースの CA ARCserve Backup を起動している場合、前のバージョンのマネージャを使用して、旧リリースを起動中のシステムにログインする必要があります。

マネージャまたはマネージャ コンソールを開く方法

1. 以下のいずれかを行います。

- このリリースの CA ARCserve Backup を実行中のサーバにアクセスするには、Windows の[スタート]ボタンから[プログラム] - [CA] - [ARCserve Backup]を選択し、[マネージャ]をクリックします。
- 前のリリースを実行中の ARCserve サーバにアクセスするには、次のファイルを参照します。

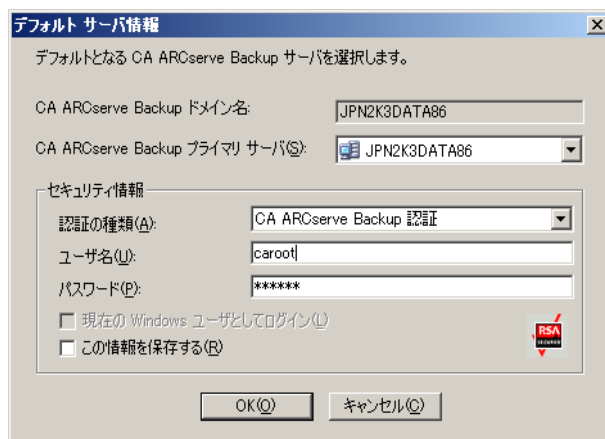
C:\Programs Files\CA\ARCserve Backup\ARCserveMgr.exe

ARCserveMgr.exe をダブルクリックします。

- CA ARCserve Backup の以前のリリースがデフォルトのインストール ディレクトリにインストールしてあり、インストールのプロセスを使用して CA ARCserve Backup をアップグレードした場合は、Windows の[スタート]ボタンから[プログラム] - [CA] - [ARCserve Backup]を選択し、[マネージャ]をクリックすると、マネージャを開くことができます。

[デフォルト サーバ情報]が表示されます。

2. デフォルト サーバを変更したり、別のサーバを指定したりするには、CA ARCserve Backup プライマリ サーバのリストからサーバを選択します。目的のサーバがドロップダウン リストに表示されない場合は、CA ARCserve Backup プライマリ サーバのリストでサーバのホスト名や IP アドレスを直接入力することができます。



3. ユーザを変更するには、CA ARCserve Backup 認証または Windows 認証を選択し、ユーザ名とパスワードを指定します。

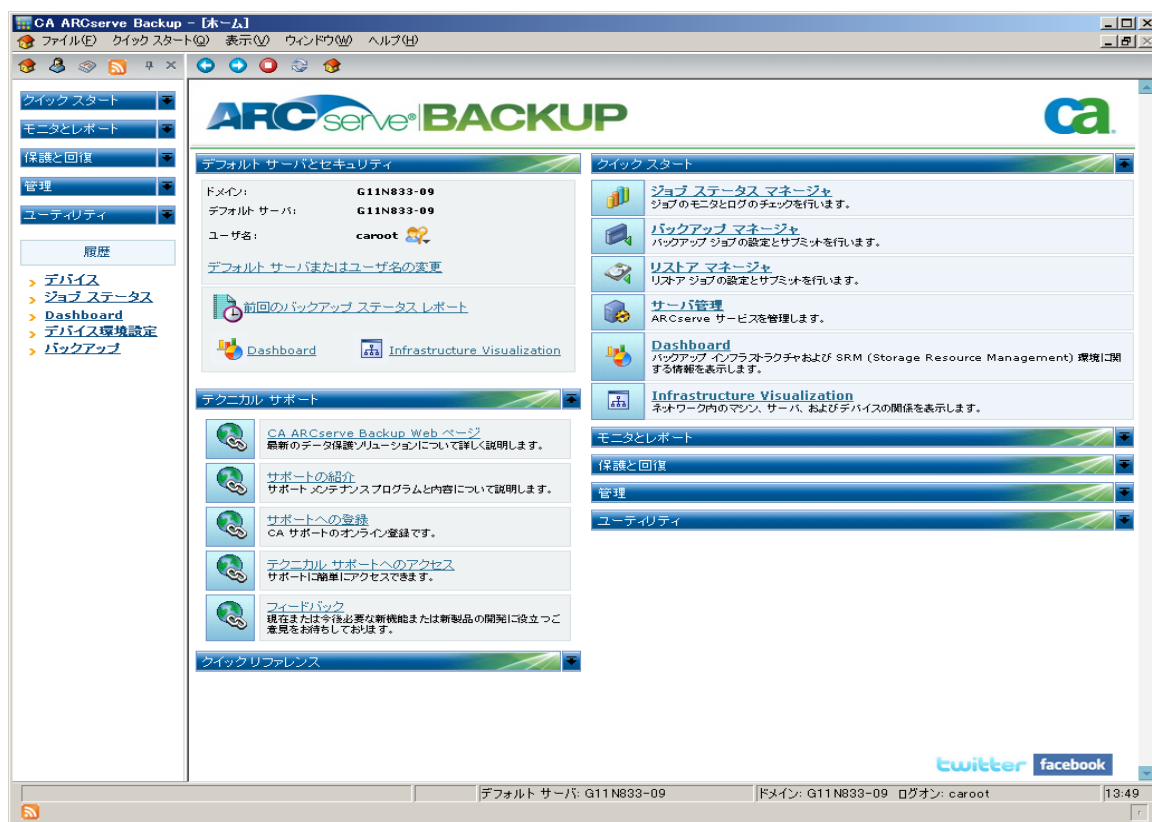
デフォルトでは、CA ARCserve Backup にセキュリティ情報は保存されません。このサーバ用に入力したユーザ名およびパスワード情報を保存する場合は、明示的に[この情報を保存する]を選択する必要があります。この情報を保存しない場合は、マネージャやウィザードなどを最初に開くときに CA ARCserve Backup セキュリティ認証情報の入力を促すプロンプトが表示され、CA ARCserve Backup のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

4. [ユーザ名]フィールドに「caroot」、[パスワード]フィールドにパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

CA ARCserve Backup に初めてログインすると、チュートリアルが表示されます。このチュートリアルでは、画面の指示に従って操作を進めることで、基本的なデータのバックアップおよびリストア方法を習得できます。このチュートリアルは、初回ログイン時のみ表示されますが、[ヘルプ]メニューから[チュートリアル]にアクセスすることもできます。

CA ARCserve Backup ホーム画面

ホーム画面は操作の基点となる画面で、ここから他の CA ARCserve Backup サーバへのログインや、CA ARCserve Backup の各種マネージャ、ウィザードおよびユーティリティへのアクセスが可能です。



デフォルト サーバおよびセキュリティ

CA ARCserve Backup サーバに関する次の情報を表示します。

- 現在のユーザ名でログインしているドメインおよびデフォルト サーバ

注: デフォルト サーバを変更して別の CA ARCserve Backup プライマリサーバまたはスタンバイ サーバにログインする方法の詳細は、[「CA ARCserve Backup へのログオン」](#) (215 ページ)を参照してください。

- Windows ユーザが CA ARCserve Backup にログインしたときの、ユーザおよびその役割のサマリ。[ユーザ名]フィールドの横の役割情報アイコンをクリックし、ユーザが保有するすべての役割が含まれる[ユーザの役割]リストを確認します。
- バックアップ ステータス レポート(日単位)。
- CA ARCserve Backup Dashboard の起動。
- Infrastructure Visualization の表示
- Enterprise Module がインストールされていない場合、またはライセンスが期限切れになっている場合、詳細を表示。ホーム画面の GUI のリンクをクリックして制限を確認します。

クイック スタート

以下の CA ARCserve Backup マネージャを開くことができます。

- **ジョブ ステータス マネージャ** -- ジョブを監視し、ログを表示します。
- **バックアップ マネージャ** -- バックアップ ジョブを設定およびサブミットします。
- **リストア マネージャ** -- 完全なデータ回復を実行します。
- **サーバ管理** -- CA ARCserve Backup エンジン进行管理します。たとえば、データベース エンジン、ジョブ エンジン、およびテープ エンジンです。
- **Dashboard** -- バックアップ インフラストラクチャのスナップショット概要にアクセスできます。
- **Infrastructure Visualization** -- CA ARCserve Backup 環境内のコンピュータ、サーバ、およびデバイスの関係を表示します。

モニタとレポート

以下のマネージャおよびユーティリティを開くことができます。

- **ジョブ ステータス マネージャ** -- ジョブを監視し、ログを表示します。
- **レポート マネージャ** -- 完全データ リカバリを実行します。
- **レポート ライタ** -- カスタムの CA ARCserve Backup レポートを作成します。
- **Dashboard** -- バックアップ インフラストラクチャのスナップショット概要にアクセスできます。

保護と回復

以下のマネージャおよびウィザードを開くことができます。

- **バックアップ マネージャ** -- バックアップ ジョブを設定およびサブミットします。
- **リストア マネージャ** -- 完全なデータ回復を実行します。
- **CA ARCserve Replication** -- CA ARCserve Replication を起動またはインストールします。CA ARCserve Replication は、非同期リアルタイム レプリケーションを使用して惨事復旧機能を提供するデータ保護ソリューションです。このリンクは、CA ARCserve Replication をインストールするとアクティブになります。詳細については、「CA ARCserve Replication 統合ガイド」を参照してください。
- **CA ARCserve D2D** -- CA ARCserve D2D を起動またはインストールします。CA ARCserve D2D は、ブロック レベルのデータ変更を追跡し、変更されたブロックのみをバックアップするバックアップ ソリューションです。CA ARCserve D2D では、増分バックアップを頻繁に実行できます。バックアップのサイズが削減され、バックアップ データを最新の状態に保つことができます。

管理

以下のマネージャ、ウィザードおよびユーティリティを開くことができます。

- **サーバ管理** -- CA ARCserve Backup エンジン进行管理します。たとえば、データベース エンジン、ジョブ エンジン、およびテープ エンジンです。
- **セントラル エージェント管理** -- CA ARCserve Backup エージェント进行管理します。
- **デバイス マネージャ** -- 環境内のストレージ デバイス を管理します。
- **デバイス環境設定** -- CA ARCserve Backup 環境内のストレージ デバイスを設定します。
- **デバイス ウィザード** -- メディア操作を実行します。
- **デバイス グループ環境設定** -- CA ARCserve Backup 環境でデバイスのグループを簡単に設定し、データのステージングに使用するグループを選択できます。
- **メディア プール** -- CA ARCserve Backup 環境内でメディア プールを作成して管理します。
- **データベース マネージャ** -- CA ARCserve Backup データベース进行管理および維持します。
- **Alert マネージャ** -- バックアップ中に発生するイベントに関するアラート通知を作成します。
- **ユーザ プロファイル** -- CA ARCserve Backup 管理者がユーザ プロファイルを管理して CA ARCserve Backup へのアクセスを提供できるようになります。
- **Agent Deployment** -- リモート ホストに CA ARCserve Backup エージェントをインストールしたり、リモートホスト上の CA ARCserve Backup エージェントをアップグレードしたりするための Agent Deployment ツールを起動します。

ユーティリティ

以下のウィザードおよびユーティリティを開くことができます。

- **ジョブ スケジューラ ウィザード** -- CA ARCserve Backup コマンドライン ユーティリティを制御します。
- **ブートキット ウィザード** -- 惨事復旧用ブート ディスク セットを作成します。
このリンクは、CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option をインストールするとアクティブになります。

注： 詳細については、「Disaster Recovery Option ユーザ ガイド」を参照してください。
- **診断ウィザード** -- CA ARCserve Backup システム ログから情報を集めます。
収集した情報は、トラブルシューティングに使用したり、CA テクニカル サポートが問題を特定する際に役立てることができます。
- **マージ** -- セッション情報をメディアから CA ARCserve Backup データベースにマージします。
- **メディア検証とスキャン** -- メディア上のバックアップ セッションに関する情報を収集できます。
- **比較** -- メディア セッションの内容とコンピュータ上のファイルを比較します。
- **カウント** -- コンピュータ上のファイルおよびディレクトリをカウントします。
- **コピー** -- ハード ディスクのファイルを別のハード ディスクへコピーまたは移動します。
- **ページ** -- コンピュータからファイルやディレクトリを削除します。

テクニカル サポート

[テクニカル サポート]セクションから、以下のサポート ツールに迅速にアクセスできます。

- **CA ARCserve Backup Web ページ** -- CA ARCserve Backup に関する製品情報がある CA サイトにリンクします。
- **サポートの紹介** -- 製品のメンテナンス情報およびサポート情報が提供されます。
- **サポートへの登録** -- CA Support Online への登録手続きを行うオンラインフォームが提供されます。
- **テクニカル サポートへのアクセス** -- 弊社テクニカル サポートの Web サイトにリンクします。ここでは、最新の CA ARCserve Backup ニュースや情報、各種ガイド、操作マニュアル、ビデオ、トラブルシューティング手順、パッチなどが提供されます。
- **フィードバック** -- 簡単なアンケートに回答し、新製品の開発に対してフィードバックを送ることができます。また、ローカル ユーザ コミュニティ グループへの参加手続きを行うことができます。

クイック リファレンス

クイック リファレンス セクションでは、以下のドキュメントにアクセスすることができます。

- **Readme** -- このドキュメントでは、オンライン ヘルプまたはマニュアルを補足する最新の更新や情報について説明します。
- **リリース サマリ** -- このドキュメントでは、CA ARCserve Backup に追加された新機能および機能拡張のサマリについて説明します。

ARCserve News

ARCserve ニュース セクションでは、ニュース記事およびプレス リリースの一覧にアクセスすることができます。

最初に表示されるホーム画面とユーザ チュートリアル

CA ARCserve Backup を初めて起動すると、チュートリアルが表示され、製品の紹介と主な機能に関する説明が行われます。このチュートリアルでは、ファイル システム デバイスを設定し、初めてのバックアップおよびリストアを実行するための手順が説明されます。

サービスの状態アイコン

CA ARCserve Backup マネージャの上部にあるツールバーには、各バックエンド サービス(ジョブ エンジン、テープ エンジン、およびデータベース エンジン)のアイコンが表示されます。



各アイコンの色(3 種類)は、以下の状態を示しています。

- 緑 -- サービスが実行中であることを示します。
- 赤 -- サービスが実行中でないことを示します。
- グレー -- サービスに接続できないか、不明な状態であることを示します。
- 青 -- サービスが一時停止していることを示します。

CA ARCserve Backup へのログオン

CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開く際、CA ARCserve Backup にログインする必要があります。CA ARCserve Backup に初めてログインするときは、管理者権限を持つ `caroot` としてログインし、パスワード フィールドに適切なパスワードを入力する必要があります。または、CA ARCserve Backup をインストールしたときに指定した Windows アカウントを使用して CA ARCserve Backup にログインする方法、あるいはログインするコンピュータに関連付けられた Windows 管理者アカウントを使用してログインする方法があります。

ログインした後は、`caroot` ユーザのパスワードを変更し、新しいユーザを追加できます。コマンド ライン ユーティリティ `ca_auth.exe` を使用して、新しいユーザを追加することもできます。`ca_auth.exe` の詳細については、「コマンド ライン リファレンス ガイド」を参照してください。

注: `caroot` パスワードは、任意の英数字と特殊文字を組み合わせで指定できますが、15 バイトを超えないようにしてください。合計 15 バイトのパスワードは、およそ 7 ～ 15 文字に相当します。

CA ARCserve Backup にログオンする方法

1. CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。

マネージャ コンソールを開くには、ツールバーの[スタート]-[プログラム]-[CA]-[ARCserve Backup]-[マネージャ]の順に選択します。

[デフォルト サーバ情報]が表示されます。

2. デフォルト サーバを変更したり、別のサーバを指定したりするには、CA ARCserve Backup プライマリ サーバのリストからサーバを選択します。目的のサーバがドロップダウン リストに表示されない場合は、CA ARCserve Backup プライマリ サーバのリストでサーバのホスト名や IP アドレスを直接入力することができます。

3. ユーザを変更するには、CA ARCserve Backup 認証または Windows 認証を選択し、ユーザ名とパスワードを指定します。

デフォルトでは、CA ARCserve Backup にセキュリティ情報は保存されません。このサーバ用に入力したユーザ名およびパスワード情報を保存する場合は、明示的に[この情報を保存する]を選択する必要があります。この情報を保存しない場合は、マネージャやウィザードなどを最初に開くときに CA ARCserve Backup セキュリティ認証情報の入力を促すプロンプトが表示され、CA ARCserve Backup のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

4. [ユーザ名]フィールドに「caroot」、[パスワード]フィールドにパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

CA ARCserve Backup に初めてログインすると、チュートリアルが表示されます。このチュートリアルでは、画面の指示に従って操作を進めることで、基本的なデータのバックアップおよびリストア方法を習得できます。このチュートリアルは、初回ログイン時のみ表示されますが、[ヘルプ]メニューから[チュートリアル]にアクセスすることもできます。

CA ARCserve Backup マネージャの環境設定の指定

CA ARCserve Backup により、CA ARCserve Backup マネージャ ウィンドウの動作の仕様を設定できます。[環境設定]ダイアログ ボックスから、グローバルおよびライブラリのフィルタ オプションを指定できます。

CA ARCserve Backup マネージャの環境設定を指定する方法

1. Windows の[スタート]メニューから[プログラム] - [CA] - [ARCserve Backup]を選択し、[マネージャ]をクリックして、[CA ARCserve Backup マネージャ コンソール]を開きます。

CA ARCserve Backup マネージャのホーム画面が開きます。

2. [クイック スタート]メニューから、[バックアップ]ボタンをクリックします。

[バックアップ マネージャ]ウィンドウが開きます。

注: すべての [CA ARCserve Backup マネージャ]ウィンドウからこのタスクを完了できます。

3. [表示]メニューから[環境設定]を選択します。

[環境設定]ダイアログ ボックスが開きます。

4. [グローバル設定]タブを選択します。以下のようなグローバル設定を指定します。

ジョブ キュー リフレッシュ間隔の設定

ジョブ ステータス マネージャが定期的に更新される間隔を秒単位で指定します。

デバイス管理マネージャ リフレッシュ間隔の設定

デバイス マネージャが定期的に更新される間隔を指定します。

アニメーション速度の設定

デバイス マネージャまたはバックアップ マネージャのアニメーション表示を選択した場合、テープ ビットマップ表示の回転速度を指定します。

レジストリの表示

バックアップで選択するためにレジストリ ファイルが表示されます。

リーフ ノードの表示

ツリー ビュー内ですべてのリーフ ノードを表示します。これにより、ファイルはディレクトリの下に表示され、メディアはドライブの下に表示されます。

すべてのエンジンを自動起動

マネージャの使用時に、適切な CA ARCserve Backup エンジンが自動的に起動します。

注: [すべてのエンジンを自動起動]の設定はデフォルトで有効になります。

デフォルト マネージャ

マネージャ コンソールを開いたときに特定のマネージャに直接アクセスできます。

カウント/コピー/ページ ジョブのサーバ選択ダイアログ ボックスを表示しない

カウント ジョブ、コピー ジョブ、またはページ ジョブをサブミットする際に、[サーバの選択]ダイアログ ボックスを非表示にできます。

これらのジョブのいずれかをサブミットする際に、[サーバの選択]ダイアログ ボックスが開き、ジョブを実行するサーバを指定できます。ジョブには、プライマリ サーバ、スタンドアロン サーバ、またはメンバ サーバを指定できます。

このオプションを有効化すると、CA ARCserve Backup はジョブに使用するサーバを記憶し、ジョブをサブミットする際に[サーバの選択]ダイアログ ボックスは開きません。

カウント/コピー/ページ ジョブをサブミットする際に[サーバの選択]ダイアログ ボックスが開くようにするには、[カウント/コピー/ページ ジョブのサーバ選択ダイアログ ボックスを表示しない]オプションのチェックをオフにします。

5. [ライブラリ フィルタ]タブを選択します。以下のライブラリ フィルタ環境設定を指定します。

注: 次の環境設定はライブラリ デバイスに適用され、デバイスまたはグループ階層が表示される CA ARCserve Backup のマネージャ ビューにのみ影響を及ぼします(たとえば、[デスティネーション]タブの下バックアップ マネージャ、または[デバイス マネージャ]ビューなど)。デフォルトでは、これらのオプションはすべて選択されておらず、どのオプションにもデフォルト値はありません。

フォーマット/消去画面で、書き込み禁止メディアを表示

すべてのフォーマットおよび消去画面で書き込み禁止のメディアに関する情報を表示します。

デバイス名をベンダ ID とシリアル番号で表示する

デバイス名をベンダ ID とシリアル番号で表示します。

空のスロットを表示

ライブラリ内の空のスロットを表示します。

次の間のスロットを表示

現在のマネージャ内に表示するスロットの範囲を指定します。範囲を定義するには、許可されるスロット値の最小値と最大値を入力します。

ブランク メディアの表示

ライブラリ内の空のメディアを表示します。

任意のメディア プールのみを表示

特定のメディア プール内のテープを表示します。メディア プールではワイルド カード(「*」および「?」)の使用が可能です。

シリアル番号に一致するテープの表示

特定のシリアル番号に一致するテープを表示します。シリアル番号ではワイルド カード(「*」、「?」)の使用が可能です。

重要: フィルタを適用すると一度に処理するデータの量を大幅に減らすことができるため、大規模なライブラリにのみフィルタを使用するようにしてください。

6. CA ARCserve Backup マネージャの環境設定の指定が終了したら、[適用]をクリックします。

注: 変更を取り消すには、[キャンセル]をクリックします。

7. [環境設定]ダイアログ ボックスを閉じるには、[OK]をクリックします。

コード ページ

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup で複数のコード ページがどのようにサポートされているかについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA ARCserve Backup での複数のコード ページのサポート \(219 ページ\)](#)

[バックアップ マネージャ ウィンドウでのコード ページの指定 \(220 ページ\)](#)

[リストア マネージャ ウィンドウでのコード ページの指定 \(221 ページ\)](#)

CA ARCserve Backup での複数のコード ページのサポート

コード ページは、特定の言語に関連する文字のマッピングです。CA ARCserve Backup サーバ環境内のほかのコンピュータで異なる言語や文字セットが実行されている場合、バックアップ マネージャおよびリストア マネージャは、情報を解釈してそれらを判読可能なテキストとしてソース ツリーに表示できないことがあります。

このような場合は、ご使用の環境でサポートしているコード ページを指定できます。コード ページにより、CA ARCserve Backup は情報を解釈して、ユーザが判読可能なフォーマットでそのテキストを表示できるようになります。

ノードまたはボリュームのレベルでコード ページを指定すると、CA ARCserve Backup ではコード ページの特性が、すべての子のボリュームやディレクトリなどに適用されます。コード ページは CA ARCserve Backup の機能には影響を与えませんが、CA ARCserve Backup では、一度に複数の言語のコード ページを提供することはできません。

バックアップ マネージャ ウィンドウでのコード ページの指定

ソース ディレクトリ ツリーに表示されるすべての項目のコード ページを変更することができます。

注: Windows インストール メディアをコンピュータに挿入してこのタスクを完了するように促すメッセージが表示されます。

バックアップ マネージャ ウィンドウでコード ページを指定する方法

1. CA ARCserve Backup プライマリ、スタンドアロン、またはメンバ サーバで、Windows の[コントロール パネル]を開きます。
[地域と言語のオプション]を開き、[詳細]タブを選択します。
[コード ページの変換テーブル]フィールドで、ARCserve 環境で実行中のリモート システムとエージェント システムのノード、ディレクトリ、およびボリューム名の表示に必要な言語の隣のチェック ボックスをクリックします。
(オプション)[適用]をクリックしてすべての設定を現在のユーザ アカウントとデフォルトのユーザ プロファイルに適用します。
[適用]をクリックし、[OK]をクリックします。
Windows によって[地域と言語のオプション]が適用されます。
2. マネージャ コンソールを開いてバックアップ マネージャを開きます。
[ソース]タブからコード ページを指定するノード、ボリューム、またはディレクトリを右クリックします。
[エンコード]右クリック メニューから、必要なコード ページを選択します。
CA ARCserve Backup では新しいコード ページ設定がすぐに適用されます。

リストア マネージャ ウィンドウでのコード ページの指定

ソース ディレクトリ ツリーに表示されるすべての項目のコード ページを変更することができます。

注: Windows インストール メディアをコンピュータに挿入してこのタスクを完了するように促すメッセージが表示されます。

リストア マネージャ ウィンドウでコード ページを指定する方法

1. CA ARCserve Backup プライマリ、スタンドアロン、またはメンバ サーバで、Windows の[コントロール パネル]を開きます。
[地域と言語のオプション]を開き、[詳細]タブを選択します。
[コード ページの変換テーブル]フィールドで、ARCserve 環境で実行中のリモート システムとエージェント システムのノード、ディレクトリ、およびボリューム名の表示に必要な言語の隣のチェック ボックスをクリックします。
(オプション)[適用]をクリックしてすべての設定を現在のユーザ アカウントとデフォルトのユーザ プロファイルに適用します。
[適用]をクリックし、[OK]をクリックします。
Windows によって[地域と言語のオプション]が適用されます。
2. マネージャ コンソールを開いてリストア マネージャを開きます。
[ソース]タブからコード ページを指定するノード、ボリューム、またはディレクトリを右クリックします。
[エンコード]右クリック メニューから、必要なコード ページを選択します。
CA ARCserve Backup では新しいコード ページ設定がすぐに適用されます。

CA ARCserve Backup システム アカウント

CA ARCserve Backup システム アカウントとは、ローカル サーバ上で各種ストレージに関する機能を実行するために CA ARCserve Backup によって使用されるアカウントです。ローカルのバックアップ ジョブまたはリストア ジョブでは、ジョブを実行するためのセキュリティとして CA ARCserve Backup システム アカウントが使用されます。

CA ARCserve Backup システム アカウントは、CA ARCserve Backup のインストール時に[システム アカウント]ダイアログ ボックスに入力され、オペレーティング システム レベルであらかじめ確立されている必要があります。このアカウントに特別な権限を与える必要はありません。これは CA ARCserve Backup によって自動的に行われます。

インストール時に[システム アカウント]ダイアログ ボックスに入力したアカウントは、Windows の管理者権限およびバックアップ オペレータ権限が自動的に追加されます。

CA ARCserve Backup による認証の管理方法

CA ARCserve Backup では、Windows およびサード パーティのセキュリティを利用して、各種のストレージ関連機能の実行時に、安全な接続を確立します。たとえば、ジョブがリモート サーバをバックアップする場合、そのジョブに入力されたセキュリティは、リモート サーバにアクセスするための Windows のセキュリティ基準を満たしている必要があります。

ジョブの実行時に必要となるセキュリティ情報は、アクセスするリソースによって異なります。ローカルの CA ARCserve Backup サーバのバックアップに必要なセキュリティは、ドメイン リソースのバックアップ時に必要なセキュリティと異なる場合があります。

CA ARCserve Backup は、Microsoft SQL、Oracle、および Lotus Notes などのサード パーティのセキュリティとの情報のやり取りも行います。詳細については、CA ARCserve Backup のインストール ディスクにあるさまざまなオプションおよびエージェントのユーザ ガイドを参照するか、または CA サポート Web サイトからガイドをダウンロードしてください。

ジョブ セキュリティのシステム アカウントの使用方法

通常は、CA ARCserve Backup の導入時に、CA ARCserve Backup システム アカウントに以下の権限を与え、このアカウントをメイン バックアップ アカウントとして使用します。

- グループ権限：管理者、バックアップ オペレータ、ドメイン管理者
- 拡張権限：「オペレーティング システムの一部として機能」、「サービスとしてログオン」、および「ローカル ログオン」

ここで挙げたセキュリティ権限はあくまでも参考用です。すべてのシナリオに必ずしも適用することはできません。

重要：すべてのバックアップおよびリストア処理に対して、ジョブ セキュリティ用の CA ARCserve Backup システム アカウントを使用しないでください。ただし、CA ARCserve Backup システム アカウントにローカル管理者とバックアップ オペレータを上回る権限を付与して、この機能を有効にすることができます。

通信を最適化するためのファイアウォールの設定

CA ARCserve Backup サーバが以下のオペレーティング システムで実行されている場合は、Windows Firewall 機能によって CA ARCserve Backup が使用するすべてのポートへの通信がブロックされます。影響のあるオペレーティング システムを以下に示します。

- Windows Server 2003 Service Pack 1 (Windows ファイアウォールが有効になっている場合)。
- Windows Server 2008 (Windows ファイアウォールが有効になっている場合)。
- CA ARCserve Backup のインストール後に、ドメイン コントローラ サーバに変換した Windows Server 2008 システム。

これらのオペレーティング システムで CA ARCserve Backup が適切に通信できるようにするには、以下の手順のいずれか 1 つを実行する必要があります。

注: お勧めする手順は 1 です。

(手順 1) 通信を最適化する Windows ファイアウォールの設定方法

1. Windows ファイアウォールを起動し、Windows ファイアウォールが有効になっていることを確認します。

2. インストールに合わせて以下の実行ファイルを Windows ファイアウォール例外リストに追加します。

注：以下の実行ファイルは、特に明記されていない限り、CA ARCserve Backup のホーム ディレクトリにあります。

- CA ARCserve Communication Foundation
- ca_backup.exe
- ca_restore.exe
- caauthd.exe
- cadiscovd.exe
- carunjob.exe
- casdscsvc.exe

注：この実行可能ファイルは以下のディレクトリにあります。

¥CA¥SharedComponents¥ARCserve Backup¥CADS

- caserved.exe
- CASMgmtSvc
- catirpc.exe

注：この実行可能ファイルは以下のディレクトリにあります。

¥CA¥SharedComponents¥ARCserve Backup¥ASPortMapper

- dbeng.exe
- java.exe
- jobeng.exe
- ldbserver.exe
- lqserver.exe
- mediasvr.exe
- msgeng.exe
- tapeeng.exe
- univagent.exe (Client Agent がインストールされている場合)

注：Client Agent またはデータベース エージェントがインストールされている場合は、[例外]タブで[ファイルとプリンタ共有]を選択する必要があります。

[OK]をクリックして[Windows ファイアウォール]ダイアログ ボックスを閉じます。

新しい設定が保存されます。

3. コンピュータを再起動して CA ARCserve Backup サービスを開始します。

(手順 2) 通信を最適化する Windows ファイアウォールの設定方法

重要: この手順では Windows ファイアウォールを無効にします。

1. Windows ファイアウォールを起動し、ファイアウォールを無効にします。
[OK]をクリックして[Windows ファイアウォール]ダイアログ ボックスを閉じます。
新しい設定が保存されます。
2. コンピュータを再起動して CA ARCserve Backup サービスを開始します。

リモート サブネット上にあるデータベース エージェントと ARCserve サーバとの通信の有効化

このシナリオは、以下のオペレーティング システムで動作する CA ARCserve Backup サーバに適用されます。

- Windows Server 2003 Service Pack 1 (ファイアウォールが有効になっている場合)
- Windows XP から Windows XP Service Pack 2 へのアップグレード(アップグレードの処理によってデフォルトでファイアウォールが有効になります)

CA ARCserve Backup データベース エージェントが CA ARCserve Backup サーバ以外のサブネットにあるサーバにインストールされており、Windows ファイアウォールがデフォルトのポート設定を使用してエージェント サーバで実行中の場合、CA ARCserve Backup サーバはポート 445 および 139 を使用してエージェント システムと通信することはできません。そのため、このようなシステムのバックアップは失敗し、エラー メッセージ E8602 が返されます。影響のあるデータベース エージェントを以下に示します。

- Agent for Informix
- Agent for Lotus Domino
- Agent for Oracle
- Agent for Sybase
- Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle

以下の手順は、デフォルトのファイアウォール設定を変更することにより、リモート サブネット上にあるデータベース エージェントが CA ARCserve Backup サーバと通信できるようにする方法です。

リモート サブネット上にあるデータベース エージェントが ARCserve サーバと通信できるようにする方法

1. Windows の[スタート]メニューから、[ファイル名を指定して実行]を選択します。
[実行]ダイアログボックスが表示されます。
2. [名前]フィールドに、以下のように入力します。
`firewall.cpl`
[Windows ファイアウォール]ダイアログ ボックスが開きます。
3. [例外]タブをクリックします。
[ファイルとプリンタの共有]をクリックし、[編集]ボタンをクリックします。
[サービスの編集]ダイアログ ボックスが開きます。
4. TCP 139 をダブルクリックします。
[スコープの変更]ダイアログ ボックスが開きます。
5. [任意のコンピュータ(インターネット上のコンピュータを含む)]オプションを選択し、[OK]をクリックします。
TCP 445 をダブルクリックします。
[スコープの変更]ダイアログ ボックスが開きます。
6. [任意のコンピュータ(インターネット上のコンピュータを含む)]オプションを選択し、[OK]をクリックします。
[OK]をクリックして、[サービスの編集]ダイアログ ボックスを閉じます。
[OK]をクリックして[Windows ファイアウォール]ダイアログ ボックスを閉じます。
これで、データベース エージェントが ARCserve サーバと通信できるようになりました。

CA ARCserve Backup データベース保護ジョブの開始

システム上で実行されたジョブ、メディア、およびデバイスに関する情報は、CA ARCserve Backup データベースにより管理されます。CA ARCserve Backup をインストールすると、[データベース保護ジョブ]のステータスはホールドのままになります。[データベース保護ジョブ]を使用して CA ARCserve Backup を保護するには、[データベース保護ジョブ]のステータスを[ホールド]から[レディ]に変更する必要があります。

CA ARCserve Backup データベース保護ジョブの開始方法

1. CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。

CA ARCserve Backup ホーム画面の[クイックスタート]メニューから[ジョブ ステータス]をクリックします。

[ジョブ ステータス マネージャ]ウィンドウが表示されます。

2. [ジョブ キュー]タブを選択して、[データベース保護ジョブ]を探します。

注： データベース保護ジョブが削除された場合、「CA ARCserve Backup データベース保護ジョブの再作成」の手順を使用してジョブを再作成できます。

[データベース保護ジョブ]を右クリックし、ポップアップ メニューから[レディ]を選択します。

[データベース保護ジョブ]のステータスを[ホールド]から[レディ]に変更します。データベースのフル バックアップは、指定された次の実行時間に実行されます。

3. (オプション)[データベース保護ジョブ]を今すぐ開始するには、[データベース保護ジョブ]を右クリックしてポップアップ メニューから[即実行]を選択します。

データベース保護ジョブがすぐに開始されます。

重要： データベース保護ジョブを開始すると、テープ エンジンには検出された最初のグループの空のメディアに接続し、ASDBPROJOB という名前のメディア プールを割り当てます。テープ エンジンが、5 分以内に最初のグループの空のメディアに接続できない場合、テープ エンジンが、他のグループの空のメディアに接続を試みます。テープ エンジンが、任意のグループの空のメディアに接続できない場合、ジョブは失敗します。

注： デバイスの設定およびデータベース保護ジョブの変更の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

CA ARCserve Backup SQL Server データベースの微調整

以下のセクションでは、SQL Server インストールを微調整してパフォーマンスを最適化する方法を説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[必要な SQL 接続の数を計算する方法](#) (228 ページ)

[データベースの整合性チェック](#) (228 ページ)

[リモート データベース設定での ODBC 通信の指定](#) (228 ページ)

必要な SQL 接続の数を計算する方法

各ジョブを実行するには、2 つの SQL 接続を確立する必要があります。MS SQL Server に十分な接続数(またはライセンス数)が設定されていることを確認してください。デフォルトの SQL 接続数を確認するには、MS SQL Enterprise Manager で該当する SQL Server を選択して右クリックし、[プロパティ]を選択します。[接続]タブにユーザー接続数が表示されます。これらの値を適切な数に設定してください。「レコードが更新できません」または「ログインに失敗しました」というエラー メッセージが表示される場合は、接続数が足りない可能性があります。同時ユーザー接続の最大数を 2000 に増やしてください。

データベースの整合性チェック

サイズの大きいデータベースの動作が遅い場合は、データベースの整合性チェックを実行することをお勧めします。この処理には時間を要しますが、SQL データベースが十分な機能を発揮しているかどうかを判定するために必要な作業です。詳細については、Microsoft SQL Server のマニュアルを参照してください。

重要: ログ サイズは定期的に確認するようにしてください。ログがいっぱいになっていると、データベースは動作しません。デフォルトで[チェックポイント時のログ切り捨て]が設定されていても、大量のレコードを保存する場合は、ログ ファイルのサイズをデータベース サイズの 50% に増やす必要があります。

リモート データベース設定での ODBC 通信の指定

別の CA ARCserve Backup サーバが Microsoft SQL をデータベースとして使用している場合は、そのリモート マシンにローカル データベースをリダイレクトできます。CA ARCserve Backup では、ODBC を使用して Microsoft SQL サーバに接続できます。サーバに SQL がインストールされており、CA ARCserve Backup SQL データベースが正しくセットアップされている場合、そのサーバに ODBC データ ソースをリダイレクトできます。この場合、ローカル サーバのユーザがリモート サーバで認証を受けている必要があります。

リモート データベース設定で ODBC 通信を指定する方法

1. Windows の[コントロール パネル]を開き、[管理ツール]-[データ ソース (ODBC)]-[システム DSN]の順に選択します。
2. 以下のラベルのシステム データ ソースを追加します。

名前: ASNT

サーバ: MachineName¥InstanceName

3. 画面の指示に従ってテストし、環境設定を完了します。

デバイス ウィザードを使用したデバイスの設定

デバイス ウィザードは[ウィザード]メニューから起動できます。デバイス ウィザードを使用すると、マシンに接続されているすべてのデバイスを確認できます。

デバイス ウィザードを使用してデバイスを設定する方法

1. ホーム画面にあるナビゲーション バーの[管理]メニューから、[デバイス ウィザード]をクリックします。
[デバイス ウィザードへようこそ]画面が表示されます。
2. [次へ]をクリックします。
[ログイン]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. デバイスが接続されているサーバ名を入力または選択し、ユーザ名とパスワードを入力して[次へ]ボタンをクリックします。
4. 使用するデバイスを選択します。[デバイス/メディア情報]をクリックし、デバイスの詳細情報を表示します。
5. [OK]をクリックして[次へ]をクリックします。
6. デバイスの操作を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
例: フォーマットを選択します。
7. CA ARCserve Backup がフォーマットしようとしているメディア の新しいメディア名と有効期限を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。
8. スケジュール画面が表示されます。この画面で、デバイス コマンドを今すぐ実行するか、または日時を設定して後で実行するかを選択できます。ジョブを今すぐ実行する場合は[即実行]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
ジョブをスケジュールして後で実行する場合は、[スケジュール]オプションを選択し、ジョブを実行する日時を入力します。
9. [完了]ボタンをクリックしてジョブを実行します。
10. 操作を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックするとデバイスの操作が開始され、そのステータスが表示されます。
11. CA ARCserve Backup でデバイスの操作が完了したことを通知するメッセージが表示されます。続けて別のデバイスを操作する場合は[次へ]ボタンをクリックし、デバイス ウィザードを閉じる場合は[終了]をクリックします。

Enterprise Module コンポーネントの設定

Enterprise Option 環境設定はウィザード形式のアプリケーションで、CA ARCserve Backup Enterprise Module に関連付けられたデバイスおよびアプリケーションの設定を可能にします。Enterprise Option 環境設定を使用して、以下のデバイスおよびアプリケーションを設定できます。

- StorageTek ACSLS ライブラリ
- IBM 3494 ライブラリ
- CA ARCserve Backup Image Option
- CA ARCserve Backup Serverless Backup Option

セットアップを実行中に[インストール サマリ]ダイアログ ボックスで[次へ]をクリックすると、[Enterprise Module 環境設定]が開きます。

セットアップが完了した後に[Enterprise Module 環境設定]を実行する、または CA ARCserve Backup をインストールした後に Enterprise Module コンポーネントの追加や修正を行うには、以下の手順を使用します。

Enterprise Module コンポーネントを設定する方法

1. Windows の [スタート]メニューから、[プログラム (または[すべてのプログラム])] - [CA] - [ARCserve Backup] - [Enterprise Module 環境設定]の順に選択します。
[Enterprise Module 環境設定]が開きます。
2. 設定する Enterprise Module コンポーネントをクリックします。
続くダイアログ ボックスのプロンプトに従い、必要な情報をすべて提供します。

Global Dashboard の環境設定

Global Dashboard が正常に機能するには、環境設定処理をセントラル サイトおよび関連付けられている各ブランチ サイトで実行して、ブランチ サイトとセントラル サイト間で必要な Dashboard 関連データの通信および同期を有効にする必要があります。サーバの環境設定は、インストールの直後に実行することも、都合の良いときにサーバ環境設定ウィザードから手動で起動することもできます。

重要: 環境設定の処理中、CA ARCserve Backup データベース エンジン は数分間シャットダウンします。CA ARCserve Backup ジョブがスケジュールされておらず、ほかと競合しない都合の良い時間に環境設定を計画してください。

Global Dashboard 環境設定プロセスを開始する場合、環境設定したいプライマリ サーバの種類を最初に選択する必要があります。この選択を実行するときには、以下のことに注意してください。

- CA ARCserve Backup 環境内でセントラル プライマリ サーバとして設定できるプライマリ サーバは 1 台のみで、ブランチ プライマリ サーバは 1 台のセントラル プライマリ サーバに対してのみレポートが可能です。セントラル プライマリ サーバを選択する際に考慮すべき主な点は、データベースの種類とサイズです。選択したセントラル プライマリ サーバが Microsoft SQL Server 2005/2008 であり、登録済みのすべてのブランチ プライマリ サーバから受信した Dashboard データを保存できることを確認します。
- CA ARCserve Backup 環境内にあるプライマリ サーバ(またはスタンドアロン サーバ)は、どれでもブランチ プライマリ サーバとして設定できます。ドメイン メンバ サーバはブランチ プライマリ サーバとして設定できません。
- 関連付けるすべてのブランチ プライマリ サーバをセントラル プライマリ サーバに登録し、同期を有効にする必要があります。
- Global Dashboard には、セントラル プライマリ サーバ、ブランチ プライマリ サーバ、および Global Dashboard コンソールの 3 つの役割があります。
 - Global Dashboard コンソールの役割には、環境設定が不要です。プライマリ サーバのインストール中に Global Dashboard オプションを選択すると、Global Dashboard コンソールの機能が自動的に追加されます。
 - Global Dashboard コンソールの役割が設定されたプライマリ サーバでも、セントラル プライマリ サーバまたはブランチ プライマリ サーバとして設定できます。
 - プライマリ サーバをセントラル プライマリ サーバまたはブランチ プライマリ サーバとして設定した場合は、役割の変更はできません。
 - 3 つの役割の関係は以下のとおりです。
 - ブランチ プライマリ サーバは、Global Dashboard コンソールの機能を有しています。
 - セントラル プライマリ サーバは、ブランチ プライマリ サーバ(ローカルブランチあり)および Global Dashboard コンソールの両方の機能を有しています。

- CA ARCserve Backup のインストールの最後に、Global Dashboard 環境設定ユーティリティが起動します。このユーティリティを使用して、サーバをセントラル プライマリ サーバまたはブランチ プライマリ サーバとして設定できます。Global Dashboard コンソールの機能のみを使用する、または、後ほどセントラル プライマリ サーバまたはブランチ プライマリ サーバとして設定する場合は、[現在のプライマリ サーバ環境設定を維持する]オプションを選択します。



セントラル サイトの環境設定

セントラル サイトの環境設定中に指定したパラメータを登録済みの各ブランチ サイトにも使用して、セントラル サイトとの Dashboard 関連データの同期を有効にする必要があります。

注： セントラル プライマリ サーバのローカル CA ARCserve Backup データベースは、標準のブランチ サイトと同様に扱われます。ただし、このデータベースの環境設定はセントラル プライマリ サーバのセットアップ中に完了するため、手動で行う必要はありません。

セントラル サイトの環境設定を行う方法

1. [セントラル環境設定]ウィザードを起動し、[次へ]をクリックして、開始します。

セントラル サイトのパスおよびポートの入力画面が表示されます。

2. セントラル サイトのデータベースのパスを指定します（このパスは、各ブランチ サイトからの Dashboard 関連データがアップロードされ、格納されるデータベースの場所です）。

注：リモート データベースをセントラル プライマリ サーバの ASDB として使用している場合、データベース パスはリモート マシンの既存のパスである必要があります。そうでない場合、環境設定は失敗する可能性があります。

3. 入力ポート番号を指定します。このポート番号は、各ブランチ プライマリ サーバがセントラル プライマリ サーバにアクセスするためのものです。デフォルトでは、ポート番号は 18001 ですが、この画面で変更できます。

4. [次へ]をクリックします。

ユーザ認証情報の入力画面が表示されます。

5. AS_CDASH_USR ユーザ名に対するパスワードを指定し、パスワードの確認入力を行います。このアカウント名とパスワードが設定されたローカルの Windows ユーザがセントラル プライマリ サーバ上に作成されます。ブランチ サイトがセントラル サイトに接続する際、この認証情報を使用して、セントラル サイトへのアクセス許可を得ます。

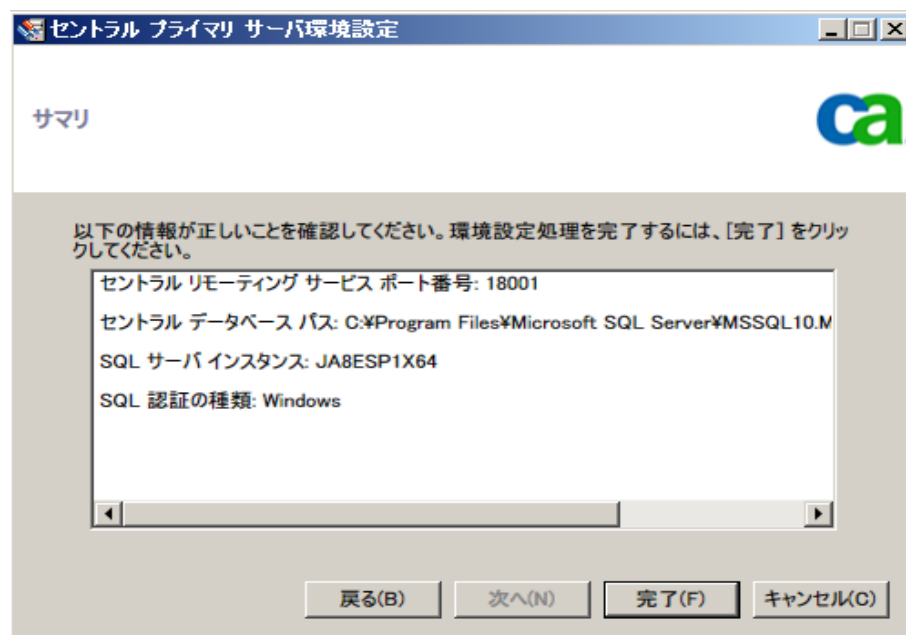
パスワードは、各ブランチ サイトをセントラル プライマリ サーバに登録する際に必要になります。必要に応じて、Windows ユーザ管理を使用してこのパスワードをリセットできます。ただし、パスワードを変更した場合は、このセントラル プライマリ サーバに登録されているすべてのブランチ サイトで、新しい情報に手動でリセットする必要があります。

Windows ユーザ管理の[AS_CDASH_USR のパスワードの設定]ダイアログ ボックスには、セントラル プライマリ サーバの[スタート]メニューからアクセスできます ([プログラム]-[管理ツール]-[コンピュータの管理]-[ローカル ユーザーとグループ]-[ユーザー]-[AS_CDASH_USR]-[パスワードの設定])。

注：あらかじめ割り当てられているユーザ「AS_CDASH_USR」は、認証のみを目的としたものです。このユーザ名には、ほかに CA ARCserve Backup 権限は割り当てられていません。

6. [次へ]をクリックします。

セントラル サイトの[サマリ]画面が表示されます。



7. [サマリ]画面には、セントラル CA ARCserve Backup データベースおよびセントラル プライマリ サーバの環境設定関連情報がすべて表示されます。表示されている情報がすべて正しいことを確認してから、続行してください。情報が正しいければ、[完了]をクリックします。

環境設定処理中に CA ARCserve Backup データベース エンジンが数分間シャットダウンされることを知らせるアラート メッセージが表示されます。

8. CA ARCserve Backup ジョブがスケジュールされておらず、ほかと競合しない都合の良い時間であれば、[OK]をクリックして、続行します。

ステータスを示す[環境設定の進捗状況]画面が表示されます。

9. 環境設定処理が完了すると、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

セントラル サイトの環境設定処理が完了します。

ブランチ サイトの環境設定

ブランチ サイトをセントラル サイトに登録して、そのセントラル サイトへの Dashboard 関連データの同期を有効にする必要があります。ブランチ サイトがレポートを送信できるのは、1 台のセントラル プライマリ サーバに対してのみです。ブランチ サイトを登録するには、まず、セントラル サイトと通信するよう環境設定する必要があります。

ブランチ サイトの環境設定を行う方法

1. [ブランチ環境設定]ウィザードを起動し、[次へ]をクリックして、開始します。

[セントラル サイト情報の入力]画面が表示されます。

重要: ブランチ サイトがセントラル サイトと通信を行うには、アクセスと場所に関するパラメータを 3 つ入力する必要があります。セントラル プライマリ サーバの名前 (または IP アドレス)、セントラル プライマリ サーバにアクセスするためのポート番号、および AS_CDASH_USR ユーザの認証パスワードです。ブランチ サイトの登録を実行する前に、これらの情報を取得しておく必要があります。

ブランチ プライマリ サーバ環境設定

セントラル サイト情報の入力

このブランチ プライマリ サーバの接続先であるセントラル プライマリ サーバの情報を入力してください。また、セントラル プライマリ サーバにアクセスするために、ユーザ認証情報も入力する必要があります。

セントラル プライマリ サーバ アドレス: JA8ESP1x64 *

ポート: 18001 * (1024 ~ 65535)

ユーザ名: AS_CDASH_USR

パスワード: ***** *

テスト

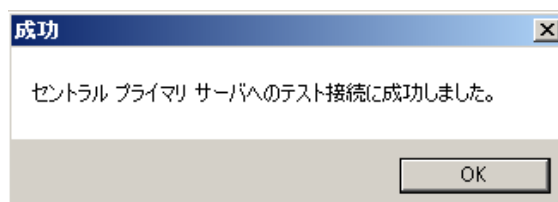
戻る(B) 次へ(N) 完了(F) キャンセル

2. セントラル プライマリ サーバの名前、セントラル プライマリ サーバのポート番号、および認証パスワードを入力します。

ブランチ サイトがセントラル サイトに接続する際、これらの情報を使用して、セントラル サイトにアクセスします。

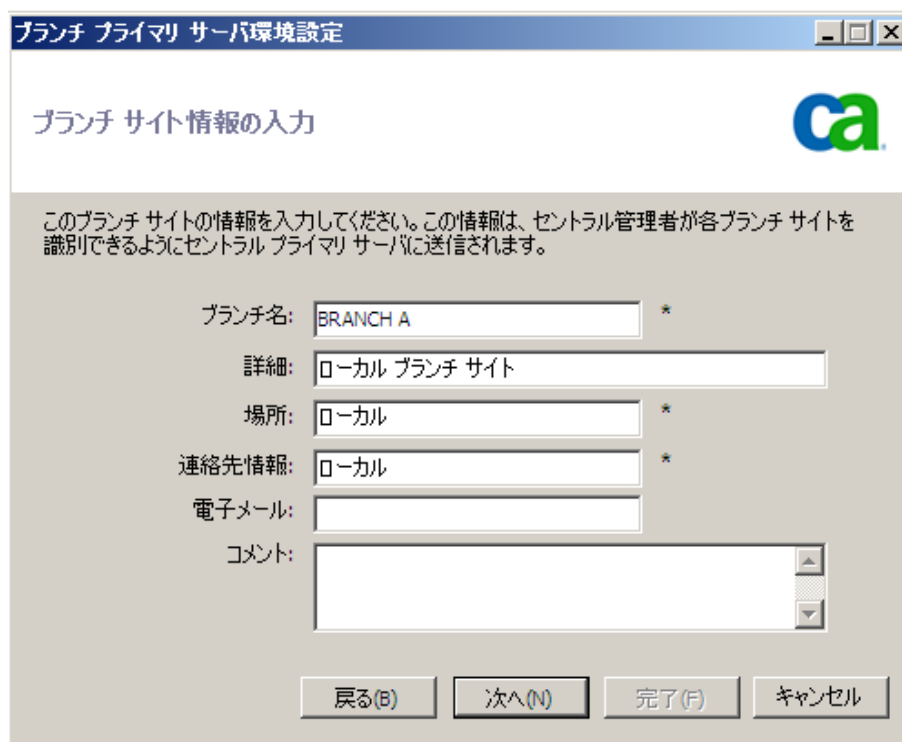
デフォルトでは、ポート番号は 18001 ですが、セントラル サイトから変更できます。セントラル サイトからポート番号を変更する詳細については、「[セントラル サイトの環境設定](#) (232 ページ)」を参照してください。

3. [テスト]をクリックして、セントラル サイトに正しく接続されるかどうかを確認します。
テスト接続ステータスを示すメッセージが表示されます。



4. テスト接続ステータスが成功であれば、[OK]をクリックして、続行します。テスト接続ステータスが成功でない場合は、正しいセントラル サイト情報が入力されていることを確認してから、続行します。

[ブランチ サイト情報の入力]画面が表示されます。

A screenshot of the 'ブランチ プライマリ サーバ環境設定' (Branch Primary Server Environment Settings) window. The title bar is blue with the text 'ブランチ プライマリ サーバ環境設定'. The main content area has a light gray background. At the top, there is a section titled 'ブランチ サイト情報の入力' (Branch Site Information Input) with the CA logo to its right. Below this, a message states: 'このブランチ サイトの情報を入力してください。この情報は、セントラル管理者が各ブランチ サイトを識別できるようにセントラル プライマリ サーバに送信されます。' (Please enter the information for this branch site. This information is sent to the central primary server so that the central administrator can identify each branch site.). The form contains several input fields: 'ブランチ名:' (Branch Name) with the value 'BRANCH A' and a red asterisk; '詳細:' (Details) with the value 'ローカル ブランチ サイト'; '場所:' (Location) with the value 'ローカル' and a red asterisk; '連絡先情報:' (Contact Information) with the value 'ローカル' and a red asterisk; '電子メール:' (Email) with an empty field; and 'コメント:' (Comments) with a large text area. At the bottom, there are four buttons: '戻る(B)' (Back), '次へ(N)' (Next), '完了(F)' (Finish), and 'キャンセル' (Cancel).

5. ブランチ プライマリ サーバの名前、場所、およびブランチの連絡先の名前を入力する必要があります。また、ブランチ関連の追加情報を入力して、セントラル サイトの管理者がブランチ サイトを識別しやすくすることもできます。ブランチの連絡先電子メール アドレスなどの情報や、セントラル サイトの管理者に伝達したい有用なコメントを入力しておけば、Global Dashboard 環境の効率的な管理に役立ちます。

入力されたブランチ サイト ユーザの情報は、セントラル プライマリ サーバに送信され、セントラル プライマリ サーバのデータベースに格納されます。

[次へ]をクリックして続行します。

- a. 同一のブランチ プライマリ サーバ名がすでに存在する場合は、この状況を知らせるメッセージ アラートが表示され、別のブランチ名を指定するか、CA ARCserve Backup Global Dashboard により自動で新しい名前を割り当てる(既存のブランチ名の末尾に番号を追加する)かを求められます。

[はい]をクリックすると、自動的に番号付きブランチ名が作成され、[いいえ]をクリックすると、[ブランチ サイト情報の入力]画面に戻り、別のブランチ名を指定できます。

- b. ブランチ プライマリ サーバ名がまだ存在していないものであれば、ブランチ環境設定の[サマリ]画面が表示されます。

[サマリ]画面には、セントラル CA ARCserve Backup データベース、ブランチ サイト、およびセントラル プライマリ サーバの環境設定関連情報がすべて表示されます。

ブランチ プライマリ サーバ環境設定

サマリ

以下の情報が正しいことを確認してください:

ASDB:
 データベース インスタンス: JA8EX32#ARCSERVE_DB
 データベース認証の種類: Windows 認証

ブランチ サイト情報:
 ブランチ サイト ID: BRANCH A
 詳細: ブランチ A
 場所: ニューヨーク ロングアイランド
 連絡先: ローカル
 電子メール:

☒ **フル データ同期を今すぐ実行する**

戻る(B) 次へ(N) 完了(F) キャンセル

6. ブランチ環境設定の[サマリ]画面には、フル データ同期をただちに実行するオプションも用意されています。

重要: データ同期を実行すると、このブランチ サイトの CA ARCserve Backup データベース エンジンとデータベースは、環境設定および登録処理が完了するまで一時的に中断され、シャットダウンされます。環境設定および登録処理が完了すると、すべての CA ARCserve Backup データベース エンジンおよびデータベース機能は通常どおり再開されます。

この画面の表示時にフル データ同期を実行しない場合は、環境設定処理の完了後に実行することができます。詳細については、「手動によるデータの同期」を参照してください。

注: 最初のデータ同期は常にフル データ同期として実行されます。その後のデータ同期は、すべて増分データ同期となります。

7. ブランチ環境設定の[サマリ]画面で、表示されている情報がすべて正しいことを確認してから、続行します。情報が正しいければ、[完了]をクリックします。

ステータスを示す[環境設定の進捗状況]画面が表示されます。

8. 環境設定および登録処理が完了すると、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

ブランチ環境設定処理が完了し、ブランチ サイトがセントラル サイトに登録されます。

ファイル システム デバイスの作成

ローカル マシンまたはネットワーク上のリモート マシンのファイルをバックアップする場合は、デバイス環境設定を使用して、大容量ディスクまたはディスク アレイをバックアップのリソースとして活用できます。

ファイル システム デバイスを作成する方法

1. マネージャ コンソールを開きます。
ホーム画面にあるナビゲーション バーの[管理]メニューから、[デバイス環境設定]をクリックします。
[デバイス環境設定]が開きます。
2. [ファイル システム デバイス]オプションを選択して、[次へ]をクリックします。
[ログオン サーバ]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [ユーザ名]および[パスワード]フィールドに入力し、[次へ]をクリックします。
4. 次の[ログオン サーバ]ダイアログ ボックスから、管理するサーバを選択し、[次へ]をクリックします。
[ファイル システム デバイス環境設定]ダイアログ ボックスが開きます。
5. [追加]ボタンをクリックして新しいファイル システム デバイスを作成します。
[ファイル システム デバイス]フィールドに、新しいデバイスが表示されます。
6. [ファイル システム デバイス名]列で選択されているファイル システム デバイスを選択し、デバイスの名前を指定します。[説明]の列に説明を入力し、[ロケーション]の列に固有のロケーション(C:\FSD1、C:\FSD2 など)を入力します。リモートファイル システム デバイスの場合は、[セキュリティ]をクリックして、リモート コンピュータのユーザ名、ドメイン、およびパスワードを入力します。[OK]をクリックします。
7. デバイスを設定している間、[検証とステータス]列にはステータスとして[保留]が表示されます。ステータスの横の[検証] ボタンをクリックして、入力した情報の正確性を確認します。情報が有効である場合、CA ARCserve Backup は指定されたドライブの[ボリューム サイズ]を表示し、ステータスとして[適格]を表示します。

表示されたステータスが[失敗]である場合、以下の確認を行います。

- [場所]に指定されているパスが各デバイスに固有のパスであることを確認します。
- セキュリティ クレデンシャルが正確であることを確認します。
- ボリュームが共有されていることを確認します。

注: [デバイス環境設定]では、1 つ以上のデバイスを追加できます。[次へ]をクリックすると、CA ARCserve Backup は、すべてのデバイスに指定された情報の有効性を確認し、検証に失敗したデバイスがあると警告が表示されます。[検証とステータス]列の対応する[検証]ボタンをクリックするか、または設定時に各デバイスに対してこの操作を実行し、続行する前に検証を完了します。この列に表示される可能性がある結果は、以下の 3 つです。

- [保留] - デバイスを設定している間表示されます。
- [適格] - 指定した情報の検証が成功すると表示されます。
- [失敗] - 指定した情報に問題があると表示されます。検証に失敗したデバイスごとに失敗の原因を確認するには、[検証とステータス]列の[失敗]をクリックします。

8. [終了]をクリックして[デバイス環境設定]を閉じます。

9. 確認メッセージが表示されたら[はい]をクリックします。

バックアップを行うときに、バックアップ メディアとして作成したファイル システム デバイスを選択できます。CA ARCserve Backup により、複数のファイル システム デバイスを作成し、これを追加のメディア デバイスとして取り扱うことができます。

[My First Backup]というチュートリアルで、ローカル ディスクをバックアップ デバイスとして設定する手順が説明されます。[チュートリアル]は、CA ARCserve Backup を初めて使用するときに表示されます。メニュー バーの[ヘルプ]からアクセスすることもできます。

CA ARCserve Backup データベース エージェント用スキップ パラメータとインクルード パラメータの定義方法

CA ARCserve Backup には、バックアップ ジョブ中にインクルードまたはスキップ可能なデータベース関連ファイル タイプを定義するレジストリ キーが格納されています。これらのキーの使用は、実行中のデータベース エージェントのタイプに応じて判断されます。個々のレジストリ キー、対象のデータベース エージェント、および対象ファイルのタイプの定義を示す以下の一覧を参照してください。

SkipDSAFiles

注：このキーは、以前のリリースの CA ARCserve Backup で使用されていたものです。

ローカル サーバのバックアップでキーの格納先となるレジストリは、次のとおりです。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup\Base\Task\Backup
```

エージェントのバックアップでキーの格納先となるレジストリは、次のとおりです。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup\ClientAgent\Parameters
```

値の名前: SkipDSAFiles

タイプ: DWORD

値: バックアップする場合は「0」、スキップする場合は「1」

■ Agent for Oracle

```
*.dbf  
Control*.*  
Red*.log  
Arc*.001
```

■ Agent for Lotus Domino

```
*.nsf  
*.ntf  
Mail.box
```

BackupDBFiles

ローカル サーバのバックアップでキーの格納先となるレジストリは、次のとおりです。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve
Backup\Base\Task\Backup
```

エージェントのバックアップでキーの格納先となるレジストリは、次のとおりです。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA
ARCserveBackup\ClientAgent\Parameters
```

値の名前: BackupDBFiles

タイプ: DWORD

値: スキップする場合は「0」、バックアップする場合は「1」(デフォルトは 0)

■ Agent for Microsoft SQL Server

*.ldf

*.mdf

distmdl.ldf および distmdl.mdf はスキップ不能のため対象から除く

■ データベース レベルのバックアップおよびドキュメント レベルのバックアップに対応した Agent for Microsoft Exchange Server

*.chk

*.log

Res1.log

Res2.log

*.edb

*.stm

注: 今回のリリースの CA ARCserve Backup は、Microsoft Exchange Server データベース上でブリック レベルのバックアップをサポートしません。以前の CA ARCserve Backup リリースでは SkipDSAFiles レジストリ キーを使用して、ブリック レベルのバックアップ用のインクルードおよびスキップ値を定義していました。

通信を最適化するためのファイアウォールの設定

ファイアウォールを介して複数の CA ARCserve Backup サーバを使用している環境において、または Storage Area Network (SAN)ファイバ ループ内にファイアウォールがある場合は、固定ポートとインターフェースを確実に使用できるようにサーバを設定する必要があります。CA ARCserve Backup サーバが相互に通信できるように、CA ARCserve Backup サーバの設定はファイアウォールの設定と一致している必要があります。

CA ARCserve Backup サーバは、リモート プロシージャ コール (RPC) サービス一式を使用して、他の CA ARCserve Backup サーバと通信します。各サービスは、インターフェース (IP アドレス) とポートで識別できます。CA ARCserve Backup サーバ間でデータとテープ ライブラリを共有する場合、RPC サービスは、RPC インフラストラクチャから取得するインターフェースとポートの情報によって互いに通信します。ただし、RPC インフラストラクチャでは、特定のポート割り当ては保証されません。したがって、ファイアウォールを正しく設定するには、RPC インフラストラクチャとポート番号割り当てを知る必要があります。静的バインドを行うには、追加設定が必要です。

以下のディレクトリにあるポート環境設定ファイル (PortsConfig.cfg) を変更して、環境のポート通信設定をカスタマイズできます。

CA¥SharedComponents¥ARCserve Backup

ポート環境設定ファイルに関するガイドライン

ポート環境設定ファイルを変更する場合は、以下のガイドラインに従います。

- ポート番号の変更には、CA ARCserve Backup ServiceName (サービス名) が必要です。

注：サービス名の詳細については、「[追加リソース - ファイアウォール ポートの仕様](#)」(269 ページ) を参照してください。
- Transmission Control Protocol (TCP)、User Datagram Protocol (UDP)、および Open Network Computing Remote Procedure Call (ONCRPC) サービスには、ポートが 1 つのみ必要です。これらのサービスにポート番号を指定しない場合、デフォルトのポートが使用されます。
- MSRPC (Microsoft Remote Procedure Call) サービスには、CA ARCserve Backup サービス名 (ServiceName) のみが必要です。CA ARCserve Backup MSRPC ベースのサービスでは、システムが割り当てるポート番号が使用されます。
- すべてのリモート プロシージャ コール (RPC) サービスに、キー RPCServices を使用できます。このキーにより、CA ARCserve Backup のすべての RPC ベースのサービスに対し、システムが割り当てるポートを CA ARCserve Backup で使用できます。
- 1 つの CA ARCserve Backup サーバで、MSRPC ベースのサービスに対してポート設定ファイルを変更しても、CA ARCserve Backup がこの変更をすべてのリモートの CA ARCserve Backup サーバに反映する訳ではありません。すべての CA ARCserve Backup リモートのサーバで、ポート設定ファイルを変更する必要があります。
- TCP 通信ベースのサービスの場合、多くの IP アドレスを持つ各ホスト名に異なるポート範囲を指定できます。

- 1 台のマシンに複数のネットワーク インターフェース カード(NIC)があり、TCP 通信に特定の NIC を使用する場合のみ IP アドレスを指定する必要があります。

注: Microsoft Windows システムの特定のポート要件の詳細については、Microsoft のサポート Web サイトを参照してください。

ポート設定ファイルの変更

ここでは、環境内での通信に CA ARCserve Backup が使用するプロトコルおよびポートの設定方法を説明します。

ポート設定ファイルの変更方法

1. メモ帳などのテキスト エディタを使用して、PortsConfig.cfg を開きます。ファイルには、以下のディレクトリからアクセスできます。

(インストール ドライブ): ¥Program Files¥CA¥SharedComponents¥ARCserve Backup

2. 以下のフォーマットを使用して、1 行以上のコードを追加します。

```
ServiceName(%s) PortRange_1;PortRange_2;...;PortRange_n [HostName(%s)]
[IPAddress(%s)]
```

- 1 つのポートまたはポートの範囲を指定するには、以下のフォーマットを使用します。

```
SinglePort(number)
PortBegin(number) - PortNumberEnd(number)
```

- IP アドレスを指定するには、以下のフォーマットを使用します。

```
%d.%d.%d.%d
```

- ServiceName はスペースなしの文字列です。
- HostName は、有効なコンピュータ名を表す文字列です。

3. PortsConfig.cfg を閉じて、変更を保存します。
4. Portsconfig.cfg ファイルの変更後、変更の影響を受けるすべてのサービスを再起動します。すべての CA ARCserve Backup サービスは、cstop と cstart を実行することによってサービスを停止または開始できます。

後方位互換性のサポートのため、CA ARCserve Backup データベース エージェントに対応するキーが、PortsConfig.cfg ファイルのコメント セクションの下に書き込まれています。影響を受けるデータベース エージェントは、テープ エンジン(tapeengine)、ジョブ エンジン(jobengine)、およびデータベース エンジン(databaseengine)です。これらの CA ARCserve Backup データベース エージェントは、古いポートを使用してジョブを CA ARCserve Backup キューに送信します。ネットワークに古いポートを使用する古いエージェントがない場合、PortsConfig.cfg ファイルからこれらの行を削除してもかまいません。ただし、システム ポートを使用する通信を有効にするには、それぞれの CA ARCserve Backup データベース エージェントのサービスを開始する必要があります。

注：Microsoft Windows システム サービス ポートの要件については、Microsoft のサポート サイトをご覧ください。

CA ARCserve Backup コンポーネントで使用するポート

以下のセクションでは、主に Windows の環境設定用に、CA ARCserve Backup コンポーネントで使用するポート関連の情報が提供されます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[通信で使用する外部ポート\(246 ページ\)](#)

[CA ARCserve Backup ベース製品によって使用されるポート\(247 ページ\)](#)

[CA ARCserve Backup 共通コンポーネントで使用するポート\(256 ページ\)](#)

[CA ARCserve Backup エージェントとオプションで使用するポート\(257 ページ\)](#)

[ファイアウォールを通してエージェントとデータベース エージェントの通信を許可する方法\(262 ページ\)](#)

[CA ARCserve Backup Dashboard for Windows ファイアウォール通信設定\(266 ページ\)](#)

[追加リソース - ファイアウォール ポートの仕様\(269 ページ\)](#)

通信で使用する外部ポート

CA ARCserve Backup では、通信に以下の外部ポートが使用されます。

ポート 135

このポートは Microsoft エンドポイント マップ(ロケータ)サービスが所有し、設定を変えることはできません。すべての CA ARCserve Backup MSRPC サービスでは、このサービスに現在のポートが登録されます。

すべての CA ARCserve Backup クライアント(マネージャなど)はこのサービスにコンタクトして、CA ARCserve Backup サービスが使用する実際のポートの一覧を参照し、サービスに直接コンタクトします。

ポート 139/445

このポートは Microsoft が所有しており、設定を変えることはできません。CA ARCserve Backup サービスでは、名前付きパイプによる通信で MSRPC が使用されます。Microsoft は、名前付きパイプ上で MSRPC を使用するすべての通信に対して、このポートを開くように要求します。以下の点に注意してください。

- ポート 139 は、CA ARCserve Backup サービスが Windows NT にインストールされているときのみ使用されます。
- ポート 445 は、CA ARCserve Backup サービスが Windows 2000、Windows XP、または Windows Server 2003、および Windows Server 2008 にインストールされている場合のみ使用されます。

ポート 53

このポートは、DNS (Domain Name Server) 通信を使用して、Windows コンピュータ間でやり取りするためのものです。CA ARCserve Backup では、名前の解決にポート 53 を使用します。これにより、プライマリ サーバ、スタンドアロン サーバ、メンバ サーバおよびエージェント サーバが互いに通信できるようになります。

Microsoft Windows システムのポート要件は、以下の URL で参照できます。

<http://support.microsoft.com/kb/832017/ja-jp>

CA ARCserve Backup ベース製品によって使用されるポート

CA ARCserve Backup ベース製品に関して、以下のポートを PortsConfig.cfg ファイル内に設定することができます。

CA Remote Procedure Call サービス

これは ONCRPC ポートマップ サービスです。caserved、cadiscovd、caathd、lqserver、camediad、idbserver といったその他の ONCRPC サービスは、このサービスを登録に使用します。その他の ONCRPC サービスを使用して通信を行うクライアントは、最初に ONCRPC ポートマップ サービスに接続してポートを登記した後、その他の ONCRPC サービスに接続して通信を行います。

- デフォルトのポート: 111
- プロトコル: TCP

ドメイン サービス (Cadiscovd.exe)

このサービスは、CA ARCserve Backup ドメインの概念を具現化するために、ユーザ、パスワード、同等の権限、およびホストを格納したデータベースを維持管理します。このサービスは GUI 通信に必要となります。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP

サービス コントローラ (Caservd.exe)

このサービスを使用すると、その他のサービスをリモート管理できます。このサービスは GUI 通信に必要となります。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP

認証サービス (Caauthd.exe)

このサービスは、caroot ユーザのログインおよび同等の権限を検証します。GUI およびバックアップ サーバ通信に必要となります。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP

LDBServer.exe

このサービスは、データベース通信に使用されます。設定は、コマンド ラインを使用してのみ行うことができます。このサービスは、GUI およびバックアップ サーバ通信には必要ありません。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP

LQServer.exe

このサービスは、ジョブ キュー通信に使用されます。設定は、コマンド ラインを使用してのみ行うことができます。このサービスは、GUI およびバックアップ サーバ通信には必要ありません。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP

Mediasvr.exe

このサービスは、テープ エンジン通信に使用されます。設定は、コマンド ラインを使用してのみ行うことができます。このサービスは、GUI およびバックアップ サーバ通信には必要ありません。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP

Carunjob.exe

このサービスは、エージェントへの再接続ロジック(ネットワーク通信の障害時)にポート範囲を使用します。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP

MS エンドポイント マップ サービス

これは設定可能なポートではありません。

- デフォルトのポート: 135
- プロトコル: TCP

CA Management Service (casmgmtsvc.exe)

CA Management Service は、CA ARCserve Backup コマンド ライン ユーティリティ(ca_backup や ca_restore など)が次のシナリオで通信できるようにする設定可能なサービスです。

- リモート サービス通信

注: リモート サービスを使用して通信するには、CA Management Service ではコールバック サービスが必要となります。

- ARCserve サーバとクライアント サーバの通信

注: ARCserve サーバとクライアント サーバと通信するには、CA Management Service ではコールバック サービスが必要です。

環境設定ファイルの場所

- CA Management の環境設定ファイル: CA Management Service で使用するポートを変更するには、次のディレクトリにある mgmt.properties という名前の環境設定ファイルを変更する必要があります。

<\$ARCserve_Home>%MgmtSvc%conf%mgmt.properties

- コールバック サービスの環境設定ファイル: CA Management Service では、clntportrange という名前のコールバック サービスが必要です。clntportrange は次のディレクトリにある mgmt.properties 環境設定ファイルに一覧されている値です。

<ドライブ文字>%Program Files%CA%Shared Components%ARCserve Backup%jcli%conf%mgmt.properties

リモート サービス通信

デフォルト値は次のとおりです。

- プロトコル: SSL
- ポート(sslport): 7099
- usessl: True

オプションの値は次のとおりです。

- プロトコル: NON SSL
- ポート(nonsslport): 2099

コールバック サービスの値は次のとおりです。

- デフォルトのポート範囲: [20000-20100]
- オプションのポート範囲: [10000|19999] または [20000-20100|10000|19999]

ARCserve サーバとクライアント サーバの通信

デフォルト値は次のとおりです。

- プロトコル: SSL
- ポート(sslport): 7099
- usessl: True

オプションの値は次のとおりです。

- プロトコル: NON SSL
- ポート(nonsslport): 2099

コールバック サービスの値は次のとおりです。

- デフォルトのポート範囲(clntportrange): 7199
- オプションのポート範囲: [20000-20100|20000|19999]

ベース製品とのマネージャ コンソール通信

マネージャ コンソールは、ベース製品のリモート サービスとコンタクトします。その場合、CA ARCserve Backup マネージャのコンソール マネージャ コンポーネントがインストールされているマシンで、PortsConfig.cfg ファイルにベース製品のポート番号を設定する必要があります。さらに、これらのサービスはマネージャ コンソール コンポーネントにもインストールされます。

CA Remote Procedure Call サービス

これは ONCRPC ポートマップ サービスです。他の ONCRPC サービスでの登録用に使用されます。これらのサービスに対するすべてのクライアントは、まずこのサービスにコンタクトしてポートを利用し、そのサービスとコンタクトします。

- デフォルトのポート: 111
- プロトコル: TCP

プライマリ サーバとメンバ サーバの通信ポート

このセクションでは、CA ARCserve Backup ドメインのプライマリ サーバとメンバ サーバの間の通信を可能にするために使用されるポートとプロトコルについて説明します。PortsConfig.cfg ファイルでは、以下のポートを設定できます。

CA Remote Procedure Call サービス

これは ONCRPC ポートマップ サービスです。caserved、cadiscovd、caathd、lqserver、camediad、idbserver といったその他の ONCRPC サービスは、このサービスを登録に使用します。その他の ONCRPC サービスを使用して通信を行うクライアントは、最初に ONCRPC ポートマップ サービスに接続してポートを登記した後、その他の ONCRPC サービスに接続して通信を行います。

- デフォルトのポート: 111
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示: catirpc

ドメイン サービス(Cadiscovd.exe)

このサービスは、CA ARCserve Backup ドメインの概念を具現化するために、ユーザ、パスワード、同等の権限、およびホストを格納したデータベースを維持管理します。このサービスは GUI 通信に必要となります。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示: cadiscovd

サービス コントローラ(Caservd.exe)

このサービスを使用すると、その他のサービスをリモート管理できます。このサービスは GUI 通信に必要となります。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示: caservd

認証サービス(Caauthd.exe)

このサービスは、caroot ユーザのログインおよび同等の権限を検証します。GUI およびバックアップ サーバ通信に必要となります。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示: caauthd

LDBServer.exe

このサービスは、データベース通信のプロキシに使用されます。設定は、コマンドラインを使用してのみ行うことができます。このサービスは、GUI およびバックアップ サーバ通信には必要ありません。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示: cadbd

LQServer.exe

ジョブ キュー通信のプロキシに使用されます。設定はコマンドラインを使用してのみ行うことができます。このサービスは、GUI およびバックアップ サーバ通信には必要ありません。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示: caqd

Mediasvr.exe

テープ エンジン通信のプロキシに使用されます。設定はコマンド ラインを使用し
てのみ行うことができます。このサービスは、GUI およびバックアップ サーバ通信
には必要ありません。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示:

Carunjob.exe

エージェントへの再接続ロジック(ネットワーク通信の障害時)にポート範囲を使用し
ます。

- デフォルトのポート: 動的ポート
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示: reconnection

CA Management Service (casmgmtsvc.exe)

CA Management Service は、CA ARCserve Backup コマンドライン ユーティリティ(ca_backup や ca_restore など)が次のシナリオで通信できるようにする設定可能なサービスです。

- リモート サービス通信

注: リモート サービスを使用して通信するには、CA Management Service ではコールバック サービスが必要となります。

- ARCserve サーバとクライアント サーバの通信

注: ARCserve サーバとクライアント サーバと通信するには、CA Management Service ではコールバック サービスが必要です。

環境設定ファイルの場所

- CA Management の環境設定ファイル: CA Management Service で使用するポートを変更するには、次のディレクトリにある mgmt.properties という名前の環境設定ファイルを変更する必要があります。

<\$ARCserve_Home>%MgmtSvc%conf%mgmt.properties

- コールバック サービスの環境設定ファイル: CA Management Service では、clntportrange という名前のコールバック サービスが必要です。clntportrange は次のディレクトリにある mgmt.properties 環境設定ファイルに一覧されている値です。

<ドライブ文字>%Program Files%CA%Shared Components%ARCserve Backup%jcli%conf%mgmt.properties

リモート サービス通信

デフォルト値は次のとおりです。

- プロトコル: SSL
- ポート(sslport): 7099
- usessl: True

オプションの値は次のとおりです。

- プロトコル: NON SSL
- ポート(nonsslport): 2099

コールバック サービスの値は次のとおりです。

- デフォルトのポート範囲: [20000-20100]
- オプションのポート範囲: [10000|1999] または [20000-20100|10000|19999]

ARCserve サーバとクライアント サーバの通信

デフォルト値は次のとおりです。

- プロトコル: SSL
- ポート(sslport): 7099
- usessl: True

オプションの値は次のとおりです。

- プロトコル: NON SSL
- ポート(nonsslport): 2099

コールバック サービスの値は次のとおりです。

- デフォルトのポート範囲(clntportrange): 7199
- オプションのポート範囲: [20000-20100|20000\19999]

Universal Agent サービス(univagent.exe)

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows およびその他のバックアップ エージェントのセントラル サービスを提供します。

- デフォルトのポート: 6050
- プロトコル: TCP または UDP
- PortsConfig.cfg での表示: fsbackupservice(TCP)または fsbackupserviceudp(UDP)

ジョブ エンジン(jobeng.exe)

CA ARCserve Backup のジョブ キューからジョブを管理および実行します。

- デフォルトのポート: 6503
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示: jobengine

DB エンジン(dbeng.exe)

CA ARCserve Backup 製品にデータベース サービスを提供します。

- デフォルトのポート: 6504
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示: databaseengine

テープ エンジン (tapeeng.exe)

CA ARCserve Backup 製品のバックアップ デバイスの環境設定および操作を管理します。

- デフォルトのポート: 6502
- プロトコル: TCP
- PortsConfig.cfg での表示: tapeengine

ディスクバリ サービス (casdscsvc.exe)

ネットワーク上で TCP/IP、メールスロット、およびブロードキャストを使用してネットワーク上で実行されている CA ARCserve Backup 製品を CA ARCserve Backup サーバが検出できるようにします。

- デフォルトのポート: 41523 (TCP) または 41524 (UDP)
- プロトコル: TCP および UDP
- PortsConfig.cfg での表示: casdscsvctcp (TCP) または casdscsvcupd (UDP)

Global Dashboard サーバ通信

Global Dashboard 環境では、ブランチ プライマリ サーバと、指定されたセントラル プライマリ サーバとの間で、ダッシュボード関連情報が同期されます。データの送信は、常にブランチ プライマリ サーバから、関連付けられているセントラル プライマリ サーバへの一方向で行われ、セントラル プライマリ サーバでセントラル ASDB に保存されます。ブランチ プライマリ サーバが、セントラル プライマリ サーバと確実に通信できるようにするには、セントラル プライマリ サーバにアクセスするための適切なポート番号を指定する必要があります。

- セントラル プライマリ サーバのデフォルト ポート: 18001
- プロトコル: TCP

CA ARCserve Backup エージェントおよびオプションとのベース製品通信

CA ARCserve Backup サーバは、エージェントのリモート サービスとコンタクトします。その場合、ベース製品がインストールされているマシンで、PortsConfig.cfg ファイルにエージェントのポート番号を設定する必要があります。

注: 詳細については、「[CA ARCserve Backup エージェントとオプションで使用するポート](#) (257 ページ)」を参照してください。

CA ARCserve Backup 共通コンポーネントで使用するポート

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup 共通コンポーネントで使用するポート関係の情報について説明します。

ディスカバリ サービス通信ポート

ディスカバリ サービスでは、Windows プラットフォーム上の製品、エージェント、およびオプションが検出されます。PortsConfig.cfg ファイルでは、以下のポートを設定できます。

ディスカバリ ブロードキャストと応答パケット

CA ARCserve Backup が、環境内で実行されている CA ARCserve Backup に関するデータを受信し、レスポンスを送信できるようにします。

- デフォルトのポート: 41524
- プロトコル: UDP

ディスカバリ応答

CA ARCserve Backup が、環境内で実行されている CA ARCserve Backup 製品に関するデータを受信できるようにします。

- デフォルトのポート: 41523
- プロトコル: TCP

ディスカバリ ブロードキャスト

CA ARCserve Backup が、CA ARCserve Backup 製品情報をネットワークにブロードキャストできるようにします。

- デフォルトのポート: 動的
- プロトコル: UDP

UNIX と Linux 通信ポート用の共通エージェント

この情報は、クライアント エージェント、データベース エージェント、およびアプリケーション エージェントなど、すべての UNIX および Linux ベースのエージェントに提供されます。agent.cfg ファイルで以下のポートを設定できます。

ディスカバリ ブロードキャスト パケットへの受信と応答

- デフォルトのポート: 41524
- プロトコル: UDP

ブラウザ、バックアップ処理、およびリストア処理

- デフォルトのポート: 6051
- プロトコル: TCP

CA ARCserve Backup エージェントとオプションで使用するポート

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup エージェントおよびオプションで使用するポート関係の情報について説明します。

Agent for Microsoft SharePoint Server の通信ポート

SharePoint Database Router Agent および SharePoint External Data Agent の場合、PortsConfig.cfg ファイルで以下のポートを設定できます。

Universal Agent サービス

このサービスは、ブラウズ処理で使用されます。

- デフォルトのポート: 6050
- プロトコル: UDP

Universal Agent サービス

このサービスは、ブラウズ/バックアップ/リストア処理で使用されます。

- デフォルトのポート: 6050
- プロトコル: TCP

注: SharePoint Database Agent によって使用される通信ポートの詳細については、この章の [Agent for Microsoft SQL Server](#) および [Agent for Microsoft SharePoint Server データベースの通信ポート](#) (260 ページ) を参照してください。

Client Agent for Windows 通信ポート

Client Agent for Windows の場合、PortsConfig.cfg ファイルで以下のポートが設定されます。

Universal Agent サービス

このサービスは、ブラウズ処理で使用されます。

- デフォルトのポート: 6050
- プロトコル: UDP

Universal Agent サービス

このサービスは、ブラウズ/バックアップ/リストア処理で使用されます。

- デフォルトのポート: 6050
- プロトコル: TCP

Agent for Microsoft Exchange Server の通信ポート

Agent for Microsoft Exchange Server を使用したバックアップでは、PortsConfig.cfg ファイルで以下の通信ポートを設定することができます。

Universal Agent サービス

このサービスは、参照処理で使用されます。

- デフォルトのポート: 6050
- プロトコル: UDP

Universal Agent サービス

このサービスは、参照/バックアップ/リストア処理で使用されます。

- デフォルトのポート: 6050
- プロトコル: TCP

Agent for Microsoft Exchange Server の旧バージョンからブリック レベル バックアップをリストアするには、以下のポートが使用されます。

Backup Agent RPC サービス

このサービスは、CA ARCserve Backup マネージャの参照、および、すべてのブリック レベルのバックアップおよびリストア処理に必要です。

- デフォルトのポート: 6071
- プロトコル: TCP

MS エンドポイント マップ サービス

これは設定可能なポートではありません。

- デフォルトのポート: 135
- プロトコル: TCP

MS ポート (Windows NT のみ)

このサービスは、名前付きパイプを使用する MSRPC 通信でのみ使用されます。このポートを設定することはできません。

- デフォルトのポート: 139
- プロトコル: TCP

MS ポート (Windows 2000、Windows XP、および Windows Server 2003 のみ)

このサービスは、名前付きパイプを使用する MSRPC 通信でのみ使用されます。このポートを設定することはできません。

- デフォルトのポート: 445
- プロトコル: TCP

Agent for Microsoft SQL Server の通信ポート

Agent for Microsoft SQL Server の場合、PortsConfig.cfg ファイルで以下の通信ポートが設定されます。

Universal Agent サービス

このサービスは、ブラウズ処理で使用されます。

- デフォルトのポート: 6050
- プロトコル: UDP

このサービスは、ブラウズ/バックアップ/リストア処理で使用されます。

- デフォルトのポート: 6050
- プロトコル: TCP

Agent for Microsoft SharePoint Server データベースの通信ポート

Agent for Microsoft SharePoint Server の場合、PortsConfig.cfg ファイルのデータベース通信用に以下のポートが設定されます。

Backup Agent リモート サービス

このサービスは、TCP/IP バックアップ/リストアでのみ使用されます。

- デフォルトのポート: 6070
- プロトコル: TCP

Backup Agent RPC Server

このサービスは、GUI 参照および名前付けパイプ バックアップとリストア処理で必要となります。

- デフォルトのポート: 6071
- プロトコル: TCP

MS エンドポイント マップ サービス

これは設定可能なポートではありません。

- デフォルトのポート: 135
- プロトコル: TCP

MS ポート(Windows NT のみ)

このサービスは、名前付きパイプを使用する MSRPC で使用されます。これは設定可能なポートではありません。

- デフォルトのポート: 139
- プロトコル: TCP

MS ポート (Windows 2000、Windows XP、および Windows Server 2003 のみ)

このサービスは、名前付きパイプを使用する MSRPC で使用されます。これは設定可能なポートではありません。

- デフォルトのポート: 445
- プロトコル: TCP

NDMP NAS Option 通信ポート

NDMP NAS Option の場合、PortsConfig.cfg ファイルで以下の通信ポートが設定されます。

NAS ファイラ サービス

このサービスは、NAS ファイラ サービスで通信するために使用されます。GUI、バックアップ、および通信のリストアでは必要ありません。

- デフォルトのポート: 10000
- プロトコル: TCP

CA ARCserve Backup データベース エージェントの通信ポート

CA ARCserve Backup データベース エージェントでは、PortsConfig.cfg ファイルで以下のポートを指定します。

注: 以下に挙げられている設定は、Agent for Informix、Agent for SAP R/3、Agent for Oracle、Agent for Lotus Notes、および Agent for Sybase に適用されます。

Backup Agent RPC Server

このサービスは、GUI 参照とバックアップおよびリストア処理で必要となります。このポートを設定することはできません。

注: 以下の値は、Agent for Oracle には適用されません。

- デフォルトのポート: 6071
- プロトコル: TCP

Backup Agent RPC Server - Agent for Oracle

このサービスは、GUI 参照、および Agent for Oracle を使用するバックアップおよびリストア処理で必要となります。このポートを設定することはできません。

- デフォルト ポート(Windows プラットフォーム上の Agent for Oracle) : 6050
- デフォルト ポート(Linux および UNIX プラットフォーム上の Agent for Oracle) : 6050
- プロトコル(Oracle プラットフォーム用のすべての Agent) : TCP

MS エンドポイント マップ サービス

注: このポートを設定することはできません。

- デフォルトのポート: 135
- プロトコル: TCP

MS ポート(Windows NT のみ)

このサービスは、名前付きパイプを使用する MSRPC で使用されます。このポートを設定することはできません。

- デフォルトのポート: 139
- プロトコル: TCP

MS ポート (Windows 2000、Windows XP、および Windows Server 2003 のみ)

このサービスは、名前付きパイプを使用する MSRPC で使用されます。このポートを設定することはできません。

- デフォルトのポート: 445
- プロトコル: TCP

CA ARCserve Backup Agent との GUI 通信

CA ARCserve Backup マネージャはエージェントのリモート サービスとコンタクトします。その場合、マネージャ コンポーネントがインストールされているマシンで、PortsConfig.cfg ファイルにエージェントのポート番号を設定する必要があります。

注: 詳細については、「[CA ARCserve Backup エージェントとオプションで使用するポート](#) (257 ページ)」を参照してください。

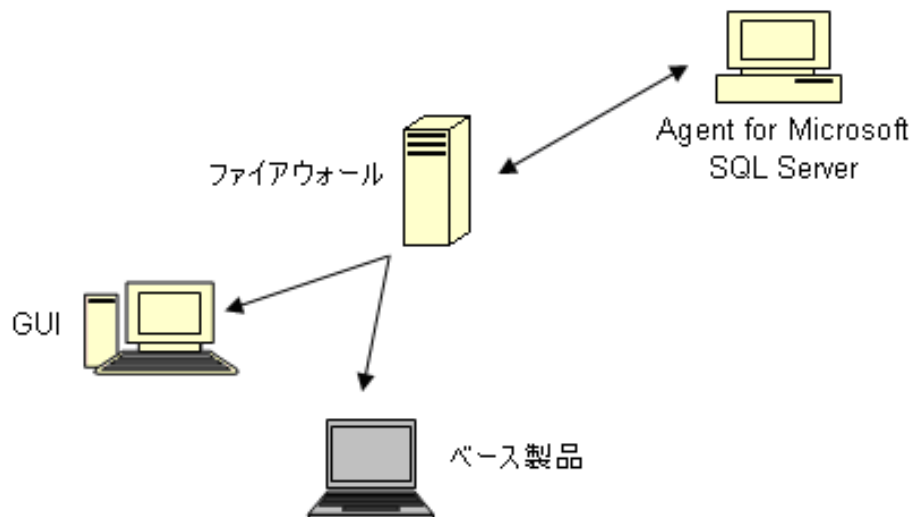
ファイアウォールを通してエージェントとデータベース エージェントの通信を許可する方法

以下の設定では、CA ARCserve Backup エージェントとデータベース エージェントがファイアウォールを通して通信する方法の例を提供します。

Agent for Microsoft SQL と通信するベース製品

注: このトピック内に含まれている情報は、BrightStor ARCserve Backup r11.5 Agent for Microsoft SQL Server 以前のリリースに適用されます。

以下のシナリオでは、エージェントはファイアウォールの内側にあります。GUI とベース製品は、ファイアウォールの外側の異なるマシン上にあります。



Agent for Microsoft SQL を搭載したマシンでは、以下のエントリを含めるように Portsconfig.cfg ファイルを変更します。

```
ENABLE_CONFIGURABLE_PORTS=1
Dbagentsrpcserver 6071
Sqlagenttcpervice 6070
casdscsvtcp 41523
casdscsvudp 41524
```

ファイアウォールで上記の 4 つのポートを開き、追加でポート 135 も開きます。ポート 139 またはポート 445 は、Agent for Microsoft SQL Server が名前付きパイプ転送を使用するように設定されている場合にのみ開かれる必要があります。これらのポートは、エージェントマシンへの受信接続を許可します。

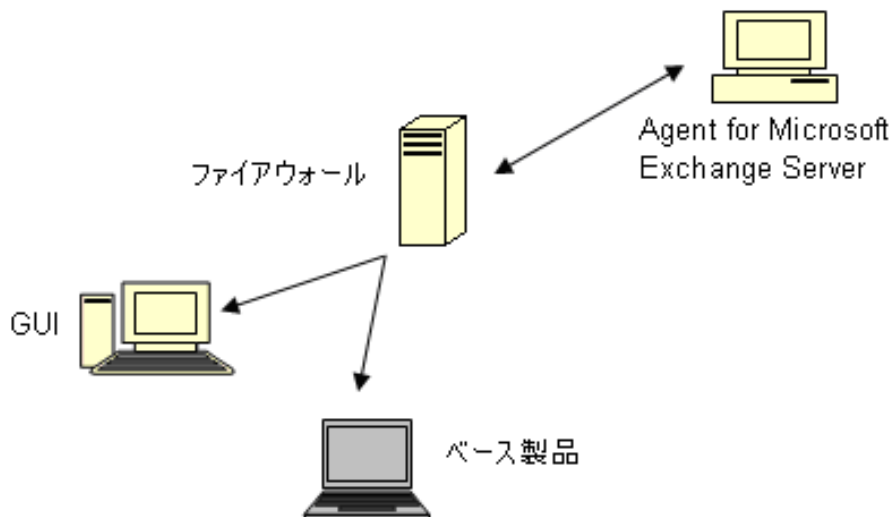
ベース製品が実行しているマシン、または GUI 専用マシンでは、既存の Portsconfig.cfg ファイルには以下のエントリが追加されます。

```
ENABLE_CONFIGURABLE_PORTS=1
Dbagentsrpcserver 6071 SQLAgentMachineName
Sqlagenttcpervice 6070 SQLAgentMachineName
casdscsvtcp 41523
casdscsvudp 41524
```

名前付きパイプを使用して Agent for Microsoft Exchange Server を管理する GUI

注：このトピック内に含まれている情報は、BrightStor ARCserve Backup r11.5 Agent for Microsoft Exchange Server 以前のリリースに適用されます。

以下のシナリオでは、エージェントはファイアウォールの内側にあり、GUI とベース製品はファイアウォールの外側の異なるマシン上にあります。



Agent for Microsoft Exchange Server を搭載したマシンでは、以下のエントリを含めるように Portsconfig.cfg ファイルを変更します。

```
ENABLE_CONFIGURABLE_PORTS=1
Dbagentsrpcserver          6071
casdscsvctcp               41523
casdscsvcdp                41524
```

ファイアウォールで上記の 4 つのポートを開き、追加でポート 135 も開きます。ポート 139 またはポート 445 を開く必要があります。これらのポートは、エージェントマシンへの受信接続を許可します。

GUI マシンでは、以下のエントリを含めるように Portsconfig.cfg ファイルを変更します。

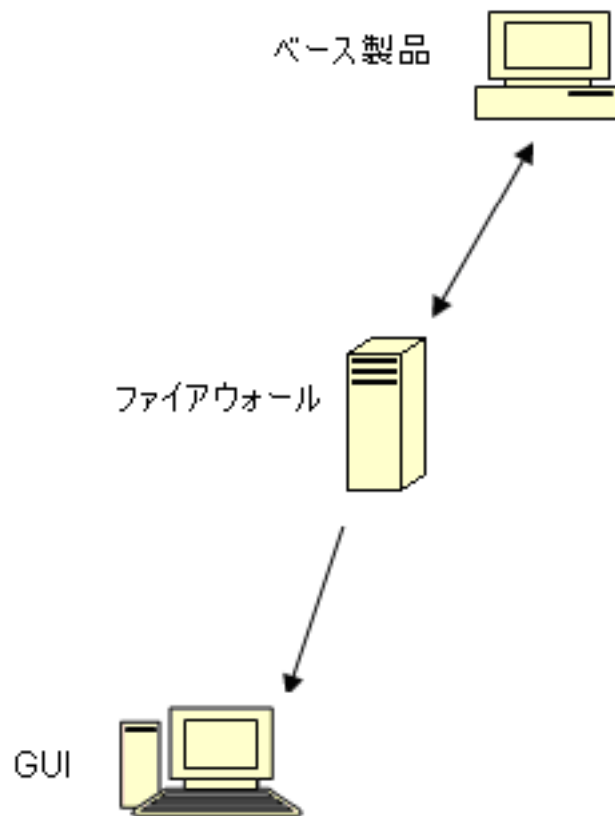
```
ENABLE_CONFIGURABLE_PORTS=1
Dbagentsrpcserver          6071      ExchangeAgentMachineName
```


ベース製品が実行しているマシンでは、既存の Portsconfig.cfg ファイルには以下のエントリが追加されます。

```
ENABLE_CONFIGURABLE_PORTS=1
exchangeagenttcpserverlevel 6074    ExchangeAgentMachineName
casdscsvctcp                41523
casdscsvcudp                 41524
```

ベース製品を管理する GUI

以下のシナリオでは、ファイアウォールが、GUI とベース製品が実行しているマシンを分断しています。



ベース製品が実行しているマシンでは、以下のエントリを含めるように Portsconfig.cfg ファイルを変更します。

```
ENABLE_CONFIGURABLE_PORTS=1
CASportmap      111
jobengine       6503
databaseengine  6504
tapeengine      6502
rtcports        6505
cadiscovd       9000
caservd         9001
caauthd         9003
caqd            9004
camediad        9005
cadbd           9006
reconnection    9010-9050
casdscsvtcp     41523
casdscsvcudp    41524
```

ファイアウォールでは、上のポートが開かれます。これらのポートは、ベース製品が実行されているマシンへの受信接続を許可します。

GUI マシンでは、以下のエントリを含めるように Portsconfig.cfg ファイルを変更します。

```
ENABLE_CONFIGURABLE_PORTS=1
CASportmap      111   BaseproductMachinename
jobengine       6503   BaseproductMachinename
databaseengine  6504   BaseproductMachinename
tapeengine      6502   BaseproductMachinename
rtcports        6505   BaseproductMachinename
cadiscovd       9000   BaseproductMachinename
caservd         9001   BaseproductMachinename
caauthd         9003   BaseproductMachinename
casdscsvtcp     41523
casdscsvcudp    41524
```

CA ARCserve Backup Dashboard for Windows ファイアウォール通信設定

インストール ウィザードでは、CA ARCserve Backup および CA ARCserve Backup Dashboard for Windows をインストールすると、CA ARCserve Backup サーバとクライアント システムとの間にファイアウォール通信ポートを設定します。

以下のセクションでは、環境設定ファイルのファイル名、場所、および必要な構文、ならびにクライアント システムおよび CA ARCserve Backup サーバ システムで使用される通信ポートについて説明します。

クライアント システム

ClientConfig.xml のラベルが付いたクライアント システム環境設定ファイルは、クライアント システムの以下のディレクトリにインストールされます。

[ARCSERVE_HOME]/ClientConfig.xml

構文

クライアント システムの環境設定ファイルには以下の構文が必要です。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
  <service>
    <primaryserver>LocalHost</primaryserver>
    <username>caroot</username>
    CA Portal6052</port>
  </service>
```

CA ARCserve Backup サーバ システム

CA.ARCserve.CommunicationFoundation.WindowsService.exe.config のラベルが付いた CA ARCserve Backup サーバ環境設定ファイルは、以下のディレクトリにインストールされています。

C:\Program Files\CA\ARCserve Backup

構文

CA ARCserve Backup サーバ環境設定ファイルには以下の構文が必要です。

```
<services>
  <service
    name="CA.ARCserve.CommunicationFoundation.Impl.DBServicePInvokeImpl"
    behaviorConfiguration="DBServiceBehavior">
    <host>
    <baseAddresses>
    <add baseAddress="net.tcp://localhost:6052/DBService"/>
    </baseAddresses>
    </host>
    <endpoint binding="netTcpBinding"
    bindingConfiguration="BindingConfiguration"
    contract="CA.ARCserve.CommunicationFoundation.Contract.IDBService"
    address=""></endpoint>
    </service>
    <service name ="CA.ARCserve.CommunicationFoundation.Impl.AuthServiceImpl"
    behaviorConfiguration="AuthServiceBehavior">
    <host>
    <baseAddresses>
    <add baseAddress="net.tcp://localhost:6052/AuthService"/>
    </baseAddresses>
    </host>
    <endpoint address="" binding="netTcpBinding"
    bindingConfiguration="BindingConfiguration"
    contract="CA.ARCserve.CommunicationFoundation.Contract.IAuthService" />
    </service>
  </services>
```

追加リソース - ファイアウォール ポートの仕様

以下の表に、ポート設定ファイルを使用して設定可能な CA ARCserve Backup サービスを示します。

CA ARCserve Backup MSRPC サービス

サービス表示名	プロセス名	キー	デフォルトのポート	サービスの種類
Agent RPC Server	dbasvr.exe	dbagentsrpcserver	システム ポート	MSRPC
テープ エンジン	tapeeng.exe	tapeengine	6502	MSRPC
ジョブ エンジン	jobeng.exe	jobengine	6503	MSRPC
データベース エンジン	dbeng.exe	databaseengine	6504	MSRPC
メッセージ エンジン	msgeng.exe	rtcports	システム ポート	MSRPC

CA ARCserve Backup TCP サービス

サービス表示名	プロセス名	キー	デフォルトのポート	サービスの種類
Universal Agent	univagent.exe	fsbackupservice	6050	TCP
Discovery service	casdscsvc.exe	casdscsvctcp	41523	TCP
NDMP NAS Option Agent	tapeeng.exe, UnivAgent.exe	nastcpservice	10000	TCP
Reconnection	carunjob.exe	reconnection	ポートなし	TCP

CA ARCserve Backup ONCRPC サービス

サービス表示名	プロセス名	キー	デフォルトのポート	サービスの種類
Remote Procedure Call Server	CASportmap.exe	CASportmap	111	ONCRPC

サービス表示名	プロセス名	キー	デフォルトのポート	サービスの種類
Service Controller	caserved.exe	caservd	システム ポート	ONCRPC
ドメイン サーバ	cadiscovd.exe	cadiscovd	システム ポート	ONCRPC
ドメイン サーバ	caauthd.exe	caauthd	システム ポート	ONCRPC
caqd	lqserver.exe	caqd	システム ポート	ONCRPC
cadbd	ldbserver.exe	cadbd	システム ポート	ONCRPC
camediad	mediasvr.exe	camediad	システム ポート	ONCRPC

CA ARCserve Backup UDP サービス

サービス表示名	プロセス名	キー	デフォルトのポート	サービスの種類
Universal Agent	univagent.exe	fsbackupservice	6050	UDP
Discovery service	casdscsvc.exe	casdscsvcudp	41524	UDP

ポート設定ファイルを変更する方法の例

ここでは、PortsConfig.cfg ファイルを変更する方法の例を示します。

- Transmission Control Protocol (TCP)、User Datagram Protocol (UDP)、および Open Network Computing Remote Procedure Call (ONCRPC) サービスには、ポートが 1 つのみ必要です。これらのサービスのポート番号を指定しない場合、デフォルトのハードコード化されたポートが使用されます。ポート範囲を指定する場合、範囲の最初に利用できるポートのみが使用されます。以下は、TCP サービスの変更例です。

```
sqlagenttcpervice      8000    machine_name
fsbackupservice        7000    machine_name
```

- マシン A と D は CA ARCserve Backup サーバです。マシン B と C はクライアント エージェント マシンです。マシン A と B の間の通信ポートを 7000 に変更する場合、マシン A と C の間の通信ポートをデフォルトの 6050 に設定できます。また、マシン A には、マシン D の CA ARCserve Backup サーバ用のクライアント エージェントがインストールされており、D から A への通信ポートを 8000 に変更するとします。

クライアント エージェントのマシン B で、PortsConfig.cfg ファイルに以下の行を追加します。

```
fsbackupservice          7000    MachineB
fsbackupserviceudp       7000    MachineB
```

以下の点に注意してください。

- この変更は、クライアント エージェントによってインストールされる Admin.exe アプリケーションを使用して実行できます。
- Universal Agent サービスを再起動する必要があります。

- マシン A と D は CA ARCserve Backup サーバです。マシン B と C はクライアント エージェント マシンです。マシン A からマシン B 上のファイルを参照し、バックアップするには、PortsConfig.cfg ファイルに以下の行を追加します。

```
fsbackupservice          7000    MachineB
fsbackupserviceudp       7000    MachineB
```

マシン A のクライアント エージェントが CA ARCserve Backup マシン D と通信できるようにするには、以下の行をマシン A の PortsConfig.cfg ファイルに追加します。

```
fsbackupservice          8000    MachineA
fsbackupserviceudp       8000    MachineA
```

マシン A で Universal Agent を再起動する必要があります。

注: CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server (sqlagenttcpervice) の TCP ベース サービス(fsbackupservice、sqlagenttcpervice)についてもこのロジックを適用できます。

- CA ARCserve Backup MSRPC サービスでは、以下のことが発生します。

MSRPC は、「ncacn_ip_tcp」および「ncacn_np」プロトコルを介して受信します。「ncacn_ip_tcp」では、ハードコード化されたポートではなく、デフォルトでシステムによって割り当てられたポートを使用します。ホスト名と IP アドレスは RPC サービスには必要ありません。

たとえば、以下は MSRPC サービスについて変更されることがあります。

dbagentsrpcserver 9000

この設定では、CA ARCserve Backup Agent RPC Server はポート 9000 を使用します。

dbagentsrpcserver 9000;9001

この設定では、CA ARCserve Backup Agent RPC Server はポート 9000 を使用して通信を試みます。それにも失敗すると、ポート 9001 の使用を試みます。それにも失敗すると、CA ARCserve Backup は Windows アプリケーション アクティビティ ログにメッセージを書き込みます。

dbagentsrpcserver 9000-9500

この設定では、CA ARCserve Backup Agent RPC Server はポート 9000 を使用して通信を試みます。この通信に失敗すると、CA ARCserve Backup はポート 9001 を使用して通信を試み、その後もポート 9500 まで使用して通信を試みます。

範囲内のどのポートも使用できない場合、Windows アプリケーション アクティビティ ログにメッセージを書き込みます。

ポート環境設定ファイルの設定に関するガイドライン

PortsConfig.cfg ファイルを変更する際は、以下の点を考慮してください。

注：PortsConfig.cfg ファイルは以下のディレクトリに保存されます。

¥Program Files¥CA¥SharedComponents¥ARCserve Backup

- CA ARCserve Backup NDMP NAS Option のインストール後に、CA ARCserve Backup サーバで NAS (Network Attached Storage) ポートを変更する場合は、NAS ファイラでもポート割り当てを変更する必要があります。
- 既存のネットワークの問題を回避するため、再接続ロジックが実装されています。ネットワークの問題は、ネットワークを介してクライアント エージェントをバックアップする際に発生することがあります。バックアップ中、接続が失われたり、バックアップに失敗する可能性があります。このような問題が発生した場合、バックアップ中に使用する再接続キーとポート範囲を指定できます。この再接続キーは CA ARCserve Backup サーバ側で使用します。

- CA eTrust Firewall ソフトウェアを使用している場合、以下の手順を実行します。

- コマンド プロンプトから以下のディレクトリにアクセスします。

```
¥Program Files¥CA¥eTrust¥Firewall¥Engine
```

- 以下のコマンドを入力します。

```
fwadmin -msrpc_chk_states_off
```

- リモート コンピュータを管理するには、CA ARCserve Backup RPC サービスは、「ncacn_ip_tcp」プロトコルと「ncacn_np」プロトコルを使用して受信待機します。「ncacn_ip_tcp」を使用する際には、TCP ポート(6502、6503、6504)、およびシステム ポート 137～139 と 445 を開く必要があります。これらは、Windows オペレーティング システムにより、「ncacn_np」プロトコルの使用時に使われます。

注：eTrust Firewall によって RPC 通信がブロックされた場合は、CA ARCserve Backup の応答が遅くなったり、応答が完全に停止したりすることがあります。

- Universal Agent 用のポートを変更するには、同じマシンにインストールされ、このサービスを使用するすべてのエージェントとオプションの通信ポートを変更する必要があります(たとえば CA ARCserve Backup Client Agent、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server、CA ARCserve Backup NDMP NAS Option など)。Windows NT、Windows 2000、Windows XP、または Windows Server 2003 OS のマシンを追加する場合、参照機能は Universal Agent から実行されます。
- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server と CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server 用のポートの変更は、これらのエージェントの TCP バックアップのために行います。RPC サーバでは、CA ARCserve Backup for Windows データベース エージェントをすべて参照することができます。
- 以前のバージョンの CA ARCserve Backup からアップグレードしていて、現在のインストールで CA ARCserve Backup Client Agent の設定に CAPortConfig.cfg という設定ファイルを使用している場合は、インストール プロセスで CAPortConfig.cfg の設定が PortsConfig.cfg ファイルにマイグレートされます。

以前の CA ARCserve Backup インストールでは、CAPortConfig.cfg ファイルの情報は以下の形式です。

```
MachineName IPAddress      tcpport udpport
```

上記の CAPortConfig.cfg 設定は、次の形式で PortsConfig.cfg にマイグレートされます。

```
fsbackupservice      tcpport machinename      IPAddress
fsbackupserviceudp    udpport machinename      IPAddress
fsbackupserviceunix   tcpport machinename      IPAddress
```

注：Microsoft Windows システム サービス ポートの要件については、Microsoft のサポート サイトをご覧ください。

ファイアウォールを通じたテスト通信

Windows プラットフォームでは、コンピュータ間の通信をテストするための「**ping.exe**」と呼ばれるコマンド ライン ユーティリティを利用できます。

ファイアウォールを通じてシステムが通信できることを確認するには、**ping.exe** を使い、ファイアウォールを通して、コンピュータ名で両方向に通信が行えなければなりません。

ファイアウォールを通じた通信をテストする方法

1. Windows のコマンド ラインを開きます。
2. プロンプトから、以下の構文で、**MACHINE** を実際のマシン名に置き換えて指定します。

```
ping.exe MACHINE
```

第 8 章: CA ARCserve Backup のアンインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA ARCserve Backup のアンインストール](#) (275 ページ)

[コマンド ラインを使用した CA ARCserve Backup コンポーネントのアンインストール](#) (278 ページ)

[Agent Deployment セットアップ ファイルのアンインストール](#) (281 ページ)

CA ARCserve Backup のアンインストール

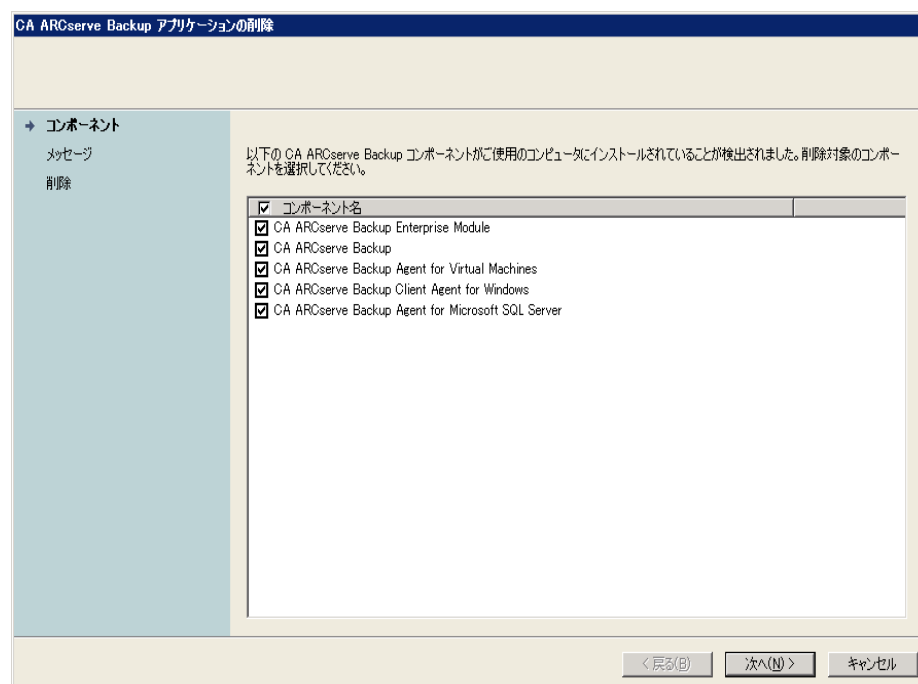
Windows コントロール パネルで[プログラムの追加と削除]アプリケーションを使用して、CA ARCserve Backup をアンインストールできます。

CA ARCserve Backup をシステムから完全にアンインストールするには、[プログラムの追加と削除]ダイアログ ボックスに表示されるすべての CA ARCserve Backup コンポーネントを削除してください。たとえば、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server、CA ARCserve Backup Diagnostic Utilities などをアンインストールする必要があります。

Windows の[プログラムの追加と削除]からは、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをアンインストールできます。

- CA ARCserve Backup ベース製品
- CA ARCserve Backup Agent for Informix
- CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server
- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server
- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve Backup Agent for Open Files for Windows
- CA ARCserve Backup Agent for Oracle
- CA ARCserve Backup Agent for Sybase
- CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines
- CA ARCserve Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve Backup 診断ユーティリティ

- CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option
- CA ARCserve Backup Enterprise Module
- CA ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve Backup Global Dashboard
- CA ARCserve Backup Image Option
- CA ARCserve Backup NDMP NAS Option
- CA ARCserve Backup Serverless Backup Option



以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをアンインストールするには、サーバ管理マネージャを使用します。

- CA ARCserve Backup Central Management Option
- CA ARCserve Backup Tape Library Option
- CA ARCserve Backup Storage Area Network (SAN) Option

アンインストール操作を行うと、以下のディレクトリとディレクトリ内のファイルを除く、すべての CA ARCserve Backup コンポーネント、ディレクトリ、ファイルなどがシステムから削除されます。

■ CA ライセンス

- (x86 システム) C:\Program Files\CA\SharedComponents\CA_LIC
- (x64 システム) C:\Program Files(X86)\CA\SharedComponents\CA_LIC

注：これらのファイルを使用するアプリケーションが使用中のコンピュータ上にない場合、それらを安全に削除できます。

■ C:\Program Files\CA\SharedComponents\Jre\JRE-1.6.0

以前の CA ARCserve Backup リリースからアップグレードし、そのリリースが JRE (Java Runtime Environment) の以前のバージョンを使用していた場合、アンインストールを実行しても、JRE 1.6.0 やそれ以前のバージョンに関連するディレクトリやファイルはシステムから削除されません。

注：これらのファイルを使用するアプリケーションが使用中のコンピュータ上にない場合、それらを安全に削除できます。

■ C:\Program Files\CA\ARCserve Backup

アンインストール操作では、クラスタのインストールの結果として修正または作成されたディレクトリのファイルは削除されません。

注：最後のクラスタ ノードから CA ARCserve Backup がインストールされた後で、このディレクトリを安全に削除できます。

■ C:\Program Files\CA\ARCserve Backup\ASDBBackups.txt

アンインストール操作では、クラスタのインストールで作成された ARCserve データベース ログ ファイルは削除されません。ARCserve データベース ログ ファイルには、ASDBBackups.txt と ASDBBackups.X.txt という名前が付けられます。

注：CA ARCserve Backup をクラスタに再インストールしない場合は、最後のクラスタ ノードから CA ARCserve Backup をアンインストールした後で、このディレクトリを安全に削除できます。

CA ARCserve Backup をアンインストールする方法

1. [CA ARCserve Backup マネージャ コンソール]を閉じます。
2. Windows の[コントロール パネル]を開きます。
[プログラムの追加と削除]をダブルクリックします。
[プログラムの追加と削除]ダイアログ ボックスが開きます。

3. CA ARCserve Backup を参照して選択します。
[削除]ボタンをクリックします。
[コンポーネント]ダイアログ ボックスが表示されます。
4. アンインストールする CA ARCserve Backup コンポーネントを選択し、[削除]をクリックします。
指定された CA ARCserve Backup コンポーネントがコンピュータからアンインストールされます。

重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

コマンド ラインを使用した CA ARCserve Backup コンポーネントのアンインストール

Windows Server 2008 サーバ コアは Windows Server 2008 を実行するサーバの最小限のインストール オプションです。Windows Server コアには、最小限のユーザ インターフェイス機能のみが含まれます。サーバ コアと対話する主な方法は、コマンド ラインを使用することです。

ユーザ インターフェイスの不足から、Windows コマンド ラインを使用して CA ARCserve Backup コンポーネント、エージェント、およびオプションをアンインストールしなければならない状況もあり得ます。たとえば、サーバ コアを実行している Windows Server 2008 システムから CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option をアンインストールする場合などです。

このリリースでは、サーバ コアを実行している Windows Server 2008 システムに以下のコンポーネントをインストールできます。

- CA ARCserve Backup メンバ サーバおよびサポートされるオプション
- CA ARCserve Backup Agent for Open Files
- CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines
- CA ARCserve Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve Backup for Windows Disaster Recovery Option

重要: 以下の手順では、コマンド ラインを使用して、すべての Windows オペレーティング システムからすべての CA ARCserve Backup コンポーネントをアンインストールする手順を説明します。

コマンド ラインを使用して CA ARCserve Backup コンポーネントをアンインストールする方法

1. CA ARCserve Backup コンポーネントをアンインストールするコンピュータにログインします。

注: コンピュータには、管理アカウントを使用してログインする必要があります。

2. Windows のコマンド ラインを開きます。

コンピュータのオペレーティング システムのアーキテクチャに対応した構文を以下のとおり実行します。

■ x86 オペレーティング システム

```
%ProgramFiles%\CA\SharedComponents\ARCserve Backup\Setup\rs15\uninstall.exe /p <ProductCode>
```

■ x64 オペレーティング システム

```
%ProgramFiles%\CA\SharedComponents\ARCserve Backup\Setup\rs15\uninstall.exe /p <ProductCode>
```

<ProductCode>

以下の表は、アンインストールする CA ARCserve Backup コンポーネントに対して指定する必要がある製品コードを示しています。

例:

コマンド ラインを使用して Windows x86 オペレーティング システムから CA ARCserve Backup ベース製品をアンインストールするには、以下の構文を使用します。

```
%ProgramFiles%\CA\SharedComponents\ARCserve Backup\Setup\rs15\uninstall.exe /p {CAABDF1F-E6BC-483F-B7E5-CEEF32EBE841}
```

コンポーネント	<ProductCode>
CA ARCserve Backup (x86 プラットフォーム)	{CAABDF1F-E6BC-483F-B7E5-CEEF32EBE841}
CA ARCserve Backup Agent for Informix (x86 プラットフォーム)	{CAABD973-463D-456C-84D3-9CBEA3118916}
CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino (x86 プラットフォーム)	{CAABD7B3-9037-44D6-BE1D-8F61DBDAFEF2}
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server (x86 プラットフォーム)	{CAABD512-714D-4DA3-A5A7-7FEB2A9605F5}
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft	{CAABD2C7-22CA-42B6-A1E7-987697879480}

コンポーネント	<ProductCode>
Exchange Server (x64 プラットフォーム)	
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server (x86 プラットフォーム)	{CAABD6D4-2659-4371-83C0-00DB8526A2FE}
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server (x64 プラットフォーム)	{CAABD3DF-7AB2-4631-A6C2-AE6153B56E34}
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server (x86 プラットフォーム)	{CAABD63E-96AC-4750-9B65-D7BDB499441E}
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server (x64 プラットフォーム)	{CAABD412-EFC0-45AD-AE7F-6A09675E94A7}
CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server (Intel Itanium プラットフォーム)	{CAABD793-6202-4D9A-99E9-99A629CB6054}
CA ARCserve Backup Agent for Open Files for Windows (x86 プラットフォーム)	{CAABD6E7-6373-406C-9046-00EB1A6B8578}
CA ARCserve Backup Agent for Open Files for Windows (x64 プラットフォーム)	{CAABD5EB-4BC4-44D2-BE88-54C56F393DBF}
CA ARCserve Backup Agent for Open Files for Windows (Intel Itanium プラットフォーム)	{CAABD895-E93A-4244-96AE-5963009F6021}
CA ARCserve Backup Agent for Oracle (x86 プラットフォーム)	{CAABD5F5-1E0D-4818-8EFC-57873293516E}
CA ARCserve Backup Agent for Oracle (x64 プラットフォーム)	{CAABD26F-DAFE-494A-873F-0DB774782430}
CA ARCserve Backup Agent for Oracle (Intel Itanium プラットフォーム)	{CAABD98E-4890-4572-96BF-5B70AA7248C1}
CA ARCserve Backup Agent for Sybase (x86 プラットフォーム)	{CAABD17A-0D49-4EC3-A53B-8163432A3B56}
CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines (x86 プラットフォーム)	{CAABD355-F0C1-4605-AF1E-B7A6666C7D49}
CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines (x64 プラットフォーム)	{CAABD127-3C7B-4D96-A9BB-FC4A566D6136}
CA ARCserve Backup Client Agent for Windows (x86 プラットフォーム)	{CAABDBA1-02D7-49A4-9C2A-1B5BE1184517}
CA ARCserve Backup Client Agent for Windows (x64 プラットフォーム)	{CAABDB75-E0F2-44BB-AAE1-4D03EBF7F17B}
CA ARCserve Backup Client Agent for Windows (Intel Itanium プラットフォーム)	{CAABD4D6-641C-41EF-B76B-7BED859E86F5}

コンポーネント	<ProductCode>
CA ARCserve Backup 診断ユーティリティ (x86 プラットフォーム)	{CAABD7EE-D20D-40B6-B7DB-C00A108A2441}
CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option (x86 プラットフォーム)	{CAABD5C6-6B02-4966-A014-564265A15259}
CA ARCserve Backup Enterprise Module (x86 プラットフォーム)	{CAABD24F-8E1F-401A-B034-024E8FDE28EB}
CA ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R3 for Oracle (x86 プラットフォーム)	{CAABDE6D-F471-4E47-A694-2D0B3B417694}
CA ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R3 for Oracle (x64 プラットフォーム)	{CAABDD15-6242-436F-B577-9015CD250172}
CA ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R3 for Oracle (Intel Itanium プラットフォーム)	{CAABD3F8-B8DC-43DC-B9E8-730801DB1466}
CA ARCserve Backup Global Dashboard	{A4D0BC77-BBE1-4708-A878-30D9BE778B2C}
CA ARCserve Backup Image Option (x86 プラットフォーム)	{CAABD962-195A-4B0F-8134-83247DF8AE0A}
CA ARCserve Backup Microsoft Windows EBS Option (x86 プラットフォーム)	{CAABD3CE-2BF1-4B56-8A64-887B848AF1CF}
CA ARCserve Backup NDMP NAS Option (x86 プラットフォーム)	{CAABDAB4-671F-406A-A779-5D431DDC471C}
CA ARCserve Backup Serverless Backup Option (x86 プラットフォーム)	{CAABD32D-AF04-406D-B0CB-732961EF02FA}

コマンドの実行後に、該当する CA ARCserve Backup コンポーネントがアンインストールされます。

Agent Deployment セットアップ ファイルのアンインストール

CA ARCserve Backup には Agent Deployment セットアップ ファイルをアンインストールするためのルーチンが含まれていません。CA ARCserve Backup サーバ上のディスク領域を解放する必要がある場合、CA ARCserve Backup のインストールに悪影響を与えることなく、CA ARCserve Backup サーバから Agent Deployment セットアップ ファイルをアンインストールすることができます。

プライマリ サーバ、メンバ サーバ、またはスタンドアロン サーバからエージェント セットアップ ファイルをアンインストールする最適な方法は、このセクションに説明されている手順を使用することです。

Agent Deployment セットアップ ファイルをアンインストールする方法

1. CA ARCserve Backup サーバにログインします。

注: CA ARCserve Backup マネージャ コンソールは開くことはできますが、Agent Deployment は閉じておく必要があります。

2. コマンド ライン ウィンドウを開いて、以下のコマンドを実行します。

- **x86 プラットフォーム**

```
C:\Program Files\CA\SharedComponents\ARCserve  
Backup\Setup\%r15%\Uninstall.exe" /q /p  
{CAABD375-B0AA-4511-A384-439D5CBC6D94}
```

- **x64 プラットフォーム**

```
C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\ARCserve  
Backup\Setup\%r15%\Uninstall.exe" /q /p  
{CAABD375-B0AA-4511-A384-439D5CBC6D94}
```

CA ARCserve Backup サーバから Agent Deployment セットアップ ファイルが削除されます。

注: CA ARCserve Backup サーバからセットアップ ファイルを削除した後で Agent Deployment を実行するには、以下のいずれかの操作を行います。

- CA ARCserve Backup インストール メディアを使用して Agent Deployment セットアップ ファイルを再インストールします。
- Agent Deployment を実行し、プロンプトが表示されたら CA ARCserve Backup インストール メディアを挿入します。

付録 A: インストールのトラブルシューティング

この付録には、CA ARCserve Backup インストール関連のトラブルシューティング情報が記載されています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[セットアップがリモート Microsoft SQL Server データベースと通信できない](#) (283 ページ)

[このリリースをインストールした後 CA ARCserve Backup にログインできない](#) (285 ページ)

[CA ARCserve Backup サービスの初期化に失敗する](#) (286 ページ)

[メンバ サーバのアップグレードで、テープ エンジンが起動しない](#) (287 ページ)

[このリリースにアップグレードした後 CA ARCserve Backup にログインできない](#) (288 ページ)

[CA ARCserve Backup でどのデバイスがサポートされているかを判断できない](#) (289 ページ)

[クラスタ HA リソースが作成されない](#) (290 ページ)

セットアップがリモート Microsoft SQL Server データベースと通信できない

Windows プラットフォームで有効

症状:

セットアップが、リモート コンピュータにインストールされた Microsoft SQL Server データベース インスタンスと通信できません。その結果、バックアップ処理は失敗します。

解決方法:

ODBC は UDP ポート 1434 を使用して SQL Server ブラウザ サービスと通信し、SQL Server の通信用 TCP ポートを検出します。その後、ODBC は 検出されたポートを使用して SQL Server と通信します。UDP ポート 1434 がブロックされていた場合、セットアップはリモート Microsoft SQL Server インスタンスと通信できず、インストール処理が失敗します。

セットアップがリモート Microsoft SQL Server データベースと通信できるように、UDP ポート 1434 がブロックされていないかどうか確認してください。その後、以下のいずれかを実行します。

- **UDP ポート 1434 がブロックされている** -- UDP ポート 1434 がブロックされている場合は、システム DSN の TCP/IP ポート番号として 1433 を指定するように ODBC データ ソースを設定します。ポート番号を設定するには、以下の手順に従います。

1. 以下のディレクトリの Odbcad32.exe を開きます。

- **x86 システム:**

%systemdrive%\¥Windows¥system32

- **x64 システム:**

%systemdrive%\¥Windows¥SysWoW64

[ODBC データソーステスト管理者]ダイアログ ボックスが開きます。

2. [システム DSN]タブをクリックし、次に[追加]をクリックします。

[データ ソースの新規作成]ダイアログ ボックスが開きます。

3. データ ソースとして SQL Server を指定し、[完了]をクリックして続行します。

[SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する]ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する]ダイアログ ボックスの以下のフィールドに入力します。

- **名前** -- データ ソースの名前。例: testmachine1

- **サーバー** -- SQL Server システム名前。例: testmachine1¥mysqlserver

[次へ]をクリックします。

5. 次のダイアログ ボックスで[クライアントの設定]をクリックします。

[ネットワーク ライブラリ設定の追加]ダイアログ ボックスが表示されます。

6. [ネットワーク ライブラリ設定の追加]ダイアログ ボックスの[ポートを動的に決定する]のチェックマークを外します。

[ポート番号]フィールドで「1433」を指定します。

[完了]ボタンをクリックします。

UDP ポート 1433 が適用されます。

- **UDP Port 1434 がブロックされていない** -- UDP ポート 1434 がブロックされていない場合は、SQL Server ブラウザ サービスが有効になっていることを確認します。

注: Microsoft SQL Server のインストール時には、SQL Server ブラウザ サービスは無効になっています。

このリリースをインストールした後 CA ARCserve Backup にログインできない

Windows プラットフォームで有効

症状:

CA ARCserve Backup の新規インストールを実行した後、CA ARCserve Backup にログインすることができません。

解決方法:

ユーザを認証するサービスが実行されていない可能性があります。コントロール パネルからサービス パネルを開き、以下のサービス実行されていることを確認します。

- CA ARCserve Backup ドメイン サーバ
- CA ARCserve Backup サービス コントローラ
- CA Remote Procedure Call Server

または、タスク マネージャを起動し、[プロセス]タブに「caauthd.exe」というアプリケーションが表示されているかどうかを確認します。このアプリケーションがタスク マネージャに表示されていない場合は、[サービス]ダイアログ ボックスを開いて、「CA ARCserve Backup Domain Server」サービスをいったん停止してから開始し、再度 CA ARCserve Backup マネージャ コンソールにログインしてみてください。それでもログインできない場合は、コマンド プロンプトを開いてディレクトリを CA ARCserve Backup ホーム ディレクトリに変更し、以下のコマンドを実行します。

`ca_auth 勒ser getall`

画面に以下のような出力が表示されます。

ユーザ名:

`caroot`

コマンドの実行中に、少なくとも 1 つのユーザ `caroot` が表示されないか、または他のエラーが発生した場合は、調査用のログを CA ARCserve Backup テクニカル サポートに送信するために、以下のデバッグ認証コマンドを実行します。

- マシン名で `ping` コマンドを実行します。例:

`ping.exe BAB_MACHINE`

この例では、`BAB_MACHINE` が自分のマシンです。上記のコマンドがうまく行かない場合は、`etc/hosts` ファイルまたは DNS を変更して、IP アドレスによる名前解決を有効にします。

以下のコマンドを実行します。

`ipconfig /all > ipconfig.log`

- 以下のコマンドを実行し、マシン上で Portmapper が実行中であるかどうかを、弊社テクニカル サポートにお知らせください。

```
netstat -na >netstat.log
```

- 以下のコマンドを実行し、クライアント マシン上で実行している rpc サーバで、どの CA ARCserve Backup サービスが登録されているかを、弊社テクニカル サポートにお知らせください。

```
rpcinfo.exe -p BAB_MACHINE >rpcinfo.log
```

この例では、BAB_MACHINE が自分のマシンです。

- 以下のコマンドを入力します。

```
rpcinfo.exe -t BAB_MACHINE 395648 1 > caauthd.txt
```

この例では、BAB_MACHINE が自分のマシンです。

注: 「>」を使用すると、出力結果を画面に表示する代わりに、ファイルに出力します。

- 以下のレジストリ キーを作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ComputerAssociates¥CA ARCserve  
Backup¥Base¥LogBrightStor¥[DWORD]DebugLogs ==1
```

ホーム ディレクトリ内の ¥¥log ディレクトリ内に、ファイル「rpc.log」が作成されます。

CA ARCserve Backup サービスの初期化に失敗する

Windows プラットフォームで有効

症状:

CA ARCserve Backup サービスの初期化に失敗します

解決策:

CA ARCserve Backup では、RPC エンジンのポートマップが必要となります。Windows のサービスである CA Remote Procedure Call Server にはポートマップの機能があり、標準ポートマップのポート 111 を使用します。

CA ARCserve Backup がポート 111 の競合を検出し、CA Remote Procedure のコール サーバ サービスに使用しているポート番号が以前インストールされたポートマップと同じポート番号であった場合、CA ARCserve Backup は自動的に別のポート番号に切り替えます。

別のコンピュータをお使いのコンピュータと通信できるようにしたい場合は、専用のポートを指定することをお勧めします。専用のポートを指定するには、以下のディレクトリにある `portsconfig.cfg` と名前のファイルを使用します。

`C:\Program Files\CA\SharedComponents\ARCserve Backup`

CA ARCserve Backup は、外部のポートマップ(Microsoft Services for UNIX (SFU)、Noblenet Portmapper、StorageTek LibAttach など)と連携します。ただし、マシンの起動中、外部ポートマップが完全に初期化される前に、CA ARCserve Backup サービスの初期化が試行される場合があります。このような場合は、CA ARCserve Backup サービスの初期化に失敗します。この問題を防ぐには、以下の手順に従います。

1. 以下のレジストリ キーを作成します。

`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup\Base\Portmap`

2. このキーの下に、DWORD 値 `DelayedRegistration` を作成します。
3. このキーに、CA ARCserve Backup サービスがポートマップ登録を初期化する前に待機する時間を分単位(10 進数値)で割り当てます。たとえば、`DelayedRegistration=1` と指定すると、どの CA ARCserve Backup サービスも、起動後 1 分間はポートマップに登録されません。

メンバ サーバのアップグレードで、テープ エンジンが起動しない

Windows プラットフォームで有効

症状:

スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバを前のリリースからメンバ サーバにアップグレードした後に、メンバ サーバのテープ エンジンが起動しません。

解決策:

プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバをメンバ サーバにアップグレードする手順が完了すると、通常は、メンバ サーバのテープ エンジンが自動的に起動します。メンバ サーバのテープ エンジンが自動的に起動しない場合は、プライマリ サーバのテープ エンジンのステータスをチェックしてください。プライマリ サーバのテープ エンジンには、メンバ サーバのアップグレード手順が完了した時点で実行されていない可能性が高いと考えられます。

この問題を解決するには、プライマリ サーバ上でテープ エンジンが稼働していることを確認してください。必要に応じて、サーバ管理マネージャを使用して、プライマリ サーバのテープ エンジンを起動します。その後、プライマリ サーバでテープ エンジンが実行されていることを確認したら、メンバ サーバでテープ エンジンを起動します。

注: CA ARCserve Backup エンジンの開始と停止の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

このリリースにアップグレードした後 CA ARCserve Backup にログインできない

Windows プラットフォームで有効

症状:

CA ARCserve Backup のこのリリースにアップグレードしても、ユーザ プロファイルはマイグレートされません。その結果、ユーザは CA ARCserve Backup マネージャおよびドメインにログインできなくなります。

解決方法:

この問題は、CA ARCserve Backup r12 SP1 や CA ARCserve Backup r12.5 などの以前の CA ARCserve Backup リリースからアップグレードする場合にのみ発生します。問題が発生するのは、以下のいずれか、あるいは両方の条件がそろった場合です。

- アップグレード処理の開始前にバックアップ サーバの IP アドレスが変更された。
- アップグレードの完了後にバックアップ サーバが再起動され、その後 IP アドレスが変更された。

このような条件の下では、以前のリリースで追加されたユーザ アカウントは、このリリースの CA ARCserve Backup へのアップグレード時にマイグレートされないことになります。この問題を解決するには、`ca_auth` コマンド(新しい IP アドレスに基づく)を使用してバックアップ サーバ上の同等の権限を再作成し、それからユーザ アカウントを更新する必要があります。

この手順を完了するには、以下を実行します。

1. CA ARCserve Backup サーバからコマンド ライン ウィンドウを開きます。
2. 以下の構文を使用して `ca_auth` を実行します。

```
ca_auth -equiv add <domainname>\NT user(administrator)> <hostname> caroot caroot  
<passwordofcaroot>
```

同等の権限が作成されます。

3. 各ユーザ アカウントに対して以下のコマンドを実行します。

```
caauthd.exe -setupuser  
cadiscovd.exe -m
```

ユーザ アカウント情報が更新されます。

注: コマンドライン ユーティリティは CA ARCserve Backup インストール ディレクトリのルートに保存されています。例:

C:\Program Files\CA\ARCserve Backup\caauthd.exe

CA ARCserve Backup でどのデバイスがサポートされているかを判断できない

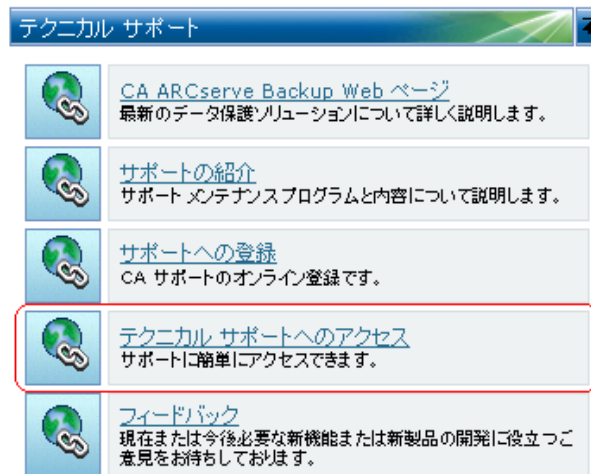
Windows プラットフォームで有効

症状:

どのデバイスが CA ARCserve Backup でサポートされているかわかりません。

解決策:

サポートされているデバイスのファームウェアとモデルを確認するには、以下の弊社 Web サイトで公開されている認定デバイス リストを参照してください。この情報にアクセスするには、以下のように CA ARCserve Backup ホーム画面を開いて、[テクニカル サポート]の[テクニカル サポートへのアクセス]リンクをクリックします。



詳細情報:

[CA ARCserve Backup ホーム画面](#) (209 ページ)

クラスタ HA リソースが作成されない

Microsoft Cluster Server (MSCS)を実行する Windows プラットフォームで有効

症状:

CA ARCserve Backup がクラスタ HA リソースを作成できません。

解決方法:

この問題は、CA ARCserve Backup をインストールした後、`babha -postsetup` コマンドを使用してクラスタ HA リソースを作成しようとする発生します。このコマンドを実行すると、メッセージ ボックスが表示され、クラスタ リソースが作成されなかったことが示されます。さらに、以下のようなメッセージが `Cluster.log` ファイルに表示されます。

ファイル共有のオープンまたは作成で、エラーが返りました: [87]

この問題を解決するには、以下の手順に従います。

1. CA ARCserve Backup クラスタ グループの下で、「ARCserve Share」という名前のオブジェクトを作成し、リソース タイプをファイル共有にします。
2. 共有されるディスクおよび CA ARCserve Backup 仮想名でリソースの依存関係を追加します。
3. 以下の値を指定します。
 - 共有名: ARCSERVE\$
 - パス: CA ARCserve Backup ホーム ディレクトリ
4. `babha -postsetup` コマンドを実行します。

付録 B: 推奨事項を使用した CA ARCserve Backup のインストールおよびアップグレード

この付録の目的は、CA ARCserve Backup をインストールしたり、以前のリリースから CA ARCserve Backup をアップグレードしたりする際に適用できる一連の推奨事項を提供することです。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA ARCserve Backup のインストールに関する推奨事項](#) (291 ページ)

[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレードに関する推奨事項](#) (335 ページ)

[一般的な推奨事項](#) (395 ページ)

CA ARCserve Backup のインストールに関する推奨事項

CA ARCserve Backup をインストールするには、以下の推奨事項を考慮してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[CA ARCserve Backup のインストールの前提条件タスクの完了方法](#) (292 ページ)

[単一サーバ環境への CA ARCserve Backup のインストール](#) (293 ページ)

[プライマリ サーバとメンバ サーバのインストール](#) (297 ページ)

[メンバ サーバおよびデバイスとのプライマリ サーバのインストール](#) (305 ページ)

[SAN におけるメンバサーバおよび共有デバイスとのプライマリ サーバのインストール](#) (312 ページ)

[SAN への複数のプライマリ サーバとメンバ サーバのインストール](#) (320 ページ)

[クラスタ対応環境への CA ARCserve Backup のインストール](#) (329 ページ)

CA ARCserve Backup のインストールの前提条件タスクの完了方法

CA ARCserve Backup をインストールまたはアップグレードする前に、以下の前提条件タスクを完了する必要があります。

ライセンス登録

CA ARCserve Backup のインストールに必要なライセンスがあることを確認します。

システム要件

CA ARCserve Backup をインストールするコンピュータのシステム要件に関する説明については、Readme ファイルで確認してください。

CA ARCserve Backup データベース

CA ARCserve Backup データベースに使用するアプリケーションを決めます。以下のアーキテクチャ上の条件を考慮します。

- 推奨するデータベース アプリケーションは、Microsoft SQL Server 2008 Express Edition です。
- Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、IA-64 (Intel Itanium) オペレーティング システムではサポートされていません。

Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。現在のトポロジがリモート データベース設定で構成されている場合、または異なるシステム(リモート システム)にインストールされているデータベース アプリケーションにアクセスする場合は、Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースとして指定する必要があります。

注：詳細については、「[データベースの要件](#) (69 ページ)」を参照してください。

CA ARCserve Backup サーバ タイプ

必要な CA ARCserve Backup サーバのタイプを決めます。インストール ウィザードによって、現在の構成が検出および分析されます。その後、インストール ウィザードにより、インストールが必要な CA ARCserve Backup サーバの種類、およびインストールが必要なエージェントとオプションが決められます。トポロジが単一の ARCserve サーバで構成される場合は、スタンドアロン サーバをインストールする必要があります。

将来、CA ARCserve Backup サーバを使用環境に追加する計画がある場合は、以下の ARCserve サーバ インストールのいずれかを指定できます。

- **スタンドアロン サーバ:** スタンドアロン サーバ インストールでは、将来、独立したスタンドアロン サーバを展開する必要があります。
- **プライマリ サーバ:** プライマリ サーバをインストールすると、複数の CA ARCserve Backup サーバを一元管理できます。

注: 一元管理機能を有効にするには、ARCserve プライマリ サーバ オプションを指定し、Central Management Option をインストールする必要があります。

注: 様々な種類の ARCserve サーバ インストールに関する詳細については、「CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ」を参照してください。

接続デバイス

インストール プロセスを開始する前に、ライブラリなどのすべてのデバイスが ARCserve サーバに接続されていることを確認します。インストールの完了後に初めてテープ エンジン起動すると、接続されているデバイスが CA ARCserve Backup によって自動的に検出および設定されるため、手動による設定は必要ありません。

単一サーバ環境への CA ARCserve Backup のインストール

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup を単一サーバ環境にインストールする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[推奨構成: スタンドアロン サーバ \(294 ページ\)](#)

[インストールが必要なコンポーネント \(295 ページ\)](#)

[スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバをインストールする方法 \(296 ページ\)](#)

[スタンドアロン サーバ インストールを確認する方法 \(296 ページ\)](#)

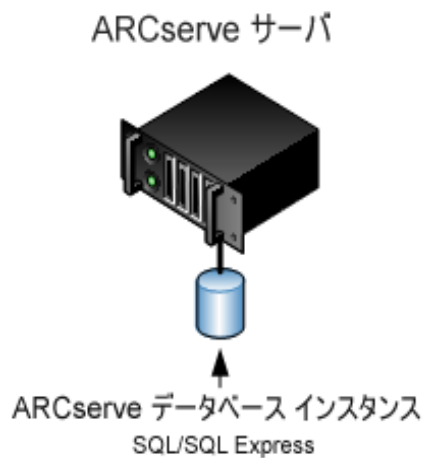
推奨構成：スタンドアロン サーバ

現在の環境を保護するために単一のバックアップ サーバが必要な場合、スタンドアロン サーバ インストールを使用して CA ARCserve Backup をインストールすることをお勧めします。

スタンドアロン サーバ インストールでは、バックアップ サーバに対してローカルで動作するジョブを実行、管理、およびモニタできます。

ある時点で、環境を保護するためにバックアップ サーバを追加する必要があると判断した場合、プライマリ サーバ オプションをインストールしてから、CA ARCserve Backup ドメインにメンバ サーバを追加できます。プライマリ サーバをインストールする場合は、Central Management Option をインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバまたは CA ARCserve Backup プライマリ サーバのアーキテクチャを以下の図に示します。

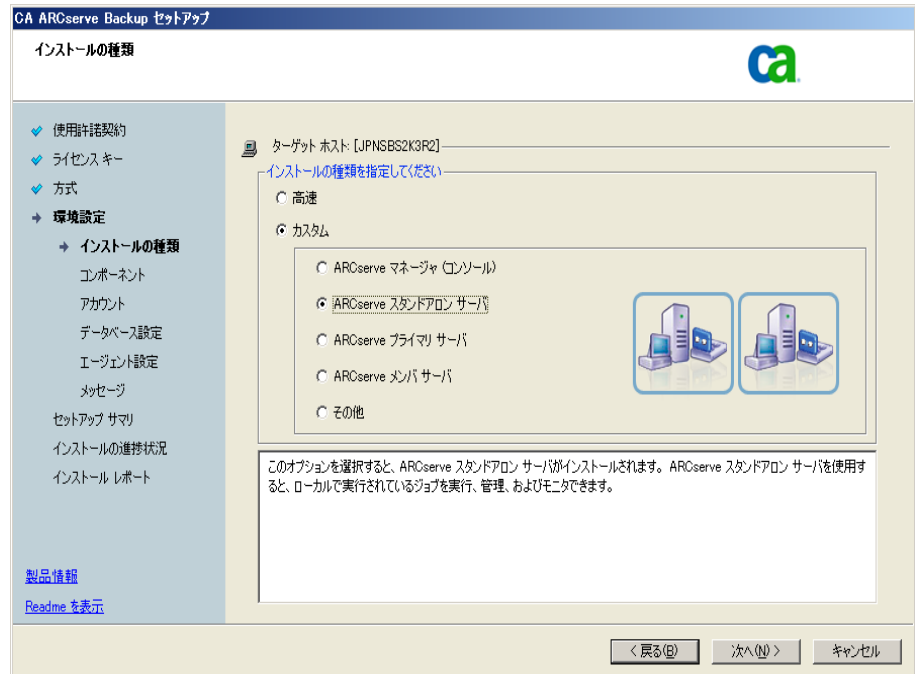


インストールが必要なコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバ

スタンドアロン バックアップ サーバ上に CA ARCserve Backup をインストールできるようにします。



CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注：ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

重要：アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバをインストールする方法

単一サーバ環境に CA ARCserve Backup をインストールするには、以下のタスクを完了します。

1. ターゲット システムに CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバ インストール オプションをインストールします。
2. インストールを確認します。

スタンドアロン サーバ インストールを確認する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

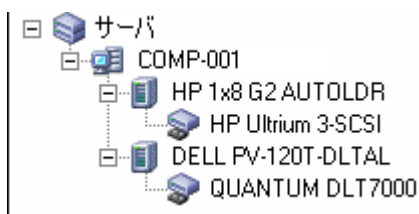
1. CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

3. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャで、サーバに接続されているすべてのデバイスが検出されることを確認します。

以下の画面は、ライブラリが接続されたスタンドアロン サーバが表示されたデバイス マネージャを示しています。ライブラリは共有されません。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注： デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

4. (オプション)[デバイス環境設定]を使用して、必要な設定を実行します。たとえば、ファイル システム デバイスを設定します。
5. 単純バックアップ ジョブをサブミットします。
バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。
ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。
 - ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
 - ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれていた場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
 - 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。
6. 単純リストア ジョブをサブミットします。
リストア ジョブが正常に完了することを確認します。
ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。
 - ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
 - ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれていた場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。
7. ジョブ ステータス マネージャを表示します。
[ジョブ キュー]タブおよび[アクティビティ ログ]に、ジョブに関する情報が表示されていることを確認します。

プライマリ サーバとメンバ サーバのインストール

以下のセクションでは、プライマリ サーバおよび 1 つまたは複数のメンバ サーバと共に CA ARCserve Backup をインストールする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[推奨構成 \(298 ページ\)](#)

[インストールが必要なコンポーネント \(300 ページ\)](#)

[プライマリ サーバとメンバ サーバをインストールする方法 \(302 ページ\)](#)

[プライマリ サーバとメンバ サーバのインストールを確認する方法 \(302 ページ\)](#)

推奨構成

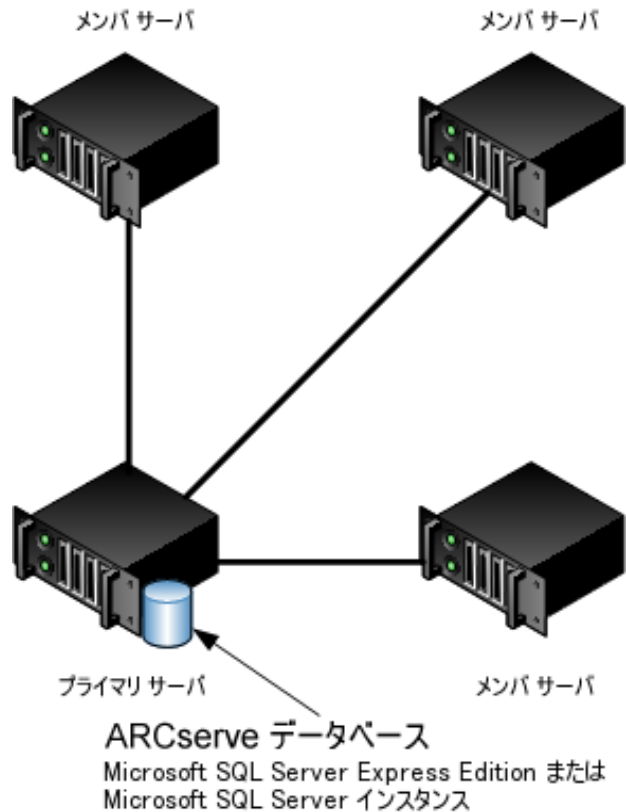
現在の環境を保護するために、同じドメイン内に存在する複数のバックアップ サーバが必要な場合は、プライマリ サーバおよびメンバ サーバのインストール オプションを使用して CA ARCserve Backup をインストールすることをお勧めします。この構成を使用すると、一元管理環境を構築できます。

プライマリ サーバは、それ自身および 1 つまたは複数のメンバ サーバを制御します。プライマリ サーバから、プライマリ サーバとメンバ サーバ上で実行されるのバックアップやリストアなどのジョブを管理および監視することができるようになります。プライマリ サーバおよびメンバ サーバを使用すると、環境内の複数の CA ARCserve Backup サーバを一元管理できるようになります。この環境では、マネージャ コンソールを使用してプライマリ サーバを管理できます。

注：Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリ サーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

一元管理環境のトポロジを以下の図に示します。この環境は、1 つのプライマリ サーバおよび 1 つまたは複数のメンバ サーバで構成されます。CA ARCserve Backup データベースは Microsoft SQL Server 2008 Express Edition によってホストされ、データベース インスタンスはプライマリ サーバ上に存在しています。

ARCserve ドメイン

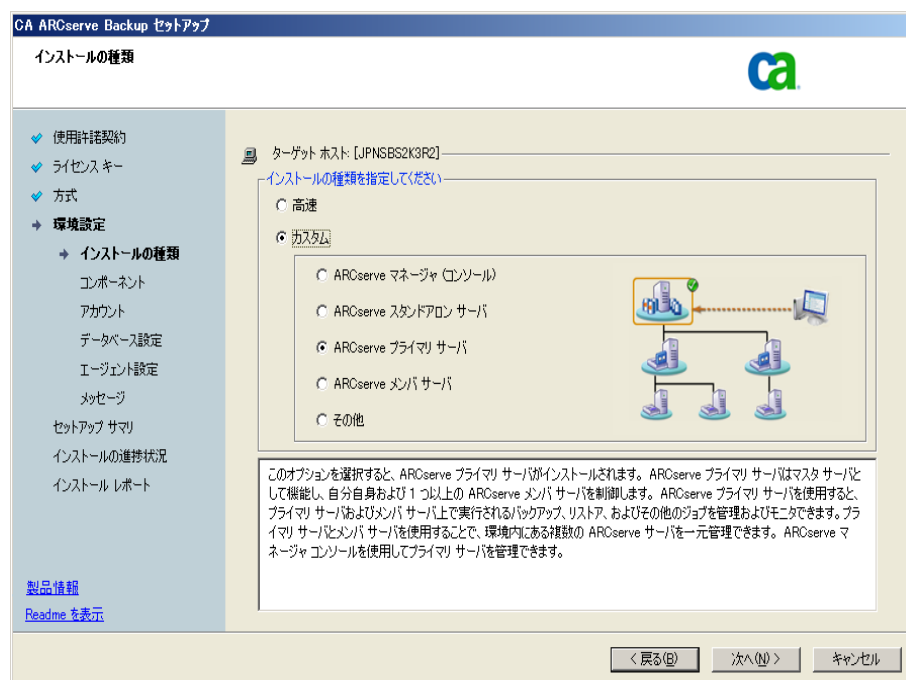


インストールが必要なコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注：ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

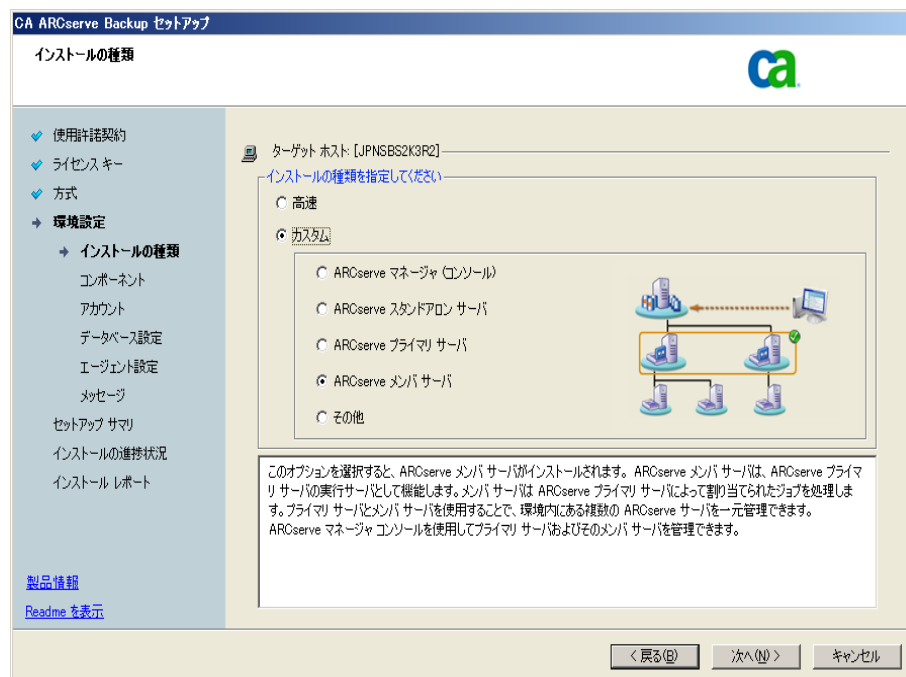
重要：アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup メンバ サーバ

CA ARCserve Backup ドメイン内のサーバが、プライマリ サーバからジョブやデバイスに関する命令を受け取れるようにします。



プライマリ サーバとメンバ サーバをインストールする方法

プライマリ サーバとメンバ サーバをインストールするには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバとして機能するシステム上に CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールします。

注： CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールすると、セットアップによって Central Management Option がインストールされます。

Microsoft SQL Server 2008 Express または Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースに指定できます。

2. 新しい CA ARCserve Backup ドメインのメンバとして機能するすべてのサーバ上に CA ARCserve Backup メンバ サーバをインストールします。
3. インストールを確認します。

プライマリ サーバとメンバ サーバのインストールを確認する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバで CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. サーバ管理を開きます。

ドメイン ディレクトリ ツリーに ARCserve ドメインのプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバの名前が表示されていることを確認します。

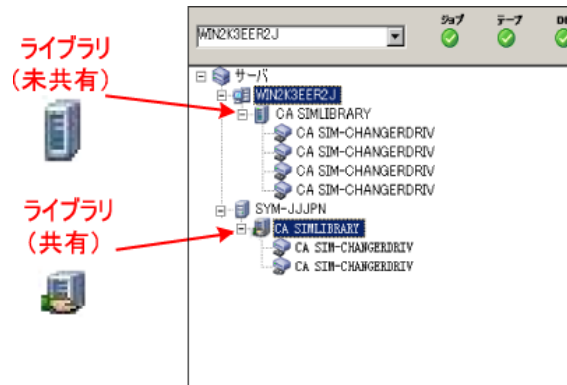
3. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

4. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注： デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

5. (オプション) デバイス マネージャを開き、ファイル システム デバイスを設定します。

6. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

7. 単純バックアップ ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

8. 単純リストア ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

9. 単純リストア ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

メンバ サーバおよびデバイスとのプライマリ サーバのインストール

以下のセクションでは、1 つのプライマリ サーバ、1 つまたは複数のメンバ サーバ、およびプライマリ サーバまたはメンバ サーバ(あるいはその両方)に接続されたデバイスと共に CA ARCserve Backup をインストールする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[推奨構成 \(305 ページ\)](#)

[インストールが必要なコンポーネント \(307 ページ\)](#)

[プライマリ サーバとメンバ サーバとデバイスをインストールする方法 \(309 ページ\)](#)

[プライマリ サーバとメンバ サーバとデバイスのインストールを確認する方法 \(310 ページ\)](#)

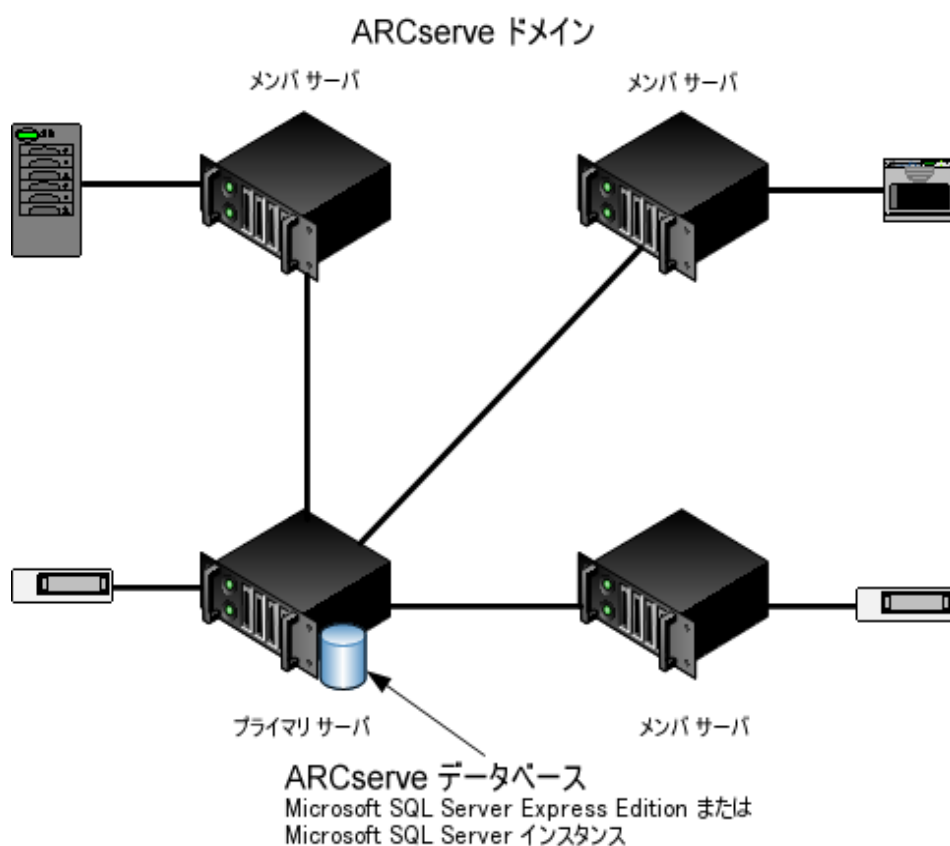
推奨構成

現在の環境を保護するために、同じドメイン内に存在する複数のバックアップ サーバおよびデバイス(ライブラリなど)が必要な場合、プライマリ サーバおよびメンバ サーバのインストール オプションを使用して CA ARCserve Backup をインストールすることをお勧めします。この構成を使用すると、一元管理環境を構築できます。

プライマリ サーバは、それ自身および 1 つまたは複数のメンバ サーバを制御します。プライマリ サーバから、プライマリ サーバとメンバ サーバ上で実行されるのバックアップやリストアなどのジョブを管理および監視することができるようになります。プライマリ サーバおよびメンバ サーバを使用すると、ドメイン内の複数の CA ARCserve Backup サーバを一元管理できるようになります。この環境では、マネージャ コンソールを使用してプライマリ サーバを管理できます。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリ サーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

接続デバイスを持つ一元管理環境とのアーキテクチャを以下の図に示します。この環境は、1 つのプライマリ サーバおよび 1 つまたは複数のメンバ サーバで構成されます。CA ARCserve Backup データベースは Microsoft SQL Server 2008 Express Edition によってホストされ、データベース インスタンスはプライマリ サーバ上に存在しています。

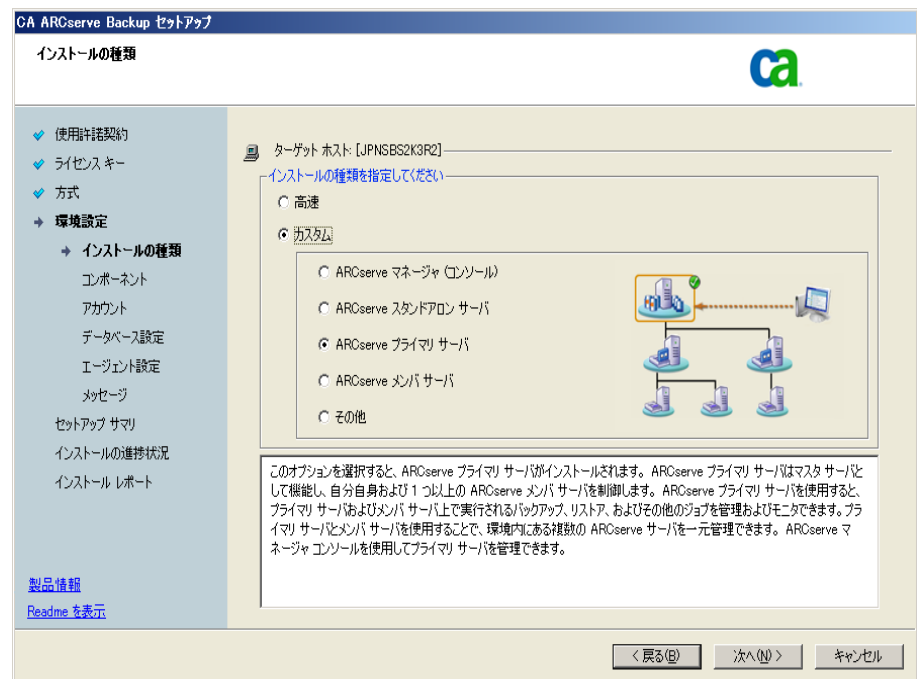


インストールが必要なコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注: ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

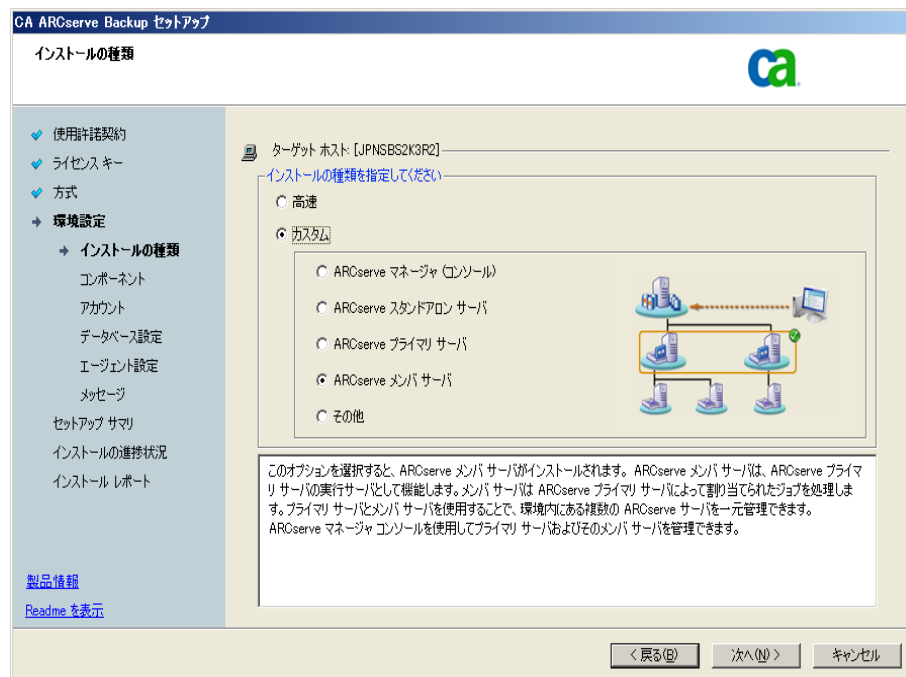
CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup Tape Library Option

複数のテープ ドライブと複数のオプティカル ドライブを持つライブラリ、およびテープ RAID ライブラリを使用して、バックアップ、リストア、およびメディア管理の機能を実行できるようになります。

CA ARCserve Backup メンバ サーバ

CA ARCserve Backup ドメイン内のサーバが、プライマリ サーバからジョブやデバイスに関する命令を受け取れるようにします。



プライマリ サーバとメンバ サーバとデバイスをインストールする方法

プライマリ サーバとメンバ サーバとデバイスをインストールするには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバとして機能するシステム上に CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールします。

注： CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールすると、セットアップによって Central Management Option がインストールされます。

Microsoft SQL Server 2008 Express または Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースに指定できます。

2. プライマリ サーバに接続されたデバイスをサポートするのに必要なオプションをインストールします。たとえば、Tape Library Option または NDMP NAS Option などです。
3. 新しい CA ARCserve Backup ドメインのメンバとして機能するすべてのサーバ上に CA ARCserve Backup メンバ サーバをインストールします。

4. メンバ サーバに接続されたデバイスをサポートするのに必要なオプションをインストールします。たとえば、Tape Library Option または NDMP NAS Option などです。
5. インストールを確認します。

プライマリ サーバとメンバ サーバとデバイスのインストールを確認する方法

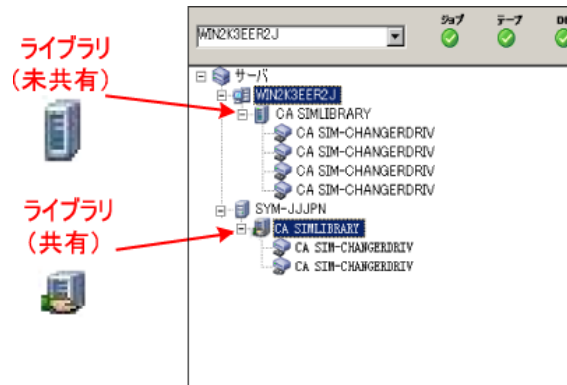
CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバで CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. サーバ管理を開きます。
ドメイン ディレクトリ ツリーに ARCserve ドメインのプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバの名前が表示されていることを確認します。
3. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。
データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

4. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注： デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

5. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

6. 単純バックアップ ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

7. 単純リストア ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

8. 単純リストア ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

SAN におけるメンバサーバおよび共有デバイスとのプライマリ サーバのインストール

以下のセクションでは、プライマリ サーバ、1 つまたは複数のメンバ サーバ、および Storage Area Network (SAN) 環境で共有されているデバイスと共に CA ARCserve Backup をインストールする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[推奨構成](#) (313 ページ)

[インストールが必要なコンポーネント\(315 ページ\)](#)

[プライマリ サーバとメンバ サーバと SAN の共有デバイスをインストールする方法\(317 ページ\)](#)

[プライマリ サーバとメンバ サーバと SAN の共有デバイスのインストールを確認する方法\(318 ページ\)](#)

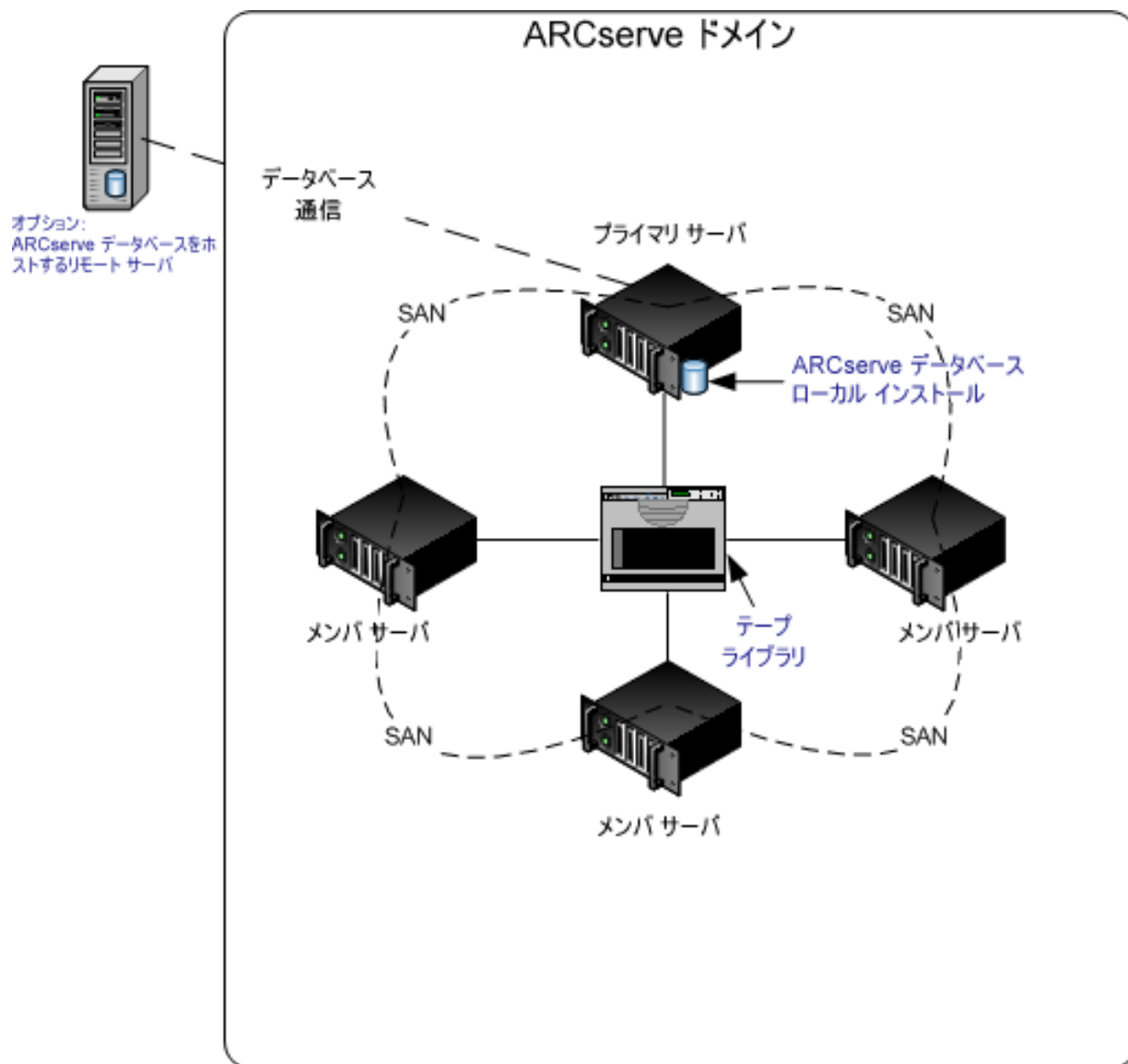
推奨構成

現在の環境を保護するために、同じドメイン内に存在する複数のバックアップ サーバおよび SAN で共有されているデバイス(ライブラリなど)が必要な場合、プライマリ サーバおよびメンバ サーバのインストール オプションを使用して CA ARCserve Backup をインストールすることをお勧めします。この構成を使用すると、一元管理環境を構築できます。

プライマリ サーバは、それ自身および 1 つまたは複数のメンバ サーバを制御します。プライマリ サーバから、プライマリ サーバとメンバ サーバ上で実行されるのバックアップやリストアなどのジョブを管理および監視することができるようになります。プライマリ サーバおよびメンバ サーバを使用すると、ドメイン内の複数の CA ARCserve Backup サーバを一元管理できるようになります。この環境では、マネージャ コンソールを使用してプライマリ サーバを管理できます。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリ サーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

共有デバイスを持つ Storage Area Network 内の一元管理環境のアーキテクチャを以下の図に示します。この環境は、1 つのプライマリ サーバおよび 1 つまたは複数のメンバ サーバで構成されます。CA ARCserve Backup データベースは Microsoft SQL Server 2008 Express Edition によってホストされ、データベース インスタンスはプライマリ サーバ上に存在しています。

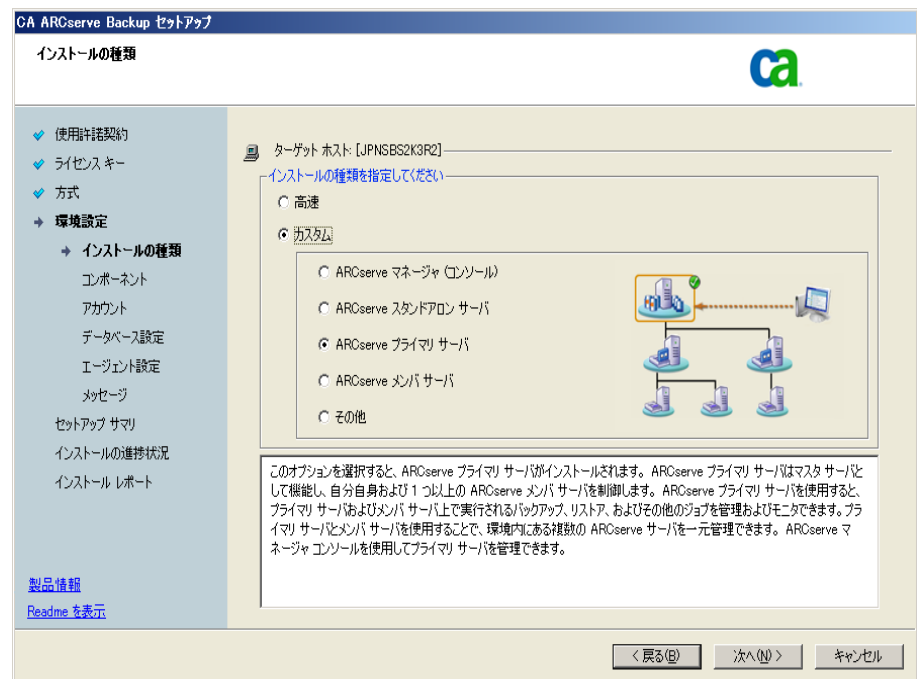


インストールが必要なコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注: ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup Tape Library Option

複数のテープ ドライブと複数のオプティカル ドライブを持つライブラリ、およびテープ RAID ライブラリを使用して、バックアップ、リストア、およびメディア管理の機能を実行できるようになります。

CA ARCserve Backup Storage Area Network (SAN) Option

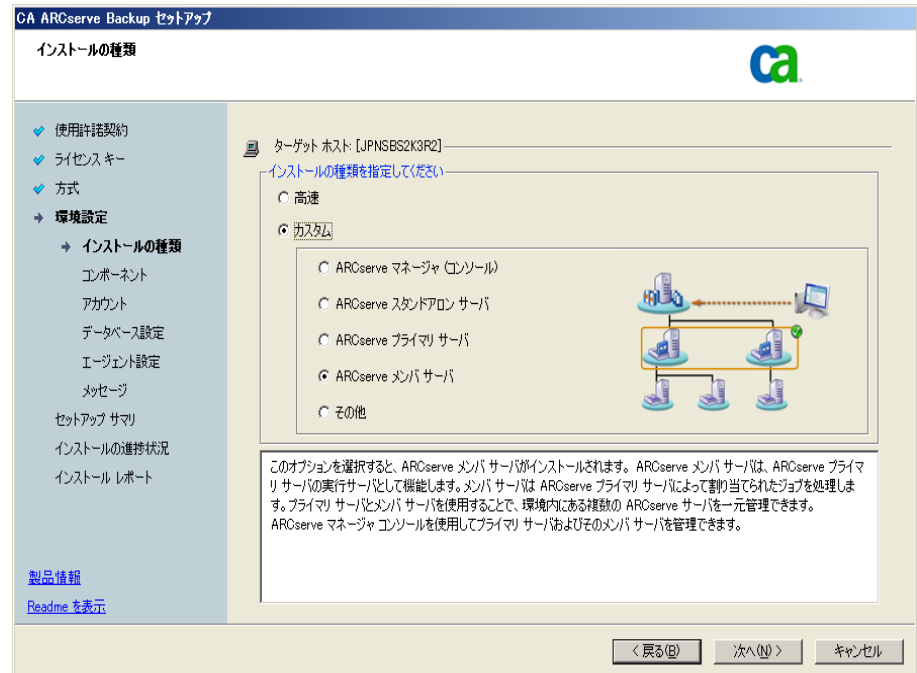
1 つまたは複数の ARCserve サーバが接続された高速ストレージ ネットワーク上で、1 つまたは複数のメディア ライブラリを共有できるようになります。

以下の点に注意してください。

- Tape Library Option は SAN (Storage Area Network) オプションの前提条件のコンポーネントです。
- Storage Area Network (SAN) Option をインストールするには、CA ARCserve Backup プライマリ サーバ インストール オプションを指定する必要があります。

CA ARCserve Backup メンバ サーバ

CA ARCserve Backup ドメイン内のサーバが、プライマリ サーバからジョブやデバイスに関する命令を受け取れるようにします。



注：この構成を展開するには、SAN において、サーバごとに Storage Area Network (SAN) Option および Tape Library Option のライセンスを確実に発行する必要があります。

プライマリ サーバとメンバ サーバと SAN の共有デバイスをインストールする方法

SAN においてメンバ サーバおよび共有デバイスと共にプライマリ サーバをインストールするには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバとして機能するシステム上に CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールします。

注：CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールすると、セットアップによって Central Management Option がインストールされます。

Microsoft SQL Server 2008 Express または Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースに指定できます。

2. プライマリ オプションに、Tape Library Option と SAN (Storage Area Network) オプションをインストールします。

注: この構成を展開するには、SAN において、サーバごとに Storage Area Network (SAN) Option および Tape Library Option のライセンスを確実に発行する必要があります。

3. プライマリ サーバに接続されたデバイスをサポートするのに必要なオプションをインストールします。たとえば、NDMP NAS Option などです。
4. 新しい CA ARCserve Backup ドメインのメンバとして機能するすべてのサーバ上に CA ARCserve Backup メンバ サーバをインストールします。
5. メンバ サーバに接続されたデバイスをサポートするのに必要なオプションをインストールします。たとえば、NDMP NAS Option などです。
6. インストールを確認します。

プライマリ サーバとメンバ サーバと SAN の共有デバイスのインストールを確認する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバで CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. サーバ管理を開きます。

ドメイン ディレクトリ ツリーに ARCserve ドメインのプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバの名前が表示されていることを確認します。

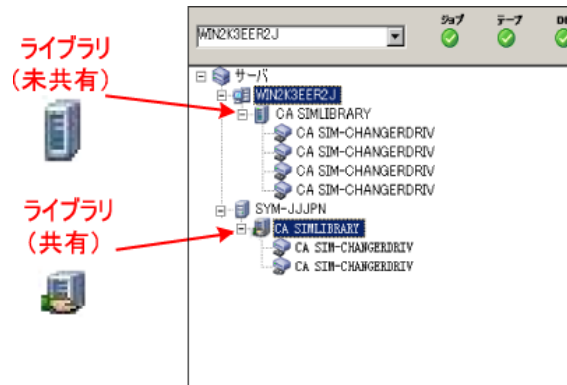
3. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

4. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注： デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

5. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

6. 単純バックアップ ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

7. 単純リストア ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

8. 単純リストア ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

SAN への複数のプライマリ サーバとメンバ サーバのインストール

以下のセクションでは、複数のプライマリ サーバがそれぞれ 1 つまたは複数のメンバ サーバを管理し、Storage Area Network (SAN) で共有されているデバイスが存在する場合に CA ARCserve Backup をインストールする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[推奨構成](#) (321 ページ)

[インストールが必要なコンポーネント \(323 ページ\)](#)

[SAN において複数のプライマリ サーバとメンバ サーバをインストールする方法 \(326 ページ\)](#)

[SAN における複数のプライマリ サーバとメンバ サーバのインストールを確認する方法 \(326 ページ\)](#)

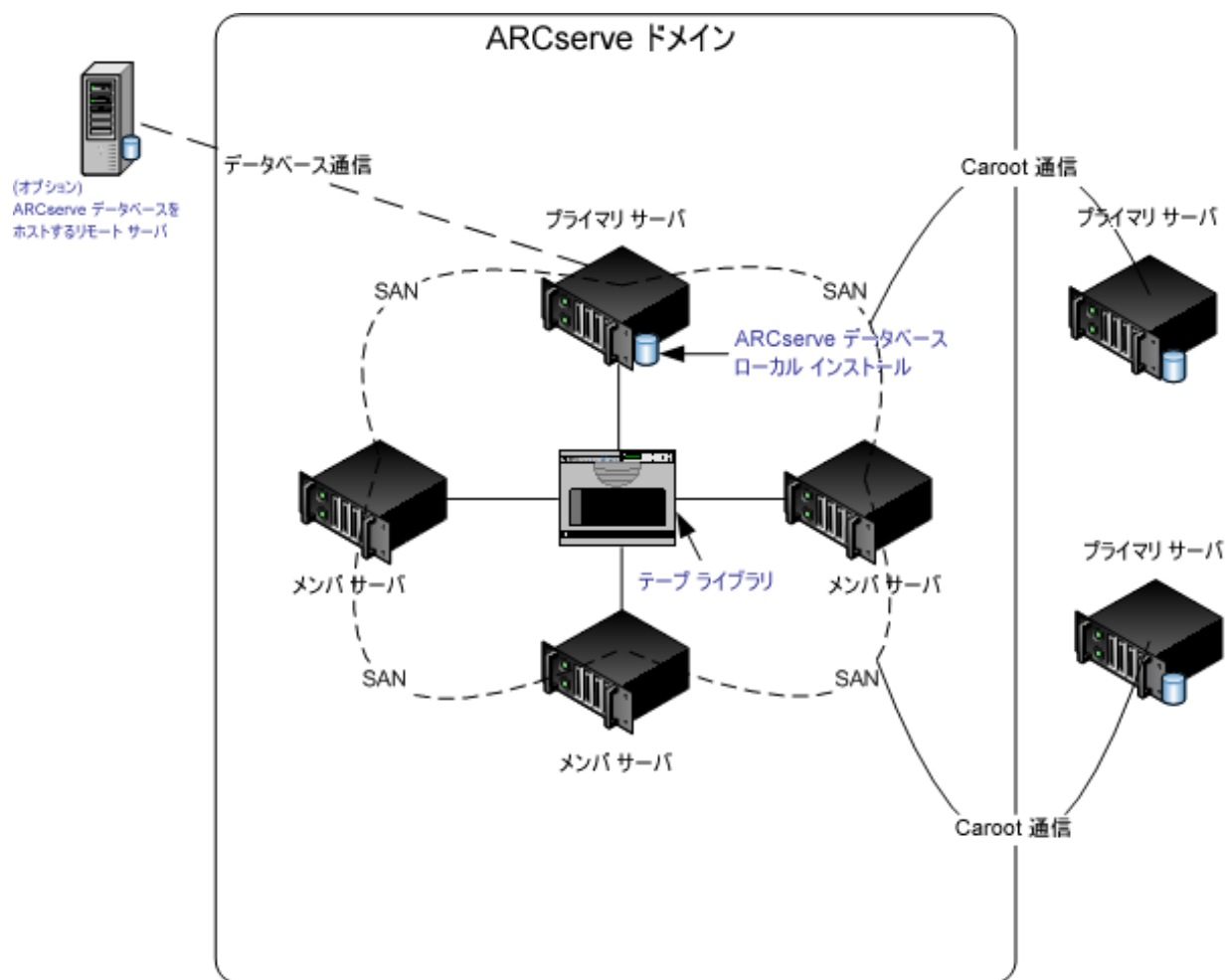
推奨構成

現在の環境を保護するために、同じドメイン内に存在する複数のバックアップ サーバおよび SAN で共有されているデバイス(ライブラリなど)が必要な場合、プライマリサーバおよびメンバサーバのインストール オプションを使用して CA ARCserve Backup をインストールすることをお勧めします。この構成を使用すると、一元管理環境を構築できます。

プライマリサーバは、それ自身および 1 つまたは複数のメンバサーバを制御します。プライマリサーバから、プライマリサーバとメンバサーバ上で実行されるバックアップやリストアなどのジョブを管理および監視することができるようになります。プライマリサーバおよびメンバサーバを使用すると、CA ARCserve Backup ドメイン内の複数のサーバを一元管理できるようになります。この環境では、マネージャ コンソールを使用してプライマリサーバを管理できます。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリサーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

共有デバイスを持つ Storage Area Network 内の一元管理環境のアーキテクチャを以下の図に示します。この環境は、1 つのプライマリ サーバおよび 1 つまたは複数のメンバ サーバで構成されます。CA ARCserve Backup データベースは Microsoft SQL Server 2008 Express Edition によってホストされ、データベース インスタンスはプライマリ サーバ上に存在しています。



インストールが必要なコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注: ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup Tape Library Option

複数のテープ ドライブと複数のオプティカル ドライブを持つライブラリ、およびテープ RAID ライブラリを使用して、バックアップ、リストア、およびメディア管理の機能を実行できるようになります。

CA ARCserve Backup Storage Area Network (SAN) Option

1 つまたは複数の ARCserve サーバが接続された高速ストレージ ネットワーク上で、1 つまたは複数のメディア ライブラリを共有できるようになります。

以下の点に注意してください。

- Tape Library Option は SAN (Storage Area Network) オプションの前提条件のコンポーネントです。
- Storage Area Network (SAN) Option をインストールするには、CA ARCserve Backup プライマリ サーバ インストール オプションを指定する必要があります。

CA ARCserve Backup メンバ サーバ

CA ARCserve Backup ドメイン内のサーバが、プライマリ サーバからジョブやデバイスに関する命令を受け取れるようにします。

CA ARCserve Backup セットアップ

インストールの種類

ターゲット ホスト: [JPNBS2K3R2]

インストールの種類を指定してください

☐ 高速

☒ カスタム

☐ ARCserve マネージャ (コンソール)

☐ ARCserve スタンドアロン サーバ

☐ ARCserve プライマリ サーバ

☒ ARCserve メンバ サーバ

☐ その他

このオプションを選択すると、ARCserve メンバ サーバがインストールされます。ARCserve メンバ サーバは、ARCserve プライマリ サーバの実行サーバ化して機能します。メンバ サーバは ARCserve プライマリ サーバによって割り当てられたジョブを処理します。プライマリ サーバとメンバ サーバを使用することで、環境内にある複数の ARCserve サーバを一元管理できます。ARCserve マネージャ コンソールを使用してプライマリ サーバおよびそのメンバ サーバを管理できます。

製品情報
Readme を表示

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

注：この構成を展開するには、SAN において、サーバごとに Storage Area Network (SAN) Option および Tape Library Option のライセンスを確実に発行する必要があります。

SAN において複数のプライマリ サーバとメンバ サーバをインストールする方法

複数のプライマリ サーバをメンバ サーバと共に SAN にインストールするには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバとして機能するシステム上に CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールします。

注：CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールすると、セットアップによって Central Management Option がインストールされます。

Microsoft SQL Server 2008 Express または Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースに指定できます。

2. プライマリ オプションに、Tape Library Option と SAN (Storage Area Network) オプションをインストールします。

注：この構成を展開するには、SAN において、サーバごとに Storage Area Network (SAN) Option および Tape Library Option のライセンスを確実に発行する必要があります。

3. プライマリ サーバに接続されたデバイスをサポートするのに必要なオプションをインストールします。たとえば、Tape Library Option または NDMP NAS Option などです。

4. 新しい ARCserve ドメインのメンバとして機能するすべてのサーバ上に CA ARCserve Backup メンバ サーバをインストールします。

5. SAN の外部に配置する CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールします。

注：SAN の外部に配置する CA ARCserve Backup プライマリ サーバには、SAN の内部に配置するプライマリ サーバに割り当てるドメイン名とは異なるドメイン名を割り当てる必要があります。

6. メンバ サーバに接続されたデバイスをサポートするのに必要なオプションをインストールします。たとえば、NDMP NAS Option などです。
7. インストールを確認します。

SAN における複数のプライマリ サーバとメンバ サーバのインストールを確認する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバで CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. サーバ管理を開きます。

ドメイン ディレクトリ ツリーに ARCserve ドメインのプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバの名前が表示されていることを確認します。

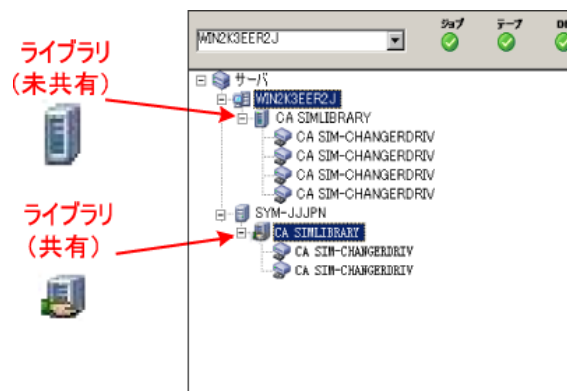
3. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

4. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注: デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

5. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

6. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

7. 単純リストア ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

8. 単純リストア ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

クラスタ対応環境への CA ARCserve Backup のインストール

以下のセクションでは、クラスタ対応環境に CA ARCserve Backup をインストールする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[推奨構成 \(329 ページ\)](#)

[インストールが必要なコンポーネント \(331 ページ\)](#)

[クラスタ対応環境へ CA ARCserve Backup をインストールする方法 \(333 ページ\)](#)

[クラスタ対応インストールを確認する方法 \(333 ページ\)](#)

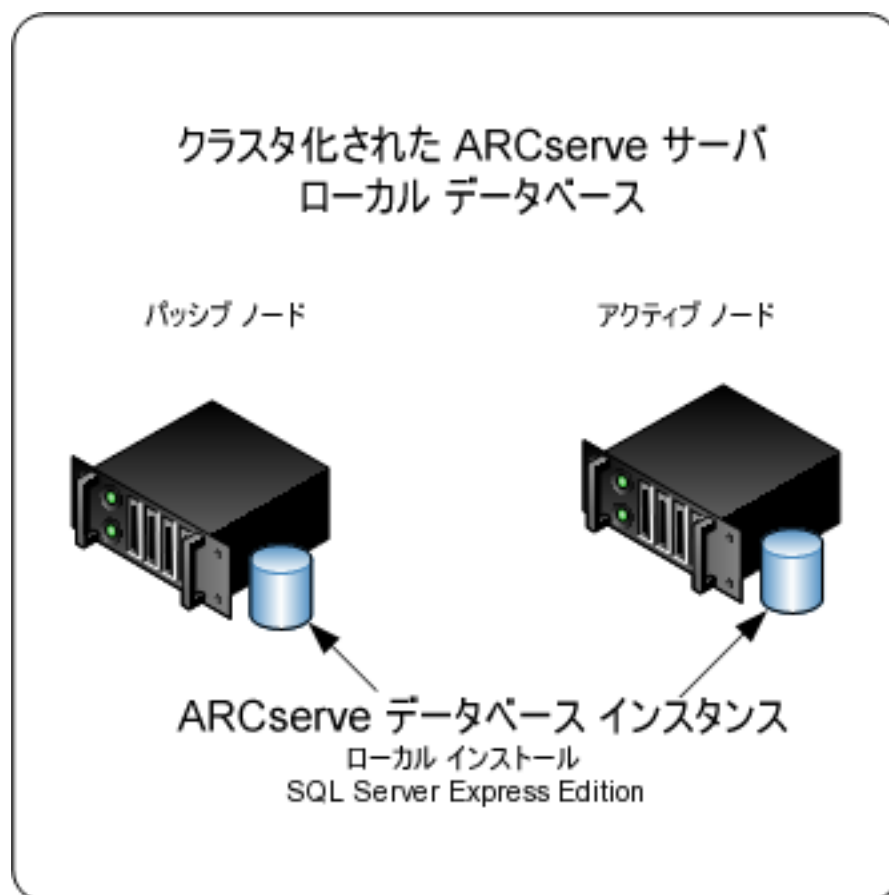
推奨構成

現在の環境を保護するために、同じドメイン内に存在する複数のバックアップ サーバとクラスタ対応環境の高可用性が必要な場合、プライマリ サーバおよびメンバ サーバのインストール オプションを使用して CA ARCserve Backup をクラスタ対応環境にインストールすることをお勧めします。このアーキテクチャによって、CA ARCserve Backup 環境を一元管理し、クラスタ対応環境の高可用性機能を維持できます。

プライマリ サーバは、それ自身および 1 つまたは複数のメンバ サーバを制御します。プライマリ サーバから、プライマリ サーバとメンバ サーバ上で実行されるのバックアップやリストアなどのジョブを管理および監視することができるようになります。プライマリ サーバおよびメンバ サーバを使用すると、CA ARCserve Backup ドメイン内の複数のサーバを一元管理できるようになります。この環境では、マネージャ コンソールを使用してプライマリ サーバを管理できます。

注： Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリ サーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

一元管理されたクラスタ対応環境のアーキテクチャを以下の図に示します。この環境は、1 つのプライマリ サーバおよび 1 つまたは複数のメンバ サーバで構成されます。ARCserve データベースは Microsoft SQL Server 2008 Express Edition によってホストされ、データベース インスタンスはプライマリ サーバ上に存在しています。

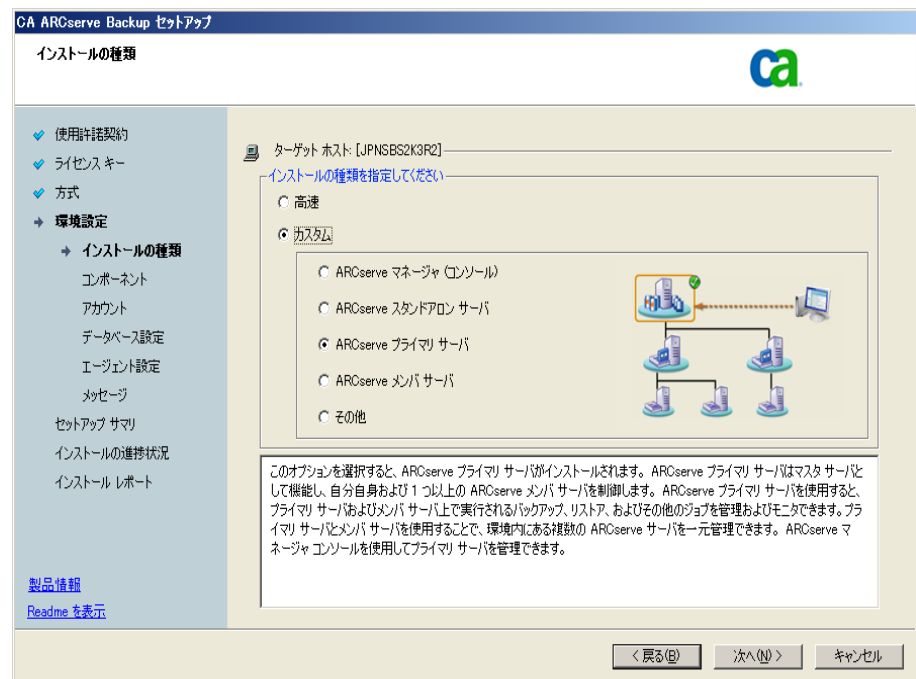


インストールが必要なコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注：ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

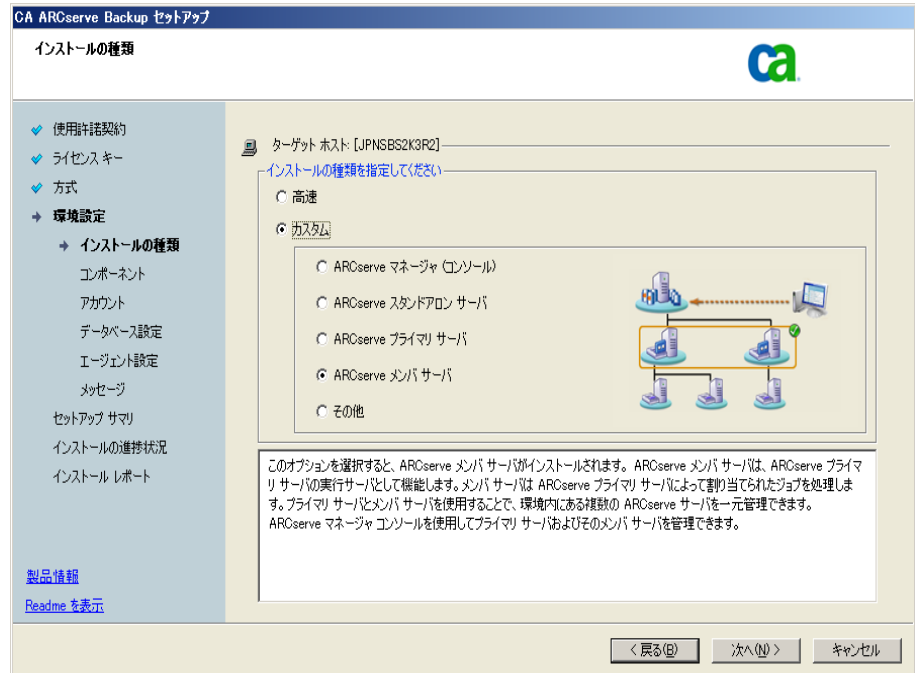
重要：アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup メンバ サーバ

CA ARCserve Backup ドメイン内のサーバが、プライマリ サーバからジョブやデバイスに関する命令を受け取れるようにします。



クラスタ対応環境へ CA ARCserve Backup をインストールする方法

以下のクラスタ プラットフォームでは、ジョブ フェールオーバー機能を持つクラスタ環境に CA ARCserve Backup をインストールできます。

- x86/AMD64/IA64 Windows Server の Microsoft Cluster Server (MSCS)
- NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster for Windows 8.0、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster X 1.0 for Windows、および CLUSTERPRO/ExpressCluster X 2.0 for Windows.

クラスタ対応環境への CA ARCserve Backup のインストール方法

1. CA ARCserve Backup をクラスタ対応環境へインストールする方法については、以下のセクションのいずれかを参照します。
 - MSCS の場合は、「[MSCS での CA ARCserve Backup サーバの展開](#) (142 ページ)」を参照します。
 - NEC CLUSTERPRO の場合は、「[NEC クラスタでの CA ARCserve Backup の展開](#) (169 ページ)」を参照します。
2. インストールを確認します。

クラスタ対応インストールを確認する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバで CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
ジョブ ステータス マネージャ内にデータベース情報およびアクティビティ ログデータが表示できることを確認します。

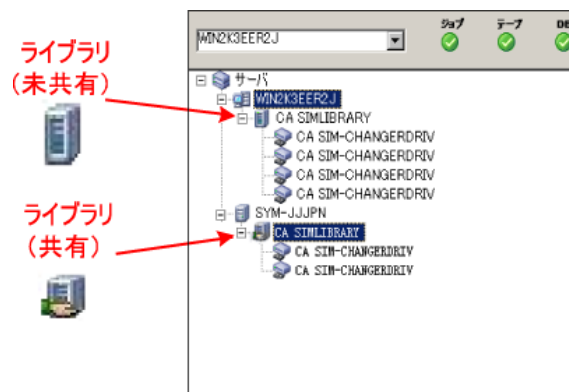
2. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

3. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注： デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

4. ARCserve クラスタ グループを異なるノードに移動します。

すべての ARCserve サービスが正常に起動したことを確認します。

注： クラスタ グループを他のノードに移動する間、マネージャ コンソールの応答が断続的に停止することがあります。

5. (オプション) 必要な設定を実行します。たとえば、ファイル システム デバイスを設定します。

6. 単純バックアップ ジョブをサブミットします。
バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。
7. 単純リストア ジョブをサブミットします。
リストア ジョブが正常に完了することを確認します。
8. ジョブ ステータス マネージャを表示します。
ジョブに関する情報が[ジョブ キュー]タブおよびアクティビティ ログに表示されることを確認します。

以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレードに関する推奨事項

以前のリリースから CA ARCserve Backup をアップグレードする際には、以下の推奨事項を考慮してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[CA ARCserve Backup のアップグレードの前提条件タスクの完了方法](#) (336 ページ)
[スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバのアップグレード](#) (338 ページ)
[ドメイン内の複数のスタンドアロン サーバのアップグレード](#) (344 ページ)
[リモート データベースを共有する複数のスタンドアロン サーバのアップグレード](#) (352 ページ)
[ローカルまたはリモートのデータベースを使用する SAN 内のサーバのアップグレード](#) (360 ページ)
[SAN および非 SAN の環境における複数のサーバの本リリースへのアップグレード](#) (369 ページ)
[セントラル データベースを使用する複数のサーバのアップグレード](#) (378 ページ)
[クラスタ対応環境における複数サーバのアップグレード](#) (386 ページ)

CA ARCserve Backup のアップグレードの前提条件タスクの完了方法

CA ARCserve Backup をアップグレードする前に、以下の前提条件タスクを完了します。

ライセンス登録

CA ARCserve Backup のアップグレードに必要なライセンスがあることを確認します。

システム要件

CA ARCserve Backup をアップグレードするコンピュータのシステム要件に関する記述を Readme ファイルで確認します。

アップグレードの要件

現在のインストールを本リリースにアップグレードできるかどうかを判断します。現在のインストールがアップグレードをサポートしていない場合、ARCserve をアンインストールしたうえで本リリースをインストールする必要があります。詳細については、「[サポート対象のアップグレード](#) (79 ページ)」および「[後方互換性](#) (80 ページ)」を参照してください。

注： CA ARCserve Backup のすべてのエージェントに関してサポートされているプラットフォームの説明については、Readme ファイルを参照してください。

CA ARCserve Backup データベース

CA ARCserve Backup データベースをホストするアプリケーションを決めます。以下のアーキテクチャ上の条件を考慮します。

- 現在、ARCserve データベースをホストするのに RAIMA (VLDB)を使用している場合、Microsoft SQL Server 2008 Express Edition または Microsoft SQL Server のいずれかにアップグレードできます。推奨するデータベース アプリケーションは、Microsoft SQL Server 2008 Express Edition です。
- 現在、Microsoft SQL Server を使用して ARCserve データベースをホストしている場合、Microsoft SQL Server を引き続き使用する必要があります。

CA ARCserve Backup は、Microsoft SQL Server データベースから Microsoft SQL Server 2008 Express データベースへデータをマイグレートできません。そのため、現在 ARCserve データベースとして Microsoft SQL Server を実行している場合は、CA ARCserve Backup データベースとして Microsoft SQL Server を指定する必要があります。

- Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、IA-64 (Intel Itanium) オペレーティング システムではサポートされていません。
- Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。現在の環境がリモート データベース設定で構成されている場合、またはリモート システムにインストールされているデータベース アプリケーションにアクセスする場合は、Microsoft SQL Server を使用して ARCserve データベースをホストする必要があります。

注：ARCserve データベースの要件に関する詳細は、「[データベースの要件](#) (69 ページ)」を参照してください。

CA ARCserve Backup サーバ タイプ

必要な CA ARCserve Backup サーバのタイプを決めます。インストール ウィザードによって、現在の構成が検出および分析されます。次に、現在のインストールに基づき、ウィザードはアップグレード対象の CA ARCserve Backup サーバのタイプとインストールする必要があるエージェントとオプションを判別します。

将来、現在の環境に CA ARCserve Backup サーバを追加する場合、以下のサーバ インストールのタイプを考察してください。

- **スタンドアロン サーバ**: スタンドアロン サーバ インストールでは、将来、独立したスタンドアロン サーバをインストールする必要があります。
- **プライマリ サーバ**: プライマリ サーバをインストールすると、複数の CA ARCserve Backup サーバを一元管理できます。

一元管理機能を有効にするには、CA ARCserve Backup および Central Management Option をインストールしてライセンスを登録する必要があります。

注：様々な種類の ARCserve サーバ インストールに関する詳細については、「[CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ](#)」(64 ページ)を参照してください。

接続デバイス

アップグレード プロセスを開始する前に、ライブラリなどのすべてのデバイスが CA ARCserve Backup サーバに接続されていることを確認します。アップグレードの完了後に初めてテープ エンジンを開始すると、接続されたデバイスが CA ARCserve Backup によって自動的に検出および設定されるので、手動による設定は必要ありません。

実行中のジョブ

アップグレード プロセスを開始する前に、すべてのジョブが停止していることを確認します。CA ARCserve Backup は、[レディ]状態のすべてのジョブを検出して、[ホールド]状態にします。実行中のプロセスがある場合、CA ARCserve Backup はメッセージを表示し、実行中のすべてのジョブが完了するまでアップグレード プロセスは一時停止します。

スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバのアップグレード

以下のセクションでは、ARCserve スタンドアロン サーバを本リリースにアップグレードする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[現在の構成: ARCserve スタンドアロン サーバ](#) (339 ページ)

[推奨構成: CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバ](#) (339 ページ)

[インストールが必要な新しいコンポーネント](#) (340 ページ)

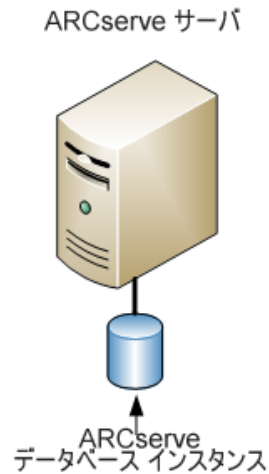
[アップグレードが必要な新しいコンポーネント](#) (342 ページ)

[ARCserve スタンドアロン サーバへアップグレードする方法](#) (342 ページ)

[スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバのアップグレードを確認する方法](#) (342 ページ)

現在の構成: ARCserve スタンドアロン サーバ

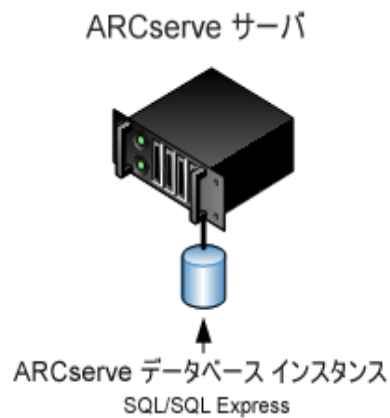
以前のリリースの CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバ構成のアーキテクチャを以下の図に示します。



推奨構成: CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバ

現在の ARCserve インストールが、単一のスタンドアロン サーバで構成されている場合、CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバまたは CA ARCserve Backup プライマリ サーバにアップグレードすることをお勧めします。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバまたは CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバのアーキテクチャを以下の図に示します。

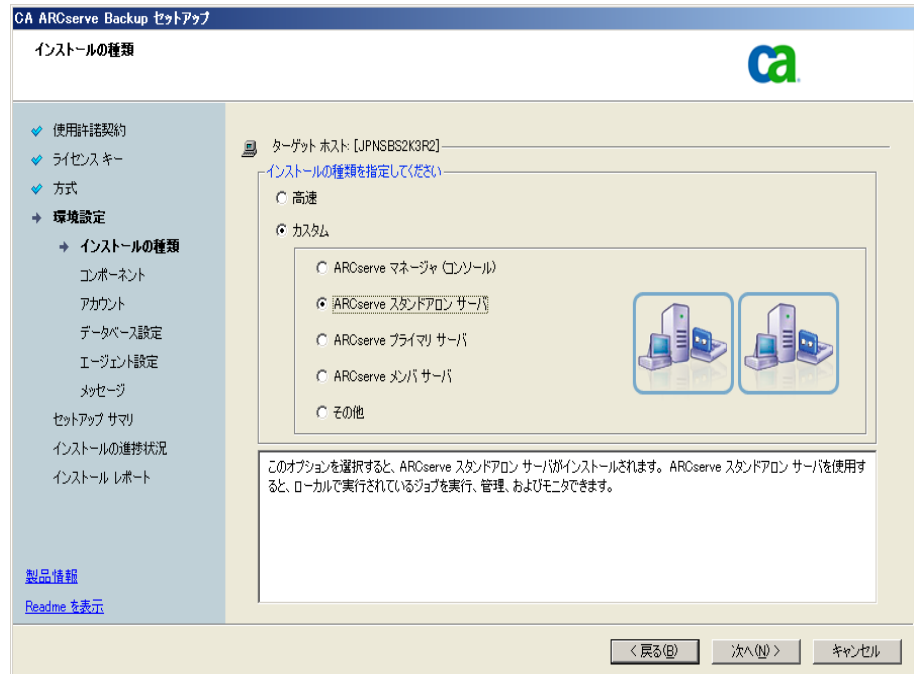


インストールが必要な新しいコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

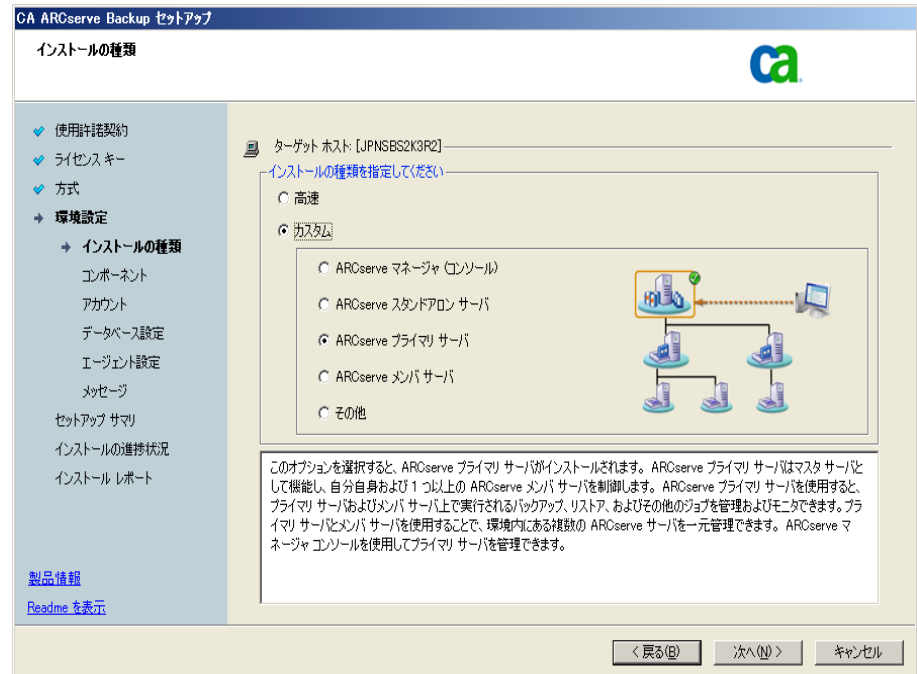
CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバ

スタンドアロン バックアップ サーバ上に CA ARCserve Backup をインストールできるようにします。



(オプション) CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注: ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

アップグレードが必要な新しいコンポーネント

使用環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをアップグレードする必要があります。

- 現在の ARCserve 環境にインストールされているすべてのコンポーネント

ARCserve スタンドアロン サーバへアップグレードする方法

ARCserve スタンドアロン サーバ環境を CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバ環境にアップグレードするには、以下のタスクを完了します。

1. ターゲット システムに CA ARCserve Backup プライマリ サーバまたは CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバをインストールします。
2. プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースヘデータをマイグレートします。

CA ARCserve Backup をアップグレードすると、セットアップによってマイグレーション ウィザードが起動されます。このウィザードを使用して、以前のインストールから新しい CA ARCserve Backup サーバヘデータをマイグレートできます。ジョブ、ログ、およびユーザ セキュリティに関連するデータをマイグレートできます。

データをマイグレートするには、続いて表示されるダイアログ ボックスのプロンプトに従い、必要な情報をすべて入力します。

3. インストールを確認します。
4. (オプション)CA ARCserve Backup データベースのバックアップを最後に実行したのがこのリリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報:

[アップグレードに関する考慮事項 \(78 ページ\)](#)

[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード \(100 ページ\)](#)

スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバのアップグレードを確認する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。

2. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

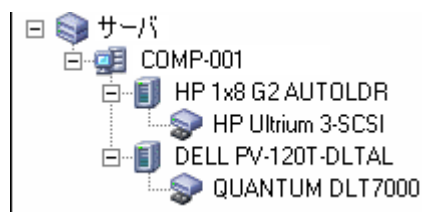
以前のバックアップ データがすべて正常にマイグレートされたことを確認します。

注: CA ARCserve Backup はジョブに関する情報、ログ、およびユーザー情報を以前のサーバから新しいインストールへマイグレートします。

3. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャで、サーバに接続されているすべてのデバイスが検出されることを確認します。

以下の画面は、ライブラリが接続されたスタンドアロン サーバが表示されたデバイス マネージャを示しています。ライブラリは共有されません。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注: デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

4. (オプション)[デバイス環境設定]を使用して、必要な設定を実行します。たとえば、ファイル システム デバイスを設定します。

5. 単純バックアップ ジョブをサブミットします。

バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれていた場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

6. 単純リストア ジョブをサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれていた場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。

問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

7. ジョブ ステータス マネージャを表示します。

[ジョブ キュー]タブおよび[アクティビティ ログ]に、ジョブに関する情報が表示されていることを確認します。

ドメイン内の複数のスタンドアロン サーバのアップグレード

以下のセクションでは、ドメイン内でデータベースを共有しない複数の ARCserve サーバを、プライマリ サーバと複数のメンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメインにアップグレードする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[現在の構成: ドメイン内の複数の ARCserve サーバ \(345 ページ\)](#)

[推奨構成: プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメイン \(345 ページ\)](#)

[インストールが必要な新しいコンポーネント \(347 ページ\)](#)

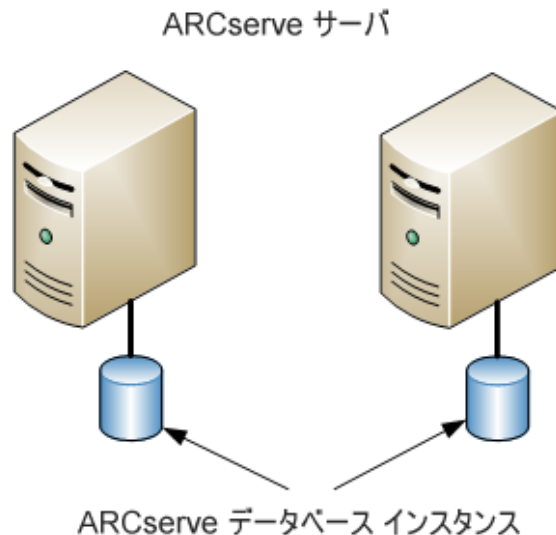
[アップグレードが必要な新しいコンポーネント \(349 ページ\)](#)

[一元管理環境へ複数の ARCserve サーバをアップグレードする方法 \(349 ページ\)](#)

[プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成されるドメインのアップグレードを確認する方法 \(350 ページ\)](#)

現在の構成: ドメイン内の複数の ARCserve サーバ

以前のリリースにおいて、ドメイン内に複数の CA ARCserve Backup サーバが存在するアーキテクチャを以下の図に示します。



推奨構成: プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメイン

現在の構成が、ドメイン内に複数の CA ARCserve Backup サーバを含む場合、1 つのプライマリ サーバと 1 つ以上のメンバ サーバで構成される一元管理環境にアップグレードすることをお勧めします。

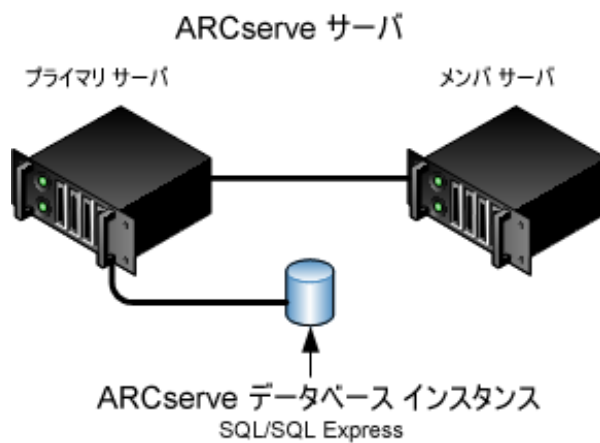
一元管理環境にアップグレードするには、既存の CA ARCserve Backup サーバの 1 つを CA ARCserve Backup プライマリ サーバにアップグレードした上で、ドメイン内のほかのすべてのサーバを CA ARCserve Backup メンバ サーバにアップグレードする必要があります。

注: 以前のインストールにおけるドメインのプライマリ サーバが CA ARCserve Backup プライマリ サーバの役割を引き継ぐ必要があります。

メンバ サーバをインストールするには、インストール ウィザードがネットワーク内の CA ARCserve Backup ドメイン名とプライマリ サーバ名を検出する必要があります。そのため、CA ARCserve Backup を少なくとも 1 つのプライマリ サーバにインストールした後でメンバ サーバをインストールする必要があります。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリ サーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

一元管理環境のアーキテクチャを以下の図に示します。



注：CA ARCserve Backup がリモート データベースと通信できるようにするには、Microsoft SQL Server を使用して ARCserve データベースをホストする必要があります。

インストールが必要な新しいコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注: ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

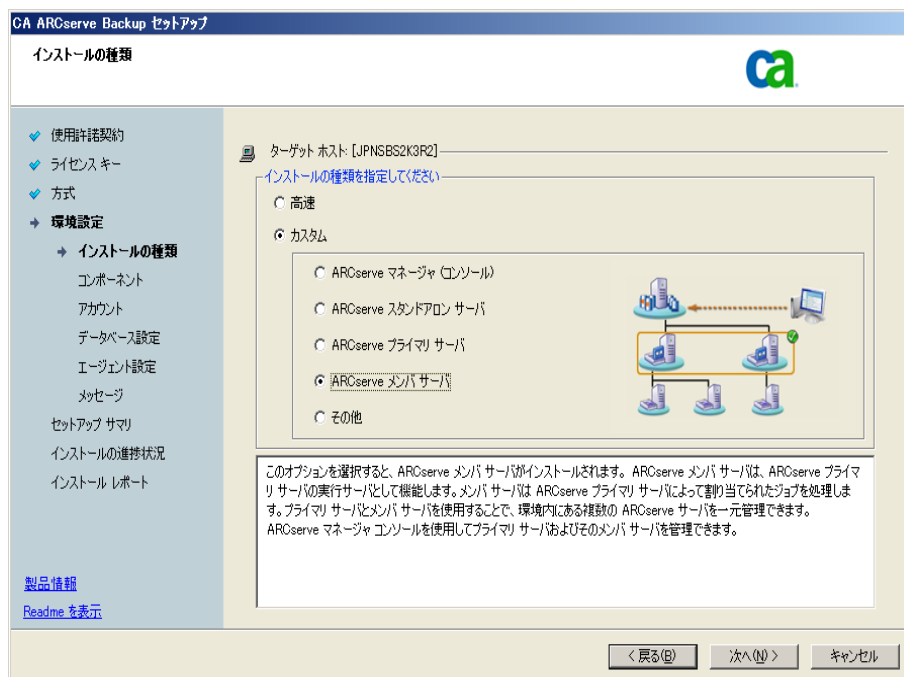
重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup メンバ サーバ

ARCserve ドメイン内のサーバが、プライマリ サーバからジョブやデバイスに関する命令を受け取れるようにします。



アップグレードが必要な新しいコンポーネント

使用環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをアップグレードする必要があります。

- 現在の ARCserve 環境にインストールされているすべてのコンポーネント

一元管理環境へ複数の ARCserve サーバをアップグレードする方法

複数の ARCserve サーバを、CA ARCserve Backup プライマリ サーバおよび 1 つまたは複数の CA ARCserve Backup メンバ サーバで構成される一元管理環境にアップグレードするには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバとして機能するシステム上に CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールします。

注：CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールすると、セットアップによって Central Management Option がインストールされます。

Microsoft SQL Server 2008 Express または Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースに指定できます。

プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースへデータをマイグレートします。

2. 新しい ARCserve ドメインのメンバとして機能するすべてのサーバ上に CA ARCserve Backup メンバ サーバをインストールします。

プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースへデータをマイグレートします。

3. インストールを確認します。
4. (オプション)CA ARCserve Backup データベースのバックアップを最後に実行したのがこのリリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報：

[アップグレードに関する考慮事項 \(78 ページ\)](#)

[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード \(100 ページ\)](#)

プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成されるドメインのアップグレードを確認する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバで CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. サーバ管理を開きます。

ドメイン ディレクトリ ツリーに ARCserve ドメインのプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバの名前が表示されていることを確認します。

3. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

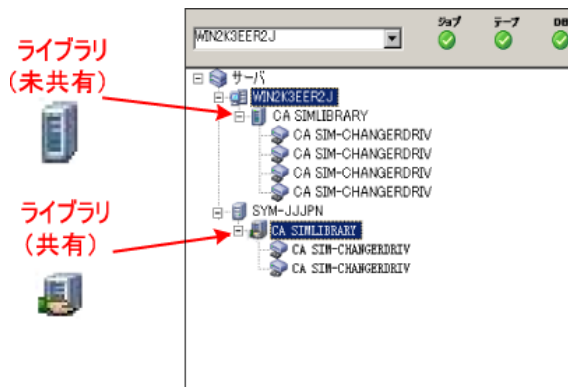
以前のバックアップ データがすべて正常にマイグレートされたことを確認します。

注：CA ARCserve Backup はジョブに関する情報、ログおよびユーザ情報を古いサーバから新しいプライマリ サーバへマイグレートします。

4. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注： デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

5. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

6. 単純バックアップ ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

7. 単純リストア ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

8. 単純リストア ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

リモート データベースを共有する複数のスタンドアロン サーバのアップグレード

以下のセクションでは、リモート ARCserve データベースを共有する複数の ARCserve スタンドアロン サーバを、CA ARCserve Backup プライマリ サーバと複数の CA ARCserve Backup メンバ サーバにアップグレードする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[現在の構成: リモート データベースを共有する複数の ARCserve サーバ \(353 ページ\)](#)

[推奨構成: プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメイン \(353 ページ\)](#)

[インストールが必要な新しいコンポーネント \(355 ページ\)](#)

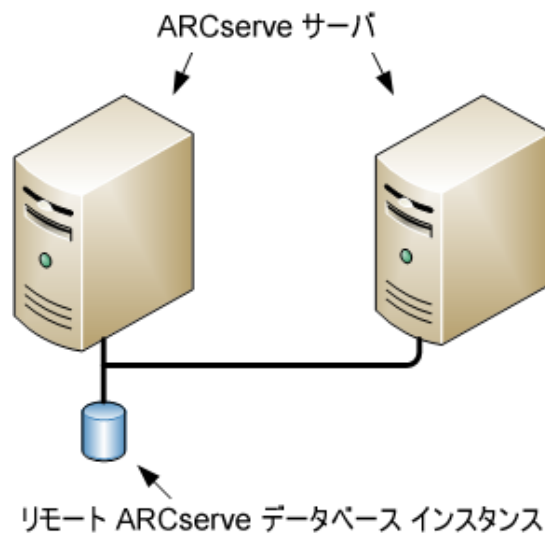
[アップグレードが必要な新しいコンポーネント \(357 ページ\)](#)

[データベースを共有する複数の ARCserve サーバを一元管理環境へアップグレードする方法 \(357 ページ\)](#)

[一元管理環境のアップグレードを確認する方法 \(358 ページ\)](#)

現在の構成: リモート データベースを共有する複数の ARCserve サーバ

以前のリリースにおける、ドメイン内でリモート データベースを共有する複数の CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバのアーキテクチャを以下の図に示します。



推奨構成: プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメイン

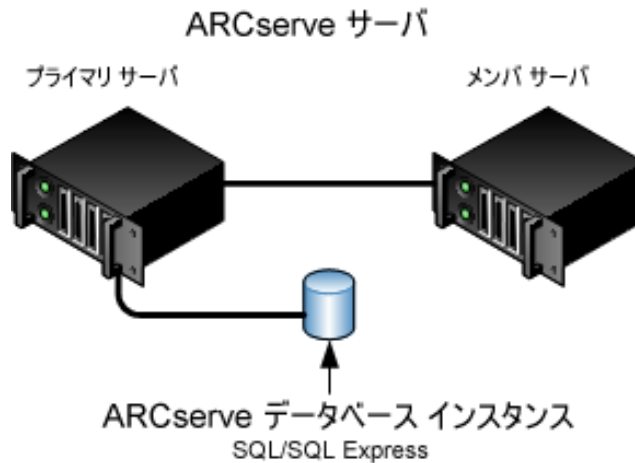
現在の構成が、ドメイン内に複数の CA ARCserve Backup サーバを含む場合、1 つのプライマリ サーバと 1 つ以上のメンバ サーバで構成される一元管理環境にアップグレードすることをお勧めします。一元管理環境では、CA ARCserve Backup ドメイン内でローカルまたはリモートのデータベースを共有できます。

一元管理環境にアップグレードするには、既存の ARCserve サーバの 1 つを CA ARCserve Backup プライマリ サーバにアップグレードしたうえで、ドメイン内の他のすべてのサーバを CA ARCserve Backup メンバ サーバにアップグレードする必要があります。

注: 以前のインストールで ARCserve データベースをホストしているシステムが CA ARCserve Backup プライマリ サーバの役割を引き継ぐ必要があります。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリ サーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

一元管理環境のアーキテクチャを以下の図に示します。



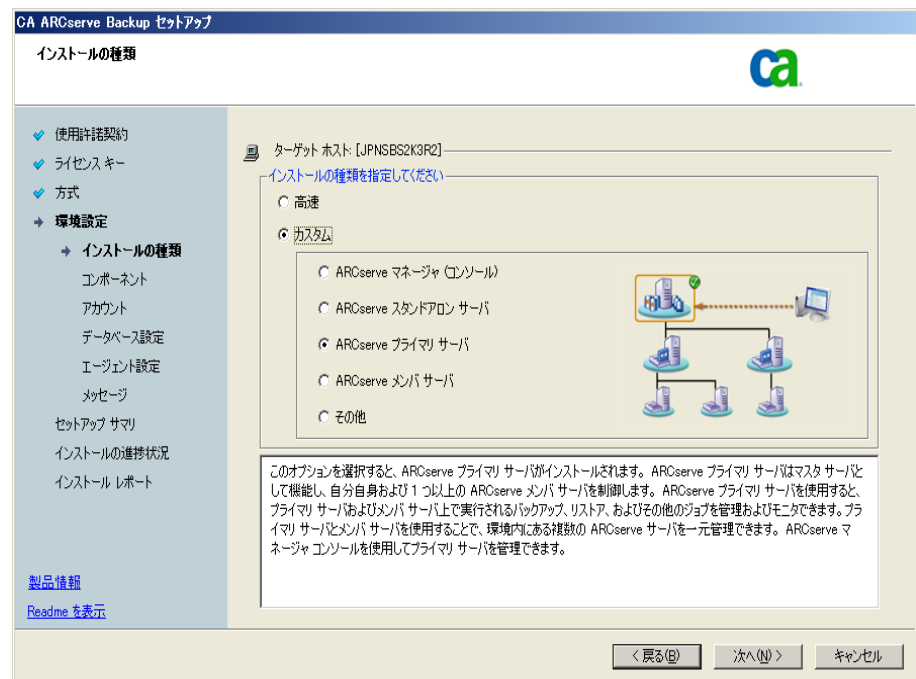
注: CA ARCserve Backup がリモート データベースと通信できるようにするには、Microsoft SQL Server を使用して CA ARCserve Backup データベース インスタンスをホストする必要があります。

インストールが必要な新しいコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注: ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

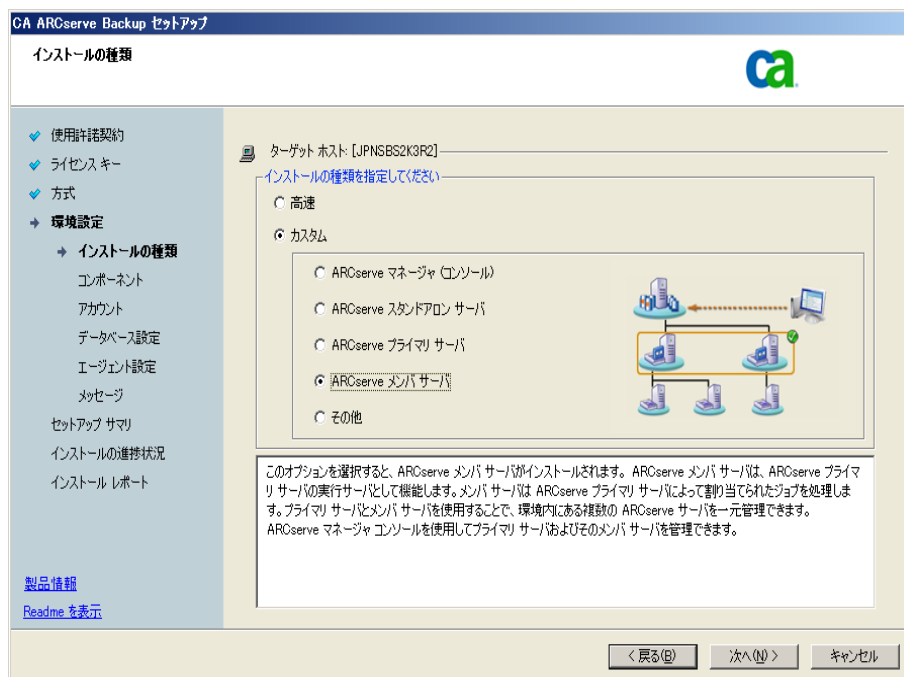
重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup メンバ サーバ

ARCserve ドメイン内のサーバが、プライマリ サーバからジョブやデバイスに関する命令を受け取れるようにします。



アップグレードが必要な新しいコンポーネント

使用環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをアップグレードする必要があります。

- 現在の ARCserve 環境にインストールされているすべてのコンポーネント

データベースを共有する複数の ARCserve サーバを一元管理環境へアップグレードする方法

データベースを共有する複数の ARCserve サーバを、一元管理された ARCserve ドメインにアップグレードするには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバとして機能するシステム上に CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールします。

注：CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールすると、セットアップによって Central Management Option がインストールされます。

Microsoft SQL Server 2008 Express または Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースに指定できます。

プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースへデータをマイグレートします。

2. 新しい ARCserve ドメインのメンバとして機能するすべてのサーバ上に CA ARCserve Backup メンバ サーバをインストールします。

プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースへデータをマイグレートします。

3. インストールを確認します。

4. (オプション)CA ARCserve Backup データベースのバックアップを最後に実行したのがこのリリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報：

[アップグレードに関する考慮事項 \(78 ページ\)](#)

[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード \(100 ページ\)](#)

一元管理環境のアップグレードを確認する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバで CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. サーバ管理を開きます。

ドメイン ディレクトリ ツリーに ARCserve ドメインのプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバの名前が表示されていることを確認します。

3. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

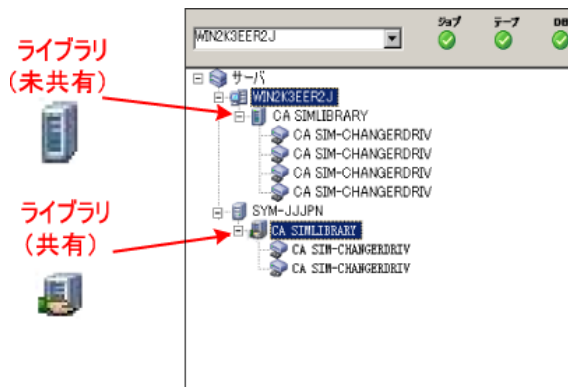
以前のバックアップ データがすべて正常にマイグレートされたことを確認します。

注: CA ARCserve Backup はジョブに関する情報、ログおよびユーザ情報を古いサーバから新しいプライマリ サーバへマイグレートします。

4. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注： デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

5. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

6. 単純バックアップ ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

7. 単純リストア ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

8. 単純リストア ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

ローカルまたはリモートのデータベースを使用する SAN 内のサーバのアップグレード

以下のセクションでは、SAN 上に存在し、ローカルまたはリモートの ARCserve データベースを共有する複数の ARCserve サーバをアップグレードする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

現在の構成: ローカルまたはリモートのデータベースを使用する SAN 内の複数の ARCserve サーバ (361 ページ)

推奨構成: SAN プライマリ サーバおよび SAN メンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメイン (362 ページ)

インストールが必要な新しいコンポーネント (363 ページ)

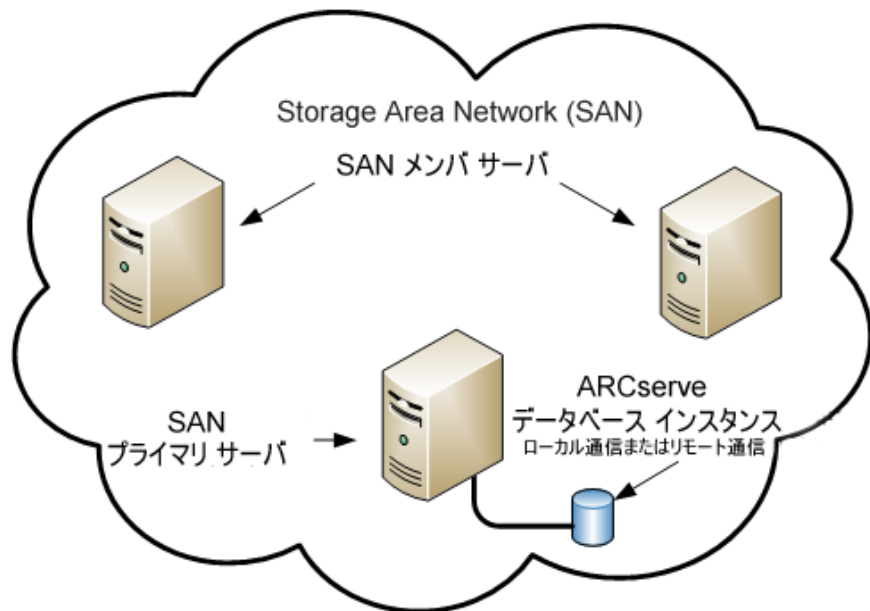
アップグレードが必要な新しいコンポーネント (365 ページ)

SAN 内の複数の ARCserve サーバを本リリースへアップグレードする方法 (366 ページ)

一元管理環境のアップグレードを確認する方法 (367 ページ)

現在の構成: ローカルまたはリモートのデータベースを使用する SAN 内の複数の ARCserve サーバ

以前のリリースにおいて、SAN 環境内でローカルまたはリモートのデータベースを使用する複数の CA ARCserve Backup サーバのアーキテクチャを以下の図に示します。



推奨構成: SAN プライマリ サーバおよび SAN メンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメイン

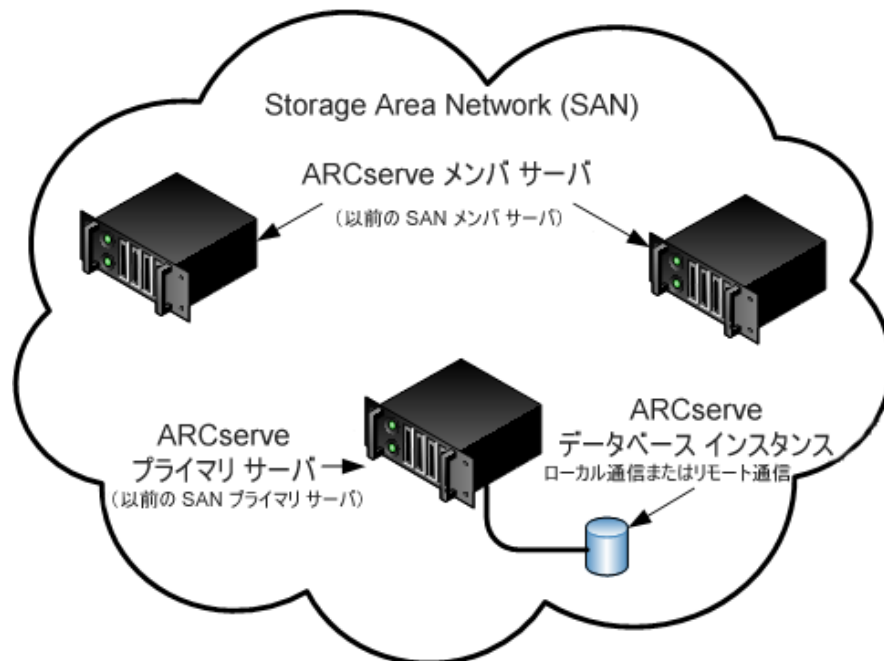
現在の構成が、ローカルまたはリモートの CA ARCserve Backup データベースを共有する SAN 上の複数の CA ARCserve Backup サーバを含む場合、一元管理環境にアップグレードすることをお勧めします。一元管理環境を使用すると、ライブラリおよびローカルまたはリモートのデータベースを共有できます。

現在の SAN 環境を一元管理環境にアップグレードするには、現在の SAN プライマリ サーバを CA ARCserve Backup プライマリ サーバにアップグレードして、SAN メンバ サーバをその特定のプライマリ サーバの CA ARCserve Backup メンバ サーバにアップグレードする必要があります。

メンバ サーバをインストールするには、インストール ウィザードが環境内の CA ARCserve Backup ドメイン名とプライマリ サーバ名を検出する必要があります。そのため、CA ARCserve Backup を少なくとも 1 つのプライマリ サーバにインストールした後でメンバ サーバをインストールする必要があります。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリ サーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

SAN およびローカルまたはリモートの ARCserve データベースと統合した一元管理環境のアーキテクチャを以下の図に示します。

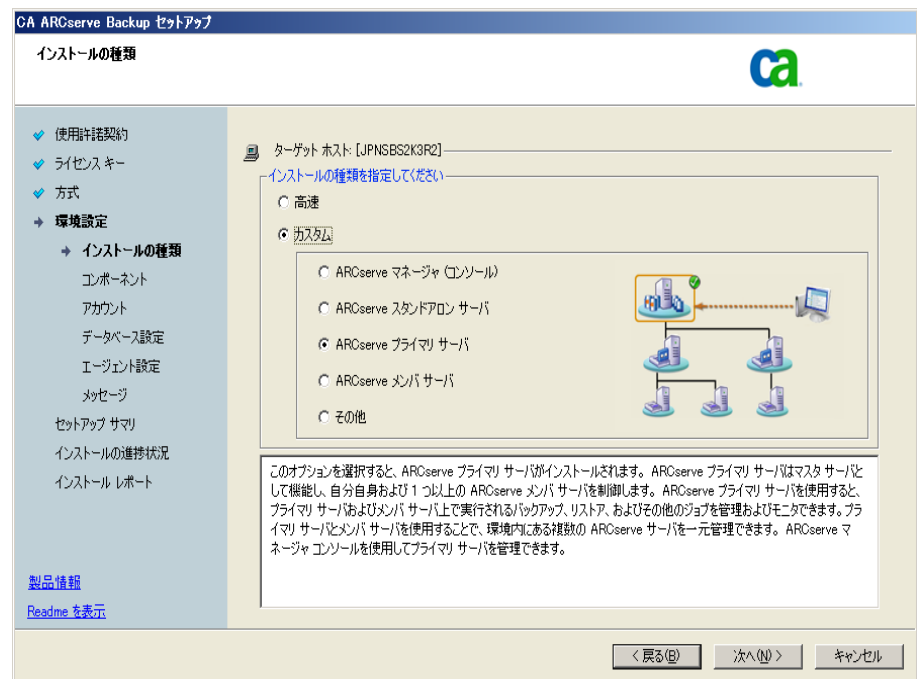


インストールが必要な新しいコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注: ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup Tape Library Option

複数のテープ ドライブと複数のオプティカル ドライブを持つライブラリ、およびテープ RAID ライブラリを使用して、バックアップ、リストア、およびメディア管理の機能を実行できるようになります。

CA ARCserve Backup Storage Area Network (SAN) Option

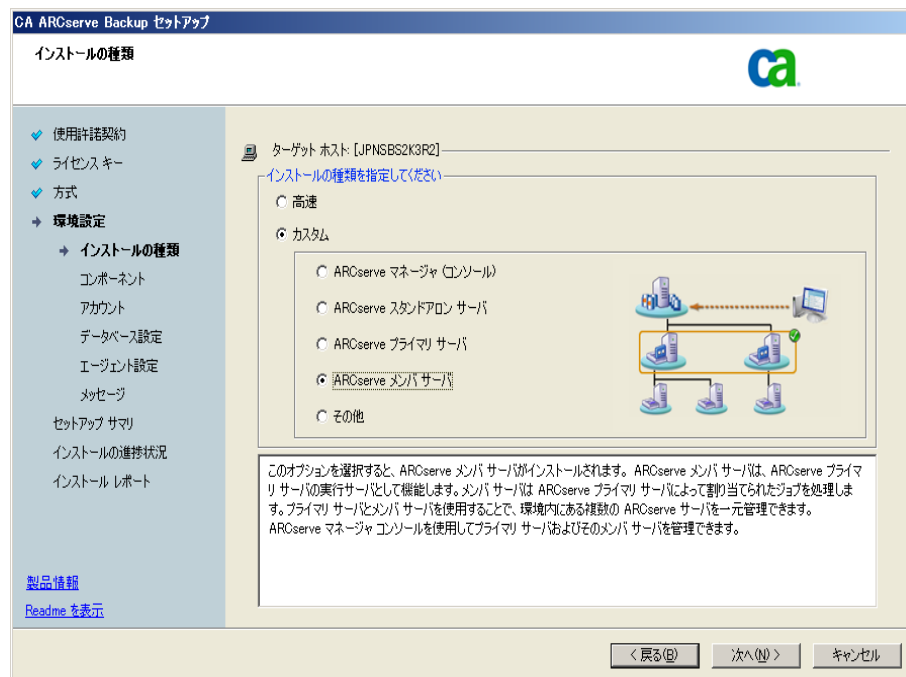
1 つまたは複数の ARCserve サーバが接続された高速ストレージ ネットワーク上で、1 つまたは複数のメディア ライブラリを共有できるようになります。

以下の点に注意してください。

- Tape Library Option は SAN (Storage Area Network) オプションの前提条件のコンポーネントです。
- Storage Area Network (SAN) Option をインストールするには、CA ARCserve Backup プライマリ サーバ インストール オプションを指定する必要があります。

CA ARCserve Backup メンバ サーバ

ARCserve ドメイン内のサーバが、プライマリ サーバからジョブやデバイスに関する命令を受け取れるようにします。



注: この構成を展開するには、SAN において、サーバごとに Storage Area Network (SAN) Option および Tape Library Option のライセンスを確実に発行する必要があります。

アップグレードが必要な新しいコンポーネント

使用環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをアップグレードする必要があります。

- 現在の ARCserve 環境にインストールされているすべてのコンポーネント

SAN 内の複数の ARCserve サーバを本リリースへアップグレードする方法

SAN 環境を本リリースの SAN 環境にアップグレードするには、以下のタスクを完了します。

1. CA ARCserve Backup プライマリ サーバを現在の SAN プライマリ システムにインストールします。このシステムは、新しい ARCserve ドメインでプライマリ サーバとして機能します。

注：CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールすると、セットアップによって Central Management Option がインストールされます。

現在の SAN プライマリ システムに Storage Area Network (SAN) Option をインストールします。

Microsoft SQL Server 2008 Express または Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースに指定できます。

プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースへデータをマイグレートします。

2. CA ARCserve Backup メンバ サーバを現在の SAN メンバ サーバのすべてにインストールします。これらのシステムは、新しい ARCserve ドメインでメンバ サーバとして機能します。

プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースへデータをマイグレートします。

3. インストールを確認します。
4. (オプション)CA ARCserve Backup データベースのバックアップを最後に実行したのがこのリリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報：

[アップグレードに関する考慮事項 \(78 ページ\)](#)

[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード \(100 ページ\)](#)

一元管理環境のアップグレードを確認する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバで CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. サーバ管理を開きます。

ドメイン ディレクトリ ツリーに ARCserve ドメインのプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバの名前が表示されていることを確認します。

3. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

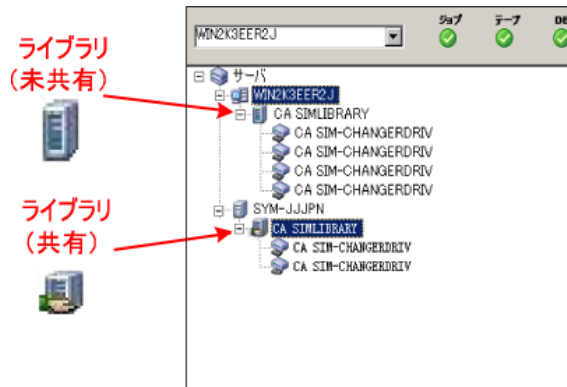
以前のバックアップ データがすべて正常にマイグレートされたことを確認します。

注：CA ARCserve Backup はジョブに関する情報、ログおよびユーザ情報を古いサーバから新しいプライマリ サーバへマイグレートします。

4. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注： デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

5. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

6. 単純バックアップ ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

7. 単純リストア ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

8. 単純リストア ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

SAN および非 SAN の環境における複数のサーバの本リリースへのアップグレード

以下のセクションでは、SAN および非 SAN 環境の複数の ARCserve サーバを本リリースへアップグレードする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[現在の構成: SAN および非 SAN の環境での複数の ARCserve サーバ](#) (370 ページ)

推奨構成: プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメイン (370 ページ)

インストールが必要な新しいコンポーネント (372 ページ)

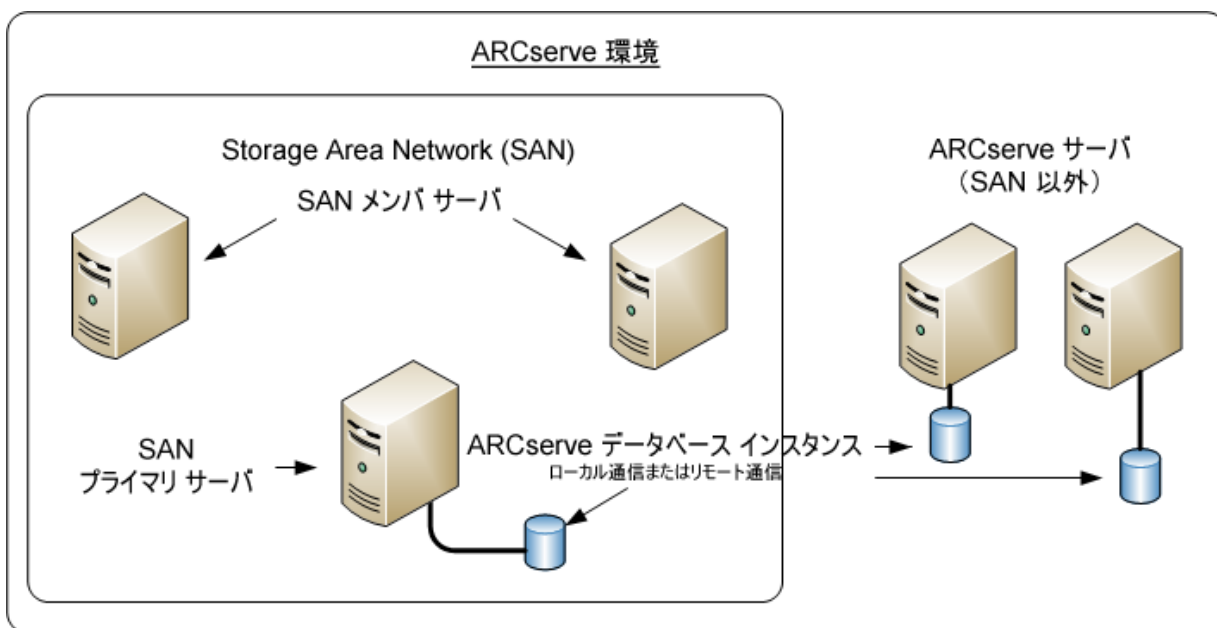
アップグレードが必要な新しいコンポーネント (374 ページ)

SAN および非 SAN の環境における複数の ARCserve サーバを本リリースへアップグレードする方法 (375 ページ)

一元管理されたアップグレードを検証する方法 (376 ページ)

現在の構成: SAN および非 SAN の環境での複数の ARCserve サーバ

以前のリリースにおいて、SAN 環境内および非 SAN 環境内に複数の CA ARCserve Backup サーバが存在し、ローカルまたはリモートのデータベースが使用されているアーキテクチャを以下の図に示します。



推奨構成: プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメイン

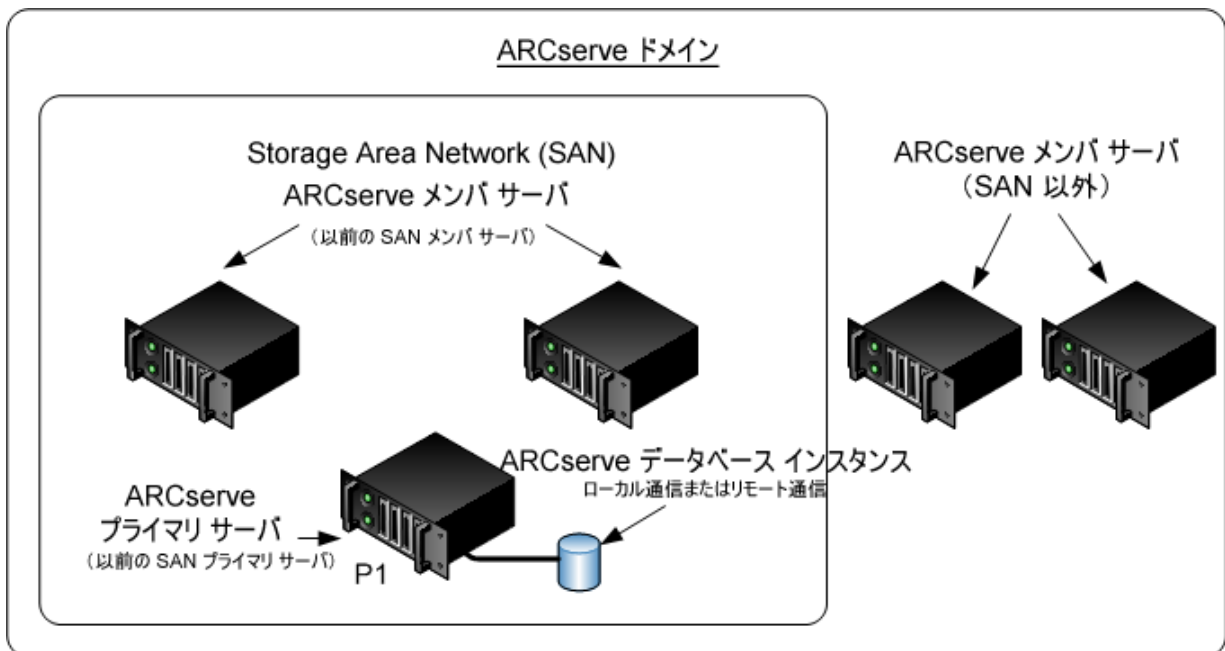
現在の構成が、SAN 上にある CA ARCserve Backup サーバと SAN 上にない CA ARCserve Backup サーバが混在する SAN 環境を含む場合、一元管理環境に CA ARCserve Backup をインストールすることをお勧めします。

現在の SAN 環境を一元管理環境にアップグレードするには、現在の SAN プライマリ サーバを CA ARCserve Backup プライマリ サーバにアップグレードしたうえで、SAN メンバ サーバを CA ARCserve Backup メンバ サーバにアップグレードする必要があります。

メンバ サーバをインストールするには、インストール ウィザードが環境内の CA ARCserve Backup ドメイン名とプライマリ サーバ名を検出する必要があります。そのため、CA ARCserve Backup を少なくとも 1 つのプライマリ サーバにインストールした後でメンバ サーバをインストールする必要があります。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリ サーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

SAN 上にあるプライマリ サーバとメンバ サーバ、および SAN 上にないメンバ サーバで構成される一元管理環境のアーキテクチャを以下の図に示します。

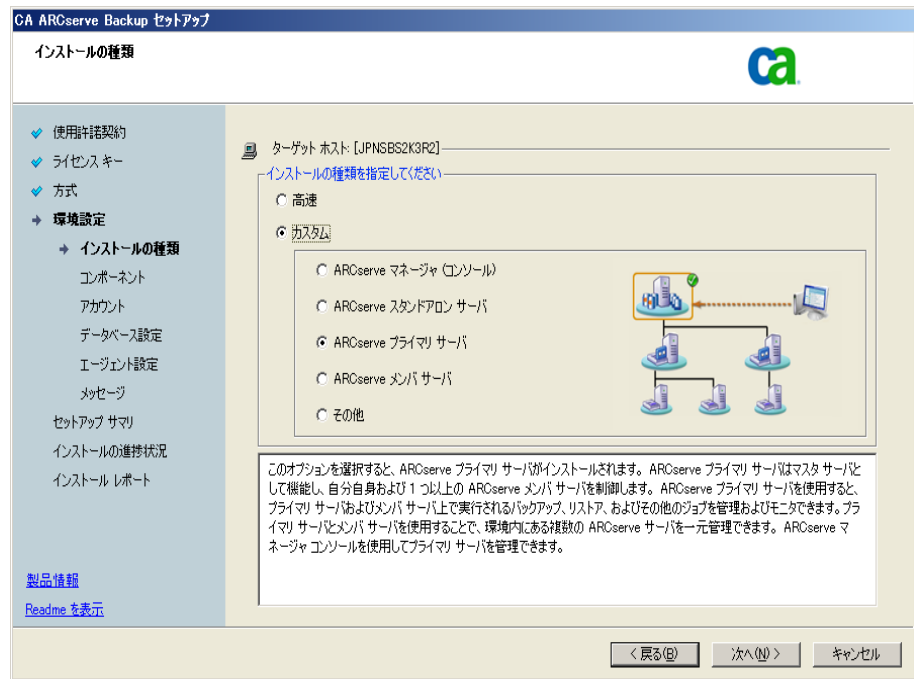


インストールが必要な新しいコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注: ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup Tape Library Option

複数のテープ ドライブと複数のオプティカル ドライブを持つライブラリ、およびテープ RAID ライブラリを使用して、バックアップ、リストア、およびメディア管理の機能を実行できるようになります。

CA ARCserve Backup Storage Area Network (SAN) Option

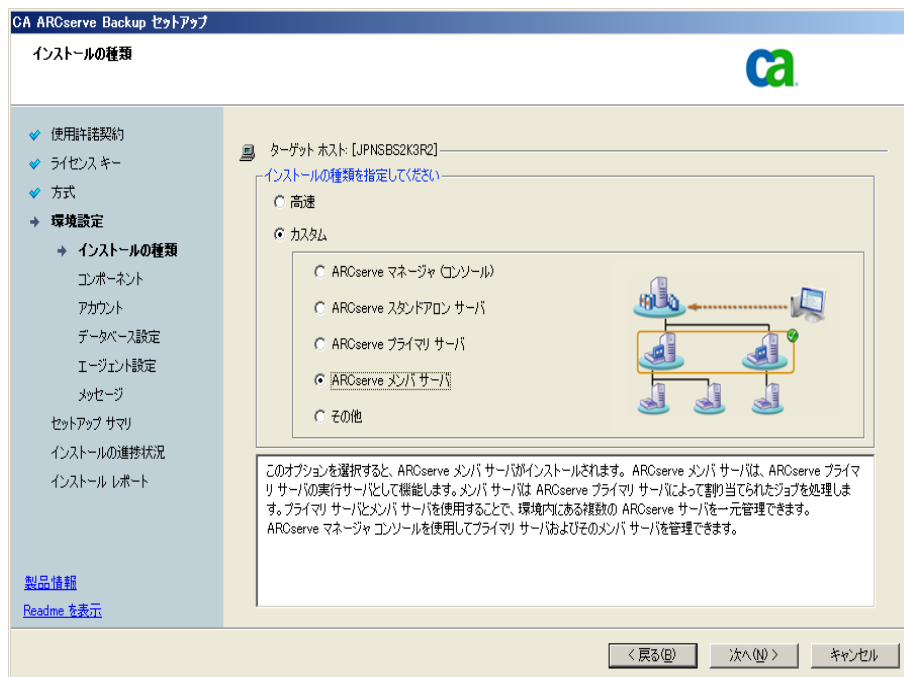
1 つまたは複数の ARCserve サーバが接続された高速ストレージ ネットワーク上で、1 つまたは複数のメディア ライブラリを共有できるようになります。

以下の点に注意してください。

- Tape Library Option は SAN (Storage Area Network) オプションの前提条件のコンポーネントです。
- Storage Area Network (SAN) Option をインストールするには、CA ARCserve Backup プライマリ サーバ インストール オプションを指定する必要があります。

CA ARCserve Backup メンバ サーバ

ARCserve ドメイン内のサーバが、プライマリ サーバからジョブやデバイスに関する命令を受け取れるようにします。



注：この構成を展開するには、SAN において、サーバごとに Storage Area Network (SAN) Option および Tape Library Option のライセンスを確実に発行する必要があります。

アップグレードが必要な新しいコンポーネント

使用環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをアップグレードする必要があります。

- 現在の ARCserve 環境にインストールされているすべてのコンポーネント

SAN および非 SAN の環境における複数の ARCserve サーバを本リリースへアップグレードする方法

SAN および非 SAN の環境で複数の ARCserve サーバを本リリースへアップグレードするには、以下のタスクを完了します。

1. CA ARCserve Backup プライマリ サーバを現在の SAN プライマリ システムにインストールします。このシステムは、新しい ARCserve ドメインでプライマリ サーバとして機能します。

注：CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールすると、セットアップによって Central Management Option がインストールされます。

現在の SAN プライマリ システムに Storage Area Network (SAN) Option をインストールします。

Microsoft SQL Server 2008 Express または Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースに指定できます。

プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースへデータをマイグレートします。

2. CA ARCserve Backup メンバ サーバをすべての現在の SAN 分散サーバおよび非 SAN サーバにインストールします。これらのシステムは、新しい ARCserve ドメインでメンバ サーバとして機能します。

プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースへデータをマイグレートします。

3. インストールを確認します。
4. (オプション)CA ARCserve Backup データベースのバックアップを最後に実行したのがこのリリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報：

[アップグレードに関する考慮事項 \(78 ページ\)](#)

[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード \(100 ページ\)](#)

一元管理されたアップグレードを検証する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバで CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. サーバ管理を開きます。

ドメイン ディレクトリ ツリーに ARCserve ドメインのプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバの名前が表示されていることを確認します。

3. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

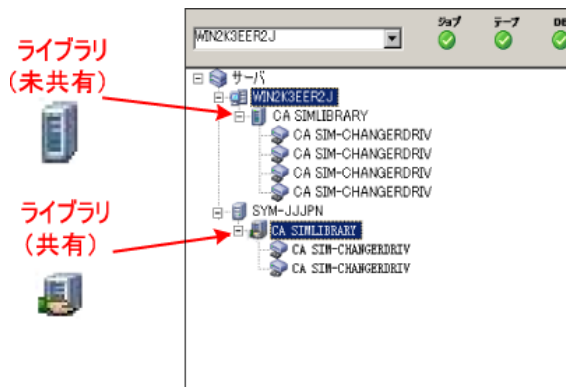
以前のバックアップ データがすべて正常にマイグレートされたことを確認します。

注：CA ARCserve Backup はジョブに関する情報、ログおよびユーザ情報を古いサーバから新しいプライマリ サーバへマイグレートします。

4. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注： デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

5. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

セントラル データベースを使用する複数のサーバのアップグレード

以下のセクションでは、一元化されたデータベースを共有する複数の ARCserve サーバを本リリースにアップグレードする際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[現在の構成: セントラル データベースを使用する複数の ARCserve サーバ \(378 ページ\)](#)

[推奨構成: プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメイン \(379 ページ\)](#)

[インストールが必要な新しいコンポーネント \(380 ページ\)](#)

[アップグレードが必要な新しいコンポーネント \(382 ページ\)](#)

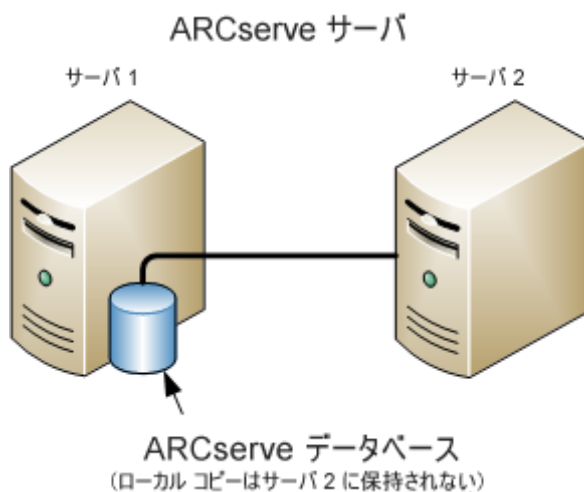
[リモート データベースを使用する複数の ARCserve サーバの一元管理環境へアップグレードする方法 \(382 ページ\)](#)

[一元管理されたアップグレードを検証する方法 \(383 ページ\)](#)

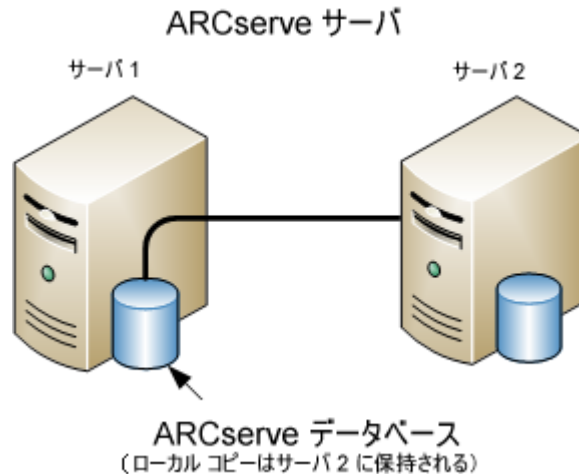
現在の構成: セントラル データベースを使用する複数の ARCserve サーバ

以前のリリースにおいて、セントラル データベースを使用する複数の CA ARCserve Backup サーバのアーキテクチャを以下の図に示します。

以下の図では、複数の CA ARCserve Backup サーバが一元化されたデータベースを共有しています。データベースを共有するサーバには、CA ARCserve Backup データベースのコピーが保持されていません。



以下の図では、複数の CA ARCserve Backup サーバが一元化されたデータベースを共有しています。データベースを共有するサーバの 1 つに、CA ARCserve Backup データベースのコピーが保持されています。



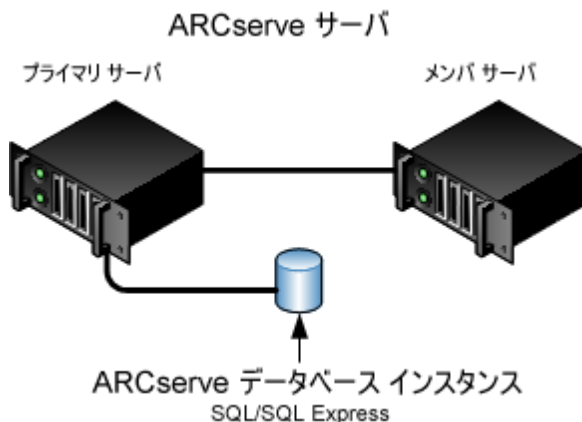
推奨構成: プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成される CA ARCserve Backup ドメイン

現在の構成が、一元化されたデータベースを共有する複数の CA ARCserve Backup サーバを含む場合、プライマリ サーバと 1 つ以上のメンバ サーバで構成される一元管理環境にアップグレードすることをお勧めします。一元管理環境により、CA ARCserve Backup データベースをプライマリ サーバ上またはリモート システム上にホストできるようになります。CA ARCserve Backup データベース インスタンスをホストするシステムに CA ARCserve Backup をインストールする必要はありません。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリ サーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

一元管理環境にアップグレードするには、現在のシステムの 1 つを CA ARCserve Backup プライマリ サーバにアップグレードしたうえで、他のすべてのシステムを CA ARCserve Backup メンバ サーバにアップグレードする必要があります。

CA ARCserve Backup データベースをホストするリモート システムが含まれる一元管理環境のアーキテクチャを以下の図に示します。

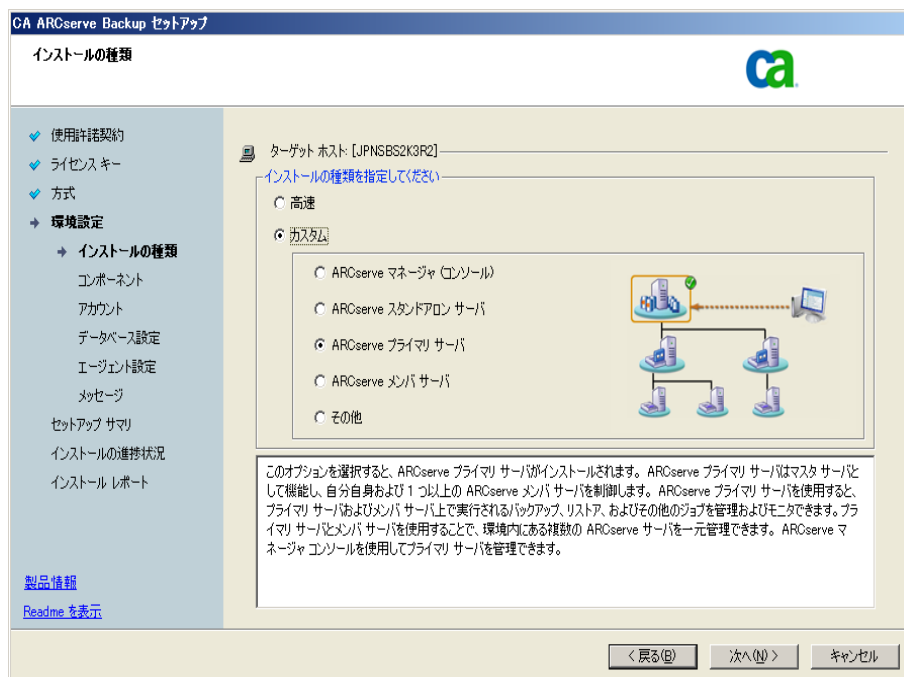


インストールが必要な新しいコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注: ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



アップグレードが必要な新しいコンポーネント

使用環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをアップグレードする必要があります。

- 現在の ARCserve 環境にインストールされているすべてのコンポーネント

リモート データベースを使用する複数の ARCserve サーバの一元管理環境へアップグレードする方法

一元化されたデータベースを使用する複数の ARCserve サーバを本リリースにアップグレードするには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバとして機能するシステム上に CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールします。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールすると、セットアップによって Central Management Option がインストールされます。

Microsoft SQL Server 2008 Express または Microsoft SQL Server を CA ARCserve Backup データベースに指定できます。

プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースへデータをマイグレートします。

2. 新しい ARCserve ドメインのメンバとして機能するすべてのサーバ上に CA ARCserve Backup メンバ サーバをインストールします。
プロンプトが表示されたら、以前のリリースから新しいデータベースへデータをマイグレートします。
3. インストールを確認します。
4. (オプション)CA ARCserve Backup データベースのバックアップを最後に実行したのがこのリリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報:

[アップグレードに関する考慮事項 \(78 ページ\)](#)

[以前のリリースからの CA ARCserve Backup のアップグレード \(100 ページ\)](#)

一元管理されたアップグレードを検証する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. プライマリ サーバで CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. サーバ管理を開きます。

ドメイン ディレクトリ ツリーに ARCserve ドメインのプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバの名前が表示されていることを確認します。

3. データベース マネージャとジョブ ステータス マネージャを開きます。

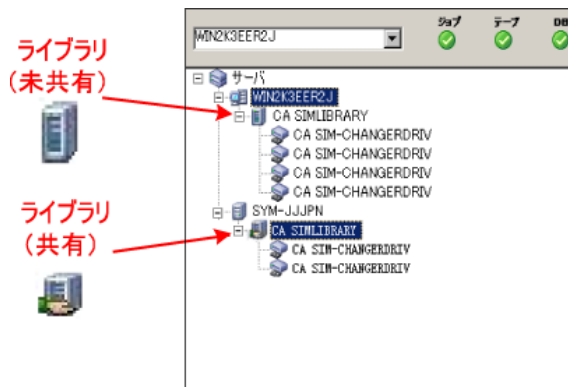
データベース情報およびアクティビティ ログのデータが表示できることを確認します。

CA ARCserve Backup はジョブに関する情報、ログおよびユーザ情報を古いサーバから新しいプライマリ サーバへマイグレートします。

4. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注: デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

5. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

6. 単純バックアップ ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

7. 単純リストア ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

8. 単純リストア ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

クラスタ対応環境における複数サーバのアップグレード

以下のセクションでは、Microsoft Cluster Server (MSCS) というクラスタ対応環境内に存在する複数の ARCserve サーバを本リリースへアップグレードする際の推奨事項について説明します。

重要: 以下の推奨事項は、BrightStor ARCserve Backup r11.5 のクラスタ対応環境のアップグレードにのみ適用されます。その他のリリースでは、以前のリリースをアンインストールしたうえで、CA ARCserve Backup をクラスタ対応環境にインストールする必要があります。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[現在の構成: クラスタ内の複数の ARCserve サーバ \(386 ページ\)](#)

[推奨構成: クラスタ対応環境にインストールされた ARCserve プライマリ サーバおよびメンバ サーバ \(387 ページ\)](#)

[インストールが必要な新しいコンポーネント \(390 ページ\)](#)

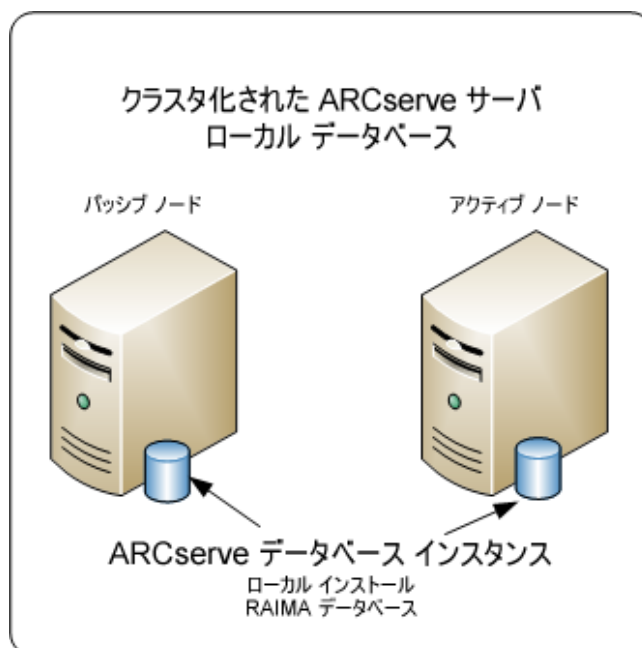
[アップグレードが必要な新しいコンポーネント \(392 ページ\)](#)

[ARCserve クラスタ対応環境を本リリースへアップグレードする方法 \(392 ページ\)](#)

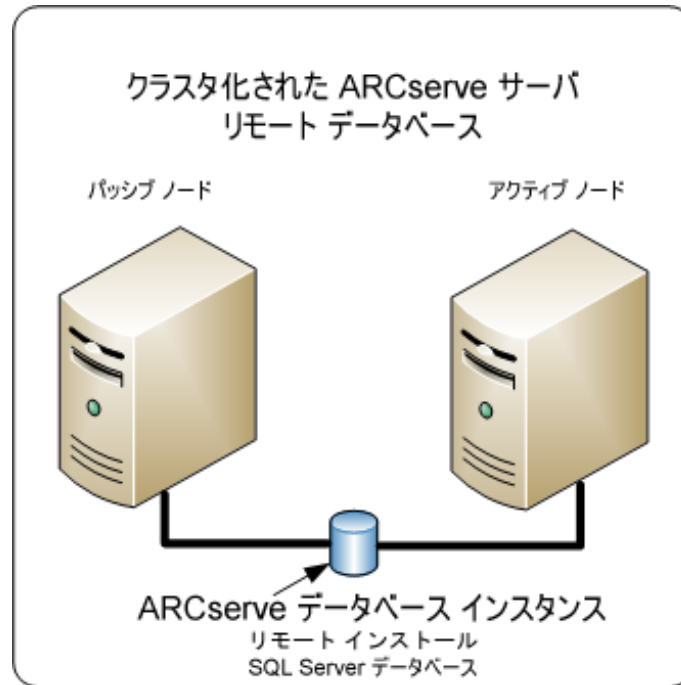
[クラスタ対応アップグレードを確認する方法 \(393 ページ\)](#)

現在の構成: クラスタ内の複数の ARCserve サーバ

以前のリリースにおいて、クラスタ対応環境内の複数の CA ARCserve Backup サーバのアーキテクチャを以下の図に示します。CA ARCserve Backup データベースは RAIMA データベースによってホストされ、CA ARCserve Backup データベース インスタンスは CA ARCserve Backup サーバ上に存在しています。



以前のリリースにおいて、クラスタ対応環境内の複数の CA ARCserve Backup サーバのアーキテクチャを以下の図に示します。CA ARCserve Backup データベースは Microsoft SQL Server によってホストされ、CA ARCserve Backup データベース インスタンスはリモート システム上に存在しています。



推奨構成: クラスタ対応環境にインストールされた ARCserve プライマリ サーバおよびメンバ サーバ

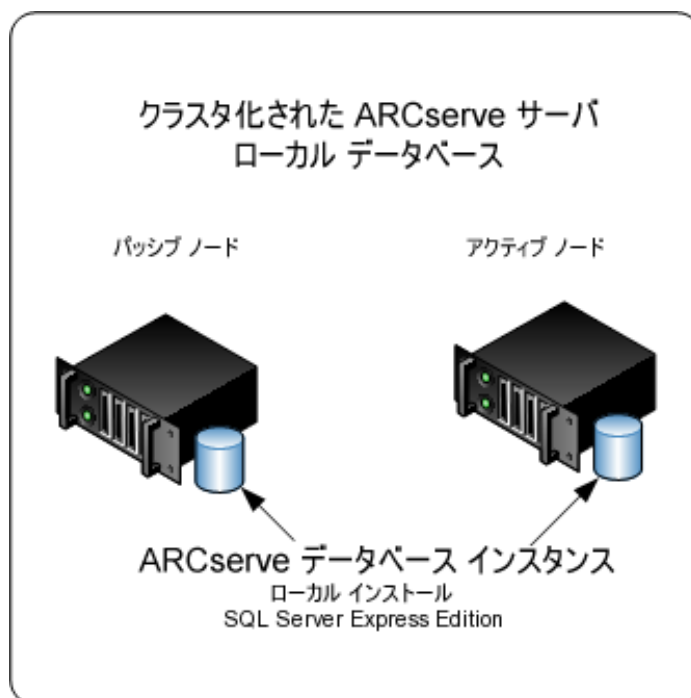
現在の構成が、クラスタ対応環境内の複数の CA ARCserve Backup サーバを含む場合、複数の CA ARCserve Backup プライマリ サーバまたは複数の CA ARCserve Backup スタンドアロン サーバにアップグレードすることをお勧めします。

このアーキテクチャによって、CA ARCserve Backup 環境を一元管理し、クラスタ対応環境の高可用性機能を維持できます。

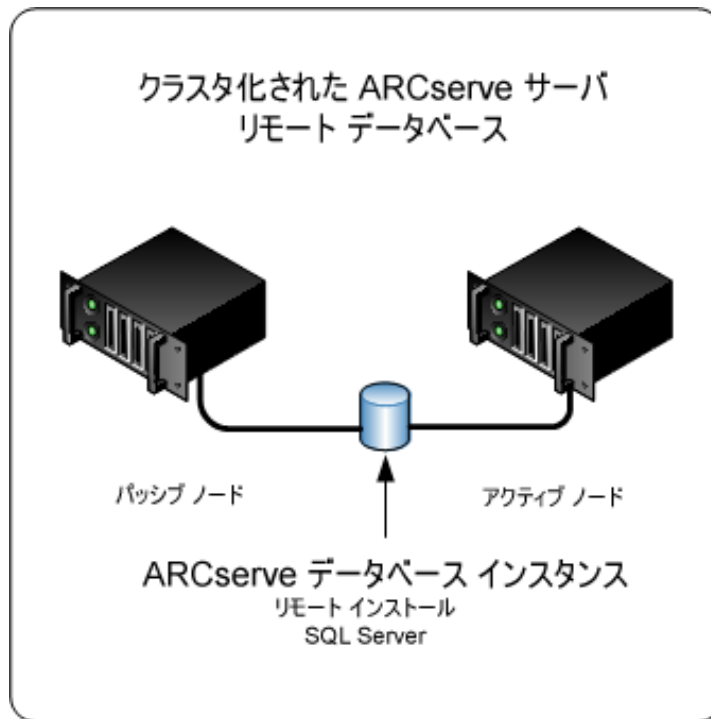
ご使用の環境にこの構成を展開するには、Microsoft SQL Server 2008 Express Edition または Microsoft SQL Server を使用して CA ARCserve Backup データベースをホストします。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition は、リモート通信をサポートしていません。Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用して CA ARCserve Backup をインストールする場合は、インストール ウィザードによって、プライマリ サーバ上にデータベース アプリケーションおよび ARCserve データベース インスタンスがインストールされます。リモート システム上で ARCserve データベース インスタンスをホストするには、Microsoft SQL Server を使用する必要があります。

本リリースにおける、クラスタ対応環境内に複数の CA ARCserve Backup サーバが存在するアーキテクチャを以下の図に示します。CA ARCserve Backup データベースは Microsoft SQL Server 2008 Express Edition によってホストされ、CA ARCserve Backup データベース インスタンスは CA ARCserve Backup サーバ上に存在しています。



本リリースにおける、クラスタ対応環境内に複数の ARCserve サーバが存在するアーキテクチャを以下の図に示します。ARCserve データベースは、Microsoft SQL Server によってホストされ、ARCserve データベース インスタンスはリモート システム上に存在しています。

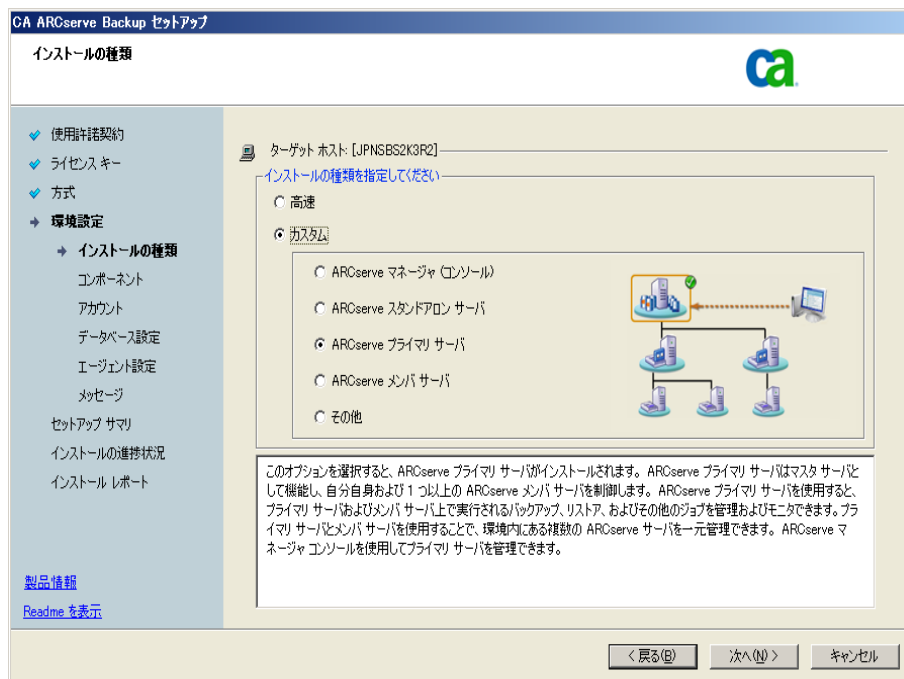


インストールが必要な新しいコンポーネント

ご使用の環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをインストールする必要があります。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ

メンバ サーバおよびプライマリ サーバ上で実行されるバックアップおよびリストアジョブを一元的にサブミット、管理、およびモニタする CA ARCserve Backup をサーバ上にインストールできます。



CA ARCserve Backup Central Management Option

CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバをメイン コンピュータから管理できるようになります。

注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバは前提条件のコンポーネントです。

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server

CA ARCserve Backup データベースを保護できるようにします。

注: ARCserve プライマリ サーバおよび ARCserve スタンドアロン サーバのインストールでは、Agent for ARCserve Database という修正バージョンのエージェントがインストールされます。

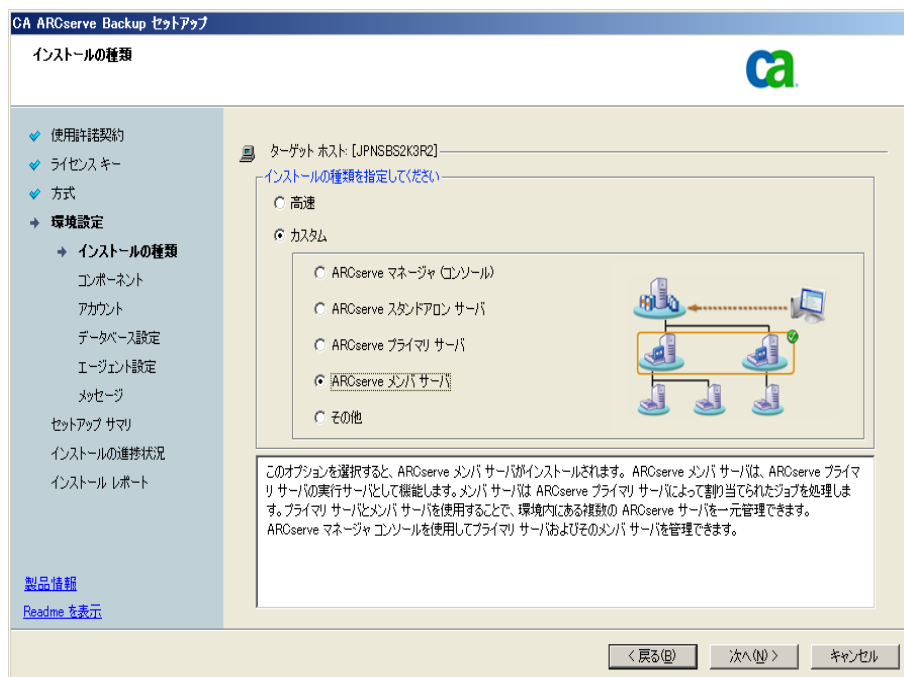
重要: アンインストール プログラムでは、コンピュータから CA ARCserve Backup データベース インスタンスがアンインストールされません。CA ARCserve Backup を再インストールする場合は、インストール ウィザードによって、使用中のシステムで Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server 2008 Express Edition のデータベース インスタンスがあることが検出されます。その結果、インストール ウィザードは、[製品の選択]ダイアログ ボックスで自動的に CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server コンポーネントを選択します。

CA ARCserve Backup Client Agent for Windows

CA ARCserve Backup サーバにローカルでデータをバックアップできるようにします。

CA ARCserve Backup メンバ サーバ

ARCserve ドメイン内のサーバが、プライマリ サーバからジョブやデバイスに関する命令を受け取れるようにします。



アップグレードが必要な新しいコンポーネント

使用環境にこの設定を展開するには、以下の CA ARCserve Backup コンポーネントをアップグレードする必要があります。

- 現在の ARCserve 環境にインストールされているすべてのコンポーネント

ARCserve クラスタ対応環境を本リリースへアップグレードする方法

以下のクラスタ プラットフォームでは、ジョブ フェールオーバー機能を使用したクラスタ環境に CA ARCserve Backup をアップグレードできます。

- x86/AMD64/IA64 Windows Server の Microsoft Cluster Server (MSCS)
- NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster for Windows 8.0、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster X 1.0 for Windows、および CLUSTERPRO/ExpressCluster X 2.0 for Windows.

重要: CA ARCserve Backup は、BrightStor ARCserve Backup r11.5 からこのリリースへのアップグレードをサポートします。以前のリリースからアップグレードする場合は常に、BrightStor ARCserve Backup をアンインストールしたうえで、CA ARCserve Backup をインストールする必要があります。

ARCserve クラスタ対応環境を本リリースへアップグレードする方法

1. 以下の手順のいずれかを使用して、CA ARCserve Backup をアップグレードします。
 - [MSCS クラスタ環境での CA ARCserve Backup r11.5 から r15 へのアップグレード](#) (156 ページ)
 - [NEC CLUSTERPRO 環境での CA ARCserve Backup の r11.5 から r15 へのアップグレード](#) (186 ページ)
2. アップグレードを確認します。
3. (オプション)CA ARCserve Backup データベースのバックアップを最後に実行したのがこのリリースへのアップグレード前である場合、CA ARCserve Backup は CA ARCserve Backup データベースのリカバリをサポートしません。アップグレードの完了後に、できるだけ早く CA ARCserve Backup データベースをバックアップすることをお勧めします。CA ARCserve Backup データベースのバックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

クラスタ対応アップグレードを確認する方法

CA ARCserve Backup インストールが正常に機能することを確認するには、以下のタスクを完了します。

1. スタンドアロン サーバ上で CA ARCserve Backup マネージャ コンソールを開きます。
2. 仮想名を使用して、アップグレードした ARCserve サーバに接続します。
3. アップグレードしたサーバに正常に接続できる場合、ARCserve クラスタ グループを別のノードに移動します。

すべての ARCserve サービスが正常に起動したことを確認します。

注： クラスタ グループを他のノードに移動する間、マネージャ コンソールの応答が断続的に停止することがあります。

4. サーバ管理を開きます。

ドメイン ディレクトリ ツリーに ARCserve ドメインのプライマリ サーバとすべてのメンバ サーバの名前が表示されていることを確認します。

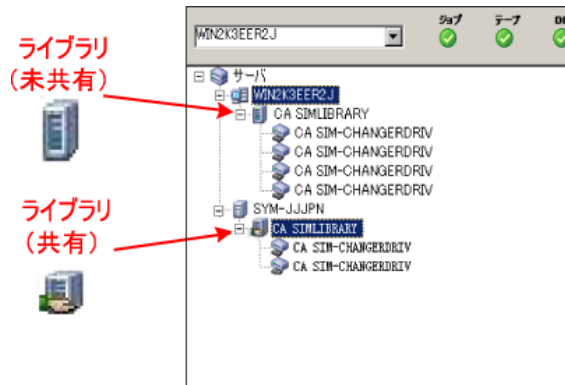
5. ジョブ ステータス マネージャを表示します。

すべてのデータが古いインストールから新しいプライマリ サーバにマイグレートされたことを確認します。CA ARCserve Backup はジョブに関する情報、ログおよびユーザ情報を古いサーバから新しいプライマリ サーバへマイグレートします。

6. デバイス マネージャを表示します。

デバイス マネージャがプライマリ サーバおよびすべてのメンバ サーバに接続されているすべてのデバイスを検出することを確認します。

以下の画面は、デバイス マネージャのウィンドウに、デバイスが接続されたプライマリ サーバとメンバ サーバと接続されたデバイスを示しています。プライマリ サーバは共有されていないライブラリに接続され、メンバ サーバは共有されているライブラリに接続されています。



デバイス マネージャが一部のデバイスを検出しない場合は、以下のタスクを完了します。

- デバイスがサーバに適切に接続されていることを確認します。
- 適切なデバイス ドライバがインストールされていることを確認します。
- [デバイス環境設定]を使用してデバイスを設定します。

これらのタスクを完了した後に、CA ARCserve Backup でデバイスを検出できない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)をご覧ください。

注： デバイスの設定の詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

7. 簡単なバックアップ ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

8. 単純バックアップ ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

バックアップ ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

9. 単純リストア ジョブをプライマリ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

10. 単純リストア ジョブをメンバ サーバ上でサブミットします。

リストア ジョブが正常に完了することを確認します。

ジョブが失敗した場合は、以下のトラブルシューティング タスクを実行します。

- ジョブ ステータス マネージャから、ジョブのアクティビティ ログの詳細を確認します。
- ジョブに警告メッセージ、エラー メッセージ、あるいはその両方が含まれている場合、メッセージをダブルクリックして、問題の説明およびそれを修正するための手順を参照します。
- 問題を修正したら、ジョブを再度サブミットします。

一般的な推奨事項

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup のインストールおよび使用に役立つ一般的な推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[マネージャ コンソールをインストールする場所](#) (396 ページ)

[ライセンスのインストールと管理の方法](#) (396 ページ)

[CA ARCserve Backup サーバ ベース オプションのインストール方法 \(401 ページ\)](#)

マネージャ コンソールをインストールする場所

CA ARCserve Backup マネージャ コンソールは、リモート システムから ARCserve プライマリ サーバおよびスタンドアロン サーバにログインするためのグラフィカル ユーザ インターフェース (GUI) です。 マネージャ コンソールを使用すると、任意の ARCserve サーバから実行されるバックアップやリストアなどのジョブを管理およびモニタできます。たとえば、スタンドアロン サーバや、プライマリ サーバとそのメンバ サーバなどです。

マネージャ コンソール インストール オプションを使用することで、バックアップ操作の管理に必要なコンポーネントをインストールできます。 バックアップ データ、ログ、レポートなどにストレージ領域を割り当てる必要はありません。 このタイプの情報は、プライマリ サーバおよびスタンドアロン サーバに保存されます。

マネージャ コンソールは、CA ARCserve Backup がサポートするオペレーティング システムが搭載されたすべてのコンピュータにインストールできます。

マネージャ コンソールをインストールするのに最も適したロケーションを決定するには、以下の一般的なガイドラインを考慮してください。

- ターゲット システムがポータブル コンピュータである。たとえば、ノート パソコンなどです。 バックアップ操作の管理にポータブル コンピュータを使用しても、バックアップ データをポータブル コンピュータに保存するわけではありません。
- ターゲット システムがバックアップ環境から離れたロケーションに存在する。使用環境のネットワーク帯域幅に制限があることが判明した場合、リモート システム上でデータを管理し、そこにデータをバックアップするのは現実的ではないことがあります。
- ターゲット システムが、CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントをインストールするための最低限のシステム要件を満たしていない。 CA ARCserve Backup サーバおよびマネージャのコンポーネントをインストールするのに必要な最低限のシステム要件に関する説明については、**Readme** ファイルを参照してください。
- ターゲット システムが定期的に停止する。 バックアップ サーバは、最高レベルのデータ保護を実現するために、常時稼働している必要があります。

ライセンスのインストールと管理の方法

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup ライセンスのインストールと管理の方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[CA ARCserve Backup コンポーネント ライセンスの管理 \(397 ページ\)](#)

[サーバからのライセンスの解放](#) (400 ページ)

CA ARCserve Backup コンポーネント ライセンスの管理

CA ARCserve Backup サーバ管理を使用すると、以下のライセンス管理タスクを実行できます。

- CA ARCserve Backup ドメイン内のプライマリ サーバ、スタンドアロン サーバ、メンバ サーバ、およびエージェント サーバにインストールされている CA ARCserve Backup 製品を表示する。
- CA ARCserve Backup ドメイン内の各コンポーネントに適用されているライセンスの総数、およびアクティブなライセンス数を特定する。
- CA ARCserve Backup ドメイン内のコンポーネント ライセンスを使用しているサーバの名前を表示する。
- サーバからライセンスを解放して、ドメイン内のほかのサーバがライセンスを利用できるようにする。

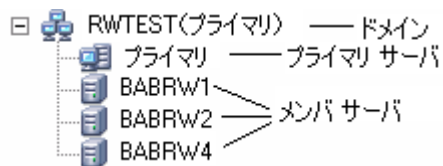
注：サーバからのライセンスの解放については、「[サーバからのライセンスの解放](#) (400 ページ)」を参照してください。

CA ARCserve Backup コンポーネント ライセンスを管理する方法

1. CA ARCserve Backup マネージャ コンソールで、[クイック スタート]メニューから [サーバ管理]をクリックして開きます。

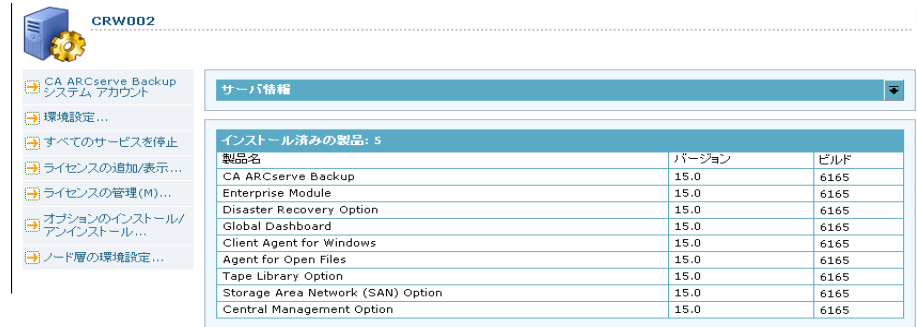
[サーバ管理]が開きます。

CA ARCserve Backup プライマリ サーバおよびそのメンバ サーバは、以下のよう
にディレクトリ ツリー構造で表示されます。



2. プライマリ サーバおよびメンバ サーバにインストールされている CA ARCserve Backup 製品を表示するには、ディレクトリ ツリーでサーバを選択します。

選択したサーバのコンポーネントおよびライセンスが、以下のようにプロパティ ビューで表示されます。



3. CA ARCserve Backup ドメインのコンポーネントおよびライセンス関係を表示するには、プライマリ サーバを右クリックして、コンテキスト メニューから[ライセンスの管理]を選択します。

[ライセンス管理]ダイアログ ボックスが表示されます。

[ライセンス管理]ダイアログ ボックスには、以下の情報が表示されます。

- **バージョン** -- 選択したコンポーネントのライセンスのリリース番号を指定します。
- **アクティブなライセンス数** -- 選択したコンポーネント用に現在アクティブな数ライセンスを指定します。 合計には購入済みライセンスと試用ライセンスが含まれます。

- **利用可能なライセンス数** -- 選択したコンポーネントを使用するために利用可能なライセンスの数を指定します。合計には購入済みライセンスのみが含まれます。
- **ライセンス総数** -- 選択したコンポーネント用に購入されたライセンスの総数を指定します。
- **必要なライセンス数** -- 選択したコンポーネントを使用するために必要とする追加のライセンスの数を指定します。

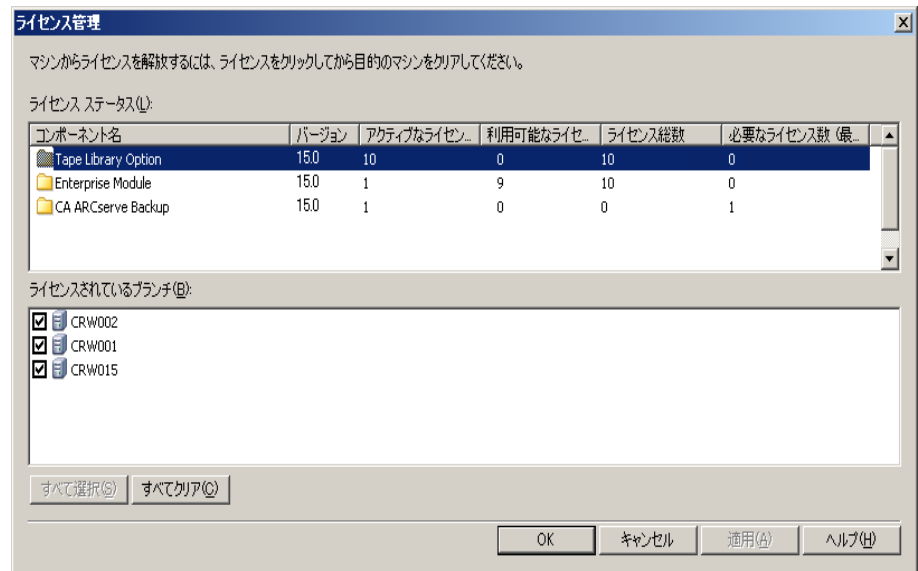
例:

- あるコンポーネントの購入済みライセンスと試用ライセンスを 1 件ずつ使用しているとします。この場合、CA ARCserve Backup は、選択したコンポーネントの使用が中断されないようにするため、試用ライセンスを購入済みライセンスで置き換えることを推奨します。
- Client Agent for Windows を使用して、6 つの Windows コンピュータを保護しています。Client Agent for Windows のライセンスは 4 件購入済みです。これまでに、ライセンスの数が不足しているためにバックアップが完全に実行されなかった可能性があります。CA ARCserve Backup は Client Agent for Windows の使用が中断されないようにするため、2 件のライセンスの追加購入を推奨します。

- **ライセンスされているマシン** -- 選択したコンポーネントのアクティブなライセンスを使用しているコンピュータの名前を指定します。

例:

- 以下のダイアログ ボックスには、Tape Library Option のアクティブなライセンスが 10 件あり、使用可能なライセンスは 0 件であることが示されています。[ライセンスされているマシン]フィールドには、Tape Library Option ライセンスを使用しているコンピュータのホスト名が表示されています。



サーバからのライセンスの解放

CA ARCserve Backup のライセンスはカウントベース方式で機能します。カウントベースのライセンス管理では、1 つの包括的なライセンスが付与され、ライセンス プール内でアクティブなライセンス権限の数が事前に定義されます。ライセンスを使用するサーバは、使用可能なライセンス数の上限に達するまで、先着順にプールからアクティブ ライセンスが供与されます。すべてのアクティブ ライセンスが適用された後で、ライセンスを別のメンバ サーバに追加する必要がある場合は、いずれかのメンバ サーバからライセンス権限を削除してカウントを減らし、別のメンバ サーバがそのライセンスを使用できるようにする必要があります。

サーバからライセンスを解放する方法

1. CA ARCserve Backup マネージャ コンソールで、[クイック スタート]メニューから [サーバ管理]をクリックして開きます。
[サーバ管理]が開きます。
2. サーバ ディレクトリ ツリーから、プライマリ サーバを右クリックして、コンテキスト メニューから[ライセンスの管理]を選択します。
[ライセンス管理]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [ライセンス ステータス]セクションから、解放するライセンスを含むコンポーネントを選択します。
ライセンスを使用するマシンが[ライセンスされているマシン]フィールドに表示されます。
4. 解放するライセンスを持つマシンの名前の隣にあるチェック ボックスをオフにし、[適用]をクリックします。
選択したサーバからアクティブ ライセンスが解放されます。これで、ご使用の ARCserve ドメイン内で CA ARCserve Backup 製品を実行している他のサーバがライセンスを利用できるようになります。
注： [適用]ボタンをクリックすると、選択したマシンは[ライセンスされているマシン]フィールドに表示されなくなります。

CA ARCserve Backup サーバ ベース オプションのインストール方法

プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバには、以下のオプションがインストールされます。

- Central Management Option

注： このオプションをインストールするには、CA ARCserve Backup プライマリ サーバをインストールする必要があります。

- Tape Library Option

- Storage Area Network (SAN) Option

CA ARCserve Backup サーバ ベースのオプションをインストールには、以下の 2 つの方法を使用できます。

- CA ARCserve Backup をインストールする際にこれらのオプションをインストールする。
- サーバ管理を使用してこれらのオプションをインストールする。

サーバ ベース オプションは、サーバ管理からインストールおよびアンインストールできます。

注：サーバ管理を使用したサーバ ベース オプションのインストールおよびアンインストールの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

付録 C: 使用条件

この製品の一部には、サード パーティのソフトウェア プロバイダによって開発されたソフトウェアが含まれています。以下のセクションに、このサード パーティ ソフトウェアに関する情報を示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[RSA Data Security, Inc. の使用条件](#) (403 ページ)

RSA Data Security, Inc. の使用条件

MD5C.C - RSA Data Security, Inc., MD5 message-digest algorithm.

Copyright (C) 1991-2, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing this software or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as "derived from the RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

索引

1

1 回のフル バックアップと 1 回の増分バックアップ
で 2 セットの復旧データを保持する場合のストレージ容量 - 37

100Base-T イーサネット LAN 上のサブネット設定のないクライアントとサーバの転送速度 - 33

2

2 つの 100Base-T イーサネット サブネット上のクライアントとサーバの転送速度 - 34

A

Agent Deployment セットアップ ファイルのアンインストール - 281

Agent for ARCserve Database - 74

Agent for Microsoft Exchange Server の通信ポート - 259

Agent for Microsoft SharePoint Server データベースの通信ポート - 260

Agent for Microsoft SharePoint Server の通信ポート - 258

Agent for Microsoft SQL Server の通信ポート - 260

Agent for Microsoft SQL と通信するベース製品 - 263

ALP キー証明書 - 84

ARCserve クラスタ対応環境を本リリースへアップグレードする方法 - 392

ARCserve サーバ

ARCserve サーバ タイプ - 62, 64

サーバ オプション - 68

スタンドアロン サーバ - 64

プライマリ サーバ - 64

メンバ サーバ - 64

ARCserve スタンドアロン サーバへアップグレードする方法 - 342

ARCserve データベース

ARCserve データベース保護ジョブの開始 - 226

以前のリリースからのデータ マイグレーション - 82

インストール方法 - 62

サポートされているアプリケーション - 69

ARCserve データベース保護ジョブの開始 - 226

C

CA Antivirus - 205

CA Antivirus の統合 - 205

CA ARCserve Backup Agent Deployment - 115

CA ARCserve Backup Agent との GUI 通信 - 262

CA ARCserve Backup Dashboard for Windows ファイアウォール通信設定 - 266

CA ARCserve Backup HA 展開の計画 - 140

CA ARCserve Backup MSI インストーラ パッケージ ID - 58

CA ARCserve Backup Patch Manager との統合 - 206

CA ARCserve Backup SQL Server データベースの微調整 - 227

CA ARCserve Backup インストールの計画 - 39

CA ARCserve Backup エージェントおよびオプションとのベース製品通信 - 256

CA ARCserve Backup エージェントとオプションで使用するポート - 257

CA ARCserve Backup クラスタ リソースの削除 - 168

CA ARCserve Backup コンポーネント ライセンスの管理 - 397

CA ARCserve Backup コンポーネントで使用するポート - 246

CA ARCserve Backup サーバ インストールのタイプ - 64

CA ARCserve Backup サーバ ベース オプションのインストール方法 - 401

CA ARCserve Backup サーバの NEC クラスタへの展開 - 169

CA ARCserve Backup サーバのオプション - 68

CA ARCserve Backup サービスの初期化に失敗する - 286

CA ARCserve Backup システム アカウント - 221

CA ARCserve Backup データベース エージェントの通信ポート - 261

CA ARCserve Backup データベース エージェント
用スキップ パラメータとインクルード パラメータの
定義方法 - 242

CA ARCserve Backup データベース保護ジョブの
開始 - 226

CA ARCserve Backup でどのデバイスがサポートさ
れているかを判断できない - 289

CA ARCserve Backup での複数のコード ページの
サポート - 219

CA ARCserve Backup と他の製品との統合 - 205

CA ARCserve Backup による認証の管理方法 -
222

CA ARCserve Backup の MSCS クラスタからのア
ンインストール - 167

CA ARCserve Backup の MSCS クラスタ対応環境
へのインストール - 145

CA ARCserve Backup の NEC
CLUSTERPRO/ExpressCluster からのアンインス
トール - 203

CA ARCserve Backup の NEC クラスタ対応環境
へのインストール - 171

CA ARCserve Backup のアップグレードの前提条件
タスクの完了方法 - 336

CA ARCserve Backup のアンインストール - 275

MSCS クラスタ - 167

NEC クラスタ - 203

プライマリ、メンバ、およびスタンドアロン サーバ
- 275

CA ARCserve Backup のインストール - 91

CA ARCserve Backup のインストールおよびアップ
グレード - 85

CA ARCserve Backup のインストールに関する推奨
事項 - 291

CA ARCserve Backup のインストールに必要なディ
スク空き容量 - 61

CA ARCserve Backup のインストールの前提条件タ
スクの完了方法 - 292

CA ARCserve Backup の概要 - 13

CA ARCserve Backup の設定 - 207

CA ARCserve Backup ファイル システム エージェ
ントのリリース レベル - 84

CA ARCserve Backup ベース製品によって使用さ
れるポート - 247

CA ARCserve Backup へのログイン - 215

CA ARCserve Backup へのログオン - 215

CA ARCserve Backup ホーム画面 - 209

CA ARCserve Backup マネージャの環境設定の指
定 - 217

CA ARCserve Backup を Unicenter Software
Delivery サーバで登録する - 131

CA ARCserve Backup 共通コンポーネントで使用する
ポート - 256

CA ARCserve Backup、概要 - 13

CA ARCserve Replication の統合 - 205

CA 製品リファレンス - iii

caroot ユーザ アカウント - 68

CA への連絡先 - iv

Client Agent for Windows 通信ポート - 258

E

Enterprise Module コンポーネントの設定 - 230

G

Global Dashboard

Global Dashboard の環境設定 - 230, 232, 235

インストールの前提条件 - 85

考慮事項 - 77

サーバ通信 - 256

セントラル プライマリ サーバの環境設定 - 232

ブランチ プライマリ サーバの環境設定 - 235

Global Dashboard サーバ通信 - 256

Global Dashboard データ保存要件 - 27

Global Dashboard に関する考慮事項 - 77

Global Dashboard のアップグレード - 82

Global Dashboard の環境設定 - 230

M

Mastersetup - 131

Microsoft SQL Server

ODBC に関する考慮事項 - 228

SQL 接続 - 228

インストールに関する考慮事項 - 71

データベースの整合性チェック - 228

Microsoft SQL Server 2008 Express Edition

インストールに関する考慮事項 - 69

Microsoft SQL Server 2008 Express Edition に関する
考慮事項 - 69

Microsoft SQL Server データベースで TCP/IP 通
信を有効にする方法 - 74

Microsoft SQL Server データベースに関する考慮
事項 - 71

MSCS クラスタ環境で CA ARCserve Backup を
r12/12.5 から直接 r15 へアップグレードする方
法 - 163
MSCS クラスタ環境での CA ARCserve Backup
r11.5 から r15 へのアップグレード - 156
MSCS での CA ARCserve Backup サーバの展開
- 142
MSCS ハードウェア要件 - 143
MSCS クラスタ
 クラスタからの CA ARCserve Backup の削除 -
 167
 クラスタ リソースの削除 - 168
 ソフトウェア要件 - 143
 展開計画 - 140
 ハードウェア要件 - 143
 リソースの準備 - 143
MSCS クラスタ リソースの準備 - 143
MSCS ソフトウェア要件 - 143

N

NDMP NAS Option 通信ポート - 261
NEC CLUSTERPRO 環境での CA ARCserve
Backup の r11.5 から r15 へのアップグレード -
186
NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster ハードウェア
要件 - 169
NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster リソースの準
備 - 170
NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster ソフトウェア要
件 - 170
NEC クラスタ スクリプトでの CA ARCserve Backup
の無効化 - 193
NEC クラスタ スクリプトでの CA ARCserve Backup
の有効化 - 196
NEC クラスタ環境における r12/12.5 から r15 へ
の CA ARCserve Backup のアップグレード - 199
NEC クラスタ - 169
 クラスタからの CA ARCserve Backup の削除 -
 203
 クラスタ スクリプトの無効化 - 193
 クラスタ スクリプトの有効化 - 196
 ソフトウェア要件 - 170
 展開計画 - 140
 ハードウェア要件 - 169
 リソースの準備 - 170

R

RSA Data Security, Inc. の使用条件 - 403

S

SAN - 22
SAN Option を使用するサーバでの転送速度 - 36
SAN および非 SAN の環境における複数の
ARCserve サーバを本リリースへアップグレードす
る方法 - 375
SAN および非 SAN の環境における複数のサー
バの本リリースへのアップグレード - 369
SAN 内の複数の ARCserve サーバを本リリースへ
アップグレードする方法 - 366
SAN において複数のプライマリ サーバとメンバ
サーバをインストールする方法 - 326
SAN における複数のプライマリ サーバとメンバ
サーバのインストールを確認する方法 - 326
SAN におけるメンバサーバおよび共有デバイスと
のプライマリ サーバのインストール - 312
SAN への複数のプライマリ サーバとメンバ サーバ
のインストール - 320
SCSI バスおよびデバイスの拡張 - 22
SCSI またはファイバ インターフェースに関する考慮
事項 - 19
SQL Express プライマリ サーバ用の start.bat スクリ
プト変更 - 184
SQL Express プライマリ サーバ用の stop.bat スクリ
プト変更 - 185
Storage Area Network (SAN) - 40
Storage Area Network (SAN) のインストール - 40

U

Unicenter Software Delivery
 CA ARCserve Backup のインストール - 131
 インストール方法 - 62
Unicenter Software Delivery を使用して CA
ARCserve Backup コンポーネントをインストール
する - 136
Unicenter Software Delivery を使用して CA
ARCserve Backup をインストールする方法 - 131
UNIX と Linux 通信ポート用の共通エージェント -
257

W

Windows MSI インストーラ パッケージ カスタム列
- 59

あ

アップグレード

以前のリリースからのデータ マイグレーション -
82

インストール方法 - 62

後方互換性 - 80

サポートされている機能 - 79

マネージャ コンソール - 80

アップグレード、以前のリリースより - 91

アップグレードが必要な新しいコンポーネント - 342,
349, 357, 365, 374, 382, 392

アップグレードに関する考慮事項 - 78

以前のリリースに対するマネージャ コンソール サ
ポート - 81

一元管理環境のアップグレードを確認する方法 -
358, 367

一元管理環境へ複数の ARCserve サーバをアップ
グレードする方法 - 349

一元管理されたアップグレードを検証する方法 -
376, 383

一般的な推奨事項 - 395

インストール - 73

インストール ウィザード - 62

インストールが必要な新しいコンポーネント - 340,
347, 355, 363, 372, 380, 390

インストールが必要なコンポーネント - 295, 300, 307,
315, 323, 331

インストール後の作業 - 137, 230

インストール処理のオペレーティング システムに対
する影響 - 41

インストール タスクの前提条件 - 85

インストールに関する考慮事項

Microsoft SQL Server - 71

Microsoft SQL Server 2008 Express Edition - 69
サポートされているアップグレード - 79

リモート データベース - 73

インストールの進行状況ログ - 76

インストールのトラブルシューティング - 283

インストール方法 - 62

埋め込みマニフェストを含まないバイナリ ファイル -
57

エンジン

サービスの状態アイコン - 215

オフサイト リポジトリに関する考慮事項 - 31
オプション

グローバル環境設定 - 217

ディスカバリ環境設定オプション - 257

オンライン復旧データのストレージ要件 - 26

か

概要 - 13

概要、CA ARCserve Backup - 13

カスタム展開を使用したリモート ホストへのエージェ
ントの展開 - 122

仮想マシンの展開を使用した VM へのエージェン
トの展開 - 125

環境の計画

インフラストラクチャ - 17

計算例 - 32

惨事からの復旧 - 32

スケジューリング - 18

帯域幅 - 20

データ転送速度 - 21

ネットワークの強化 - 22

ハードウェアのスループット - 18

バックアップ時間 - 18

並列ストレージ - 26

ボルトのアクセスおよびセキュリティ - 31

容量 - 26

予算 - 16

完全にアンインストールされないバイナリ ファイル -
55

ギガビット イーサネット ネットワーク上のクライアント
とサーバの転送速度 - 34

基本タスク - 15

クライアントを持たないサーバの転送速度 - 35

クラスタ

展開に関する考慮事項 - 139

クラスタ HA リソースが作成されない - 290

クラスタ、MSCS クラスタ

クラスタからの CA ARCserve Backup の削除 -
167

クラスタ リソースの cdelete - 168

ソフトウェア要件 - 143

展開計画 - 140

ハードウェア要件 - 143

リソースの準備 - 143

クラスタ、NEC クラスタ - 169

クラスタからの CA ARCserve Backup の削除 - 203
クラスタ スクリプトの無効化 - 193
クラスタ スクリプトの有効化 - 196
ソフトウェア要件 - 170
展開計画 - 140
ハードウェア要件 - 169
リソースの準備 - 170
クラスタ対応アップグレードを確認する方法 - 393
クラスタ対応インストールおよびアップグレードの確認方法 - 204
クラスタ対応インストールを確認する方法 - 333
クラスタ対応環境における複数サーバのアップグレード - 386
クラスタ対応インストールの概要 - 139
クラスタ対応環境での CA ARCserve Backup のインストールとアップグレード - 139
クラスタ対応環境へ CA ARCserve Backup をインストールする方法 - 333
クラスタ対応環境への CA ARCserve Backup のインストール - 329
計算例 - 33
言語の設定 - 219
現在の構成: ARCserve スタンドアロン サーバ - 339
現在の構成: SAN および非 SAN の環境での複数の ARCserve サーバ - 370
現在の構成: クラスタ内の複数の ARCserve サーバ - 386
現在の構成: セントラル データベースを使用する複数の ARCserve サーバ - 378
現在の構成: ドメイン内の複数の ARCserve サーバ - 345
現在の構成: リモート データベースを共有する複数の ARCserve サーバ - 353
現在の構成: ローカルまたはリモートのデータベースを使用する SAN 内の複数の ARCserve サーバ - 361
後方互換性 - 80
コード ページ - 219
概要 - 219
環境設定、バックアップ マネージャ - 220
環境設定、リストア マネージャ - 221
このマニュアルについて - 14
このリリースにアップグレードした後 CA ARCserve Backup にログインできない - 288

このリリースをインストールした後 CA ARCserve Backup にログインできない - 285
コマンド ラインを使用した CA ARCserve Backup コンポーネントのアンインストール - 278
コンポーネントと前提条件 - 132

さ

サーバからのライセンスの解放 - 400
サービスの状態アイコン - 215
サイレント インストール
インストール方法 - 62
レスポンス ファイルの作成 - 108
サイレント インストール レスポンス ファイルの作成 - 108
サポートされているアップグレード - 79
サポートされるデバイス - 39
サポートしているプラットフォーム - 39
サポート対象のアップグレード - 79
サポート デバイス - 39
システム アカウント
ジョブ セキュリティ - 222
認証の管理 - 222
システム要件 - 85
自動アップグレードを使用したリモート ホストへのエージェントの展開 - 118
使用条件 - 403
ジョブ セキュリティのシステム アカウントの使用法 - 222
推奨構成 - 298, 305, 313, 321, 329
推奨構成: クラスタ対応環境にインストールされた ARCserve プライマリ サーバおよびメンバ サーバ - 387
推奨構成: スタンドアロン サーバ - 294
スタンドアロン サーバ - 64
スタンドアロン サーバ インストールを確認する方法 - 296
スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバのアップグレード - 338
スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバのアップグレードを確認する方法 - 342
スタンドアロン サーバまたはプライマリ サーバをインストールする方法 - 296
ストレージの容量とリソース - 28
ストレージ環境の計画 - 15
ストレージ処理の並列実行(マルチ ストリーミング) - 26

ストレージ容量に対する要件 - 26

製品の統合

CA Antivirus - 205

セットアップがリモート Microsoft SQL Server データベースと通信できない - 283

前提条件作業の実施方法 - 85

セントラル サイトの環境設定 - 232

セントラル データベースを使用する複数のサーバのアップグレード - 378

た

追加リソース - ファイアウォール ポートの仕様 - 269

通信で使用する外部ポート - 246

通信ポート、Global Dashboard - 256

通信ポート、ファイアウォール - 246, 269

通信を最適化するためのファイアウォールの設定 - 223, 243

ディスカバリ サービス通信ポート - 257

データ パスに関する考慮事項 - 22

データのセグメント化 - 23

データのバックアップ時間に関する考慮事項 - 18

データベース

MS SQL の環境設定 - 71, 228

ODBC データ ソースの環境設定 - 228

以前のリリースからのデータ マイグレーション - 82

データベースの整合性チェック - 228

データベース要件 - 69

データベースを共有する複数の ARCserve サーバを一元管理環境へアップグレードする方法 - 357

データ転送の要件 - 17

データ転送速度の要件とリソースの計算 - 21

テープ ドライブに関する考慮事項 - 19

テープ ライブラリのインストール - 40

テープ ライブラリ - 40

テスト計画および予測 - 30

デバイス、サポート済み - 39

デバイス ウィザード - 229

デバイス ウィザードを使用したデバイスの設定 - 229

デバイス環境設定

デバイス ウィザード - 229

展開に関する考慮事項 - 139

ドメイン内の複数のスタンドアロン サーバのアップグレード - 344

な

名前付きパイプを使用して Agent for Microsoft Exchange Server を管理する GUI - 264

ネットワークおよびコンピュータのインフラストラクチャ要件 - 17

ネットワークの強化 - 22

ネットワークのセグメント化 - 23

ネットワーク帯域幅に関する考慮事項 - 20

は

ハードウェアのデータ転送速度 - 18

バックアップ スケジュールの要件 - 18

バックアップ データのストレージ要件 - 27

バックアップの対象範囲 - 24

バックアップ マネージャ ウィンドウでのコード ページの指定 - 220

ファイアウォールの設定 - 243, 244, 245

ファイアウォールの設定、Windows - 223

ファイアウォールを通じたテスト通信 - 274

ファイアウォールを通してエージェントとデータベース エージェントの通信を許可する方法 - 262

ファイル システム エージェント、リリース レベル - 84

ファイル システム デバイス、作成 - 239

ファイル システム デバイスの作成 - 239

プライマリ サーバ - 64

プライマリ サーバおよびメンバ サーバで構成されるドメインのアップグレードを確認する方法 - 350

プライマリ サーバとメンバ サーバと SAN の共有デバイスのインストールを確認する方法 - 318

プライマリ サーバとメンバ サーバと SAN の共有デバイスをインストールする方法 - 317

プライマリ サーバとメンバ サーバとデバイスのインストールを確認する方法 - 310

プライマリ サーバとメンバ サーバとデバイスをインストールする方法 - 309

プライマリ サーバとメンバ サーバのインストール - 297

プライマリ サーバとメンバ サーバのインストールを確認する方法 - 302

プライマリ サーバとメンバ サーバの通信ポート - 251

プライマリ サーバとメンバ サーバをインストールする方法 - 302

プラットフォーム、サポート済み - 39

ブランチ サイトの環境設定 - 235
ベース製品を管理する GUI - 265
ベース製品とのマネージャ コンソール通信 - 251
ポート環境設定 - 244, 245, 272
ポート環境設定ファイルの設定に関するガイドライン
- 272
ポート設定ファイルを変更する方法の例 - 270
ポート環境設定ファイルに関するガイドライン - 244
ポート設定ファイルの変更 - 245
ホーム画面 - 209
ボールドのアクセスに関する考慮事項 - 31
ボールドのセキュリティに関する考慮事項 - 31
ボールドの費用に関する考慮事項 - 31
本書の目的 - 14

ま

マニュアルの変更点 - v
マネージャ コンソール
 アップグレード - 81
 環境設定の指定 - 217
 開く - 207
マネージャ コンソールの環境設定を指定 - 217
マネージャ コンソールをインストールする場所 -
 396
マネージャまたはマネージャ コンソールを開く -
 207
未署名のバイナリ ファイル - 48
無効なファイル バージョン情報が含まれるバイナリ
 ファイル - 54
メディアの容量 - 29
メンバ サーバ - 64
メンバ サーバおよび SQL Express 以外のプライマ
 リ サーバ用の start.bat スクリプト変更 - 182
メンバ サーバおよび SQL Express 以外のプライマ
 リ サーバ用の stop.bat スクリプト変更 - 183
メンバ サーバおよびデバイスとのプライマリ サーバ
 のインストール - 305
メンバ サーバのアップグレードで、テーブル エンジン
 が起動しない - 287

や

ユーザ チュートリアル - 214

ら

ライセンス登録
 ALP 証明書 - 83

管理 - 397
要件 - 83
 ライセンスの解放 - 400
ライセンスのインストールと管理の方法 - 396
リスクの見積もり - 30
リストア マネージャ ウィンドウでのコードページの指
 定 - 221
リモート データベース設定での ODBC 通信の指
 定 - 228
リモート サブネット上にあるデータベース エージェ
 ントと ARCserve サーバとの通信の有効化 - 225
リモート データベースの考慮事項 - 73
リモート データベースを共有する複数のスタンドア
 ロン サーバのアップグレード - 352
リモート データベースを使用する複数の ARCserve
 サーバの一元管理環境へアップグレードする方
 法 - 382
レスポンス ファイル、作成 - 108
ローカルまたはリモートのデータベースを使用する
 SAN 内のサーバのアップグレード - 360